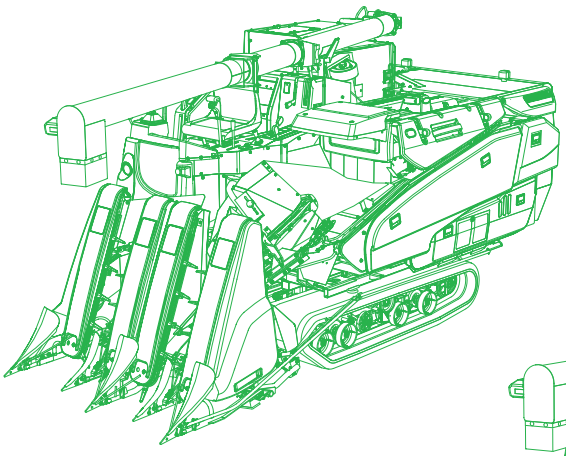
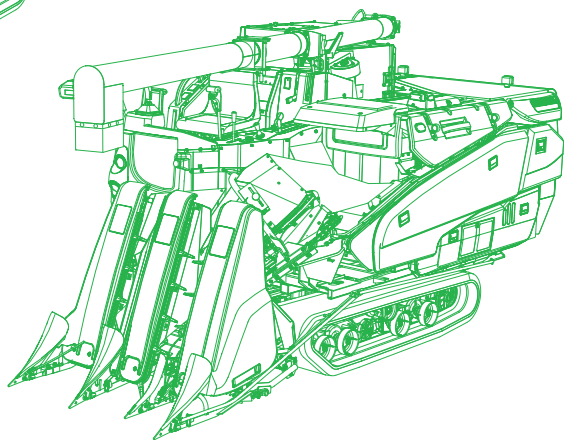
コンバイン

取扱説明書

VY433
VS328・333





ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに，この取扱説明書をよくお読みいただき，安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は6，7ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，安全作業のために からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

- **安全な作業をするための注意事項は？** — 安全作業のために（安全作業説明編）
  安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。
- **使用前に知っておかなければならないことは？** — ご使用まえに 1
  機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。
- **各部のはたらきを知るには？** — 各部のはたらき 6
  各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。
- **コンバインを動かすには？** — 運転のしかた 30
  運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
  運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。
- **収穫作業を行うには？** — 作業のしかた 38
  コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。
- **自動装置を使用して作業するには？** — 自動装置について 65
  各自動装置の取扱いについて説明しています。
- **機械を長もちさせるには？** — 手入れのしかた 74
  機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。
- **機械を 3 ケ月以上格納するときは？** — 長期格納のしかた 153
  機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。
- **故障かなと思ったら？** — 不調時の処置 156
  作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。
- **諸元・関連部品？** — 付　　表 166
  機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために …（安 -1）～（安 -22）
（安全作業説明編）

ご使用まえに …… 1
1．保証とサービスについて …… 1
2．仕様（装備）について …… 2
3．用語について …… 4
4．小型特殊自動車について …… 5
1．小型特殊自動車の届出 …… 5
2．公道走行するために …… 5

各部のはたらき …… 6
1．各部の名称 …… 6
1．4 条型 …… 6
2．3 条型 …… 7
2．運転装置の取扱い …… 8
1．スイッチ・計器関係 …… 8
2．ペダル・レバー関係 ……17
3．電装関係 ……27

運転のしかた …… 30
1．運転まえの点検……30
2．エンジンの始動と停止 ……32
1．エンジン始動のしかた ……32
2．エンジン停止のしかた ……33
3．走行・停車のしかた ……33
1．走行のしかた ……33
2．停車のしかた ……34
4．自動車への積込み・積降ろし ……35
1．自動車・アユミについて ……36
2．機械の積込み要領 ……37
5．ほ場への出入り ……37
1．ほ場への出入りのしかた ……37

作業のしかた …… 38
1．作業まえの準備……38
1．作物の条件について ……38
2．ほ場の条件について ……38
3．ほ場の準備 ……39
4．機械の準備 ……39
2．刈取り作業のしかた ……44
1．刈取り操作の手順 ……44
2．作業速度の選びかた ……47
3．ほ場の刈取り手順 ……48
4．こく粒の排出操作方法 ……51
5．グレンタンク補助樋口の取扱い ……54
6．ニューツインハーモニー（倒伏刈スイッチ，強制かき込みスイッチ）……54
7．リフトシャットの取扱い ……55
8．トルクリミッタの取扱い ……56
9．手こぎ作業 ……57
10．エンジン停止スイッチの取扱い ……58
11．エンジン自動停止の取扱い ……58
12．夜間作業 ……59
13．刈取り作業終了後の取扱い ……60
14．警報装置について ……61
3．ワラ処理部の取扱い ……62
1．カッタ作業 ……62
2．排ワラ作業 ……63
3．中割り作業 ……63
4．マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］……64

自動装置について …… 65
1．こぎ深さ自動制御……65
1．運転装置 ……65
2．こぎ深さセンサの調整 ……66
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件 ……66
2．方向自動制御［A 仕様］……66
1．運転装置 ……66
2．作業のしかた ……67
3．方向自動制御の使えない条件 ……67
3．刈高さポジションコントロール ……68
1．運転装置 ……68
2．自動での作業のしかた ……68
3．手動での作業のしかた ……69
4．水平自動制御［L 仕様］……69（ジャストマチック）
1．運転装置 ……69
2．自動での作業のしかた ……70
5．選別自動制御 ……71

１．運転装置 ……71
６．オーガ旋回自動制御 ……72
１．運転装置 ……72
７．マイコン（マイクロコンピュータ）……73
８．送じん量自動調節 ……73-1
手入れのしかた …… 74
１．定期点検整備 ……74
「定期点検整備表」……74
２．給油・注油・給水のしかた ……78
「給油・注油・給水表」……79
１．燃料の補給 ……80
２．エンジンオイル・ オイルフィルタの点検・交換 ……80
３．ラジエータ冷却水の点検・交換 ……82
４．トランスミッションケースのオイル点検・交換 ……84
５．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST オイルフィルタの交換…84
６．スターホイル駆動ケース ……86
７．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…86
８．こぎ胴ギヤケースのオイル点検・交換 ……87
９．搬送 HST ギヤケースのオイルの点検・交換 ……87
10. グレン入力ギヤケース ……88
11. 集中注油タンク ……88
12. 機体水平制御リフトアーム軸受部の給脂[L 仕様] ……88
13. ローラ・アイドラのグリスアップ ……88
14. 各部の注油 ……89
15. 集中注油装置の使いかた ……90
３．各部の点検と掃除のしかた ……91
１．ラジエータ吸気部の掃除 ……91
２．エアクリーナの掃除 ……91
３．燃料フィルタの掃除・交換 ……92
４．燃料のエア抜きのしかた ……93
５．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除 ……93
６．電気配線の点検と掃除 ……94
７．バッテリの点検と充電 ……95
８．グレンタンクの回動のしかた …… 100
９．こぎ胴部の開閉のしかた …… 102
10. 脱こく内部の掃除 …… 103
11. カッタ部のオープンのしかた …… 106
12. 揺動流板の掃除 …… 108
13. グレンタンク部の掃除 …… 111
14. 引起しケースカバーの外しかた …… 113
４．各部の点検と部品交換のしかた…… 114
１．カッタ刃組品の取外しと分解 …… 114
２．爪の交換のしかた …… 128
３．刈刃 …… 128
４．ワラ切カマの手入れ …… 131
５．こぎ歯の点検と交換 …… 133
６．ホース類の点検と交換 …… 134
５．各部の点検と調整のしかた …… 135
「レバー・ペダルの点検・調整」…… 135
１．マルチステアリングレバー…… 135
２．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 136
３．脱こく・刈取クラッチレバー …… 137
４．こく粒排出レバー ……138
５．排ワラ切替レバー …… 138
「ベルトの点検・調整」…… 139
６．エンジンファンベルト …… 139
７．走行ベルト …… 140
８．こぎ胴伝動ベルト …… 141
９．搬送 HST ベルト …… 141
10. こぎ胴ベルト …… 141
11. １番ラセンベルト …… 142
12. カッタベルト …… 142
13. 選別ベルト …… 143
14. 穂先排ワラベルト …… 143
15. 排ワラベルト …… 144
16. グレンベルト …… 144
17. かき込みベルト（刈取部）…… 145
「チェンの点検・調整」…… 147
18. 株元搬送チェン …… 147
19. こぎ深さ搬送チェン …… 149
20. 穂先搬送チェン …… 149

21. かき込み搬送チェン（右，左）…… 150
22. 脱こくフィードチェン …… 151
23. 排ワラチェン …… 151
「クローラの点検・調整」…… 152
24. クローラ …… 152
長期格納のしかた …… 153
１．機械の掃除と洗浄 …… 153
２．錆止めと注油 …… 153
３．エンジンの手入れ …… 153
４．点検・整備 …… 153
５．格納 …… 154
６．再使用にあたって …… 155
不調時の処置 …… 156
１．エンジン部 …… 156
２．走行・運転操作部 …… 158
３．電気・自動制御部 …… 160
４．刈取部 …… 161
５．脱こく部 …… 162
６．ワラ処理部 …… 165
７．グレンタンク部 …… 165
付　　表 …… 166
１．主要諸元 …… 166
２．ベルト一覧表 …… 167
３．主な消耗部品 …… 168
１．爪関係 …… 168
２．カッタ関係 …… 170
３．ヒューズ …… 170
４．刈刃・カマ関係 …… 171
４．アタッチメント（別売り）…… 173
５．付属品一覧表 …… 173
６．潤滑油について …… 174
１．エンジンオイル …… 174
２．油圧作動油 …… 174
３．ギヤオイル …… 174
７．コンバイン関連商品 …… 175

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1. 安全作業のしかた …… （安 -1）

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！ …… （安 -1）

⚠ 安全作業のポイント …… （安 -2）

⚠ 作業前の一般的な注意事項 …… （安 -4）

⚠ 点検・整備及び掃除をするときは …… （安 -5）

⚠ エンジンを始動するときは …… （安 -9）

⚠ 路上走行をするときは …… （安 -10）

⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは …… （安 -12）

⚠ ほ場で作業をするときは …… （安 -13）

⚠ 1 日の作業が終わったら …… （安 -16）

⚠ 長期格納するときは …… （安 -17）

2. 表示ラベルについて …… （安 -18）

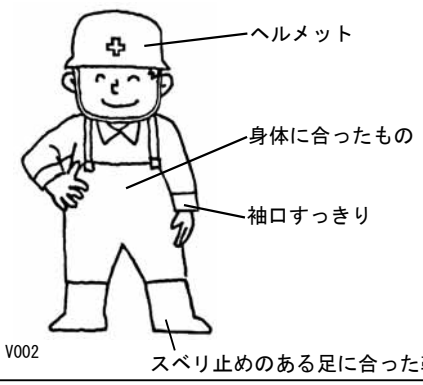
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を，危険 警告 注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。
・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16 才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆ 運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V001
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V002	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。  V003
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V004	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

安全作業のポイント


V005

● 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

● 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
● 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
● エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
● バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
● 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
● 給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
● 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない。
● 方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
● 刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
● 機械は改造しない。


V006

エンジン始動

● 始動前にすべてのカバーを取付ける。
● 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》《中立》または《切》にする。
● 屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
● 機械の周囲から人を遠ざける。
● エンジンの始動は，座席に座って行う。
● 始動のときは，周囲の人に「合図」をする。



V007

走行・運転

● 刈取部先端部にバンパを取付ける。
● ナローガイド，排出オーガを収納する。
● 機械に子供等，人や物をのせない。
● 走行する前にこく粒タンク内のこく粒をすべて排出する。
● 発進時は周囲を確かめる。
● 走行時の旋回は低速で行う。
● 後進時は後方を確認する。
● 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
● わき見運転や手放し運転をしない。
● 脱こくクラッチ，刈取クラッチを《切》にする。
● 運転中は子供等，人を機械に近づけない。
● 排出オーガは折りたたむ。

道路（公道）走行

● ナンバープレートの交付を受ける。
● 運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
● 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
● 前後左右を確認し，低速車線を走る。
● 夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
● 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

● 速度を落として走行する。
● 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
● 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
● 急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
● 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する。
● 急傾斜地は，走行しない。
● 坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

● 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
● 傾斜地では，駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは，歯止めをする）
● 機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る。
● 副変速レバーを《標準》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 脱こく・刈取クラッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。



V009

ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 変速は低速であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。



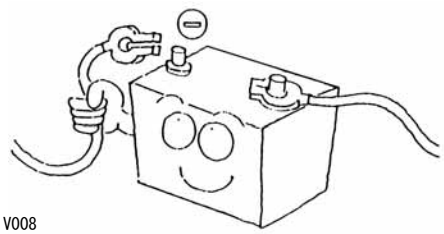
V010

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には，周囲を確認する。
- 刈取り作業は機械の周囲に子供等，人を近づけない。
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は，周囲を確認する。
- ノッタの結束紐を交換するときは，エンジンを停止する［ノッタ仕様］。
- ノッタのそばに，手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに機械を停止しない。


V008

作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う。
- こぎ胴部を開いたらストッパをかける。
- カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

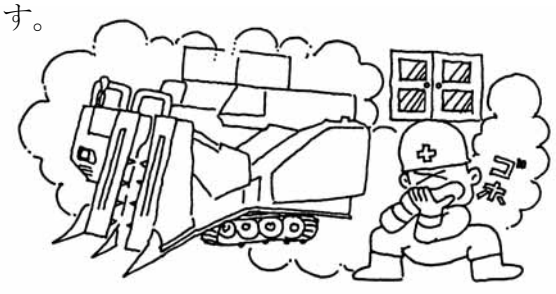
終業・格納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする。
- スタータスイッチよりキーを抜取っておく。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータ等は冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは，エンジンが冷えてからかける。

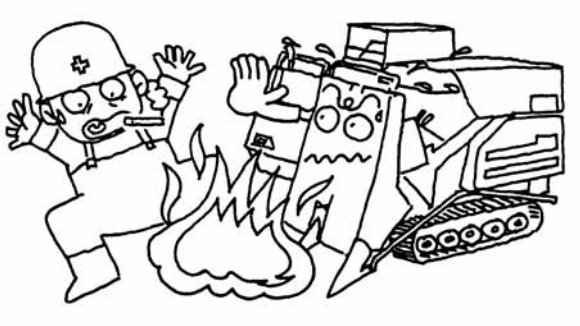
長期格納

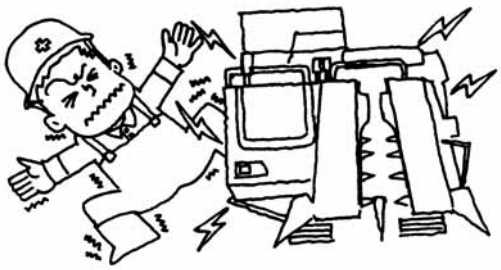
- １シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。  V011
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。  V012
⚠警告 ◆毎日の運転まえには，**「運転まえの点検表」**の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆ １年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行ってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。  V013
⚠警告 ◆ 屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。  V014

⚠点検・整備及び掃除をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ● 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取る。 ● エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ◆ 燃料ホース破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ● 燃料ホースは２年ごとに交換する。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。  V015
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行ってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。  V012
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ● ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ● 冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016

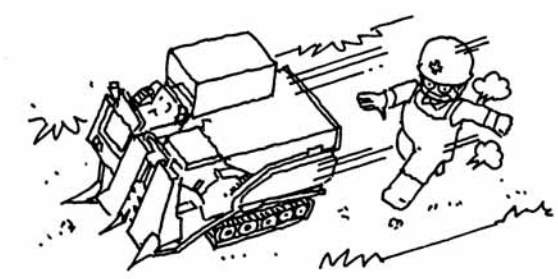
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライタなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して，傷害事故を引起こすことがあります。  V017
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆ バッテリ液が，目，皮膚，衣服，物に付いたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときは，すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは，医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。  V018
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ● バッテリは，指定されたバッテリを使用する。 ● ㊉ ，㊀を逆接続しない。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  V019

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ● クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。  V020
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ● ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。  V021
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は，機械を動かす前に行ってください。	交通事故を引起こす原因となります。  V022
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば**「お買いあげ先」**で整備を受けてください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。  V013

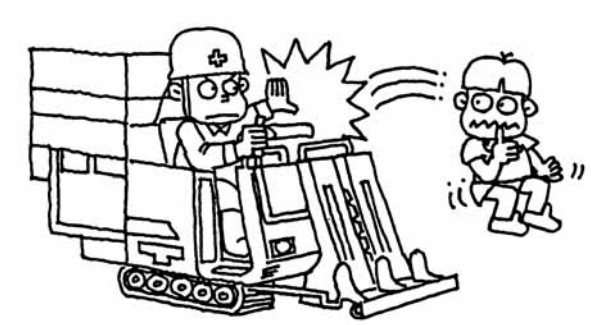
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆ もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮膚に浸透し傷害の原因になります。 油が皮膚に浸入した場合,取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。  V023
⚠注意 ◆点検･整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  V024
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行ってください。 ● 屋外では，電線などに引掛けない。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引掛けて，損害事故を起こすことがあります。  V025

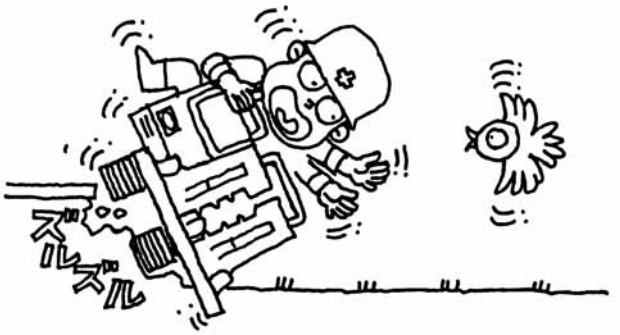
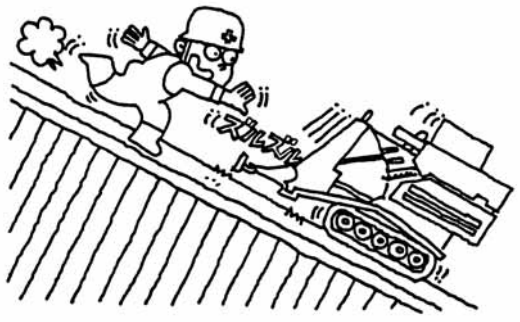
⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。  V014
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速レバーを《N》《**中立**》にしてください。 ◆脱こく・刈取クラッチを《**切**》にしてください。 ◆取外したカバーなどは，すべて取付けてください。 ●変速レバーが《N》《**中立**》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V026
⚠警告 ◆始動は，運転席の座席に座って行ってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V027
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，変速レバーを《N》《**中立**》，脱こく・刈取クラッチを《**切**》にして行ってください。	急に発進したりして，思わぬ事故の原因となります。  V028

⚠路上走行をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ● 夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V029
⚠警告 ◆人や物を乗せないでください。 ◆走行時は，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆ グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ● 子供等，人や物を機械にのせない。 ● 荷物は別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V030
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけてください。 ◆ 脱こく・刈取クラッチが《**切**》になっていることを確認してください。 ◆ 低速で発進してください。 ● 急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ● 前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。  V031
⚠警告 ◆路上走行するときは刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 刈取部先端を 30cm 程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V032

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ● 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ● 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ● 雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ● 凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。  V033
⚠警告 ◆坂道の途中で，走行クラッチペダルを踏込んだり急激に主変速（無段変速）レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を**《標準》**に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。  V034
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。  V035
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線等の無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。  V036

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆自動車は積載量を超えない車で，荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車は，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を《**1速**》か《**後進**》に入れ，タイヤに歯止めをする。

◆アユミは強度，幅，長さ，（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。

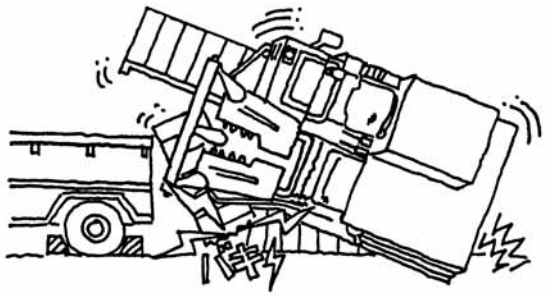
- アユミの幅はクローラ幅に合ったものを使う。

⚠警告

◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。

- 荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。

アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。



V037

⚠警告

◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，副変速は標準で行ってください。

- 補助者立会誘導のもとに行う。機械の周囲に子供など，人を近づけない。

◆［A **仕様**］は方向自動スイッチを「**切**」にしてください。

- こぎ深さ自動スイッチも「**切**」にする。

◆［L **仕様**］は水平自動スイッチを「**切**」にして，機体を一番下げた状態で行ってください。

万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。



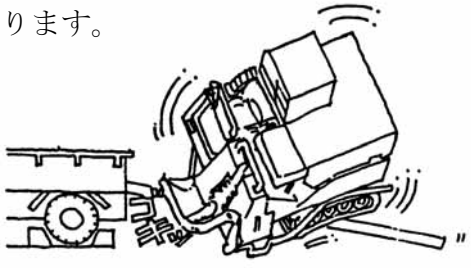
V038

⚠警告

◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。

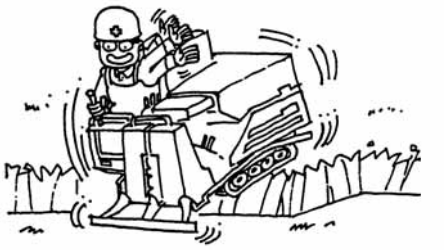
- 機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。

急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。

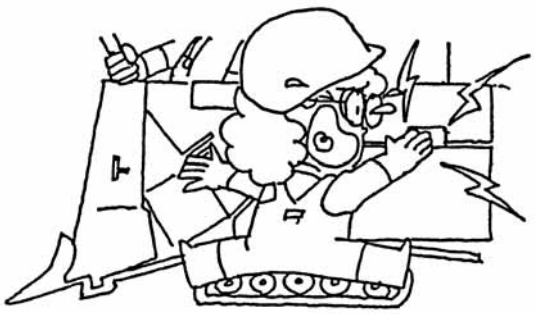


V039

⚠ほ場で作業をするときは……

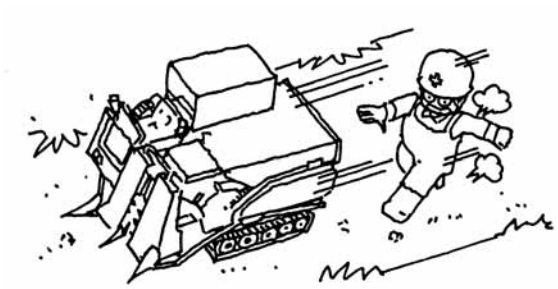
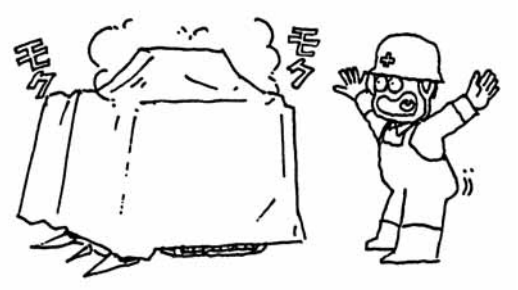
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使ってください。 ● グレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ● 機械から降りて行う。 ● アユミ上では進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。  V040
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を**《標準》**にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ● 機械から降りて行う。 ● あぜがくずれないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。  V041
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ● エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチを入れるときは，ホーンで合図する。 ◆ 作業時の旋回は低速で行ってください。 ● 旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。 ● 機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。  V042
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆ 手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻タオル，腰タオルは着用しないでください。 ● 手袋は使用しない。 ● 供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ● カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ● 手こぎ作業は走行を停止して刈取クラッチを**《切》**にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。  V043

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換［**ノッタ仕様**］をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。 ● 脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ● エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行う。 ● こぎ胴部を開いたときは，《**ロック**》位置まで持ち上げる。	傷害事故を引起こすことがあります。  V044
⚠警告 ◆補助者は，作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆ 補助者は，機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆ 人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こくクラッチ操作をしてください。 ● カッタでの事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ● エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ● 補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ● 作業中は，機械に人を近づけない。 ● 運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ● 特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には，作業中は近づかない。 ● ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さない。 運転者と補助者は，常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引起こすことがあります。  V045  V046  V047

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ● カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときは，エンジンを停止する。 ● カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。	カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。  V048
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ● エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止める。 ● 手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。  V049
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。  V021
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には手を入れないでください。 ◆ 排出オーガの操作は周囲を確認してから行ってください。 ● 走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。	ラセンに巻込まれたりして，負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。  V050  V051

⚠1 日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ● 高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。  V052
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ● ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ● 冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ● 副変速レバーを**《標準》**に入れ,駐車ブレーキをかける。 ● スタータスイッチからキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。  V027
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。  V053

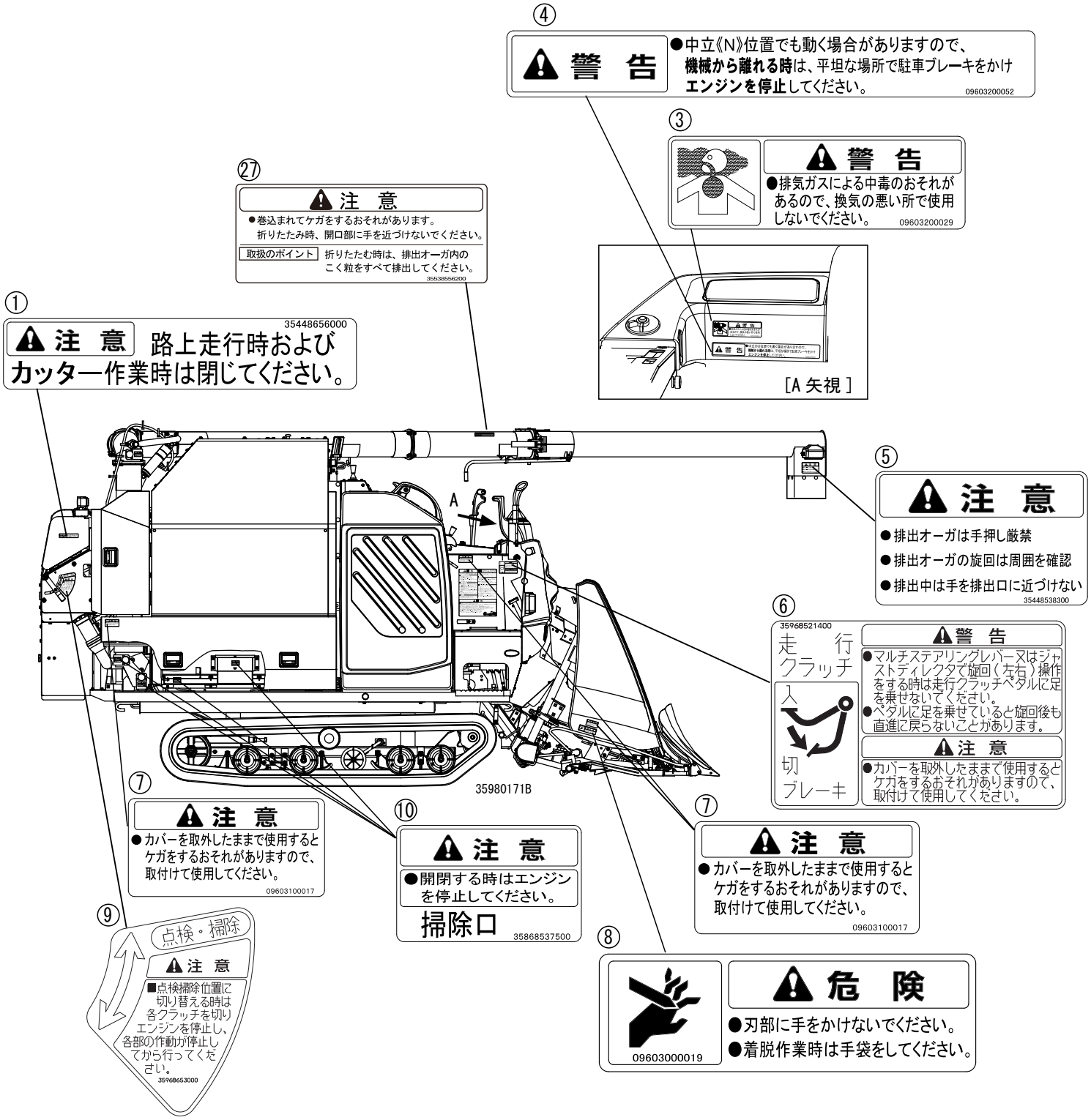
⚠長期格納するときは……

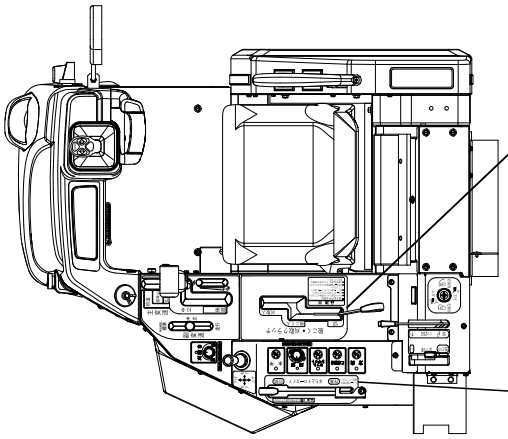
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「 ⊖ 側」を外すか，バッテリを取外してください。 ● １ケ月に１回程度補充電をする。 ◆ 燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。  V053
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ● 副変速レバーを《**標準**》に入れ，クローラに歯止めをする。 ● スタータスイッチよりキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。  V055
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ● １年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で，純正部品を使用して行って，各部の保安を確保してください。  V054	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。





35980002a

⑭

脱こく・刈取クラッチ

切　脱こく入　刈取入

注 意

■路上走行する時は
●デバイダ先端にバンパを取付けてください。
●ナローガイドを折りたたんでください。
●脱こく・刈取クラッチレバーを『切』にしてください。
●排出オーガ先端部を折りたたんでください。
●公道を走る時は、カッタ以外の作業機は取外してください。

35988631300

⑮

注 意 路上走行時は収納してください。

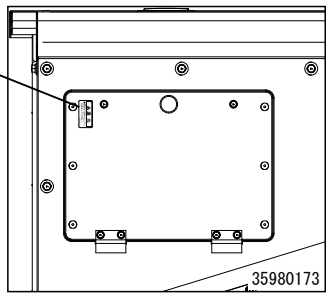
レバーが戻る時は固定してください。 作業　手もとナローガイド　収納

⑯

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



35980173

［タンク上部］

⑪

注 意 35968525100

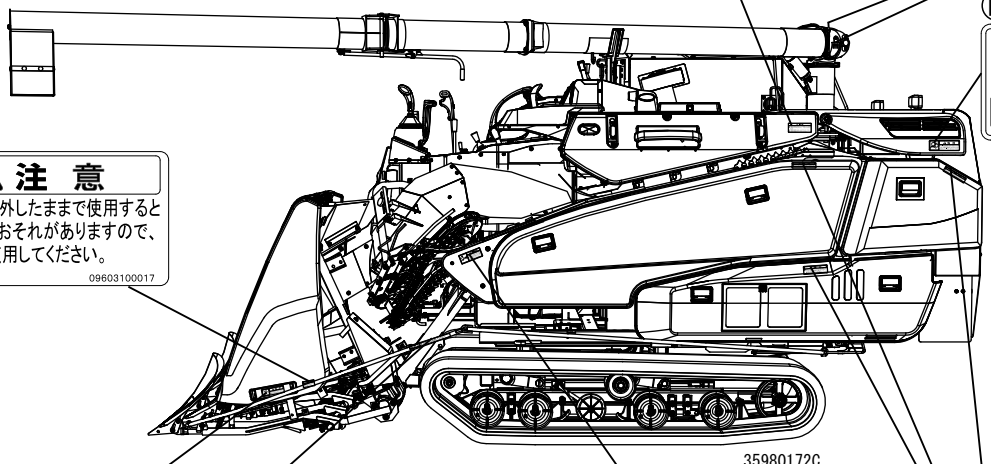
●こぎ胴部を開閉する時はエンジンを停止してください。
●こぎ胴部で手や体をはさまれて，ケガをするおそれがあります。
●こぎ胴部を開閉する時は人を近づけないでください。
●こぎ胴部の開閉はゆっくり行なってください。

⑩

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口 35868537500



35980172C

⑬

危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

⑦

注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑰

注 意 路上走行時は、収納してください。

09603100024

⑧

危 険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

09603000019

⑫

警 告

● ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
● 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

35878524000

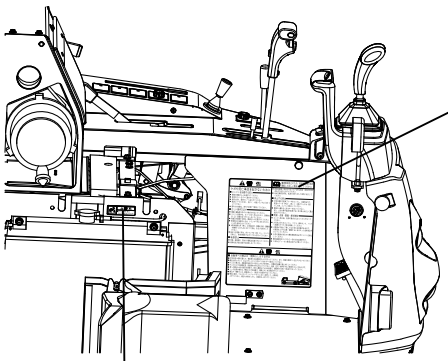
⑦

注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑱



35980174

⚠ 警 告

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- 変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
- 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- 緊急停止が必要なときは、クラッチペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
- 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『もみ』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
- 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
- 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

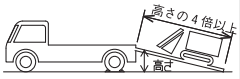
■停止する時は
- 平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- 機械から離れるときはキーを抜いてください。
また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
- 刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックしてください。
- 火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- 燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

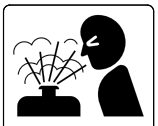
35968521500

⚠ 警 告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は
- ●平坦な硬い場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- ●積込む前にホッパ，およびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- ●アユミの長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用し、自動車の後輪に歯止めをしてください。
- ●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒することがあります。
- ●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から積降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で行なってください。
- ●ノッタ仕様の場合は、積込むときは後進で、積降ろすときは前進で行ってください。
- ●積込み・積降ろしは、副変速レバー《低速》の位置で行なってください。
- ●積込む場合、マルチステアリングレバーを《上る》に操作して，刈取部を上げてください。積込みが終わったら、刈取部を一杯下げてください。



②



09603200013

⚠ 警 告

●エンジンが熱い時は
キャップを開けないでください。

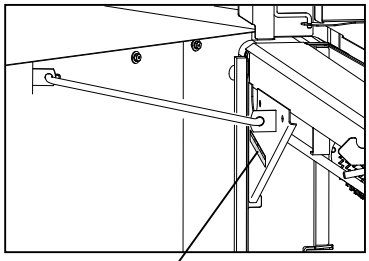
⑬

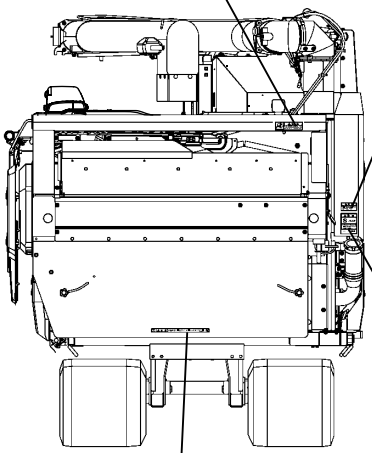
⚠ 危 険

- カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
- ●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

3518658000

（カッタをオープンした内側）





35980175A

⑦

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑲

⚠ 注 意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

35728592000

⑳

⚠ 警 告

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000

㉑

⚠ 注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100020

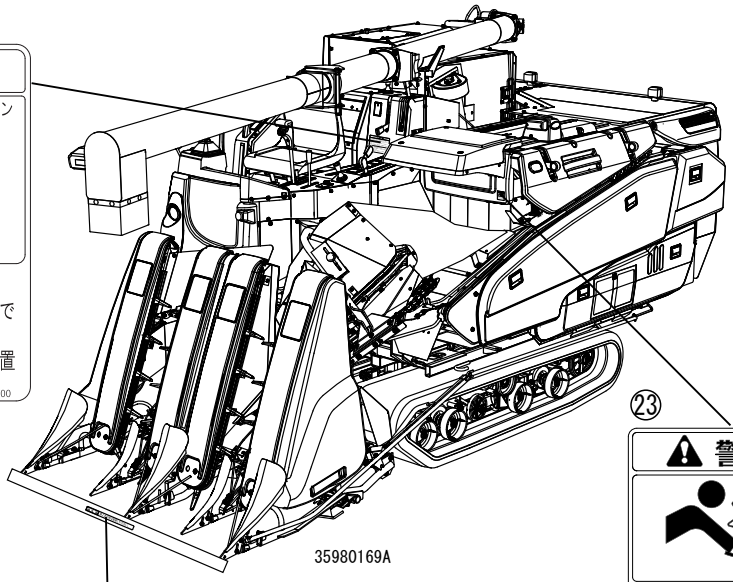
㉒

⚠ 注　意

■走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
■排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
■傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
■排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

■オーガ旋回自動の取扱い
●格納位置でオーガ旋回スイッチを押すと機体後方まで自動的に旋回します。
●格納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと格納位置へ戻ります。

35838555200

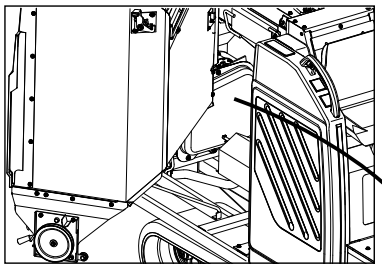


㉓

⚠ 警　告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

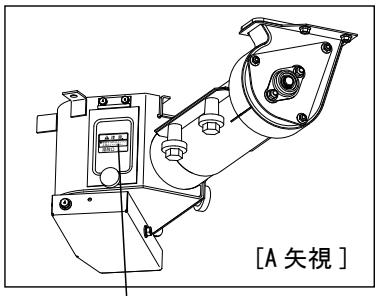
09603200034

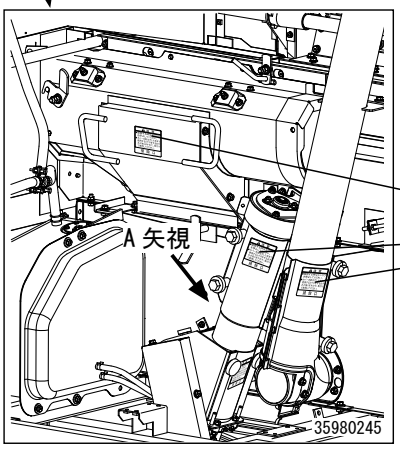


㉔

⚠ 注　意　路上走行時は装着してください。

09603100023





㉕

⚠ 注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃　除　口

35868527100

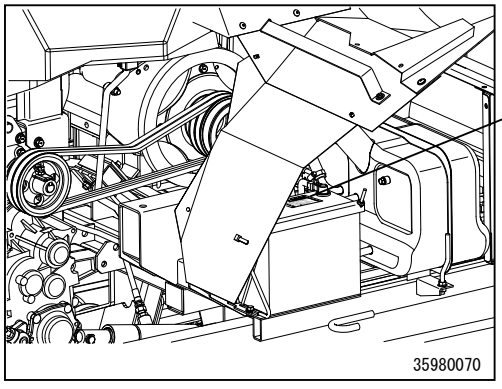
⑩

⚠ 注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500



㉖



火気厳禁メガネ着用こども禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意

⚠ 危険

● 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
● 充電は風通しのよいところで行う。（充電時火気厳禁）
　ショートやスパークをさせない。
● バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
　液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
● バッテリー液注入済（横倒し厳禁　液漏れ注意）
● 急速充電厳禁 ● 開封厳禁（密封タイプ）

09603000020

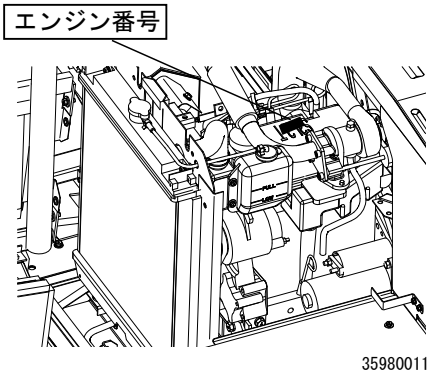
密封タイプ

No.	部品名称	部品番号	備考
①	チュウイマーク	3544 8656 000	
②	ケイコクラベルラジエータ	0960 3200 013	
③	ケイコクラベルハイキ	0960 3200 029	
④	ケイコクラベルストップ	0960 3200 052	
⑤	チュウイマーク	3544 8538 300	
⑥	トリアツカイマーク	3596 8521 400	
⑦	チュウイラベルカバー	0960 3100 017	
⑧	キケンラベルカリハ	0960 3000 019	
⑨	チュウイラベル	3596 8653 000	
⑩	チュウイラベル	3586 8537 500	
⑪	チュウイラベル	3596 8525 100	
⑫	ケイコクラベルチェン	3587 8524 000	
⑬	キケンラベルカッタ	3551 8658 000	
⑭	トリアツカイマーク	3598 8631 300	
⑮	トリアツカイマーク	3598 8631 400	[C仕様]以外
⑯	チュウイラベルカイヘイ	0960 3100 015	
⑰	チュウイラベルシュウノウ	0960 3100 024	[C仕様]
⑱	ケイコクラベル	3596 8521 500	
⑲	チュウイマーク	3572 8592 000	
⑳	ケイコクラベルケイユ	3587 8542 000	
㉑	チュウイラベルカッタカバー	0960 3100 020	
㉒	トリアツカイマーク	3583 8555 200	
㉓	ケイコクラベルコギドウ	0960 3200 034	
㉔	チュウイラベルバンパ	0960 3100 023	
㉕	チュウイラベル	3586 8527 100	
㉖	キケンラベルバッテリ	0960 3000 020	
㉗	チュウイラベル	3553 8556 200	

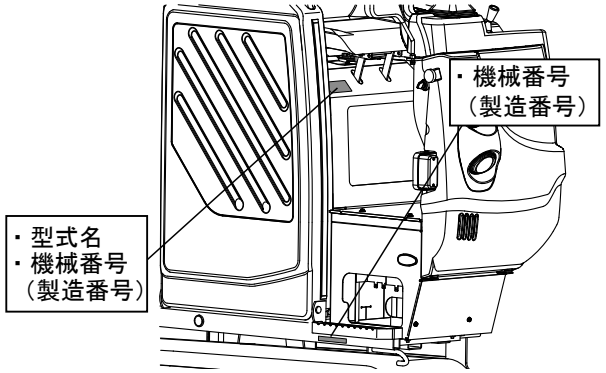
ご使用まえに

1. 保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，**「お買いあげ先」**にご相談ください。その際**「型式名」・「機械番号（製造番号）」**と**「エンジン番号」**をお知らせください。



35980011



35980012

・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［〇〇仕様］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

［4 条型 ］

型式名	仕様／区分	エンジンS3L2ーT	HST+副変速2段	ハイラグクローラ420	皿型広幅クローラ460	集中給油	防塵カバー	エンジン停止スイッチ	ブレーキ旋回	可動転輪	マルチステアリング	負荷モニタ	籾満杯予告シグナル	籾充填モニタ	ニューコンポアップ	ニューツインハーモニー	左ナローガイド手元操作	強制かき込み	倒伏スイッチ	リフトシャット	刈高ポジコン	撥水揺動	揺動スライドオープン	グレンサイドオープン	二段折れオーガ	ジャストディレクタ	自動化 方向自動	こぎ深さ自動	水平自動	フィードチェン同調	選別自動籾層厚感知	オーガ自動旋回・収納	送じん量自動調節	グレンタンク800L	カッタ ディスクカッタ	マルチカッタ 60/180mm	マルチカッタ 40/160mm
三菱VY433	FC	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○		
	FAC	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		
	FM	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	FAM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	
	FAMB	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○
	FLM	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLAM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLAMB	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	FLUM	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLUAM	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SM	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	SAM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	
	SLM	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLUM	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLAM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLUAM	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	

Ａ＝方向自動・防じんカバー　　Ｃ＝ディスクカッタ・左ナローガイド手元操作なし
Ｍ＝マルチカッタ（切断長 60/180㎜）　　ＭＢ＝マルチカッタ（切断長 40/160㎜）
Ｌ＝水平自動　Ｕ＝皿型広幅クローラ・460㎜　Ｓ＝撥水揺動

[3 条型]

型式名	仕様 / 区分	エンジン S3L2 28PS	エンジン S3L2−T 33PS	HST+副変速2段	ハイラグクローラ400	ハイラグクローラ420	皿型広幅クローラ460	集中給油	防塵カバー	エンジン停止スイッチ	ブレーキ旋回	可動転輪	マルチステアリング	負荷モニタ	籾満杯予告シグナル	籾充填モニタ	ニューコンポアップ	ニューツインハーモニー	左ナローガイド手元操作	強制かき込み	倒伏スイッチ	リフトシャット	刈高ポジコン	撥水揺動	揺動スライドオープン	グレンサイドオープン	二段折れオーガ	ジャストディレクタ	自動化 方向自動	自動化 こぎ深さ自動	自動化 水平自動	自動化 フィードチェン同調	自動化 選別自動籾層厚感知	自動化 オーガ自動旋回・収納	自動化 送じん量自動調節	グレンタンク800L	カッタ ディスクカッタ	カッタ マルチカッタ 60/180mm	カッタ マルチカッタ 40/160mm
三菱VS328	FC	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○		
	FAC	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		
	FM	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	FAM	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	
	FAMB	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○
	FLM	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLAM	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLAMB	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	FLUM	○		○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLUAM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLYM	○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLYAM	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SM	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	SAM	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	
	SLM	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLYM	○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLUM	○		○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLAM	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLYAM	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLUAM	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
三菱VS333	FC		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○		
	FAC		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		
	FM		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	FAM		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	
	FAMB		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○
	FLM		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLAM		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLAMB		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	FLUM		○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLUAM		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLYM		○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	FLYAM		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SM		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	SAM		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	
	SLM		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLYM		○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLUM		○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLAM		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLYAM		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	SLUAM		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	

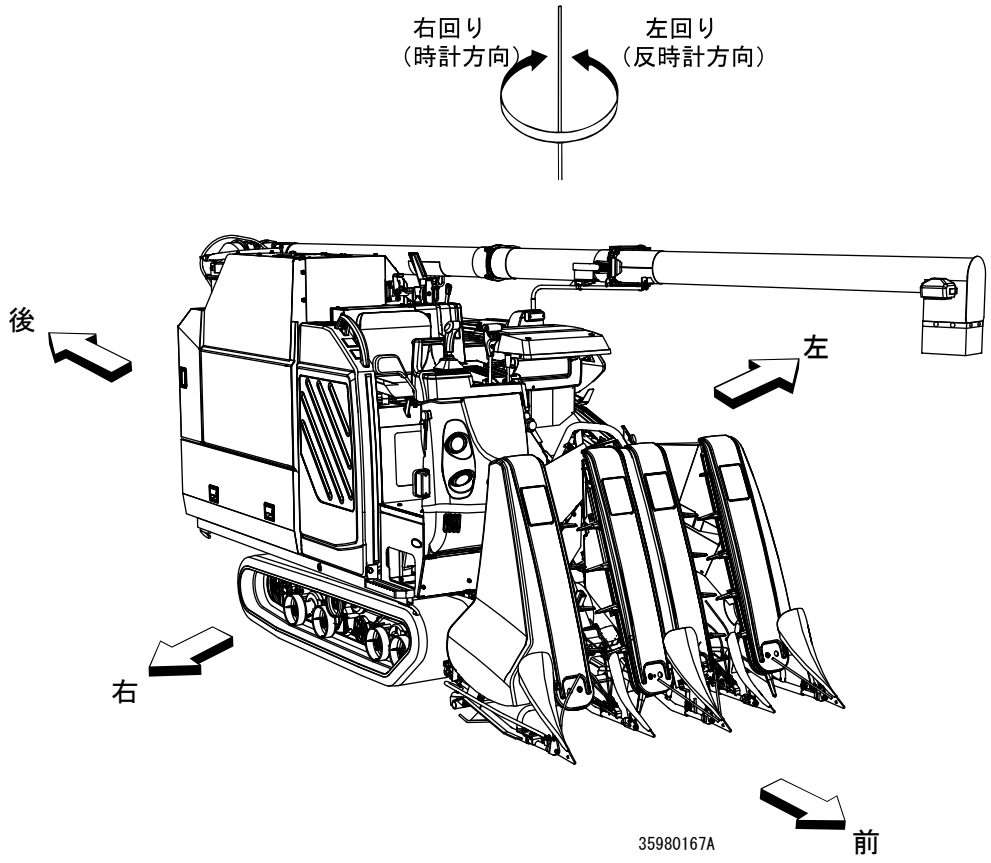
Ａ＝方向自動・防じんカバー　　Ｃ＝ディスクカッタ・左ナローガイド手元操作なし

Ｍ＝マルチカッタ（切断長 60/180㎜）　　ＭＢ＝マルチカッタ（切断長 40/160㎜）

Ｌ＝水平自動　Ｕ＝皿型広幅クローラ・460㎜　Ｙ＝ハイラグクローラ・420㎜　Ｓ＝撥水揺動

３．用語について

⑴ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は，図示のとおりです。



⑵ **形式別表示**

・この取扱説明書は，433 型を基本に説明してあります。区分により仕様（装備）が異なる場合は，その都度［A 仕様］，［L 仕様］等で記載して追加説明しています。

型式名(仕様)	本文表示	
433型	[433型]	[4条型]
328型	[328型]	[3条型]
333型	[333型]	

⑶ **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意……安全上重要な事項を，3 段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・取扱いのポイント ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは，**「小型特殊自動車」**に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1. 小型特殊自動車の届出

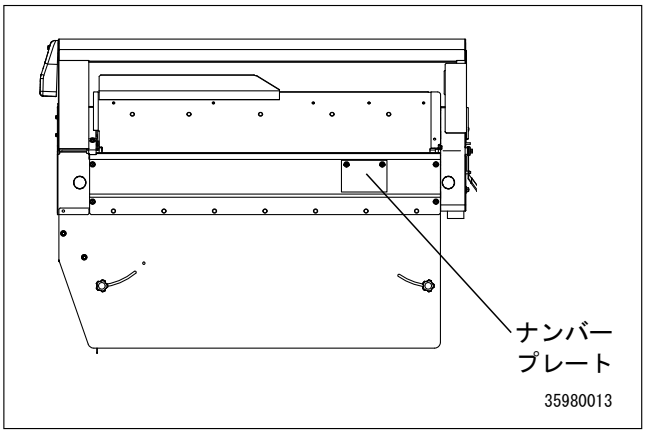
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町･村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは**「市（町・村）役所」**または**「お買いあげ先」**に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（**「お買いあげ先」**で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

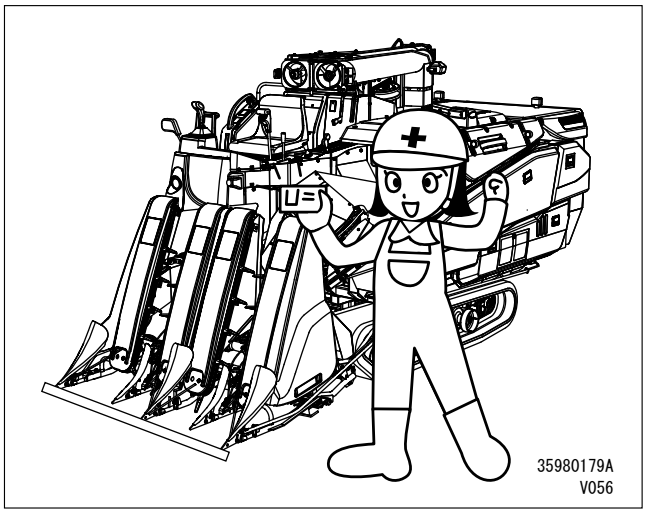
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 運転免許

公道を走行するときは，**「小型特殊自動車」**の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ **「小型特殊自動車」**の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全 長	4.7m 以下
	全 幅	1.7m 以下
	全 高	2.0 m以下 （注１）
最 高 速 度		15km ／時以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただし,キャビンを除いた部分の高さが2.0m 以下のものは 2.8m 以下。

❸ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

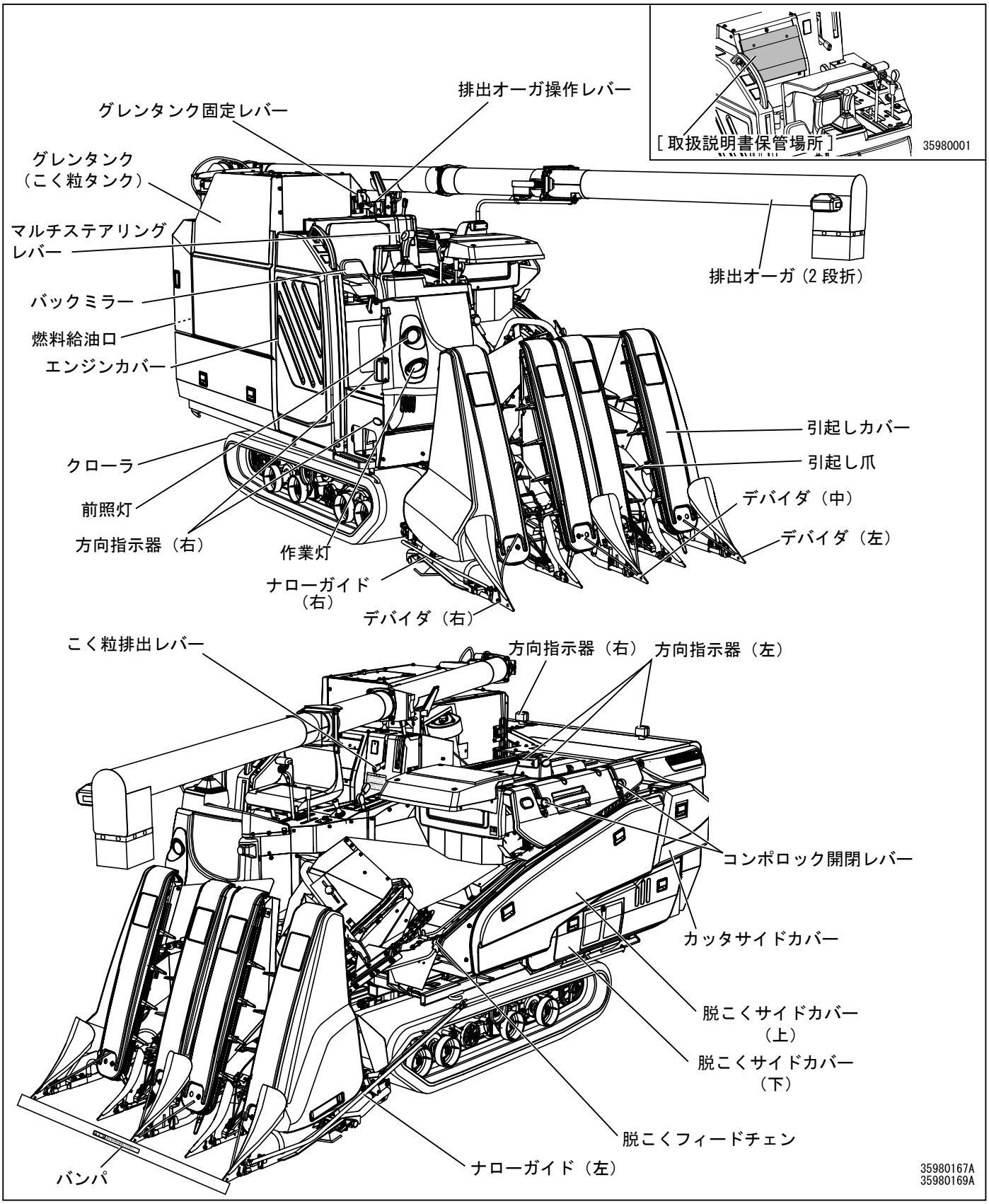
❹ 任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

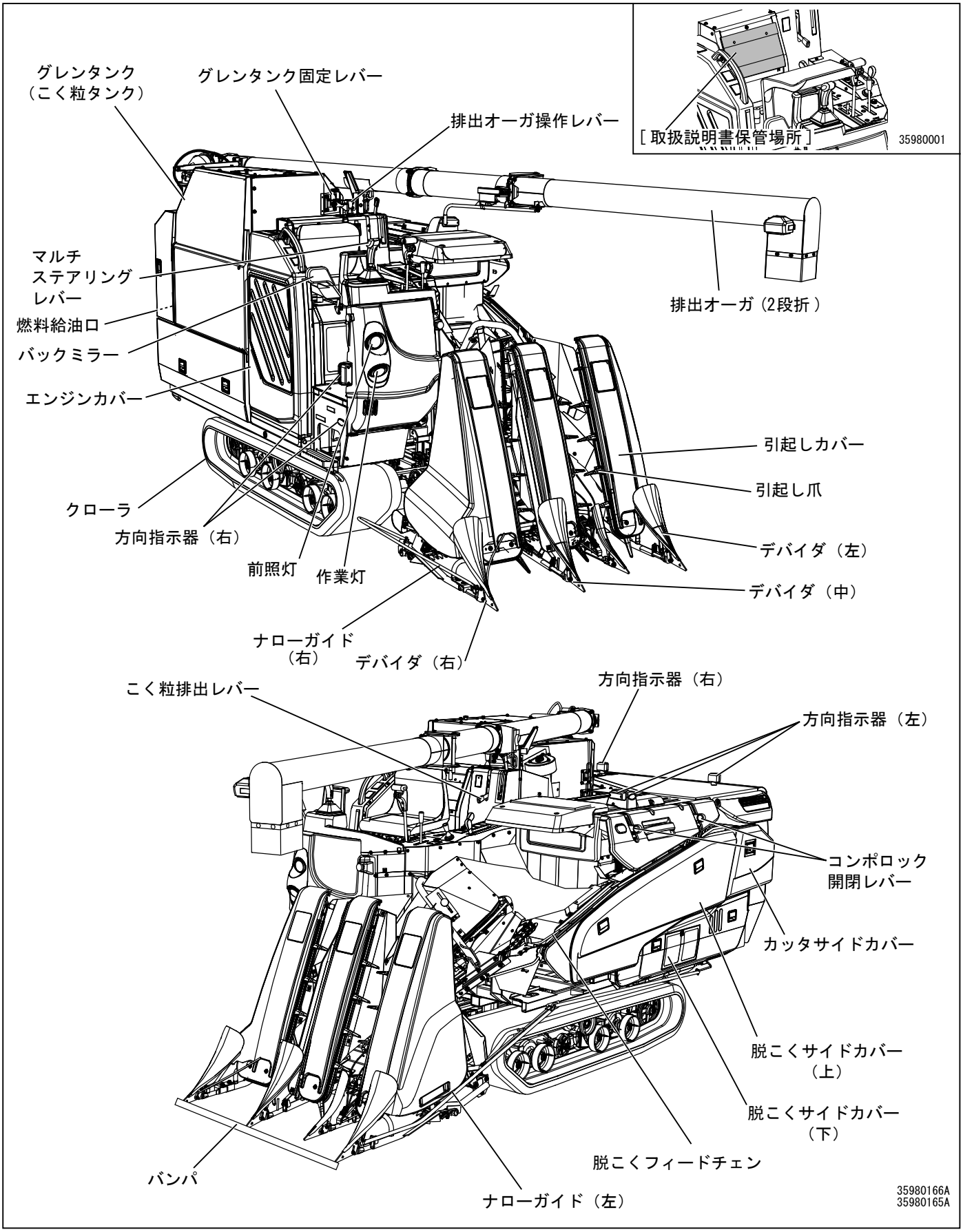
各部のはたらき

1. 各部の名称

1．4条型

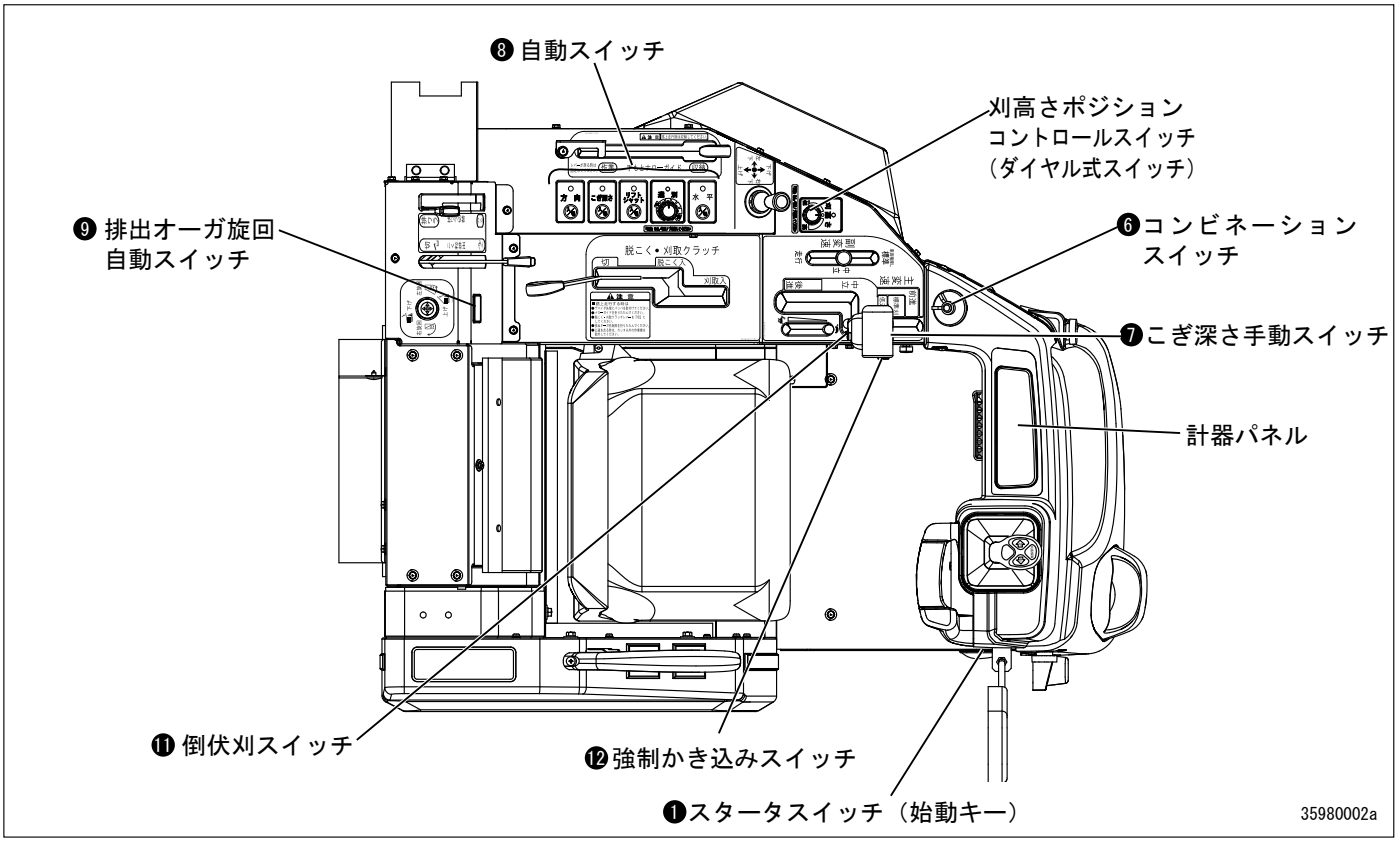


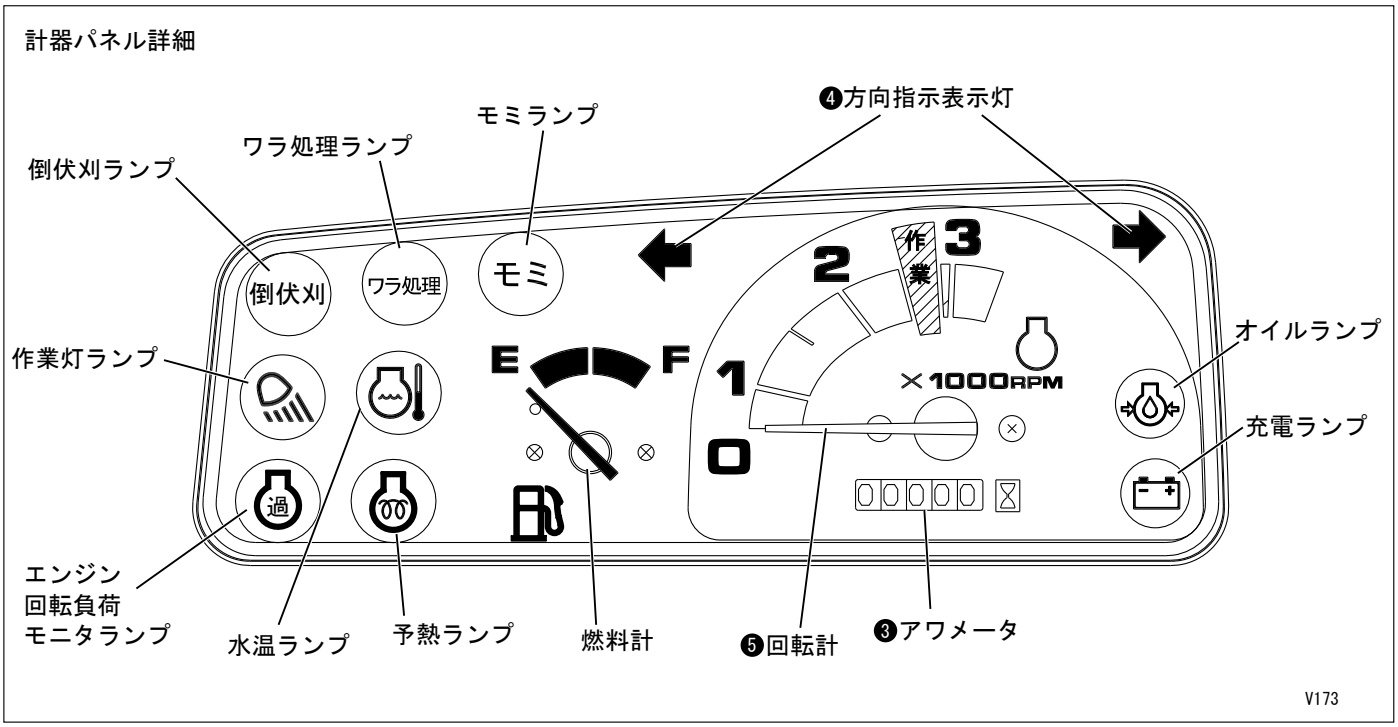
2．3条型


[取扱説明書保管場所]
35980001
グレンタンク
（こく粒タンク）
グレンタンク固定レバー
排出オーガ操作レバー
マルチ
ステアリング
レバー
燃料給油口
バックミラー
エンジンカバー
排出オーガ（2段折）
引起しカバー
引起し爪
クローラ
方向指示器（右）
前照灯
作業灯
デバイダ（左）
デバイダ（中）
ナローガイド
（右）
デバイダ（右）
こく粒排出レバー
方向指示器（右）
方向指示器（左）
コンポロック
開閉レバー
カッタサイドカバー
脱こくサイドカバー
（上）
脱こくサイドカバー
（下）
脱こくフィードチェン
バンパ
ナローガイド（左）
35980166A
35980165A

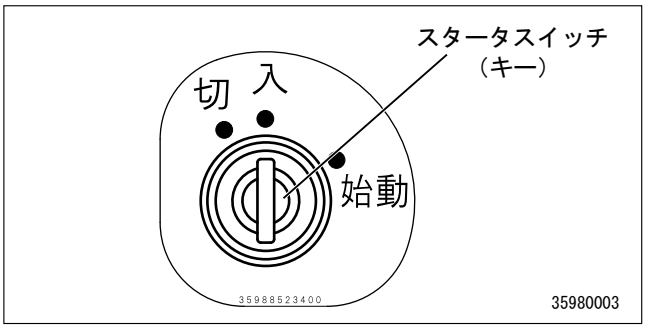
２．運転装置の取扱い

１．スイッチ・計器関係





❶ スタータスイッチ（始動キー）



《切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを**《切》**にするとエンジンが停止します。

《入》（運転）……電源入（運転中）

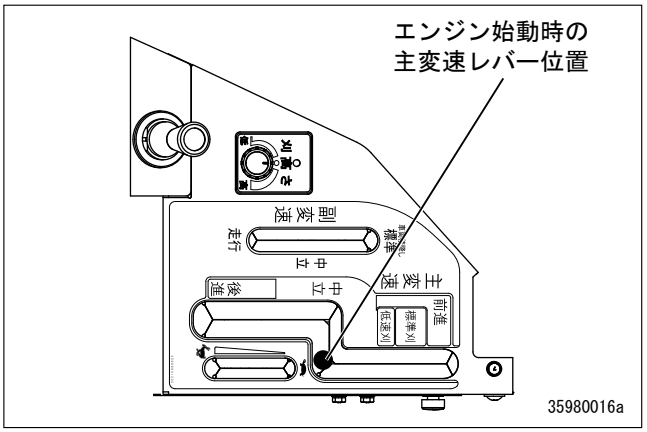
《始動》……エンジン始動

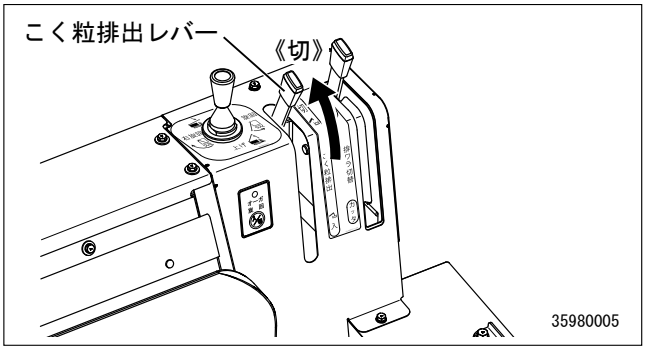
スタータスイッチを**《始動》**位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に**《入》**位置に戻ります。

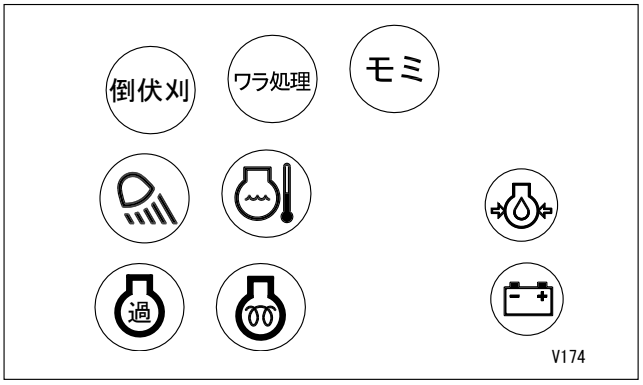
取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。（走行クラッチペダルを踏込むと主変速レバーは《中立》になります。）**





❷ 警報ランプ（インジケータランプ）



⑴ 予熱ランプ



スタータスイッチを**《入》**位置にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンの予熱を示します。約 6 秒後に消灯し，予熱が完了します。

⑵ 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，**「点灯」**し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中に水温ランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯し警報ブザーが鳴り止んだら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン等のラジエータ吸気部のゴミの付着（91 ページ参照）・エンジンファンベルトの張り（139 ページ参照），エンジンオイル量，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**

⑶ オイルランプ



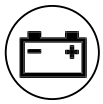
エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば**「点灯」**します。

正常なときは，スタータスイッチを**《入》**位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(80 ～ 83 ページ参照)**
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

⑷ 充電ランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを**《入》**位置にすると**「点灯」**し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。(139 ページ)**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑸ モミ処理ランプ



刈取り作業中グレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，満杯時に点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。
そのまま作業を続けると，グレンタンク上側からオーバーフローしてランプが点滅し，警報ブザーが鳴りエンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止しグレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **警報ブザーはパネルのホーン・警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。**
- **グレンタンクからこく粒がオーバーフローし，エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立》位置にし，脱こく・刈取レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒排出場所まで移動し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**

⑹ ワラ処理ランプ



排ワラチェン部およびフィードチェン部に詰まりが発生，または排ワラ切替カバーがオープンの状態であるとランプが点灯し，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。また，排ワラ切替カバーをカッタ・排ワラ作業状態にしてください。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込むとエンジンの再始動ができます。**

⑺ エンジン回転負荷モニタ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅したら，主変速レバーで走行速度を下げ，エンジンの負荷を軽くします。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジン負荷を軽くするとブザーは鳴り止みます。**

⑻ **倒伏刈ランプ**



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《**入**》にすると，倒伏刈ランプが点灯し刈取部の速度が通常より速くなります。

搬送部に異常が発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **通常の刈取で刈取部速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》にしても，それ以上速くはなりません。**

⑼ **作業灯ランプ**



スタータスイッチを《**入**》位置にし，コンビネーションスイッチを 2 段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。

❸ **アワメータ**

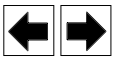


エンジン稼動時間の積算時間を表示します。

取扱いのポイント

- **定期点検整備はアワメータ表示時間を基準に行ってください。**

❹ **方向指示表示灯**

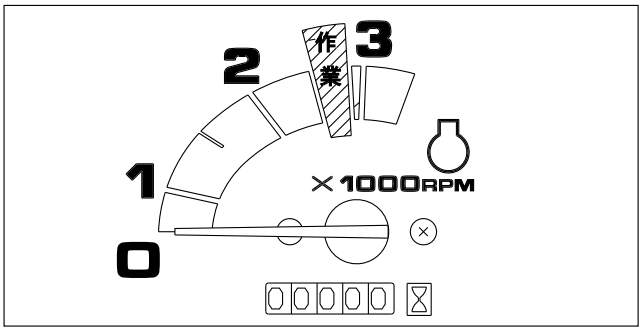


・方向指示器スイッチを操作すると点滅します。

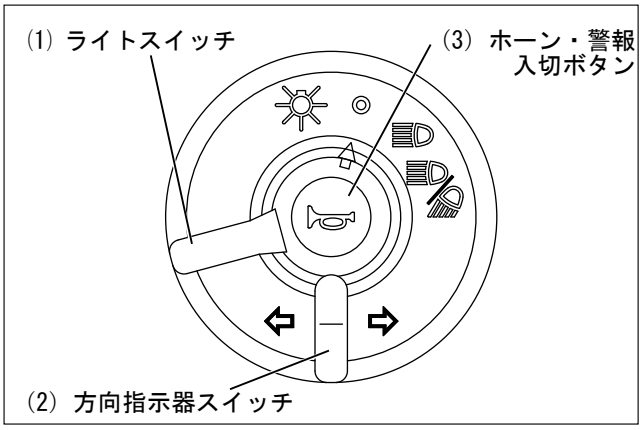
・グレンタンクにこく粒が約 60%以上に充填したときに点滅します。

❺ **回転計**

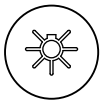
エンジンの 1 分間の回転数を表示します。



❻ **コンビネーションスイッチ**



⑴ **ライトスイッチ**

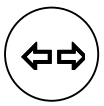


《 ◎ 》……消灯

《  》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《  》……回転計の照明が点灯し，前照灯および作業灯が点灯します。

⑵ **方向指示器スイッチ**



・右折，左折のときに使用します。

⑶ **ホーン・警報入切ボタン**



・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミセンサ（満杯）で，警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

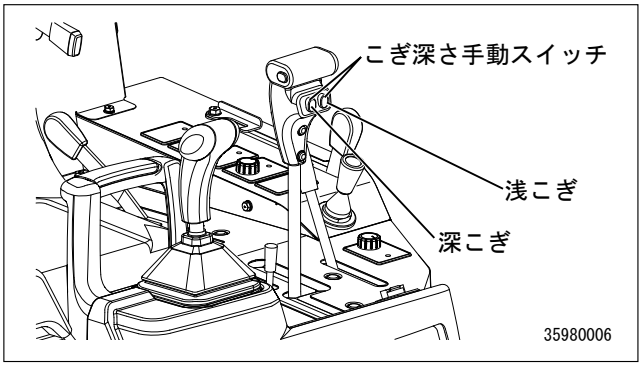
取扱いのポイント

- つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。下記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」する
・ワラ処理ランプ点灯・点滅 ・倒伏刈ランプ点滅 ・モミランプ点滅	脱こく・刈取スイッチを《切》位置にしてスタータスイッチを《切》にする。
・エンジン回転負荷モニタ（ランプ）点滅	走行速度を下げる

❼ こぎ深さ手動スイッチ

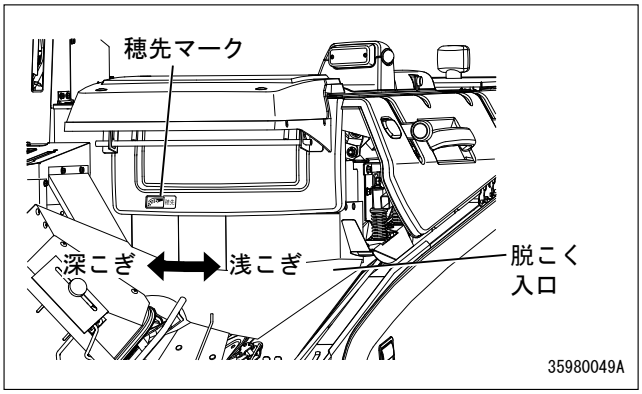
作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。



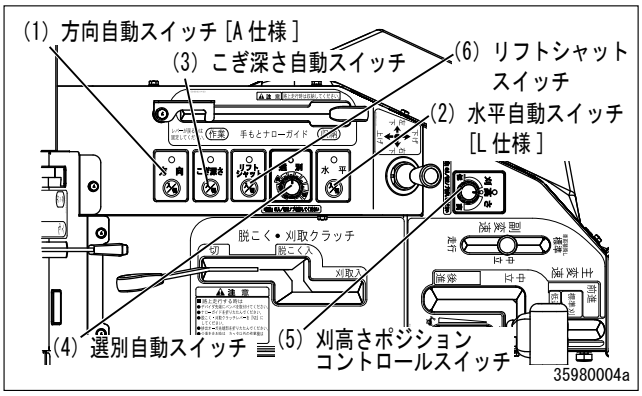
《深》（深こぎ）……こぎ深さが深い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

《浅》（浅こぎ）……こぎ深さが浅い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

脱こく入口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



❽ 自動スイッチ



(1) 方向自動スイッチ［ A仕様 ］

方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

(2) 水平自動スイッチ［ L仕様 ］

水平自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを**「切」**（ランプ消灯）にしたら，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

(3) こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを**《入》**位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が**「入」**になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

(4) 選別自動スイッチ（ダイヤル式スイッチ）

スタータスイッチを**《入》**位置にすると，ラ

ンプが点灯し，選別自動が**「入」**になります。点灯状態から再びダイヤルを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

⑸ 刈高さポジションコントロールスイッチ（ダイヤル式スイッチ）

スタータスイッチを**《入》**位置にすると，ランプが点灯し刈高さポジションコントロールが**《入》**になります。

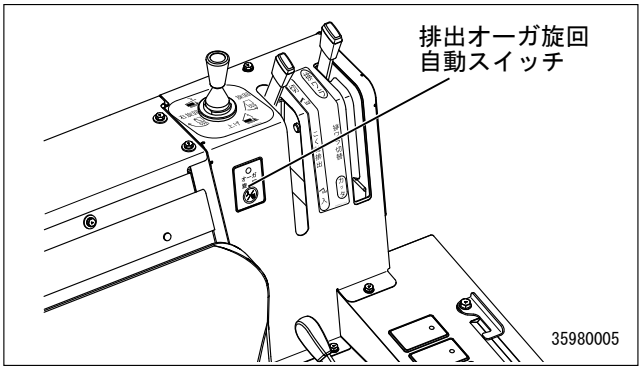
点灯状態から再びダイヤルを押すとランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは働きません。

・刈高さポジションコントロールは刈取部を機体に対して一定の高さに保つ機能です。
・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する**「刈高さ位置」**を設定することができます。
・刈高さダイヤルは，通常**《標準》**(●マーク）位置で使用します。

⑹ リフトシャットスイッチ

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチの操作でリフトシャット機能の切替を行います。

❾ 排出オーガ旋回自動スイッチ



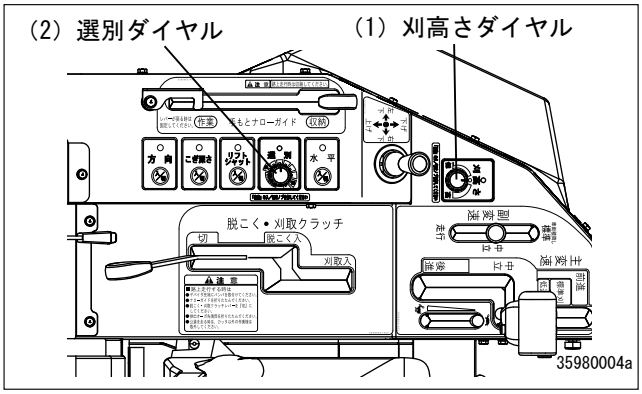
・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機体後方まで，自動的に旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

取扱いのポイント

- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか，確認してください。**
  旋回自動および収納が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。

❿ 自動調整ダイヤル（スイッチ一体型）

各自動制御の調整ダイヤルが，装備されています。



⑴ 刈高さダイヤル

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する**「刈高さ位置」**を設定することができます。
・刈高さダイヤルは，通常**《標準》**位置（●印位置）で使用します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，スイッチを押して《切》で使用します。(モニタランプを消灯してください)**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れ等がないか確認してください。**

⑵ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《麦》－通常のムギ刈り作業は，この位置で行います。

《稲》－通常のイネ刈り作業は，この位置で行います。

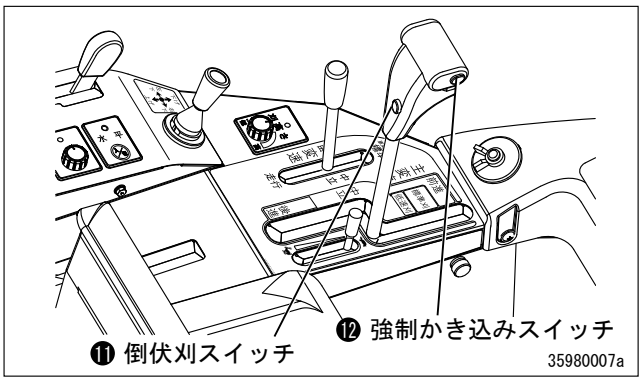
取扱いのポイント

- 選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
- 選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

❽,❾,❿,⓫,⓬の詳細は，作業のしかたの項（54～55ページ）と自動装置についての項（65～73ページ）を参照してください。

⓫ 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。



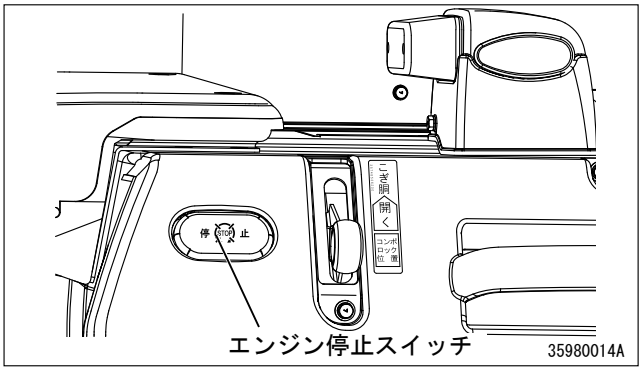
⓬ 強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバーが刈取《入》位置のとき，走行停止状態，リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。

⓭ エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時等の万一のトラブル時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。

（詳細は58ページ参照）



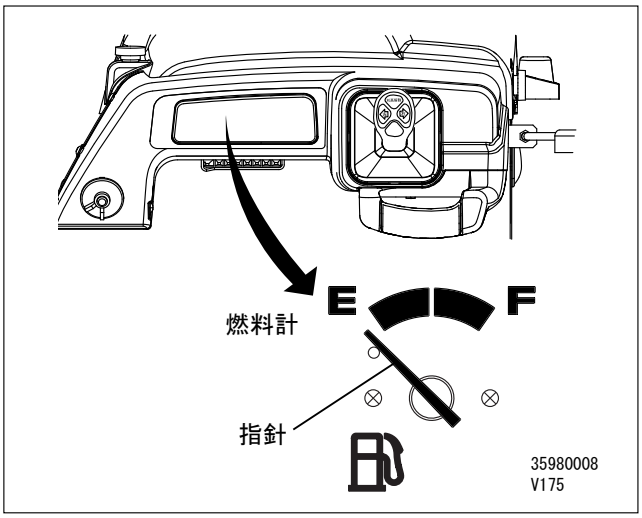
取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止した時は，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリ放電の原因になります。

  エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

⓮ 燃料計

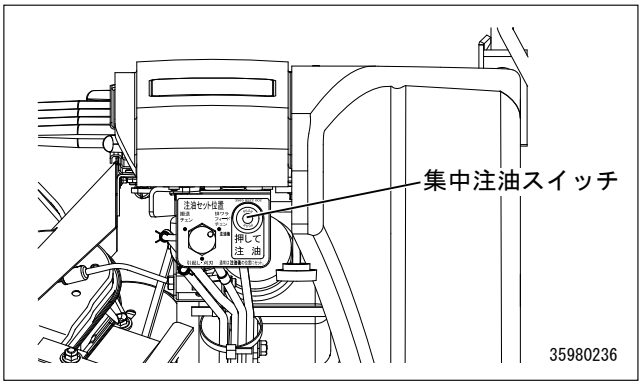
燃料の残量を指針の位置で示します。《F》が満量（30L）を示し，指針が《E》に近づくにつれて燃料が減っていくことを表示します。



取扱いのポイント

- **指針が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。**

⓯ 集中注油スイッチ（注油切替ダイヤル）



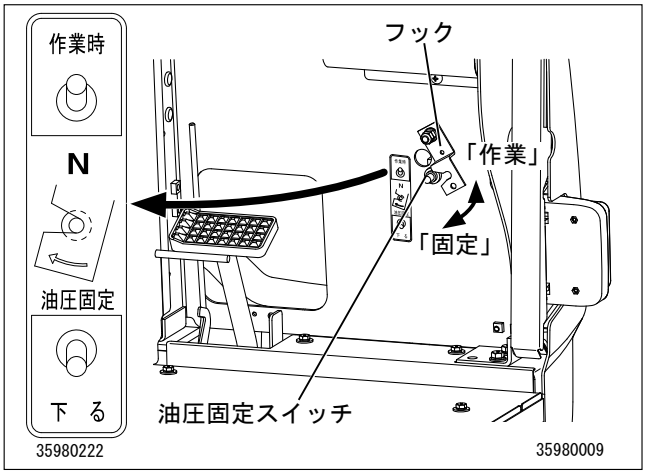
・集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し，刈刃やチェン類に注油します。
・注油切替ダイヤルを回し，注油箇所（搬送チェン・排ワラフィードチェン・注油後・引起し・刈刃）の切換えを行います。
（詳細は 90 ページ参照）

⓰ 油圧固定スイッチ

⚠警告　傷害事故防止のために

- **◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にし，油圧固定スイッチにフックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。**
- **◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく，刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。**
- **◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。**

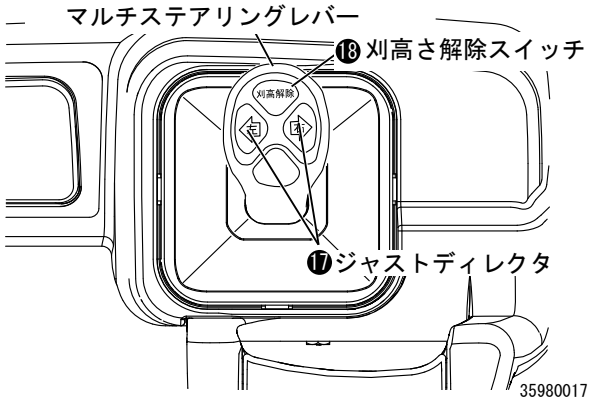
刈取部の**「上げ」・「下げ」**を固定します。
・**《油圧固定》**位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。
路上を走行するときは,**《油圧固定》**位置で使用します。**《油圧固定》**位置にしたときは，フックを「固定」位置にしてください。
・作業時には，油圧固定スイッチを**《作業時》**の位置で使用します。
・刈取部全体を取外すときには，油圧固定スイッチを**《下る》**の位置で使用します。



⑰ ジャストディレクタ

⚠警告　傷害事故防止のために

- **旋回操作（方向修正）時に走行クラッチペダルに足を乗せないでください。ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。**
- **自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。**



・ジャストディレクタ**《右》**を押すと右方向に，**《左》**を押すと左方向に進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。
・自動車等への積込み・積降ろし，あぜ越え，路上走行等刈取り以外の作業では使用しません。

取扱いのポイント

- **ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。**
- **ジャストディレクタは旋回には使用できません。**

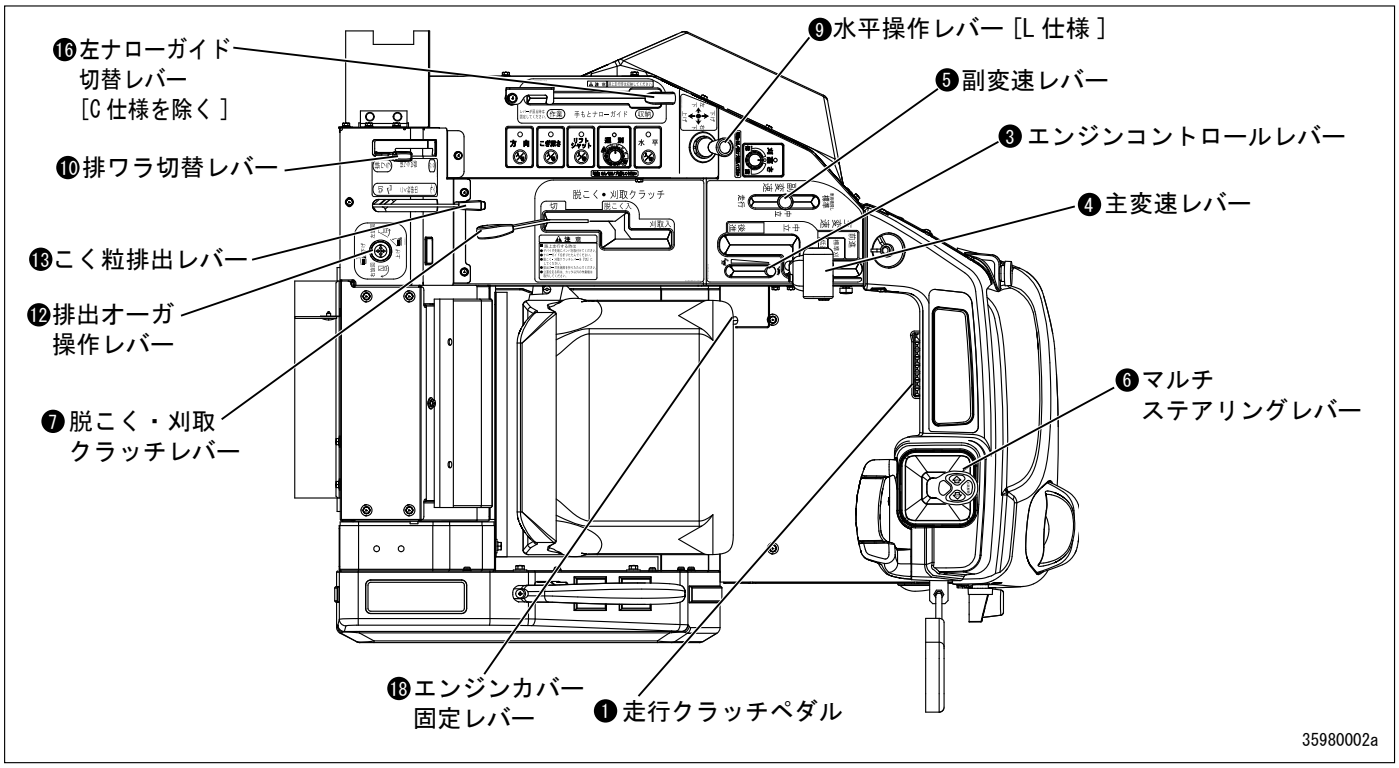
⑱ 刈高さ解除スイッチ

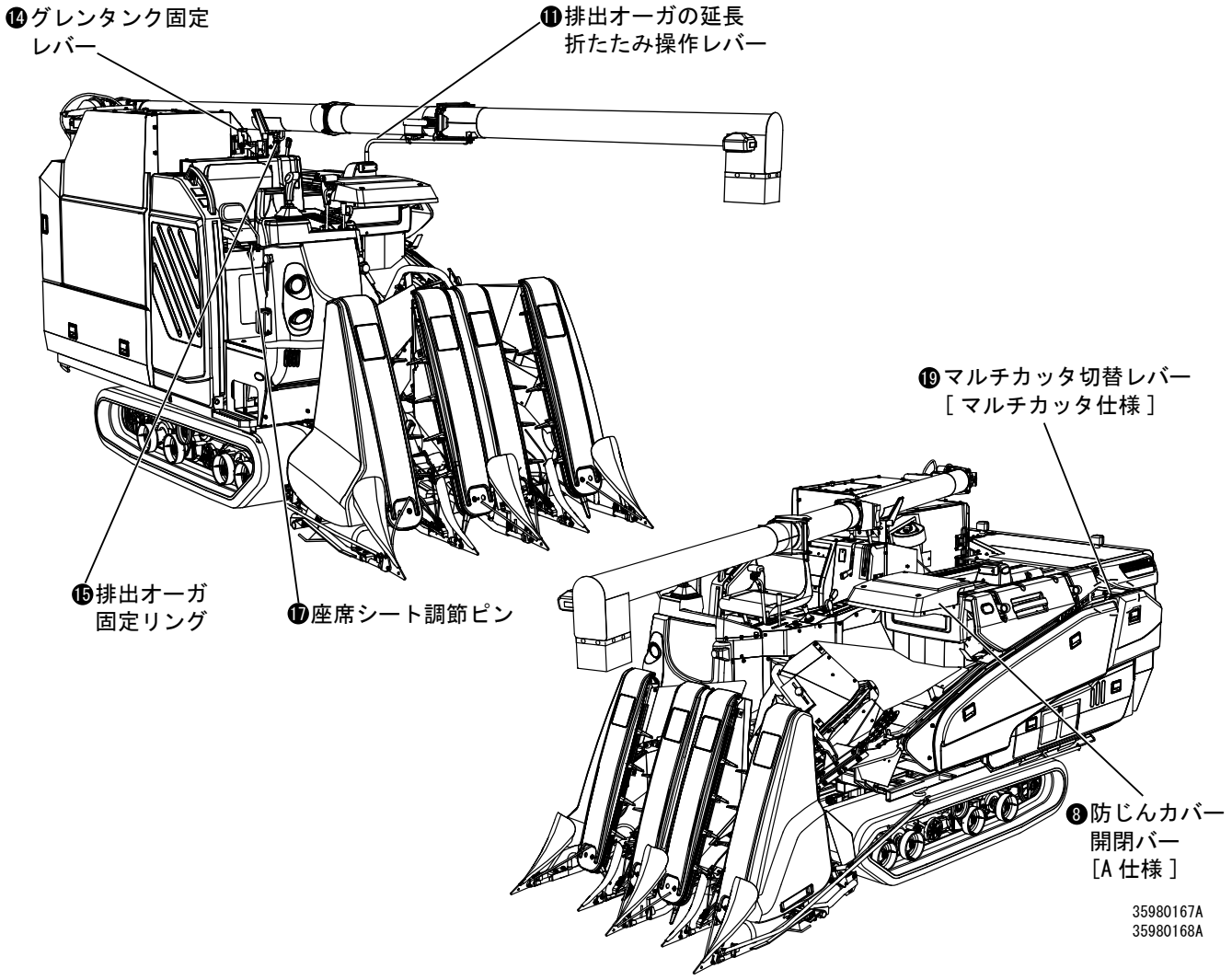
刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを，解除するスイッチです。
刈高解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを**《下げ》**にすると，刈取部は刈高さポジションコントロール位置に関係なく，通常のマルチステアリングレバー操作の**「下げ」**となります。

取扱いのポイント

- **レバーの刈高解除スイッチの操作については，「刈高さポジションコントロール」（68 ～ 69 ページ）を参考に取扱いをしてください。**

2．ペダル・レバー関係

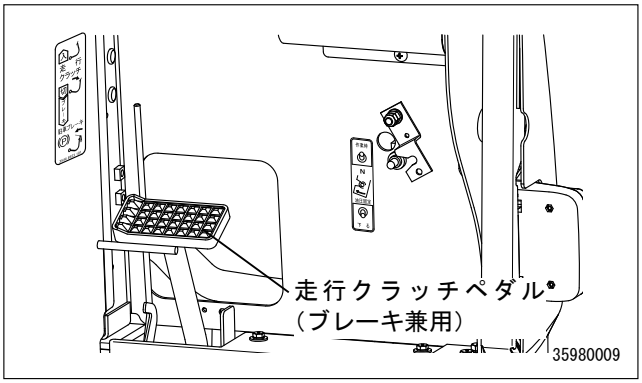

⑯左ナローガイド
切替レバー
[C 仕様を除く]
⑩排ワラ切替レバー
⑬こく粒排出レバー
⑫排出オーガ
操作レバー
❼脱こく・刈取
クラッチレバー
⑱エンジンカバー
固定レバー
❶走行クラッチペダル
❾水平操作レバー [L 仕様]
❺副変速レバー
❸エンジンコントロールレバー
❹主変速レバー
❻マルチ
ステアリングレバー
脱こく・刈取クラッチ
切
脱こく
刈取入
35980002a


⑭グレンタンク固定
レバー
⑪排出オーガの延長
折たたみ操作レバー
⑮排出オーガ
固定リング
⑰座席シート調節ピン
⑲マルチカッタ切替レバー
[マルチカッタ仕様]
❽防じんカバー
開閉バー
[A 仕様]
35980167A
35980168A

❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

- **走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。**
- **走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。**



機械の始動，停止（ブレーキ），副変速レバーの操作に使用します。

⑴ エンジンの始動に使用します。

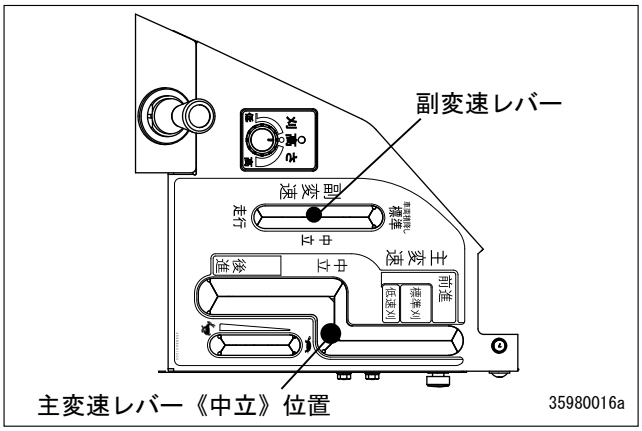
・エンジンを始動するときは走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。**

⑵ 走行の停止（ブレーキ）に使用します。

・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，主変速レバーが**《中立》**に戻りトランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。



⑶ 機械の副変速レバーの操作に使用します。

・副変速レバーを操作する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

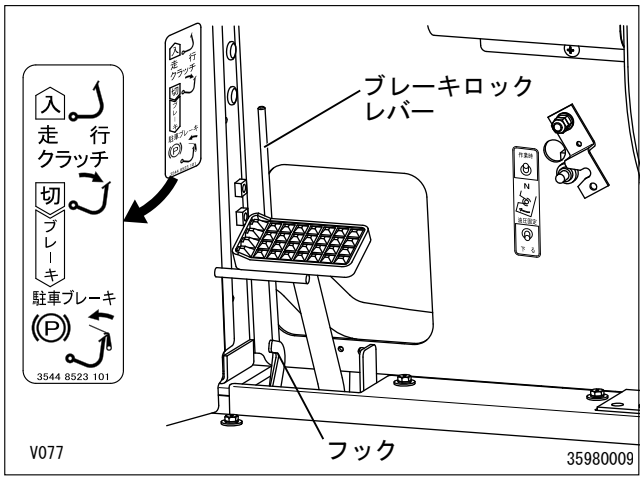
- **主変速レバーは走行クラッチペダルを踏まないで操作します。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**

❷ ブレーキロックレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

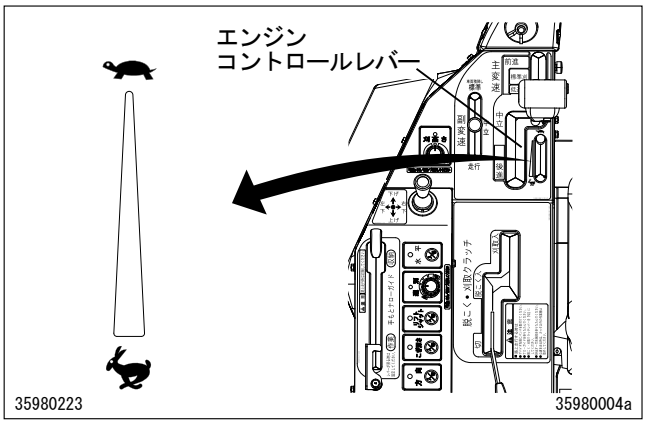
- **坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。**
- **ブレーキロックレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。**

・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，ブレーキロックレバーを操作してフックをペダルに掛けます。
・解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的にブレーキロックレバーのフックが外れます。



❸ エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。
・**「始動」**の時は……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《 》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。
・**「作業」**の時は……適正回転数になるよう回転計の指針で合わせます。
・**「停止」**の時は……《 》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **走行時および，マルチステアリングレバーを操作する時は，エンジン回転「2000rpm 以上」で使用してください。それ以下で使用すると正常に作動しないことがあります。**

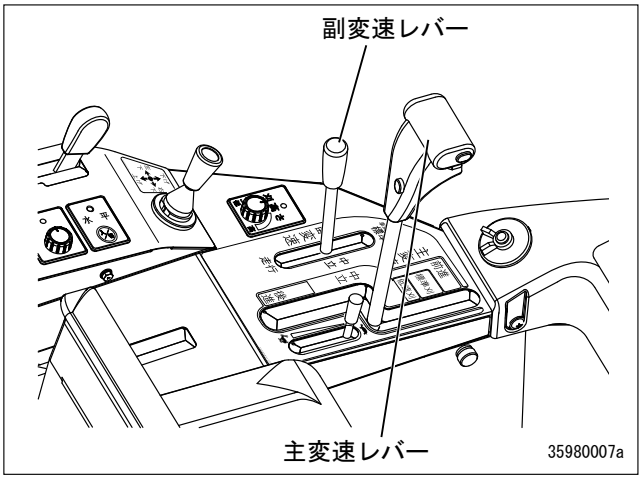
❹ 主変速レバー

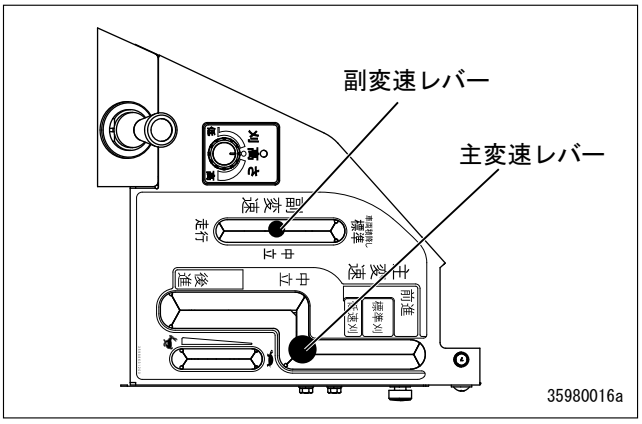
⚠警告　傷害事故防止のために

- **機械から離れる時は，《中立》(N) でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。**
- **走行中，主変速レバーを急激に増減速操作しないでください。**
- **前後進の切替えは，機械が停止してから行ってください。**
- **自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。**

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。**《前進》・《後進》**いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

・走行クラッチペダルを踏むと，主変速レバーは**《中立》**位置に戻ります。





作業内容	副変速	主変速
積込み, あぜ越え	標準	［中立］から［前進・低速］
積降ろし		［中立］から［後進・低速］
路上, ほ場走行(前進)	標準 走行	［中立］から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上, ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
倒伏刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
集中注油	中立	［中立］から［標準刈］

❺ 副変速レバー

作業目的や刈取り条件により**《標準》**,**《走行》**の 2 段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを**《中立》**にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは**《標準》**位置で行います。

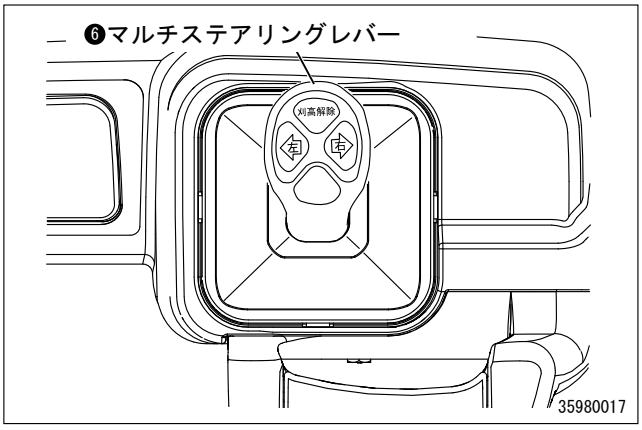
・刈取り作業は**《標準》**位置で行います。**《走行》**位置での刈取り作業はできません。

・見通しが良く平坦な道路では**《走行》**位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は**《標準》**で走行します。

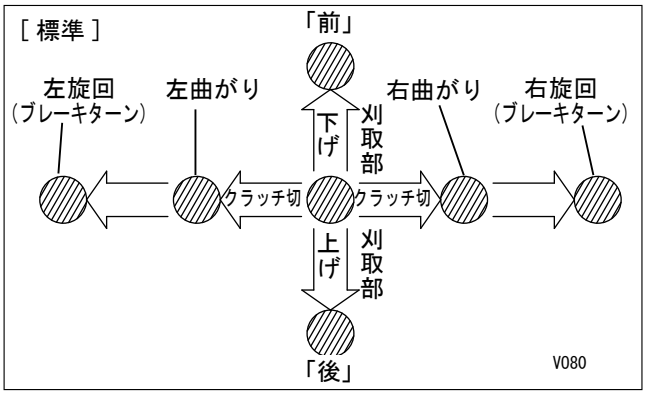
❻ マルチステアリングレバー

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。急旋回はしないでください。
- ◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・1本のレバー操作により，左右操作で**「旋回」**，前後操作で刈取部の**「上げ」「下げ」**ができます。
・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

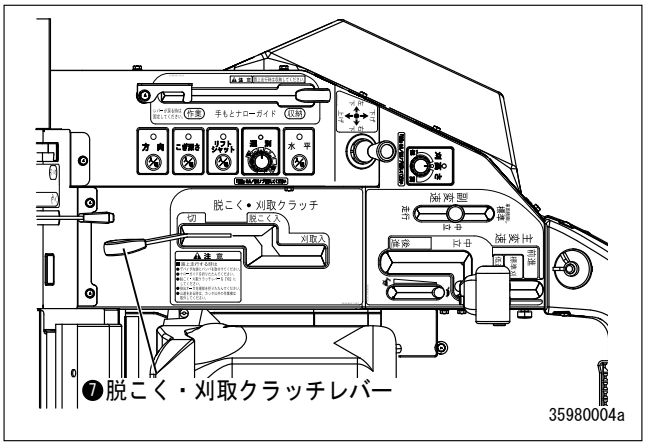
- マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ 脱こく・刈取クラッチレバー

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆脱こく・刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。
- ◆エンジンを始動する場合は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。

・脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく**《入》**位置にすると脱こく部が作動します。
・脱こく・刈取クラッチレバーを刈取**《入》**位置にすると，脱こく部に連動して刈取部が作動します。また脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にすると，刈取部と脱こく部が停止します。



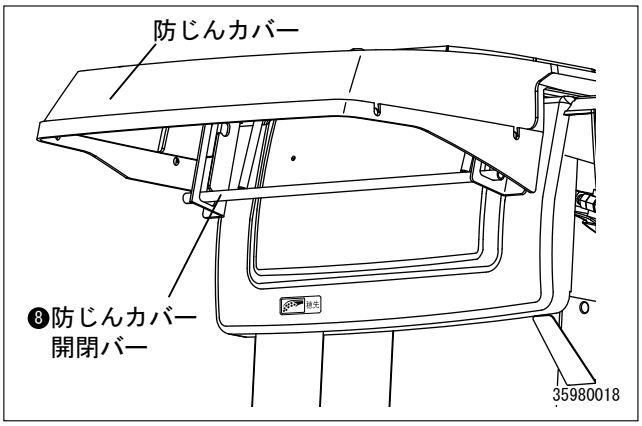
取扱いのポイント

- 刈取り作業を行うとき，回転計の「色別表示」（作業範囲）以下では《入》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。
- 刈取・脱こく運転中，走行クラッチペダルを踏むと，走行は停止し，同時に刈取部とフィードチェンも停止します。（脱こく部は止まりません）
- エンジンを始動する時は，脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。

❽ 防じんカバー開閉バー [A 仕様]

防じんカバーを上げる（開く）ときに使用します。

上げるときは防じんカバー開閉バーを持って上方に開きます。下げる（閉じる）ときも防じんカバー開閉レバーを持って下げます。

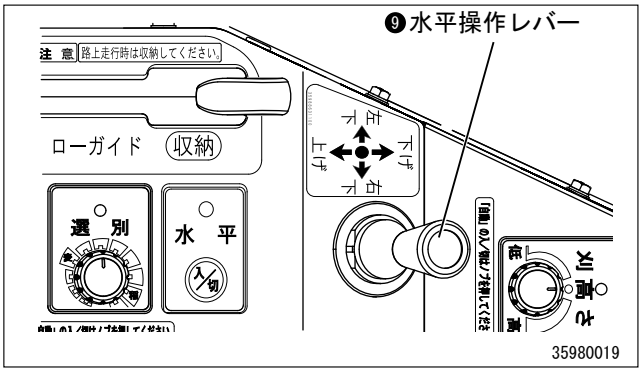


・コンポアップのときは，防じんカバーを下げ位置にしてください。

❾ 水平操作レバー [L 仕様]

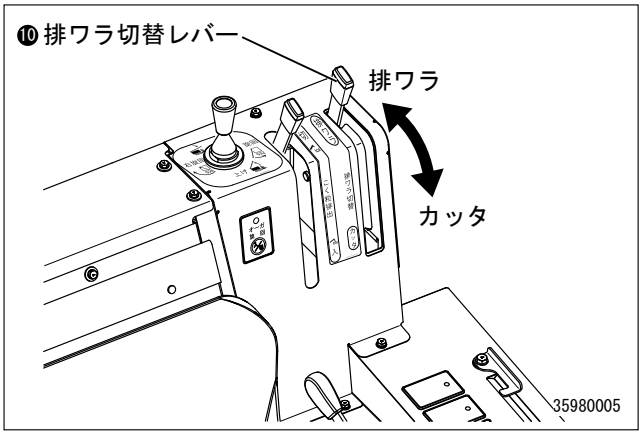
機体の「上げ」「下げ」「右下げ」「左下げ」をします。

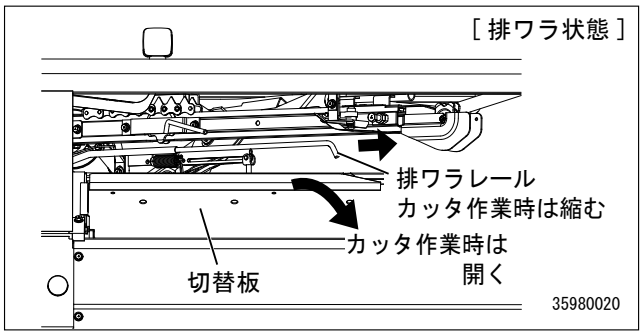
・レバーを《上げ》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《下げ》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《右下げ》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。
・レバーを《左下げ》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。



❿ 排ワラ切替レバー

排ワラ作業またはカッタ作業の切替えをするレバーです。レバーを切替えると，切替板と排ワラレールが同時に切替わります。





⓫ 排出オーガの延長折りたたみ操作レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。

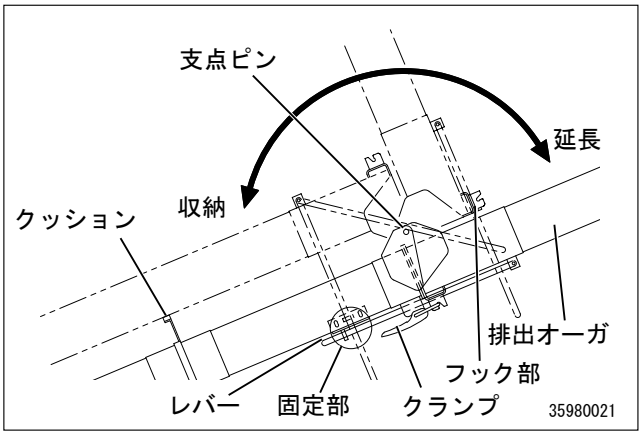
◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。

◆路上走行するときは，排出オーガを折りたたんで固定し走行してください。

[延長のしかた]

① レバーを固定部より外し，支点ピンにレバーを掛け排出オーガを延長方向へ回します。

② レバーをフックに掛け直し排出オーガを回して「延長状態」でクランプを掛け「固定」します。



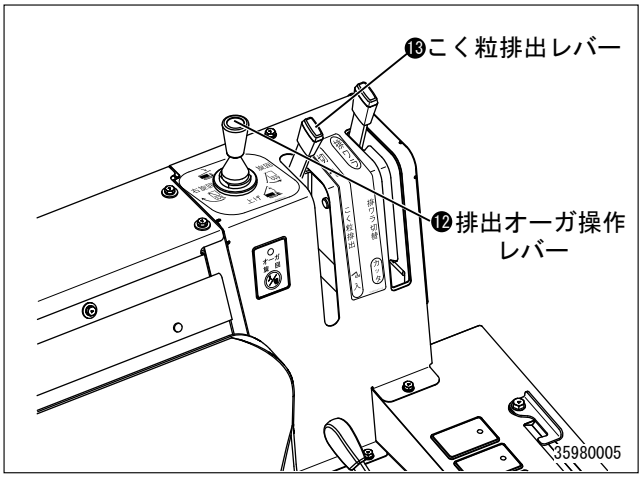
［折たたみかた］

① クランプを「解除」し，レバーをフックに掛けて排出オーガを収納方向へ回します。

② レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

③ レバーを固定部に掛けて固定します。

⓬ 排出オーガ操作レバー



⚠警告 傷害事故防止のために

- **排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。**
- **排出オーガを上げたままでの移動および刈取り作業はしないでください。上げたままで走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。**

排出オーガを《**上げ**》，《**下げ**》および《**左旋回**》，《**右旋回**》させるレバーです。

⓭ こく粒排出レバー

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- **水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。**
- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限（黄色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。**
- **エンジンを始動する時，こく粒排出レバーが《入》位置にあると始動できません。**

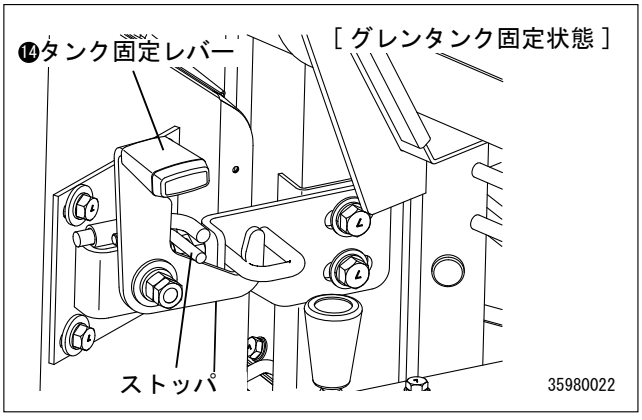
⓮ グレンタンク固定レバー

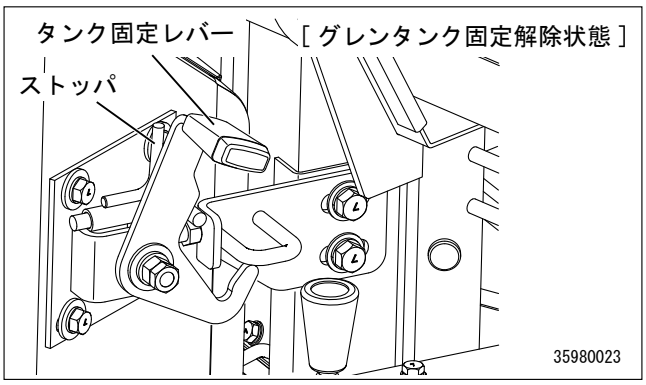
⚠警告　傷害事故防止のために

- **グレンタンク固定レバーを《解除》する時は，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。**
- **グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。**
  タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。
- **エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されている事を確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。**

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（100 ～ 101 ページ参照）するときは，ストッパを解除し，タンク固定レバーのロックを解除します。



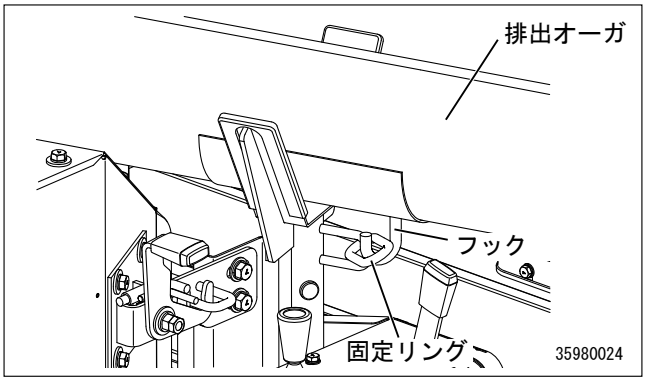


グレンタンク回動以外のときは，タンク固定レバーを固定状態とし，ストッパをかけ，タンクを固定状態としておきます。

⓯ 排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

排出オーガを操作をする前に，固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定リングをフックにかけておきます。

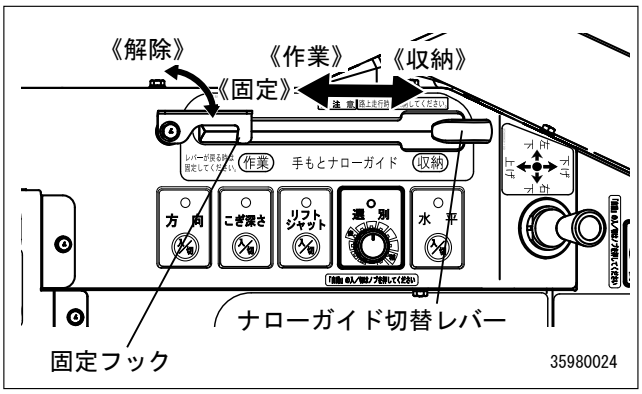


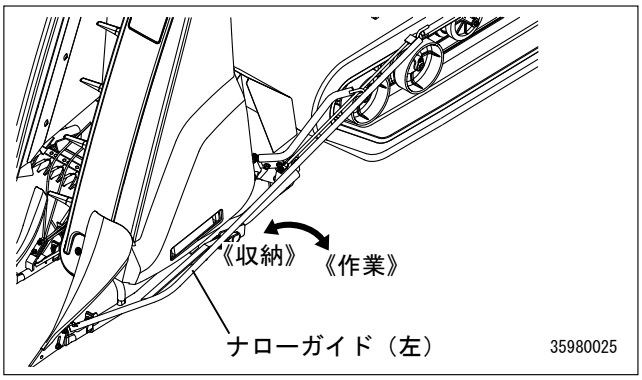
⓰ ナローガイド

① ナローガイド切替レバー［C 仕様を除く］

ナローガイド（左）を運転席に座ったまま操作するレバーです。

- ナローガイド切替レバーを**《作業》**にすると，ナローガイド（左）が引出され作業状態になります。
- 通常固定フックは**《解除》**の位置で作業します。
- 作業時，レバーが戻る場合は固定フックで**《固定》**位置にしてください。
- 公道走行時は**《収納》**位置にします。

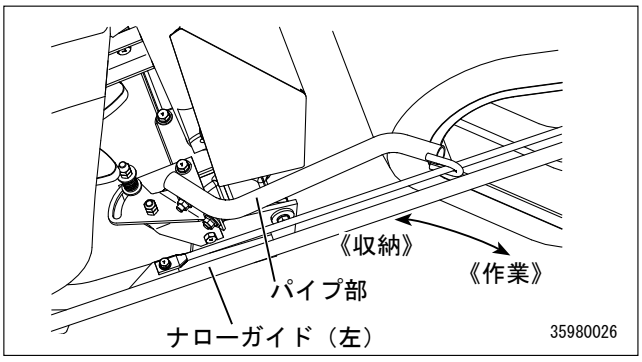




② ナローガイド［C 仕様］

ナローガイド（左）のパイプ部を持ち，ナローガイドを引出し，作業状態にします。

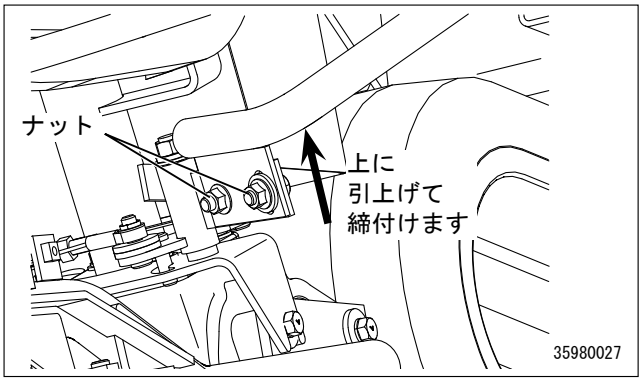
収納するときは，パイプ部を持ちナローガイドを内側に収納します。



・右回り，あぜ際刈取など，障害物があるときと，公道走行をするときは収納してください。

取扱いのポイント

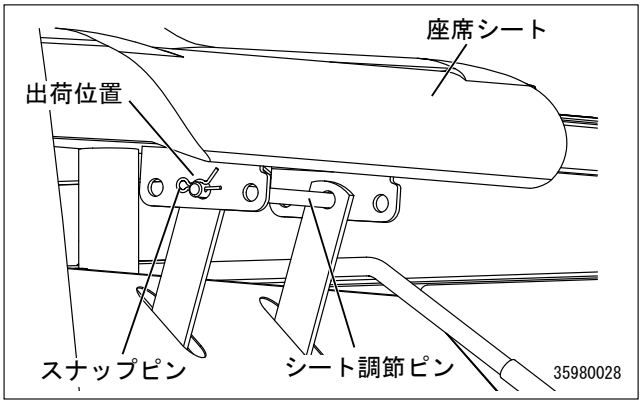
- 長稈材等で未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。
  ナローガイドを引出した状態で下図のナット（２個所）をゆるめ，上に引上げナットを締付けます。（①②項共）



⑰ 座席シート調節ピン

座席シートの前後位置がシート調節ピンで３段階に調節できます。

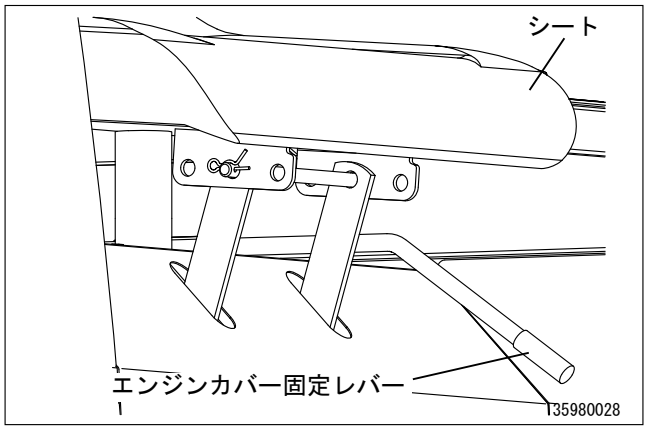
スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，座席シートの前後位置を調節します。



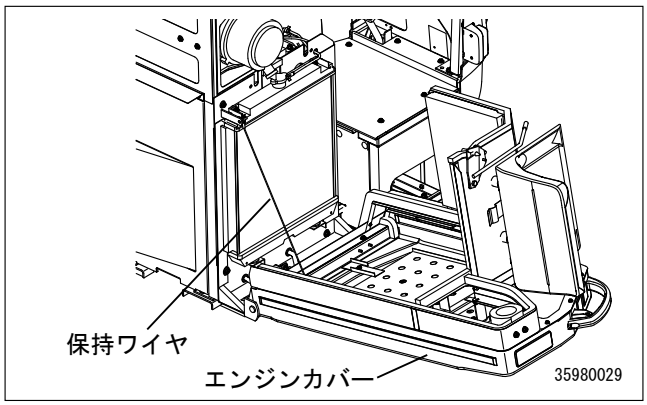
⑱ エンジンカバー固定レバー

エンジンカバーを開くときに使用します。

(1) エンジンカバー固定レバーを機体右方に引き，固定を解除します。

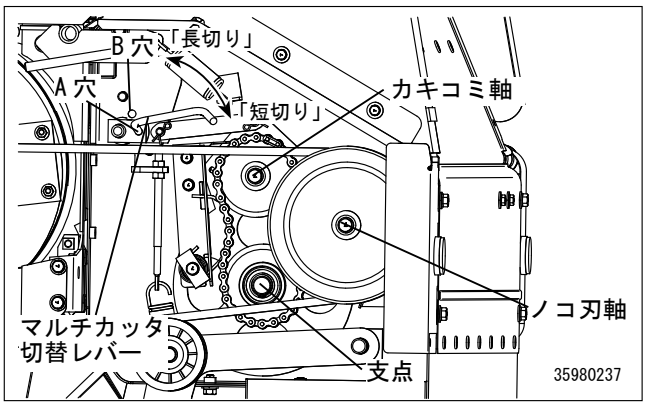


(2) エンジンカバーをゆっくり外側に開きます。



⑲ マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］

マルチカッタ切替レバーを握ることで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，自由に回動します。この状態で，**「A 穴」**または**「B 穴」**にマルチカッタ切替レバー位置を合わせて，差し込むことにより**「短切り」**，**「長切り」**に切替え操作ができます。



3. 電装関係

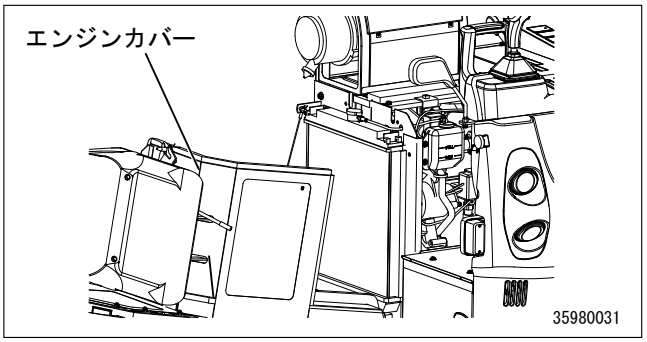
⚠警告　火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズボックス・燃料カットソレノイドヒューズおよびメインヒューズが設けてあります。

運転中,電気系統の異常を確認したときは,ヒューズボックス･燃料カットソレノイドヒューズおよびメインヒューズの状態をチェックします。

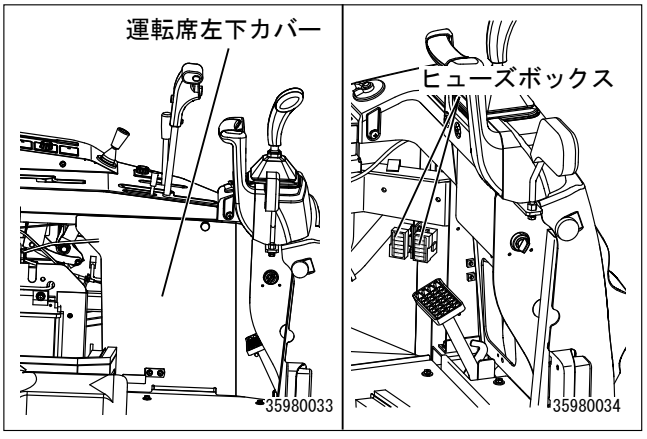
ヒューズボックス・燃料カットソレノイドヒューズおよびメインヒューズはエンジンカバーを開いて確認します。

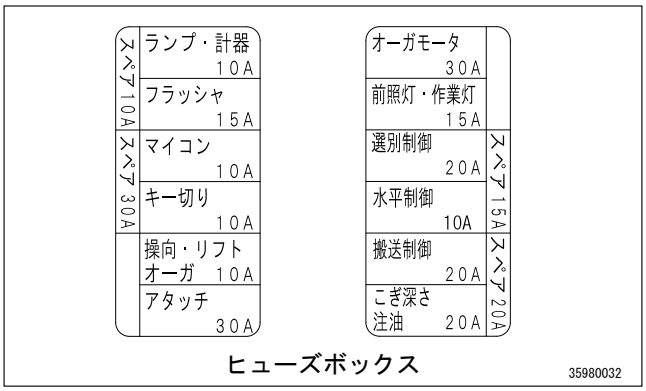


ヒューズボックス・燃料カットソレノイドヒューズおよびメインヒューズの点検交換が終わったら，エンジンカバーを閉じます。

❶ ヒューズボックス

(1) 運転席左下カバーを外すとヒューズボックスがあります。





(2) ヒューズの交換

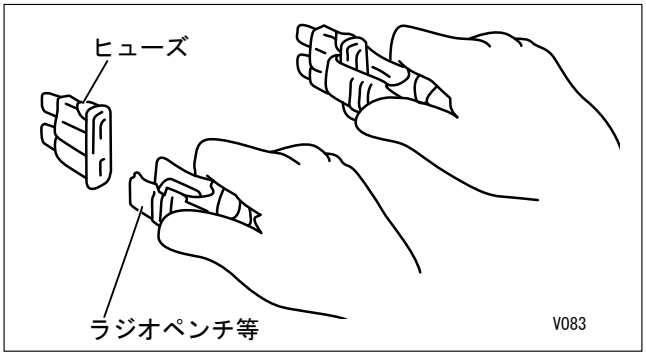
・ブレード（板）ヒューズの交換

ヒューズボックス内の各種ヒューズは，ブレードヒューズを使用しています。

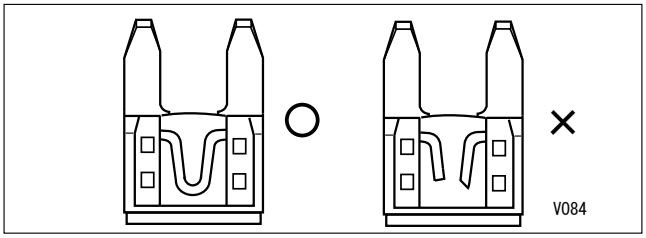
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは，次のように処置してください。

① スタータスイッチを**《切》** 位置にします。

② ヒューズボックスの蓋を開き，ラジオペンチ等を使って，ヒューズを引抜きます。



③ ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



(3) ヒューズボックス内のヒューズの点検・交換が終わったら，運転席左下カバーを取付けてください。

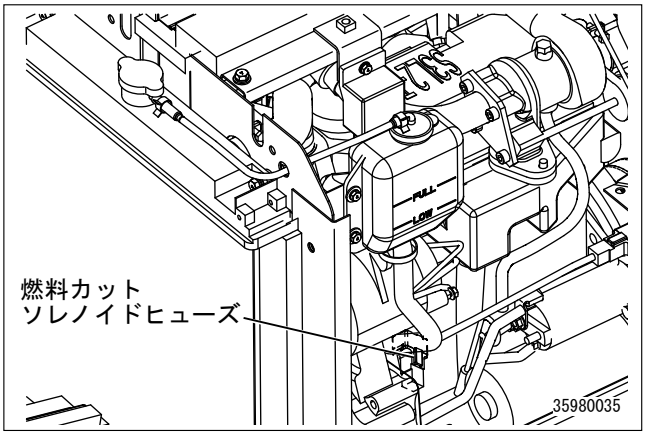
❷ 大電流用ヒューズ

● 大電流用ヒューズが切れたときは,「お買いあげ先」で点検を受けてください。

(1) 燃料カットソレノイドヒューズ（50A）

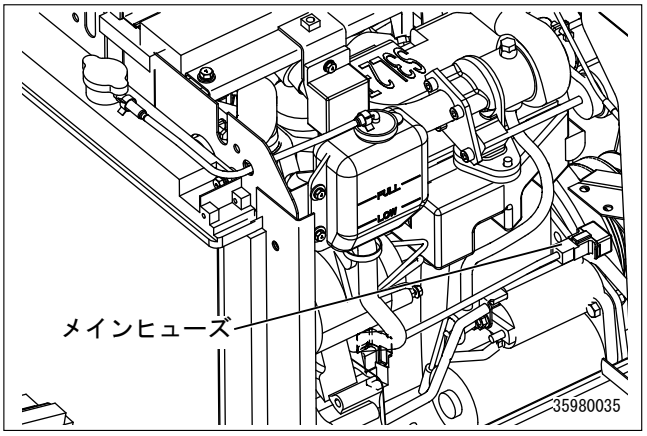
> **⚠警告　火傷防止のために**
>
> **◆ 作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。**

始動時に燃料供給をするためのソレノイド起動用ヒューズです。このヒューズが切れるとエンジン始動ができなくなります。



(2) メインヒューズ（60A）

エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。全ての電気装置の安全装置となっていて，メインヒューズが切れると全ての電気装置が作動しなくなります。

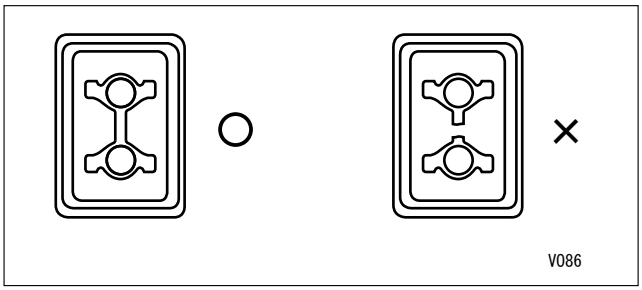


・メインヒューズの交換

> **⚠警告　火災防止のために**
>
> **◆ 取付けてあるメインヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをメインヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。**

① バッテリ（－）端子を外します。

② メインヒューズが下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。



・ヒューズが溶断した場合，次の機能が作動不能になります。　　×：作動不能

■ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合、下記の機能が作動不能となります。

	NO		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	影響の出る機能 ヒューズの種類[A]		エンジン始動	エンジン停止	燃料の供給	予熱	計器類のモニタランプ	前照灯	作業灯	方向指示器	ホーン	バック警報	マルチステアリングレバー	ジャストディレクタ	こぎ深さ制御	選別制御	刈高さ制御	刈取・フィードチェン駆動	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	警報装置	集中注油	水平制御	方向制御	こく粒排出クラッチ
NO	オプション設定																						OP	OP	OP
1	ランプ・計器(ﾊﾟﾈﾙ部)	10				×	×				×										×				
2	ランプ・計器・ﾌﾗｯｼｬ	15			×					×		×									×				
3	前照灯・作業灯	15						×	×																
4	アタッチ	30																							×
5	キー切り	10	×																						
6	こぎ深さ制御・注油	20													×							×			
7	リフト・操向・ｵｰｶﾞ	10											×	×			×			×				×	
8	搬送	20																×							
9	水平制御	10																					×		
10	選別制御	20														×									
11	マイコン	10									×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×
12	オーガモータ	30																	×						
13	メイン	60	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
14	燃料カットソレノイド	50	×																						

取扱いのポイント

● 交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1. 運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に**「運転まえの点検表」**を参考に点検してください。

⚠危険　火傷や火災防止のために

- ◆ エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
- ◆ 燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- ◆ 燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- ◆ 燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆ 給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- ◆ ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。
- ◆ 点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「運転まえの点検表」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー ラジエータフィン オイルクーラフィン	・エンジンカバーの内側にゴミがたまっていませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはありませんか。	・ゴミを取除く。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	91
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズはたまっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・損傷したものは交換。 汚れはきれいにする。 ・ボルトがゆるんでいれば増締めする。	―
油漏れ	・各給油個所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓がゆるんでいれば増締めする。 ・直らないときは，点検を受ける。	78〜90
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースの交換。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	134
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理する。	94

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを外して軽くたたくか,コンプレッサで内側からエアを吹きつける。又は交換する。	91〜92
エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・オイルがオイルレベルゲージの上限,下限の間にありますか。	・エンジンオイルを規定量位置まで補給する。	80〜82
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・クーラントまたは清水を補助タンクに規定量位置まで補給する。	82〜83
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受ける。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・燃料を補給する。 タンク容量：30L	80
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ,配線の外れを調べ,処置する。	11 27〜29
方向指示器等の保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ,ヒューズ切れ,配線の外れを調べ,処置する。	11 27〜29
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「後進(R)」位置にしたとき,バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ,配線の外れを調べ,処置する。	27〜29
インジケータランプ	・オイル,充電,予熱ランプは消灯しますか。 （エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常個所を調べ,処置する。	9〜11,61 156〜160
回転計	・正常に作動しますか。 （エンジン始動で）	・点検を受ける。	11
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回,刈取部が上下しますか。	・点検を受ける。	20
チェン,ベルト,ワイヤクローラ	・たるみ,損傷はありませんか。	・正常に調整する。	135〜152

2. エンジンの始動と停止

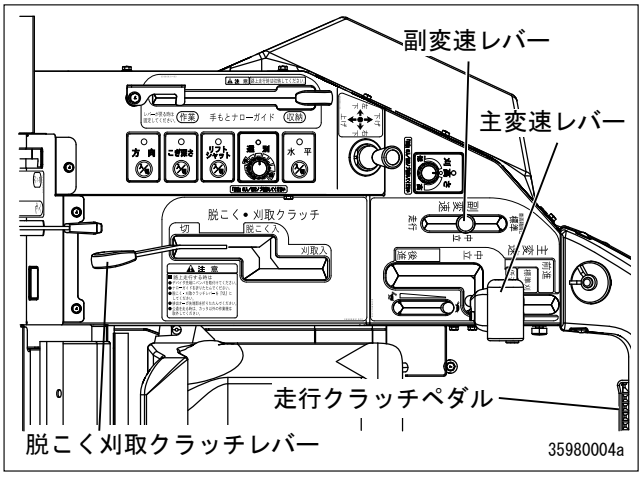
⚠警告　傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆始動は座席に座って行ってください。
◆主変速レバー，副変速レバーが《中立》位置，脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバーを《中立》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして駐車ブレーキをかけて行ってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」の時は暖機運転を 10 分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動せず，方向変換等ができないことがあります。
●空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

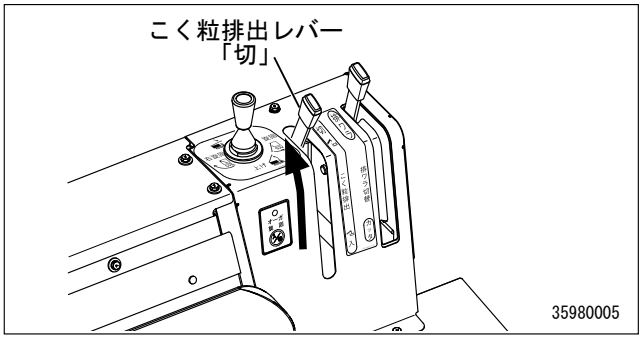
1．エンジン始動のしかた

❶　体格に合わせシート調節ピンで着座位置を調節します。(26 ページ参照)

❷　主変速レバー，副変速レバーを《**中立**》位置にします。

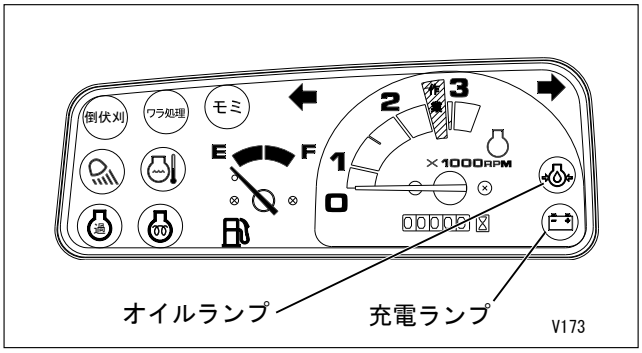


❸　脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーが《**切**》位置にあることを確認します。



❹　エンジンコントロールレバーを《 》(**高速**）位置にセットします。

❺　スタータスイッチを《**入**》位置にし，オイル，充電ランプが点灯することを確認します。



❻　走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《**始動**》位置（この時予熱ランプが点灯します）に回し，エンジンを始動します。

❼　始動後駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「**2000 回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。
- スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

2. エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**）にします。

❷ スタータスイッチを《**切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3. 走行・停車のしかた

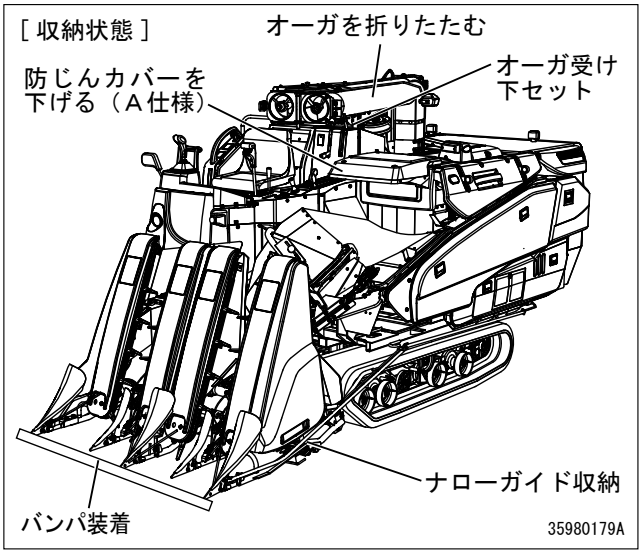
1. 走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ 公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆ 走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんで固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。[Ａ仕様]
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。
- 防じんカバーを下げます。（Ａ仕様：21ページ参照）

◆ 路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。[L 仕様]
◆ 路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆ 運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。
◆ ヘルメットをかぶってください。
◆ 発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。
◆ 狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆ あぜ越え，路上走行等ではジャストディレクタを使用しないでください。

❶ 走行するときは機械を**「収納状態」**にして**「安全な速度」**で走行します。



❷ 公道を走行するときは，カッタ以外の**アタッチメント（ノッタ等）**を取外します。

❸ 脱こく･刈取クラッチレバーを**《切》**にし，方向自動スイッチ［**A 仕様**］を**《切》**にして，防じんカバー［**A 仕様**］を下げてからエンジンを始動します。

❹ エンジン回転を**「2000 回転」**以上にセットします。

❺ マルチステアリングレバーで刈取部先端を**「30cm」**程度上げ，油圧固定スイッチを**《油圧固定》**にし，フックをかけて刈取部を固定します。

❻ 走行する条件に合わせて副変速レバーを**《標準》**，**《走行》**に入れ主変速レバーをゆっくり操作し適正な走行速度にします。

❼ 発進するときや作業開始するときはホーンで合図をします。

❽ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器の点灯で合図をします。

❾ 路上走行時，作業灯は消灯します。

取扱いのポイント

● 排出オーガ受のセット

⚠警告

◆ 路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は**「下セット」**で出荷されています。**「上セット」**になっている場合は**「下セット」**にしてください。(42 ページ参照)

2. 停車のしかた

⚠警告 **火災や傷害事故防止のために**

◆ 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》《中立》，副変速レバーを《標準》に入れてください。

◆ 燃えやすいものの近くには，止めないでください。

◆ 機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチからキーを抜取ってください。

❶ 主変速レバー，副変速レバーを**《中立》**にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジン回転を**「2000 回転」**程度にセットし，５分間程度空運転を行います。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》**（低速）**にして，エンジンを停止します。

❺ 副変速レバーを**《標準》**に入れます。

❻ 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- 駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキロックを外すため走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。

4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

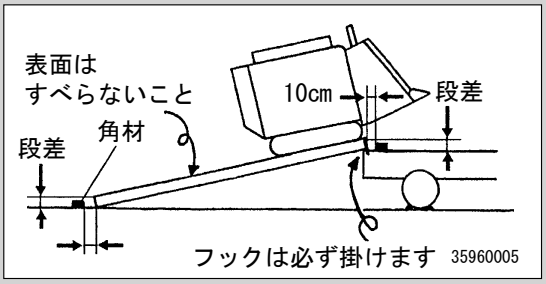
◆ 自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。
- 自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。
- アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆ 機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。
- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんでオーガ固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。[L 仕様]
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。[A 仕様]
- 防じんカバーを下げます。[A 仕様]

◆ 積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。
- アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆ アユミと路面および自動車の荷台との段差が 6cm 以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆ 自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

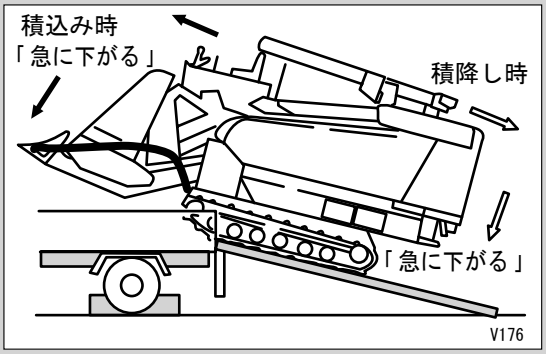
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・ブレーキロックレバー
・ジャストディレクタ

は，アユミの上では操作しないこと。

◆ 積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行ってください。

◆ 機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆ 機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。



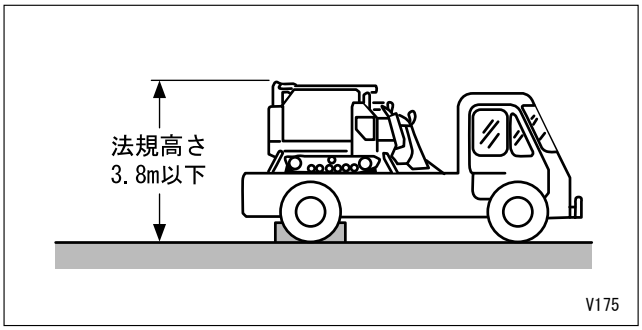
◆ 各カバーの固定が確実か確認してください。

◆ 防じんカバーが開いていると，風圧で防じんカバーが破損・脱落の恐れがありますので，閉じてロープなどで浮上がりを防いでください。[A 仕様]

◆ 積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1. 自動車・アユミについて

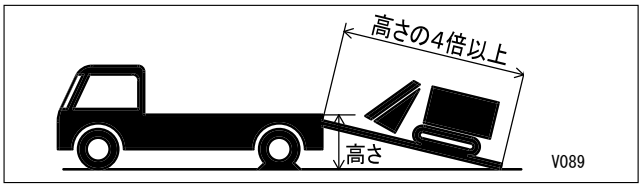
❶ 積載重量 2,000kg 以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。



・トラックに積んだ場合，**「車両制限令」**により地上からの高さが 3.8 m以下に規制されています。
3.8 mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに**「歯止め」**をします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	50cm 以上
数量	２枚
強度	１枚が 1,500kg 以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に**「段差」**のないようにかけ，**「横ずれ」**したり，**「外れ」**たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドル等の操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2. 機械の積込み要領

❶ ナローガイド，排出オーガを収納します。（収納状態）グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。

❷ エンジンを始動し，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を**「2000 回転」**程度にセットします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速レバー**《前進》**の低速，副変速レバー**《標準》**で行います。

❺ 積降ろすときは，主変速レバー**《後進》**の低速，副変速レバー**《標準》**で行います。

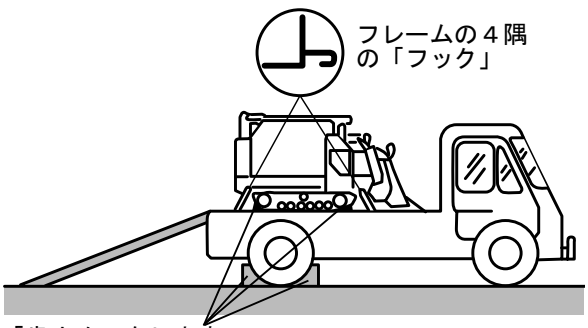
❻ 積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更はしないようにします。

❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに**「歯止め」**をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて固定します。

❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



5. ほ場への出入り

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ 10cm 以上のあぜ，溝，10 度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。

- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんでオーガ固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。[A 仕様]
- 防じんカバーを下げます。[A 仕様]

◆ あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

◆ [L 仕様] は水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。

1. ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，エンジン回転を**「2000 回転」**程度にセットし，副変速レバーを**《標準》**位置，主変速レバーを**《前進》**の低速または**《後進》**の低速にしてあぜに直角に走行します。

❷ アユミを使用するときは，**「自動車への積込み・積降ろし」**の内容に従って行います。

作業のしかた

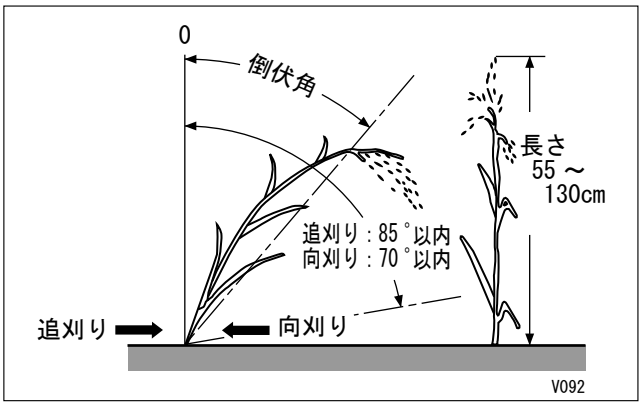
1. 作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1. 作物の条件について

❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55~130cm まで刈取りできます。
・倒れ（倒伏角）
　…追刈り:85° 以内まで刈取りできます。
　　向刈り:70° 以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。
・能率があがらない
・選別不良
・詰まりやすい
・乾燥処理時間の増加

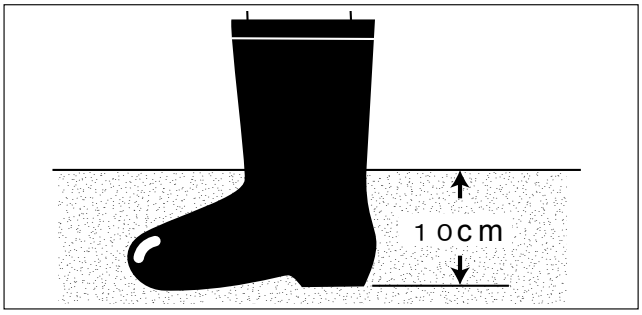
❸ 病害虫に侵された作物

・病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか,またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。
・こく稈が折れやすい
・刈取り・搬送部の詰まり
・脱こく部の詰まり

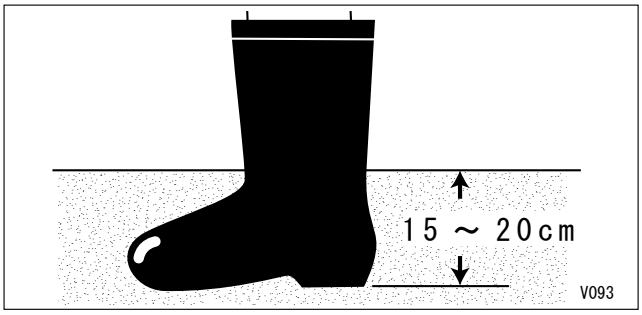
2. ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「10cm」**までは作業ができます。



・**[L 仕様]** は沈下量が「15 ～ 20cm」までは作業ができます。

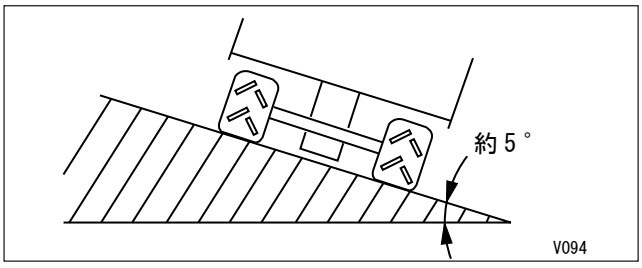


取扱いのポイント

- **一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。**

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５° 以上では作業できません。



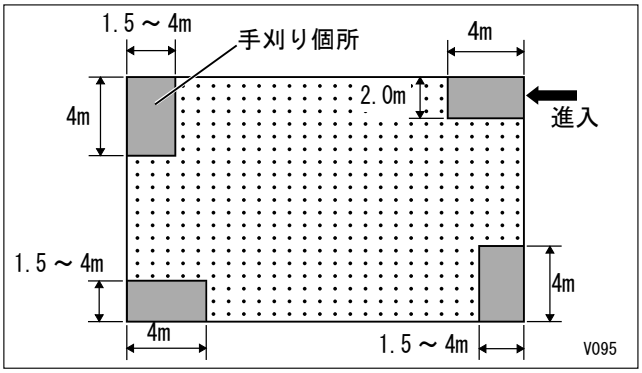
取扱いのポイント

- **適応範囲を越えての作業はできません。行わないでください。**
- **ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。**

3. ほ場の準備

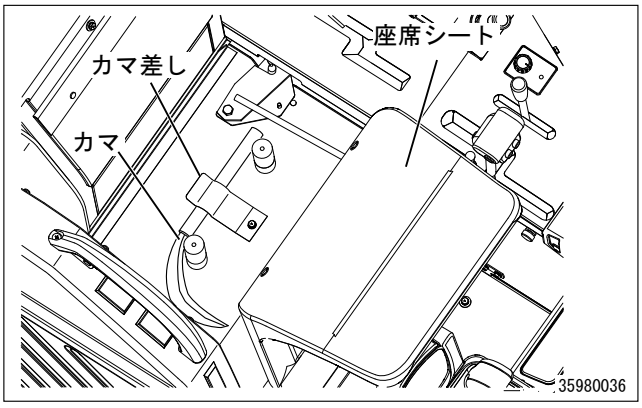
❶ 手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を**「旋回できる程度」**手刈りします。



・カマ差しは，座席シート後方にあります。

・カマは図のようにセットし，刃部に身体が触れないようにします。



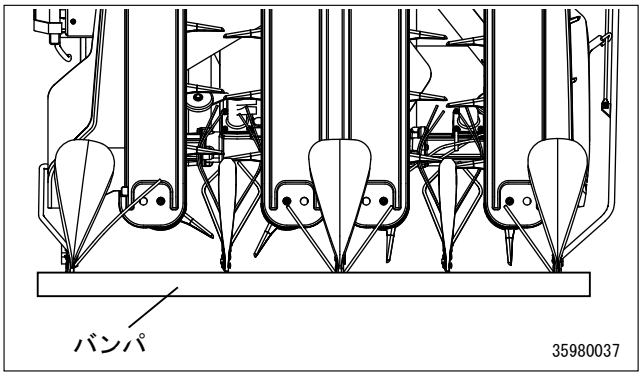
取扱いのポイント

- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**

4. 機械の準備

❶ バンパの取外し

バンパを取外します。

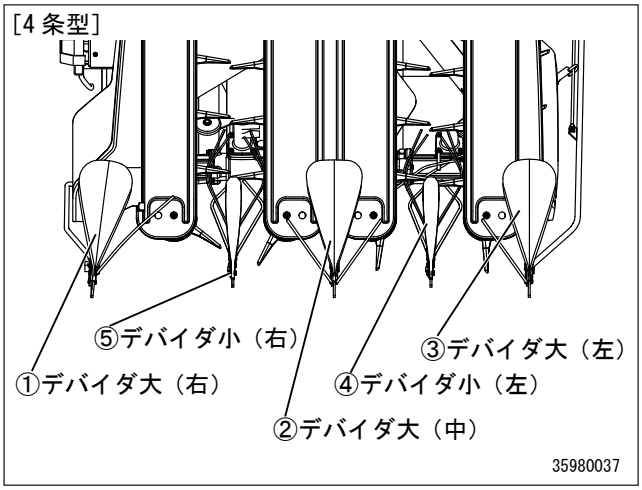


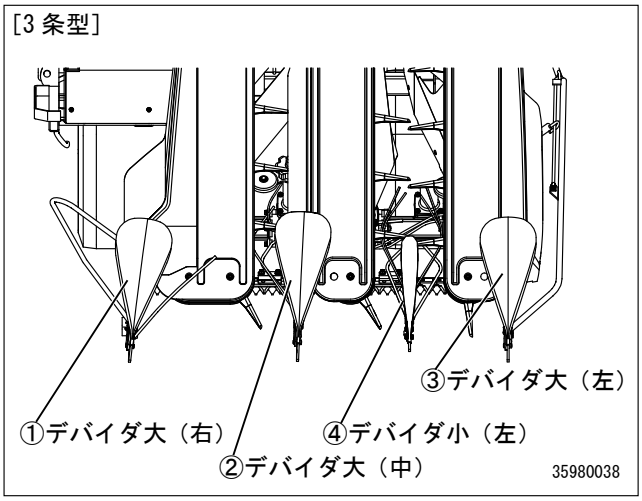
❷ デバイダの上下調整

次のような場合は，デバイダを**「下側」**にセットします。

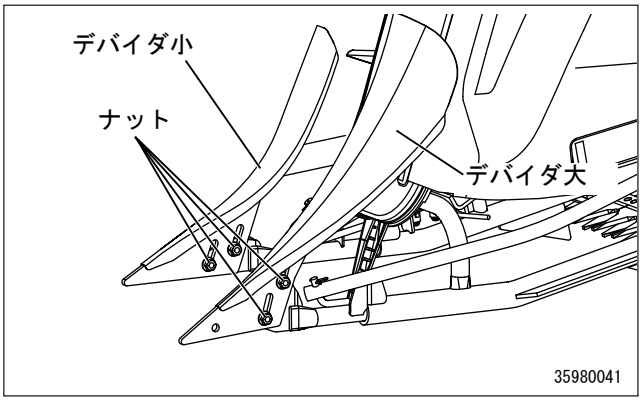
・刈取り部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。





デバイダ取付のナットをゆるめて，デバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。



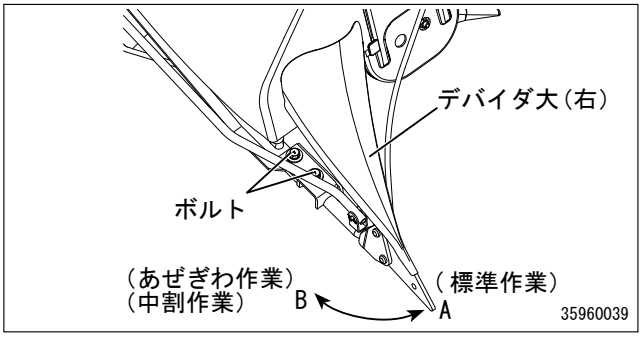
取扱いのポイント

- **デバイダは全て同じ高さになるようにセットしてください。**
- **湿田での作業時は，デバイダをフレームより「１５～２０mm」下げて作業してください。**

❷ デバイダ大 （右）の調整

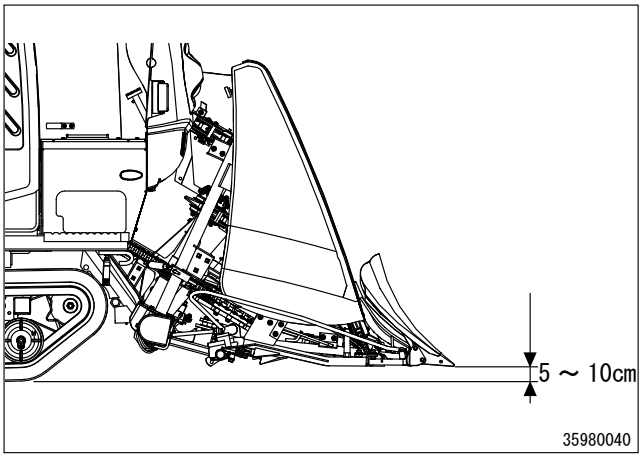
・デバイダ（右）は**「A位置が標準」**です。

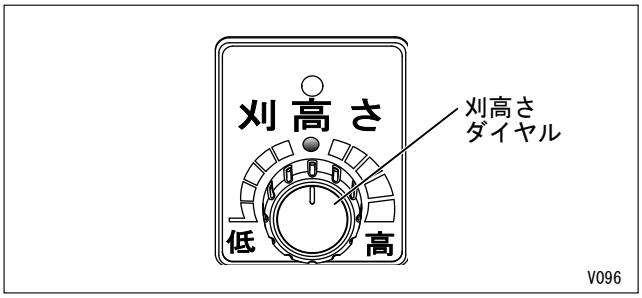
・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，２本のボルトをゆるめてBの位置にいっぱい拡げ，締付けて固定します。



❸ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から**「５～１０cm」**になるように刈高さダイヤルで調整します。(68 ～ 69 ページ刈高さポジションコントロール参照)





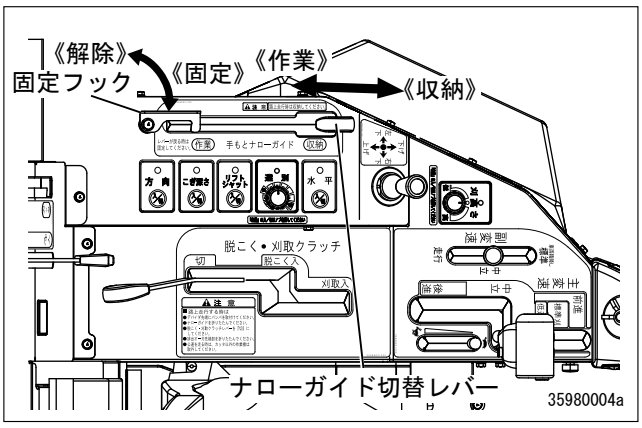
・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❹ ナローガイドの調節 [C 仕様を除く]

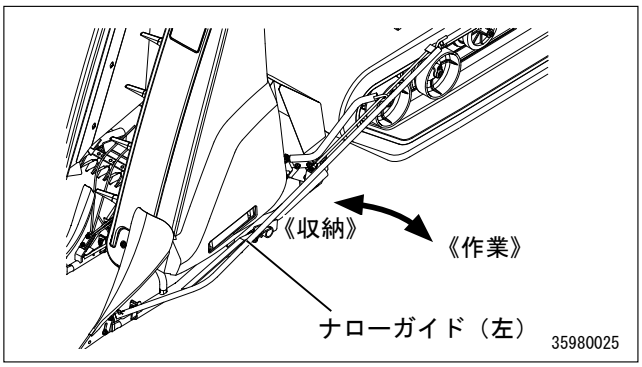
・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，左ナローガイドが引出され，作業状態になります。

・通常，固定フックは《**解除**》の位置で作業します。

・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。

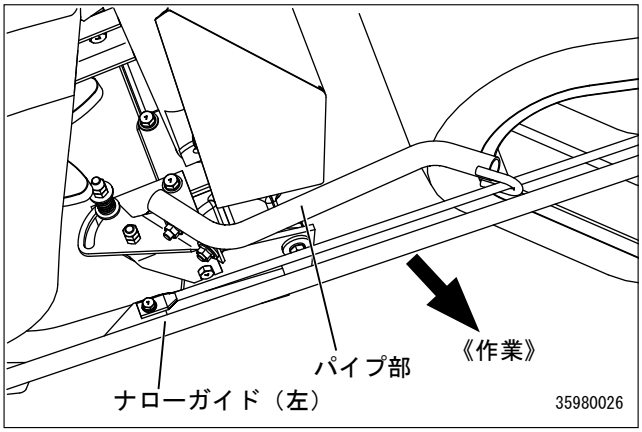


・右まわりあぜぎわ刈取など，障害物があるときは収納にします。



❺ ナローガイドの調節 [C 仕様]

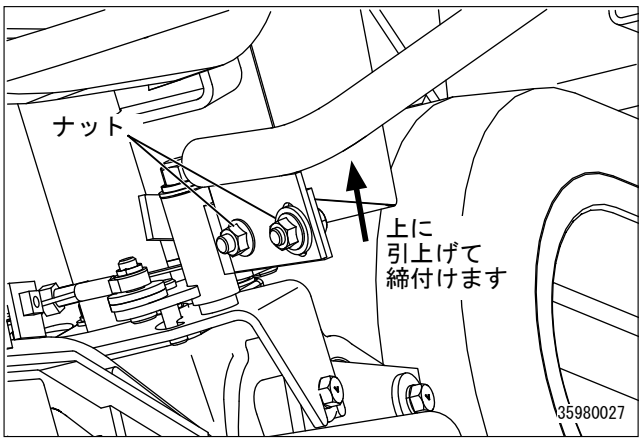
・ナローガイド（左）のパイプ部を持ちナローガイドを引出し，作業状態にします。



・右まわり，あぜぎわ刈取など，障害物があるときは収納にします。

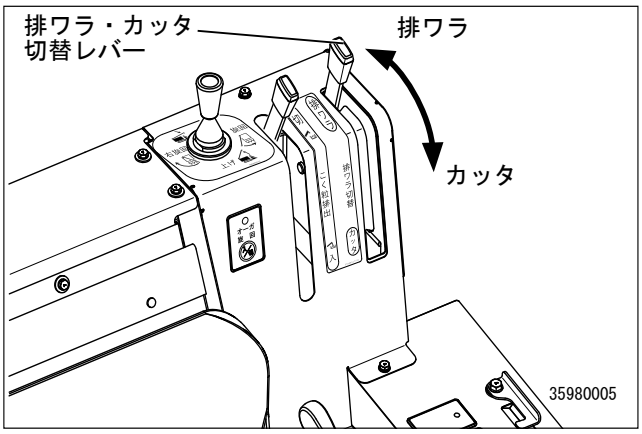
取扱いのポイント

- **長稈材等で未刈稈が倒れこみ，脱こく供給口部の搬送に支障がある場合は「上向きセット」にして作業を行います。**
- **ナローガイドを引出した状態で下図のナット（２個所）をゆるめ上に引上げナットを締付けます。**
  （❹❺項共）

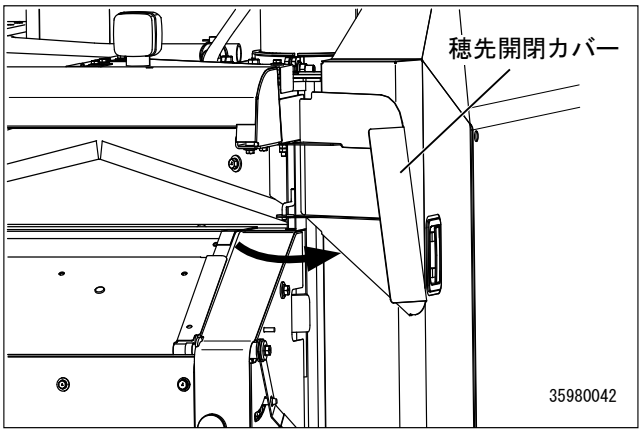


❻ 排ワラ・切替えの調節

(1) 作業に合わせて排ワラ・カッタの切替え調節を行います。(62 ～ 64 ページ参照)



(2) 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❼ 排出オーガ受のセット

⚠注意

◆刈取作業時には，排出オーガを固定リングで固定してください。

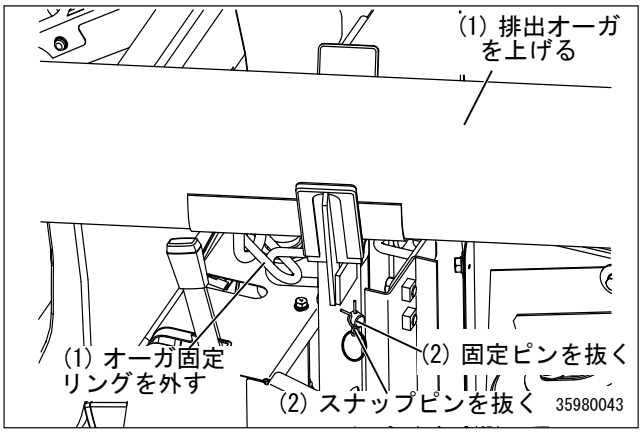
◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にして折りたたんでください。

工場出荷時に排出オーガ受は**「下セット」**で出荷されています。

(1) オーガ固定リングをフックから外し排出オーガを**《上げ》**ます。

(2) 排出オーガ受をとめている固定ピンからスナップピンを抜き，固定ピンを排出オーガ受から抜きます。

「出荷状態（下セット）」

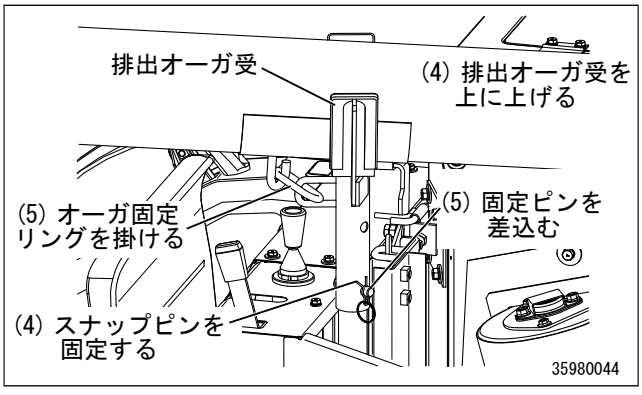


(3) 排出オーガ受**「上位置」**のセット穴に合わせます。

(4) 固定ピンを差込んで，スナップピンで止めます。

(5) 排出オーガを**《下げ》**フックにオーガ固定リングを掛けます。

「上位置セット」



❽ 排出オーガの延長

⚠注意 傷害事故防止のために

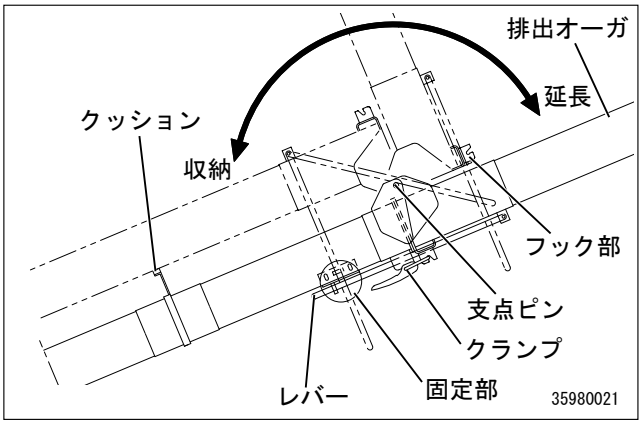
◆排出オーガの延長操作をする時は，平坦な場所に駐車し，エンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。

◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。

「延長のしかた」

① レバーを固定部より外し，支点ピンにレバーを掛け排出オーガを延長方向へ回します。

② レバーをフックに掛け直し排出オーガを回して**「延長状態」**でクランプを掛け，**「固定」**します。



「折りたたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定レバーで固定して,**「延長と逆順」**に行います。

① クランプを**「解除」**し，レバーをフックにて掛け排出オーガを収納方向へ回します。

② レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

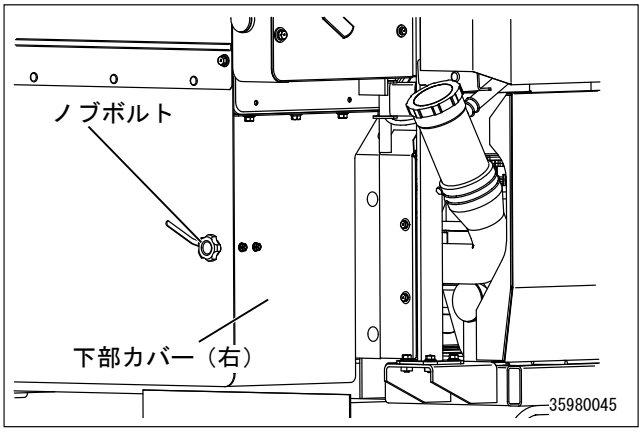
③ レバーを固定部に掛けて固定します。

❾ カッタ下部カバーの調整

(1) カッタ下部カバー（右）のノブボルトをゆるめカバーを開閉します。

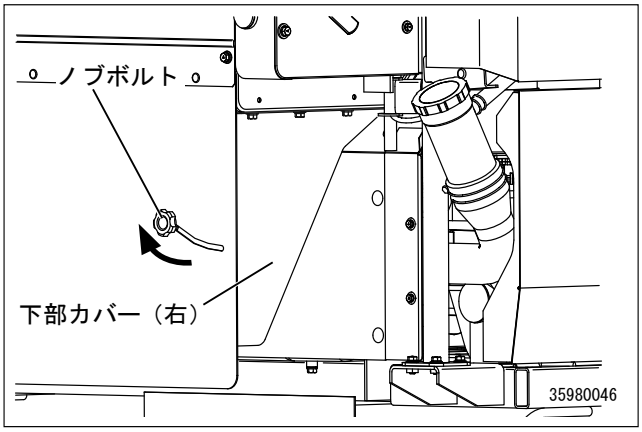
[下部カバー（右）通常作業状態]

・通常の作業時はこの位置にセットします。



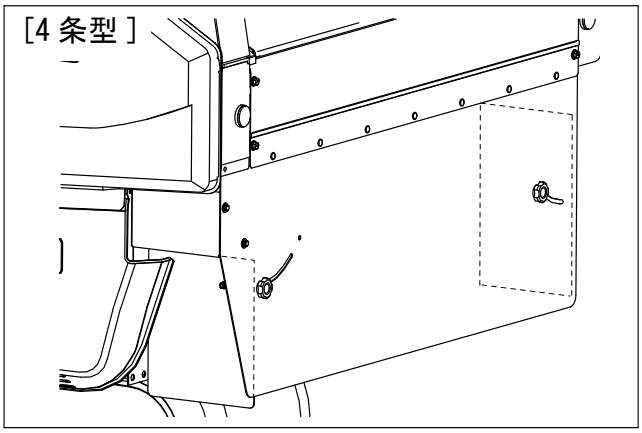
[下部カバー（右）ワラよせ状態]

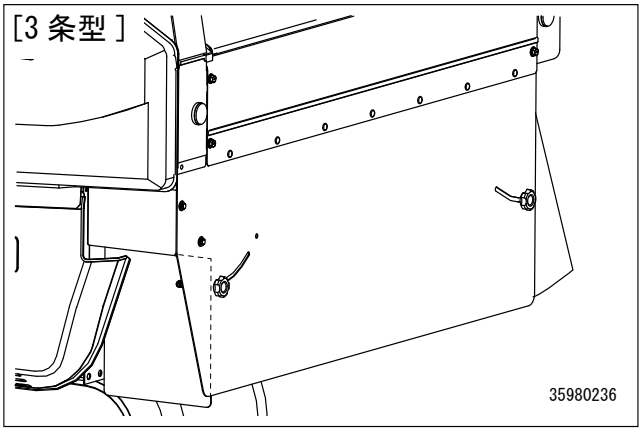
・ワラを少し左側によせたいときに，この位置にセットします。



[下部カバー（左）通常作業状態]

・通常の作業時はこの位置にセットします。

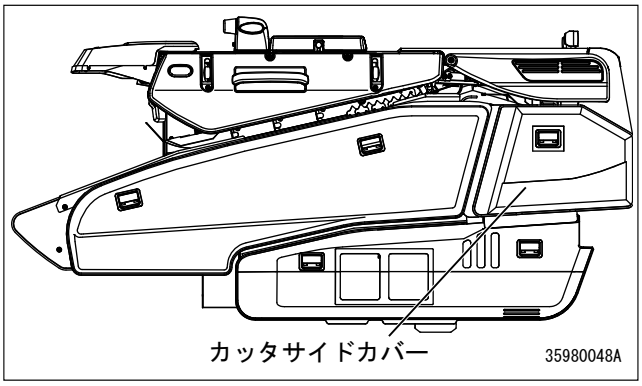


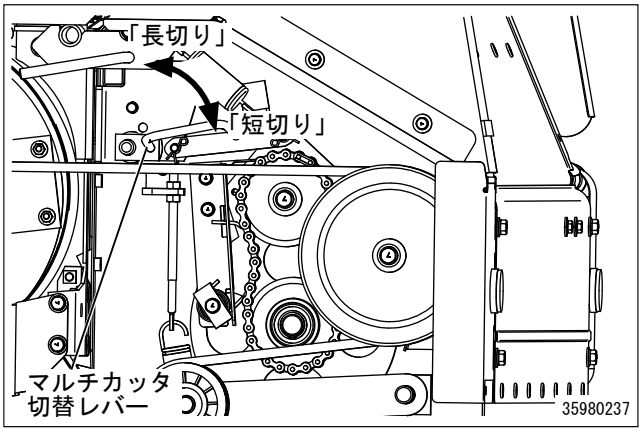


⑩ ワラ切断長さ切替レバーの調節

「カッタ」作業の場合は「切ワラ長さ」を切ワラ切断長さ切替レバーで「長切り」「短切り」の2段階に調節します。(64 ページ参照)

・カッタサイドカバーを外すと，切替レバーが見えます。





(1) レバーを握ることで，ワラ切断長切替レバーが穴から抜け，長切り，または短切りの位置に切替えます。

(2) 回動後はレバーを押し戻し，確実に差し込んでください。

(3) 切替後はカッタサイドカバーを取付けてください。

2. 刈取り作業のしかた

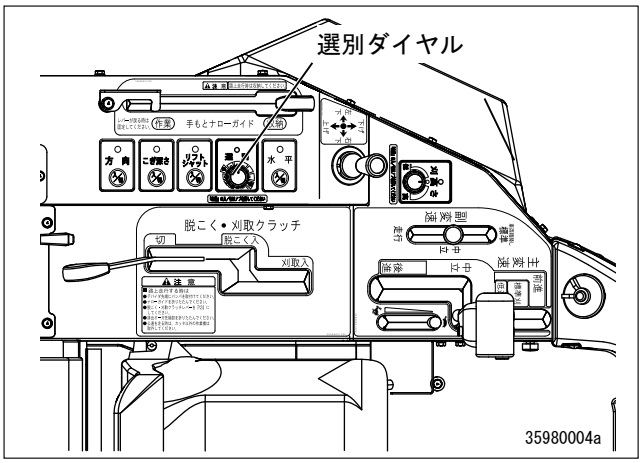
1. 刈取り操作の手順

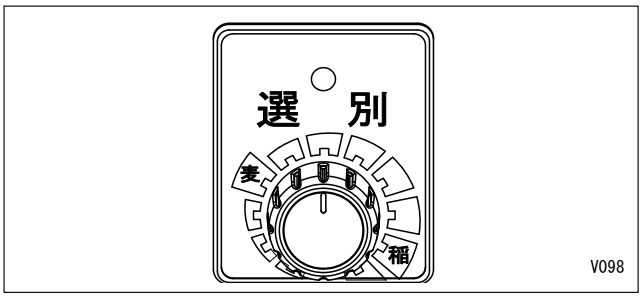
各自動装置の取扱いは 自動装置について の項を参照します。

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。
>
> ◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを低速から順次速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

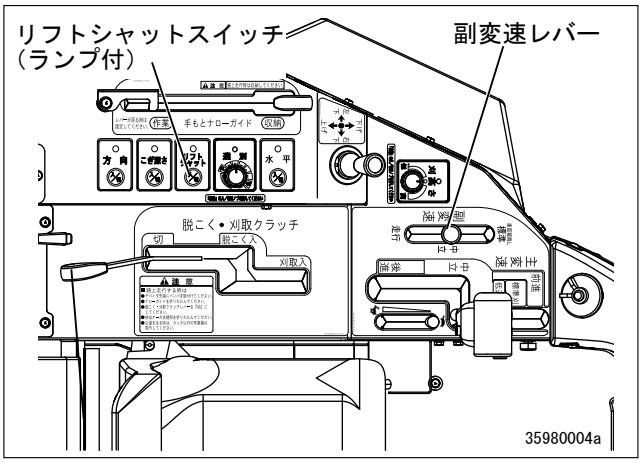
❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。





・選別ダイヤルのセット方法は,**「選別自動制御の取扱い」**の項71ページを参照してください。各自動装置の取扱いは65～73ページを参照します。

❸ リフトシャットスイッチを作業に応じて《**入**》,または《**切**》にします。



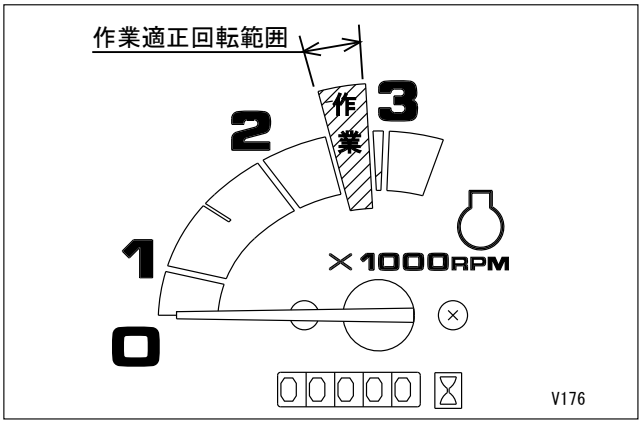
❹ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。(47ページ参照)

❺ エンジン回転を調整します。

脱こく・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置に入れ,回転計の指針が**「作業適正回転範囲の上限」**になるように,エンジンコントロールレバーで調整します。

作業中は,回転計の指針が,**「作業適正回転範囲内」**に位置するように,主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中,エンジン回転が下がると,エンジン回転負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ,適正負荷レベルにして作業を行います。(11ページ参照)



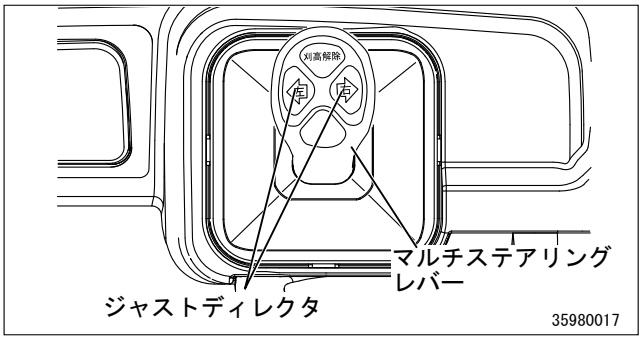
取扱いのポイント

- **刈取り作業中は,「作業適正回転範囲」の範囲内に常時指針があるように,主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。**
- **エンジン回転負荷の警報ブザーは,警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると,ブザーは鳴り止みます。**
- **規定の回転より低いと,こぎ残しが多くなったり,脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。また,回転が高すぎると,こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置にすると,脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速(手こぎ)回転となります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーを刈取《入》位置にすると,刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**

❻ 最初は低速で発進し,刈取り条件に合わせ,主変速レバーで適正な速度を選びます。(47ページ参照)

❼ 方向修正は,マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

・[**A仕様**]の方向自動制御を使用する場合は,**「方向自動制御の取扱い」**の項66～67ページを参照。

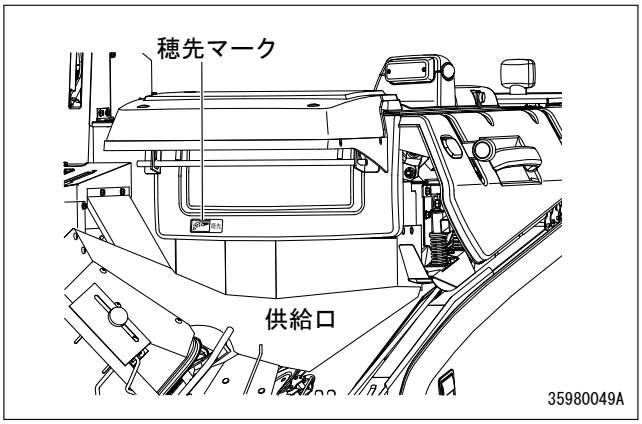


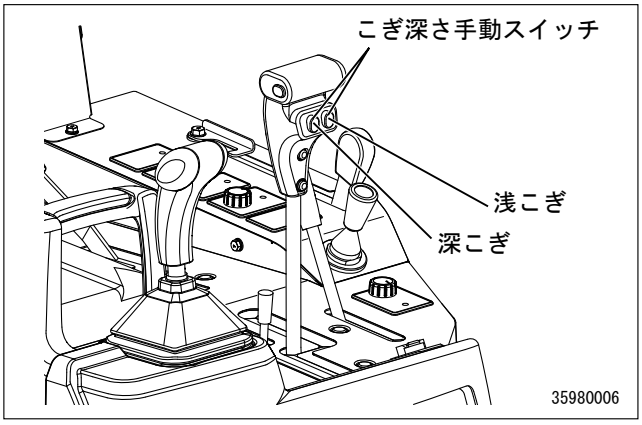
取扱いのポイント

- **ジャストディレクタで方向修正を行うとスムーズに行えます。**

❽ 適正こぎ深さの調整

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が**「穂先マーク」**の位置になるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。





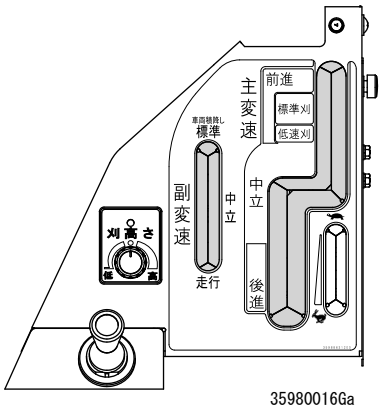
取扱いのポイント

- こぎ深さ自動制御は,「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項 65 ～ 66 ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。

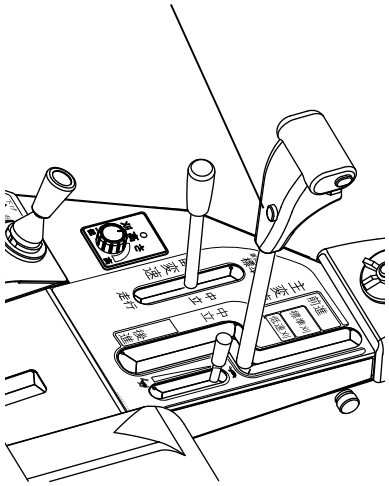
2. 作業速度の選びかた

・作業の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">使用条件
（作物の状態）</th><th colspan="4">変速レバー位置</th></tr>
<tr><th>副変速</th><th>倒 伏
スイッチ</th><th>主 変 速</th><th>各レバー略図</th></tr>
<tr><td>①</td><td>1.直立。
2.中倒伏の場合。</td><td>標 準</td><td>《切》</td><td rowspan="6">「中立」位置から発進してください。

「標準刈」の範囲で刈取作業を行い，稈の搬送状態，およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。</td><td rowspan="7">

35980016Ga

倒伏刈スイッチ


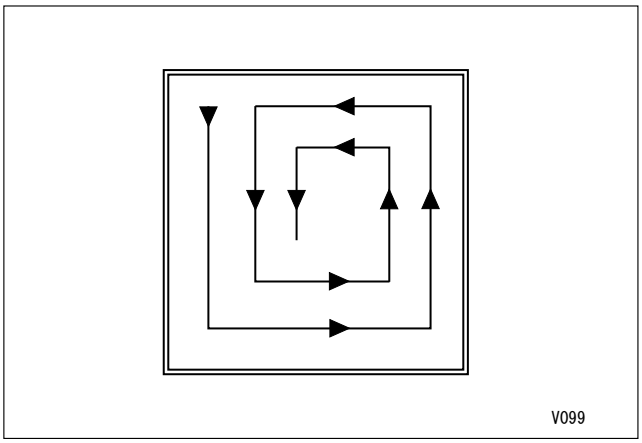
35980007a</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1.倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。</td><td>標 準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1.全倒伏の場合。
2.周囲刈りで，低速作業をする場合。
3.稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。</td><td>標 準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1.脱粒しやすい品種を刈取る場合。
2.倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。
3.根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。</td><td>標 準</td><td>《切》</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>1.④の2，3の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。</td><td>標 準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>1.路上走行
2.長距離の走行</td><td>走行</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>1.積込み，積降ろし
2.あぜ越え</td><td>標 準</td><td>ー</td><td>「中立」から低速，エンジン2000回転程度</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>1.集中注油</td><td>中立</td><td>ー</td><td>「中立」から「標準刈」</td></tr>
</table>

3. ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

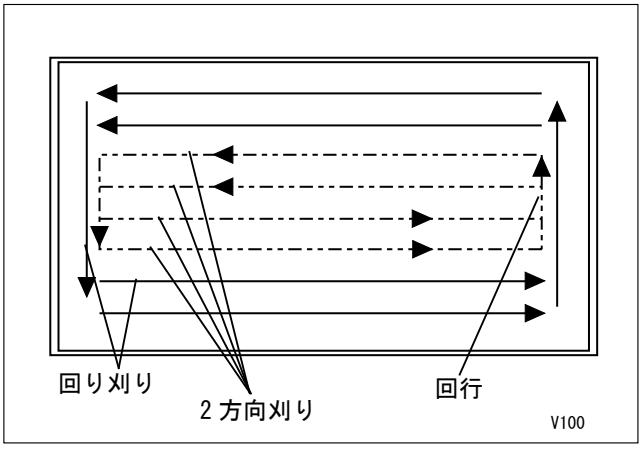
・このコンバインでの刈取りは,**「左回り刈り」**が基本です。
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

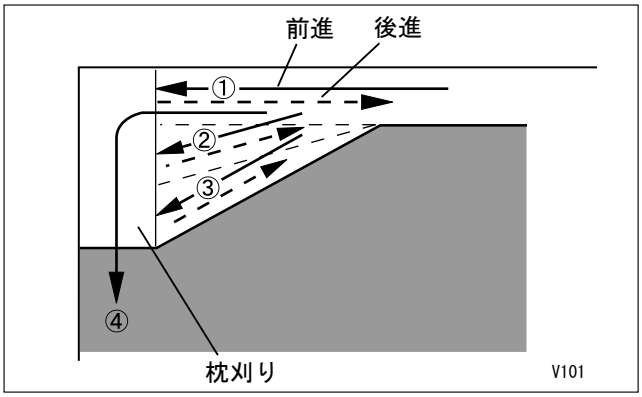


⑶ あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので,右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

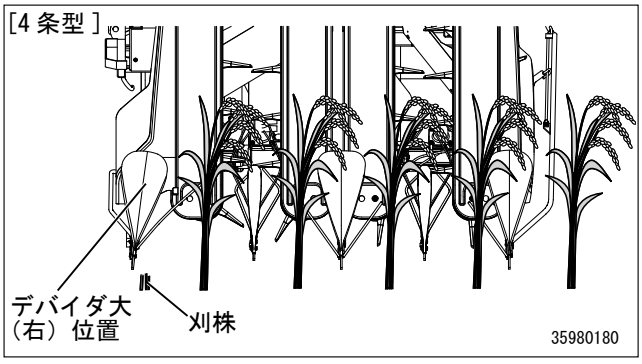


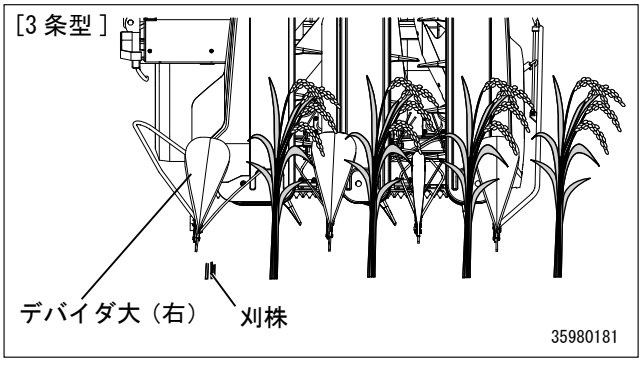
取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ大（右）を基準に**「左回り」**で刈残しのないように刈取りします。



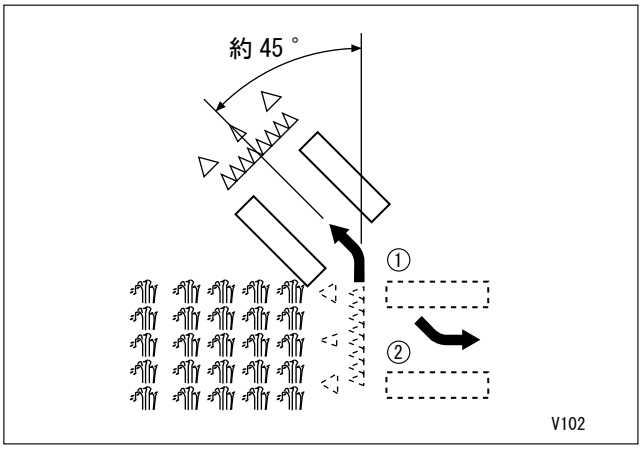


⑹ **旋回のしかた（左回り刈り）**

・刈り終わったら,刈取部を 40cm 程度上げます。（デバイダでワラを引っ掛けない高さ）

1．脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回し,（湿田では大きく回ります。）左に「**約 45°**」向きを変えて停止します。

2．後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。



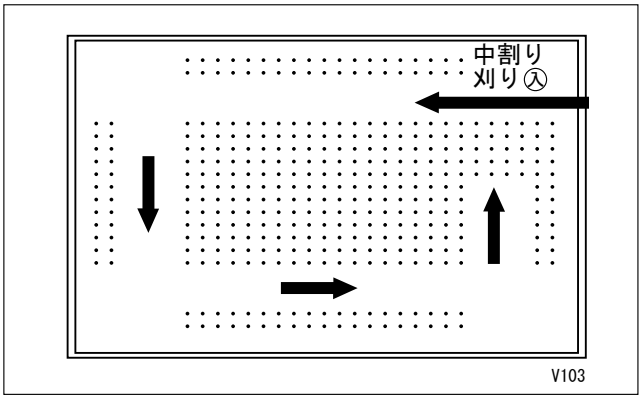
取扱いのポイント

- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

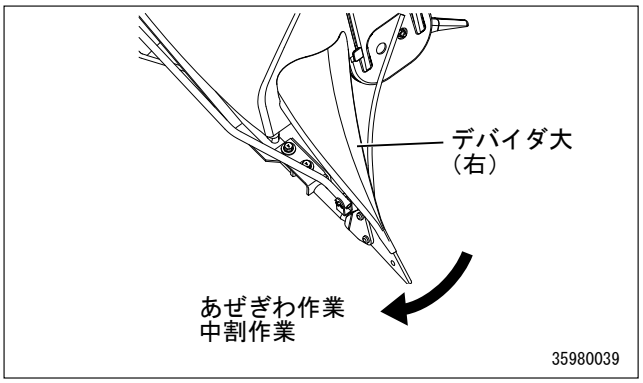
❷ **中割り刈り**

・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。

・中割り刈りは，「**低速**」で行います。



⑴ デバイダ大（右）を，あぜぎわ作業，中割作業位置にセットします。



⑵ デバイダ大（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❹ **4 条型のあぜぎわ刈り**

⑴ 回りのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ 4 条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。

⑵ 残した 4 条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑶ あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは,「**ナローガイド（左）**」を収納し,「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

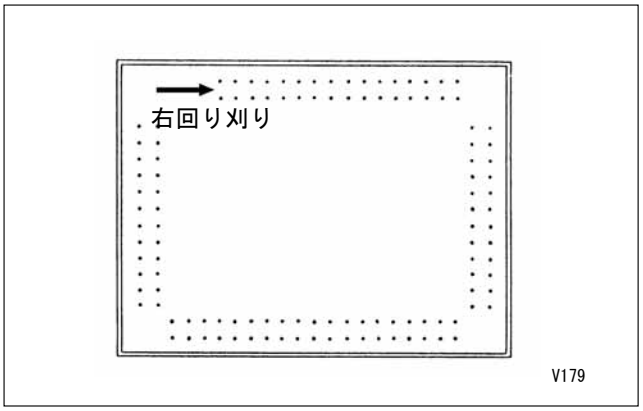
❺ **3 条型のあぜぎわ刈り**

まわりのあぜが高く左回り刈りできない時，右回りであぜぎわを刈取ります。

⑴ 回りのあぜが高くあぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ 3 条を残し「中割・左回り」で刈取りをします。

⑵ 残した 3 条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑶ あぜぎわを「**右回り刈り**」するときはを「**ナローガイド左**」を収納し「**デバイダ左**」をあぜに突っ込まないようにします。

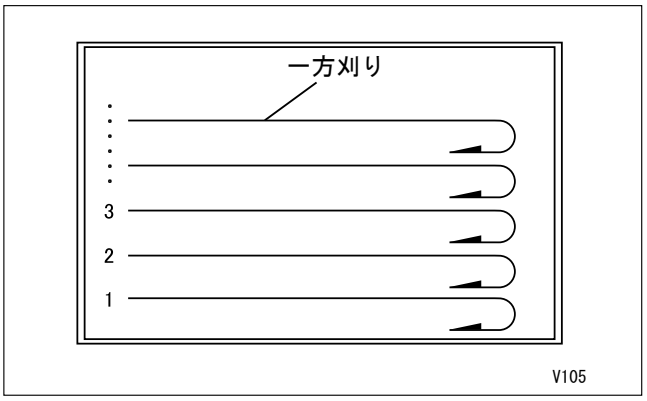


取扱いのポイント

- **あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側を［4 条型］は 4 条，［3 条型］は 3 条残して刈取り，最後に右回りで外側を［4 条型］は 4 条，［3 条型］は 3 条刈取ります。**

❻ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて**「一方刈り」**を行います。



(1) 刈取り方向

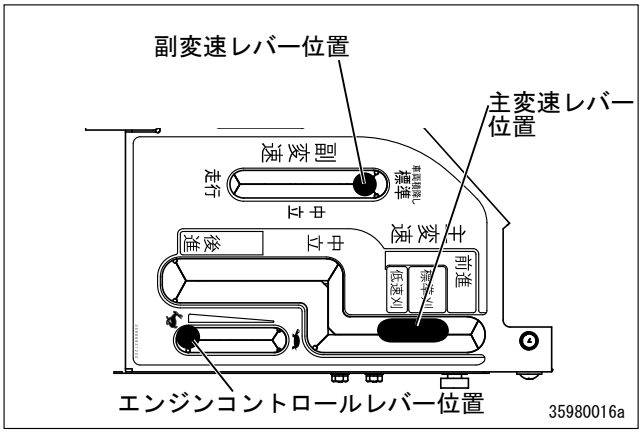
・倒伏した作物の刈取りは右の図表を参考にして行います。

1．倒伏，中倒伏の場合の副変速は**《標準》**で，倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ**《入》**にして刈取作業を行ってください。
※中倒伏および倒伏とも，主変速レバーは，**《標準刈》**の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，**「④左倒伏刈りまたは・③追い刈り」**となるように**「一方刈り」**をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーが低速刈以下では搬送乱れが発生することがありますので，刈取り作業はしないでください。**



［方向自動を使用しないとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①→ ③→ ②→ ④→	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能
△ 走行速度を落として刈取り可能

［方向自動で刈取りするとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①→ ③→ ②→ ④→	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

⑵ スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- 倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。
- デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まり等の不具合につながることがあります。
- 倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。
- 倒伏した作物を刈取る際に，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業してください。

4. こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ 排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認して行ってください。

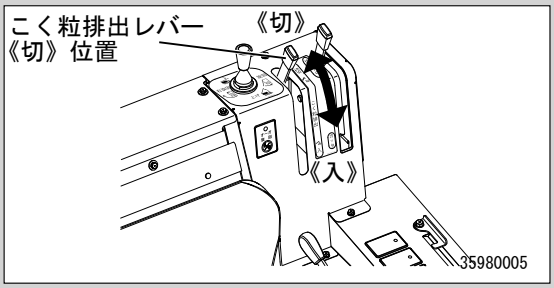
◆ 排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。

◆ 路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをする時は，グレンタンク内のこく粒を排出してください。

◆ 傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。

◆ こく粒の排出作業をするときは，ブレーキロックレバーを《入》にして行ってください。

◆ 排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》位置にしエンジンを停止してください。



◆ こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングをフックに掛けて固定してから行ってください。

◆ グレンタンク内にこく粒がある場合は傾斜地での移動はしないでください。

⚠注意

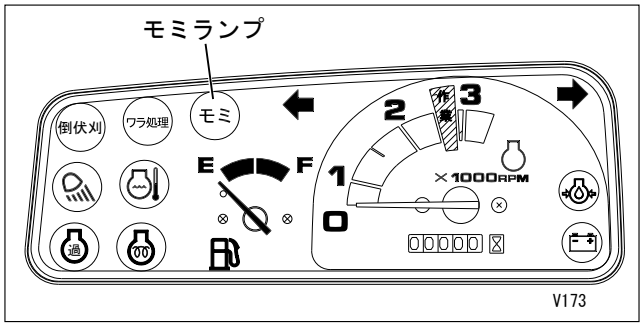
◆ 排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ グレンタンクのモミ警報

⑴ グレンタンクにこく粒が約60%以上充填するとフラッシャランプが点滅します。

⑵ グレンタンクにこく粒が充満すると，モミランプの**「点灯」,「点滅」**と警報ブザーの**「断続音」**で警報します。

⑶ 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報入切ボタンを押すと止まります。

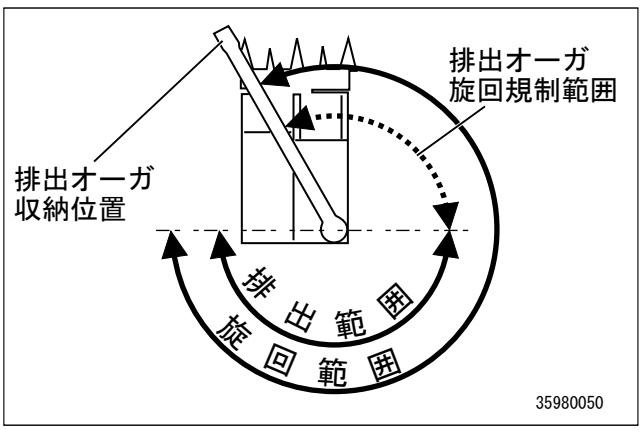


タンク充填率	状態・表示	内　　容
約 60%	・フラッシャランプ点滅	周囲にタンクの状況を知らせます。(こく粒排出時期が近づいています)
約 80%	・フラッシャランプ点滅 ・モミランプ点灯 ・ホーン断続音の断続（5 秒後ブザー断続音）	こく粒を排出してください。 ホーン・警報入切ボタン押すと警報音が停止します。
約 100%	・フラッシャランプ点滅 ・モミランプ点滅 ・ホーン断続音の連続（エンジン停止後ブザー連続音） ・エンジン停止	すぐに作業を中止してこく粒を排出してください。(脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にするとエンジン始動ができます)

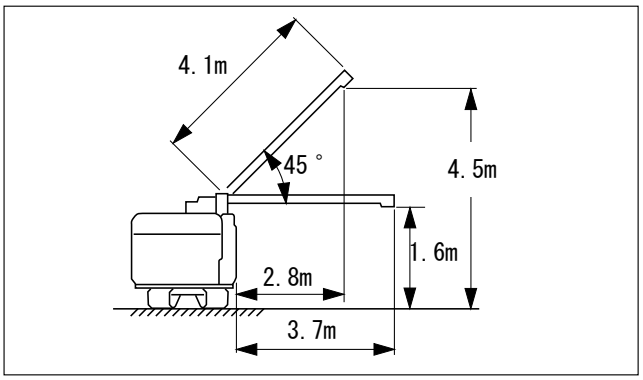
取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けオーバーフローセンサが作動するとエンジンが停止します。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしないとエンジンの再始動ができません。**

❷　こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを**《中立》**位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

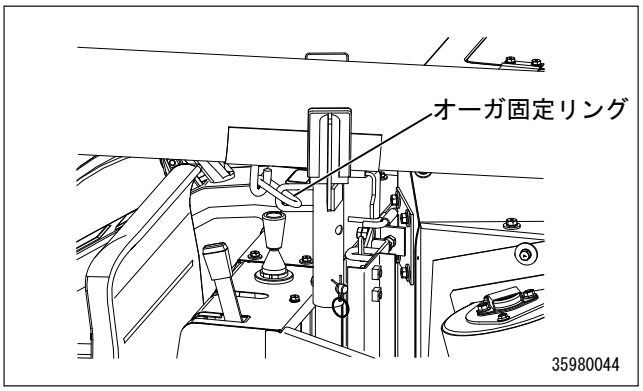


「排出オーガ高さと距離」



❸　こく粒排出操作手順

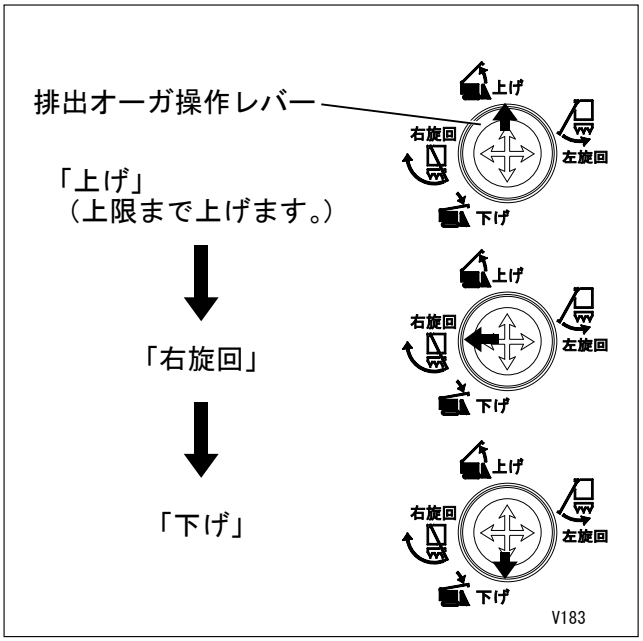
(1)　排出オーガ固定リングを外す。



(2)　こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合,**「手動」**と**「自動」**の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき

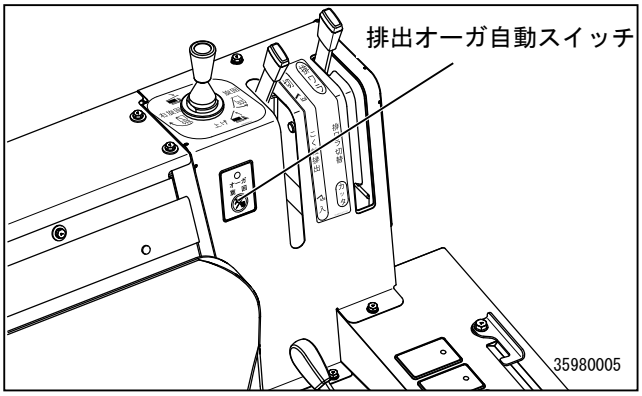


自動操作のとき［排出時］

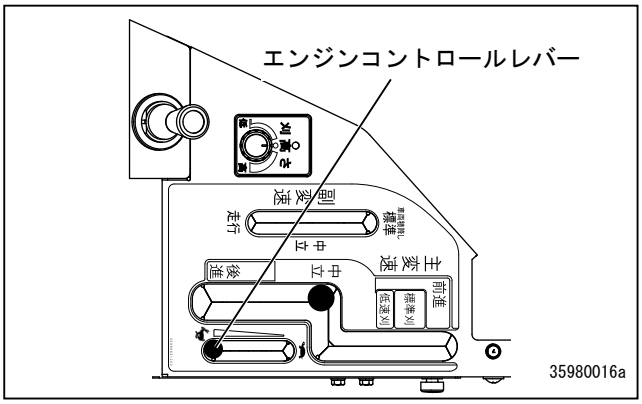
・排出オーガ自動スイッチを「**押**」す。

……自動旋回開始

→真後で停止→手動で高さを合わせる

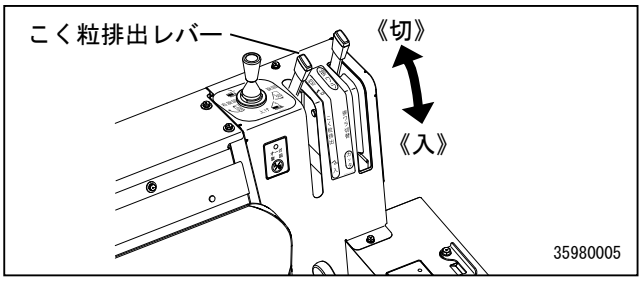


⑶ エンジンコントロールレバーを「高速」セット



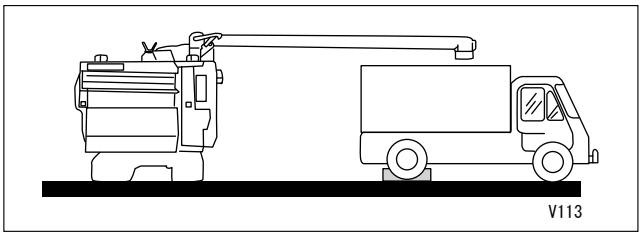
⑷ こく粒排出レバーを「入」にする。

……こく粒排出開始



⑸ こく粒排出レバーを「切」にする。

……こく粒排出終了



⑹ こく粒排出オーガを収納する。

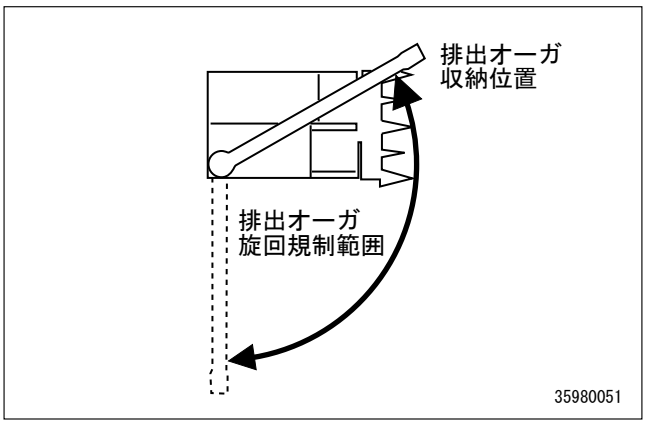
収納する場合，「**手動**」「**自動**」の二通りの操作が可能です。

⑺ オーガ排出位置セットと逆の手順で収納します。

⑻ 排出オーガの固定リングをかけます。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行ってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行ってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回規制範囲では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。
  また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



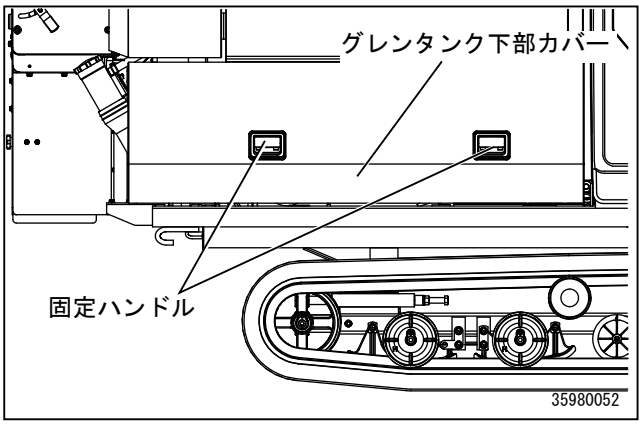
5. グレンタンク補助樋口の取扱い

故障等により，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

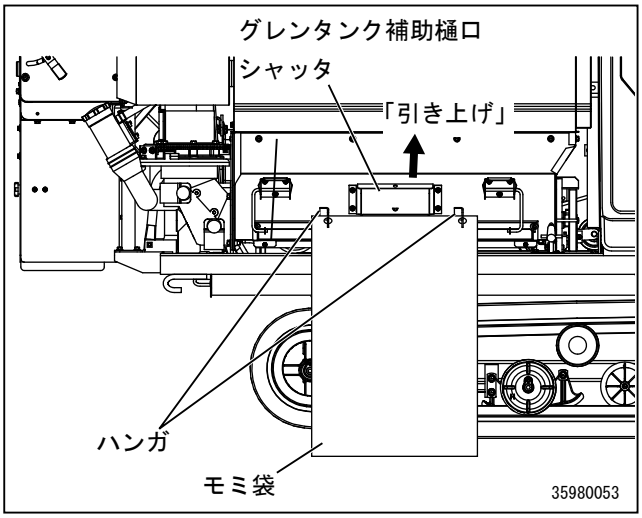
⚠警告　傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをする恐れがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバー固定ハンドルのロックを解除して，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。
❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉めます。

6. ニューツインハーモニー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，フィードチェンが突然回転する恐れがあります。
脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてからエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆脱こく・刈取クラッチレバーが脱こく《入》位置でフィードチェンが回転しているときに脱こく・刈取クラッチレバーの刈取《入》操作を行うと，刈取搬送がわずかの間作動する場合があります。
◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。
・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。

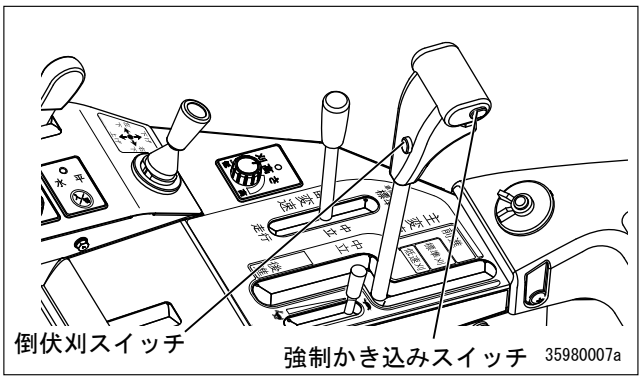
❶ 倒伏刈スイッチ

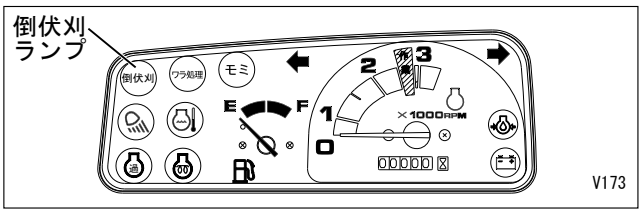
「入」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

「切」……再度押すと通常の状態に戻ります。

❷ 強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバー刈取**《入》**位置のときに，走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。





取扱いのポイント

- 脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置にしますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを刈取《入》位置にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。(走行停止状態では刈取部および脱こくフィードチェン搬送は停止します)
- ほ場端等での刈り上げの際は，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。
- ほ場進入（機体前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取りすると，搬送がスムーズに行えます。

7. リフトシャットの取扱い

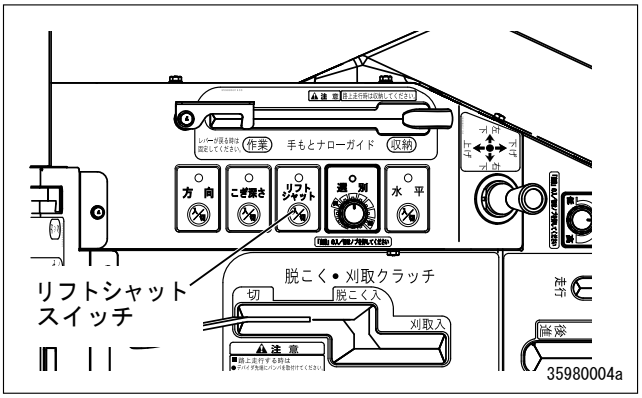
⚠警告　傷害事故防止のために

◆リフトシャット切替スイッチを《入》にして脱こく・刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部,脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部,脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押す時は，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャット切替スイッチを《入》にして刈取部を上げると，脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャット切替スイッチを《切》にすると，リフトシャットは機能せず,刈取部の上下位置に関係なく,刈取部・脱こく搬送部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《切》位置で使用します。

・手刈りのしていないほ場の回り刈り作業
・あぜ越え直後からの刈取り作業
・あぜぎわなどを高刈りする場合
・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

8. トルクリミッタの取扱い

⚠警告 **傷害事故防止のために**

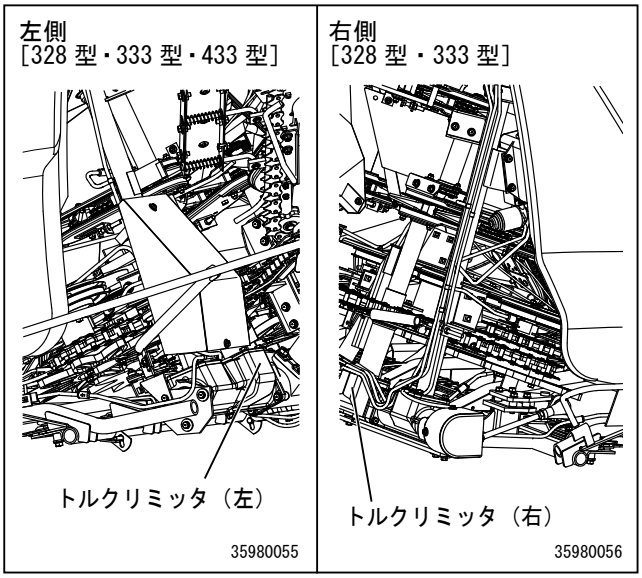
◆ **詰まり等の異常が発生した時に詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジン停止して各部の回転が止まってから行ってください。**

◆ **刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，油圧固定レバーをかけてください。さらに刈取部の下に「固定脚」等をかませて作業してください。**

⚠注意

◆ **詰まりを取除いて，回転確認を行う前に取外したカバーをすべて取付け，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行ってください。**

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生した時，機械の破損を未然に防ぐため，刈取部に**「トルクリミッタ」**が設けてあります。



❶ トルクリミッタの作動

	設置箇所	トルクリミッタの作動
4条型	スターホイル駆動ケース左内	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生した時
3条型	スターホイル駆動ケース右および左内	

❷ トルクリミッタの処置

⑴ 作業中，刈取部および脱こく部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まり等）が発生した時は，**「トルクリミッタ」**が作動して搬送が停止します。

⑵ ただちに作業を中止し，脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**位置にし，エンジンを停止します。

⑶ エンジンを始動し，刈取部を上げ油圧固定スイッチを**《油圧固定》**位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部の下に**「固定脚」**をかませエンジンを停止します。詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷ エンジンを始動し，主変速レバーを**《中立》**，副変速レバーを**《中立》**にし，エンジンコントロールレバーを**《🐢》(低速)**にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取《入》**にします。主変速レバーを**《低速》**にし，搬送部が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

9. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置にし，刈取部の作業停止を確認してから行ってください。
- 機械をワラクズの近くに止めないでください。(火災予防)

◆脱こく・刈取クラッチレバーは，周囲の人に合図してから《入》にしてください。

◆手こぎ作業するときは手袋を使用しないでください。

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。

⚠注意

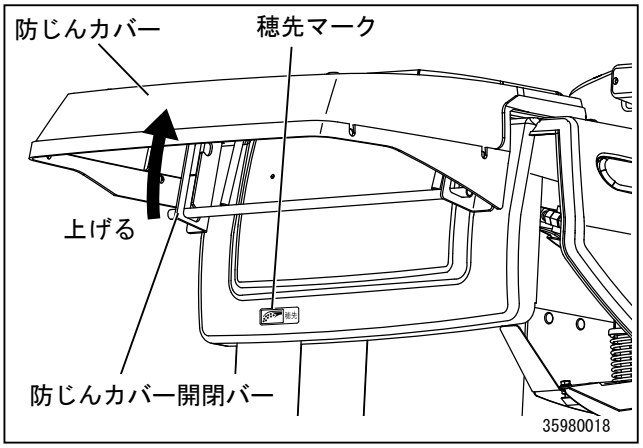
◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し，機械を移動するか，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》にし，走行を停止し，駐車ブレーキをかけます。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「**深こぎ**」側に下げます。

❹ 防じんカバーを上方に開きます。[**A 仕様**]



❺ 脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》にし，エンジン回転を「**作業適正回転範囲**」の上限にセットします。

❻ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

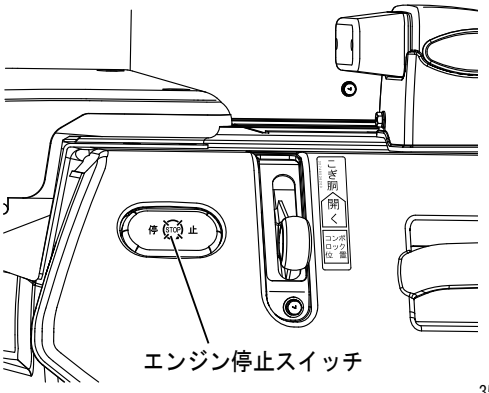
❼ 手こぎ作業が終わったら，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にして,防じんカバー［**A 仕様**］を元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《入》位置にすると，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- 防じんカバー［A 仕様］を開いたままでこぎ胴部を開けると，防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを刈取《入》位置にすると，走行停止状態では刈取部およびフィードチェン搬送は停止します。

10. エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中等に万一トラブルが発生したときは，このエンジン停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。
- エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

11. エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まり等の異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

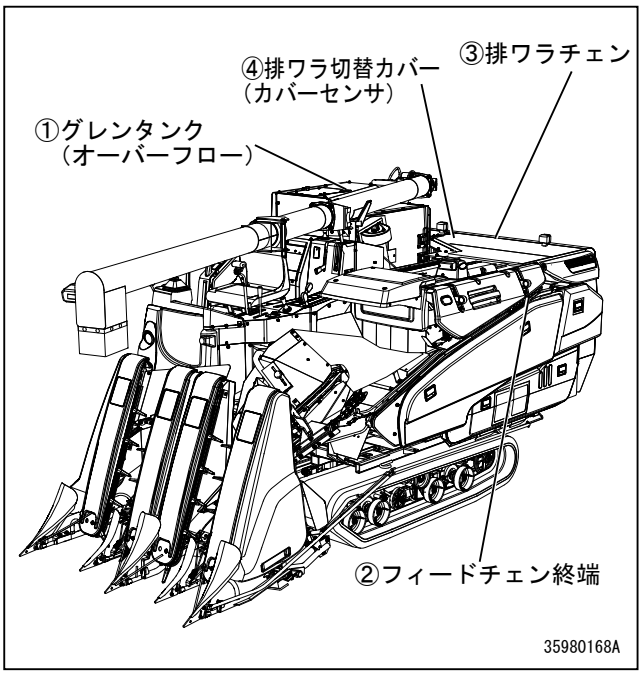
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，コンポアップ操作にてこぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます）ゆっくり手を離してから行ってください。(102 ～ 103 ページ参照)

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，カッタをオープンしてストッパをかけてから行ってください。(106 ～ 107 ページ参照)

◆詰まりを取除いた後の回転確認は全てのカバーを取付けて，こぎ胴部を閉め機械の周囲に人がいないことを確認した後，低速回転で確認を行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプまたはモミ処理ランプが点灯してエンジンが自動停止します。

① グレンタンク（オーバーフロー）
② フィードチェン終端（詰まり）
③ 排ワラチェン（詰まり）
④ 排ワラ切替カバー（オープン）



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしてから詰まりを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**中立**》にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んでエンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐇》（**低速**）にし，脱こく・刈取りクラッチレバーを《**入**》位置にして，主変速レバーを《**前進**》に操作し，搬送部が正常に回ることを確認してから作業を開始します。

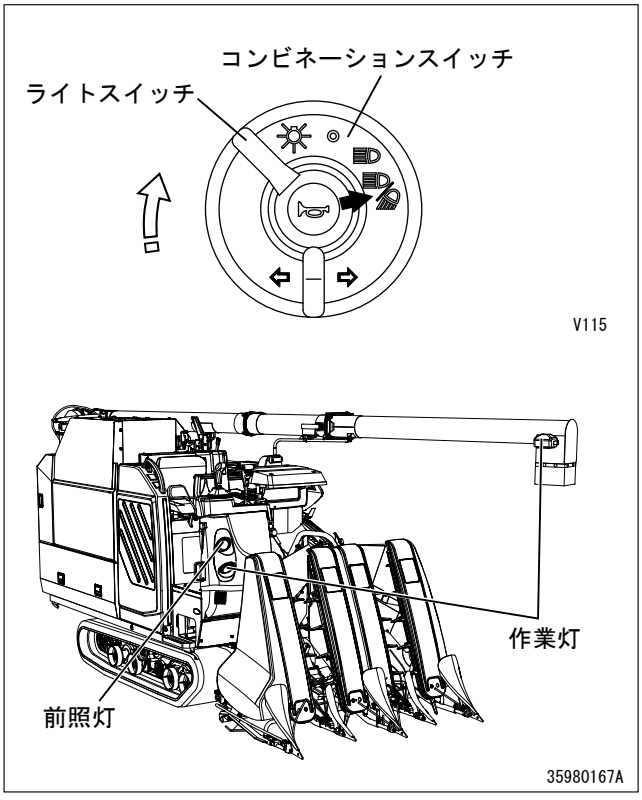
12. 夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆夜間作業を行うときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチで，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯し，２段回すと作業灯も点灯します。



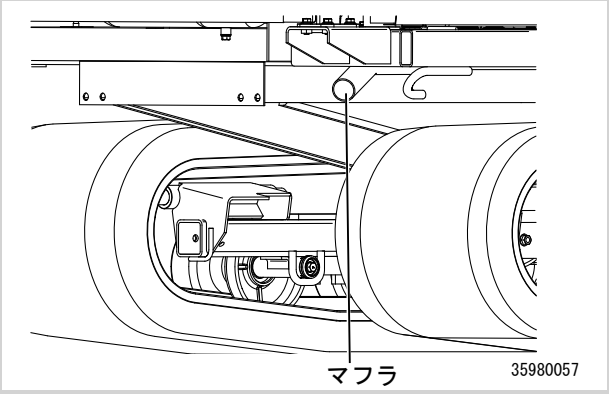
取扱いのポイント

- アタッチメント部品（別売り）として，以下２点の作業灯を準備致しておりますのでご利用ください。
  ① 脱こく入口部
  ② 刈取部左引起し上部

13. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告　火災防止のために

◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。
◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油します。

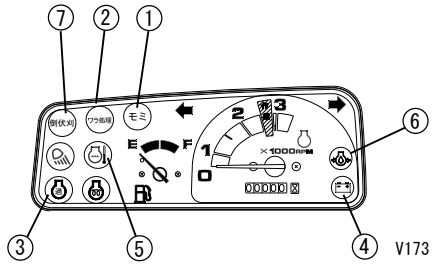
取扱いのポイント

- 脱こく・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。
- 水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転パネル部その他電装品および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

14. 警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。



	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ホーン	エンジン			
①	モミ	満杯	点灯	断続音の断続※	—	警報切入ボタン「押す」または脱こく・刈取クラッチレバー《切》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	10 51～53
		オーバーフロー	点滅	断続音の連続※	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《切》		
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続※	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《切》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	10 102～103
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		排ワラ切替板（オープン）					排ワラ切替板がオープンの状態です。切替板をカッタ，排ワラ作業状態にしてください。	107
		ノッタひも切れ	点滅	連続	—		ノッタの結束ひもが切れているか、なくなっていますので点検します。	ノッタの取説参照
③	負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	—	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	10, 19
④	充電	充電不足	点灯	—	—	スタータスイッチ《切》	・スタータスイッチ《入》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジン止め，ファンベルト等を点検します。	10, 139
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続音「低速運転」中は断続※	—	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	9, 82 91, 139
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	—	—	スタータスイッチ《切》	・スタータスイッチ《入》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	10, 80
⑦	倒伏刈	刈取部またはフィードチェン部の詰まり	点滅	断続	停止	脱こく・刈取レバー《切》	・刈取部またはフィードチェン部にワラが詰まっていますので取除きます。 ・HST駆動モータ，HST回転センサの配線接続部の外れがないか点検してください。	11

※ホーンがブザー音に切替ります。

3. ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラ等の巻付きが発生，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンし，ストッパをかけてワラ等を取除いてください。

◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

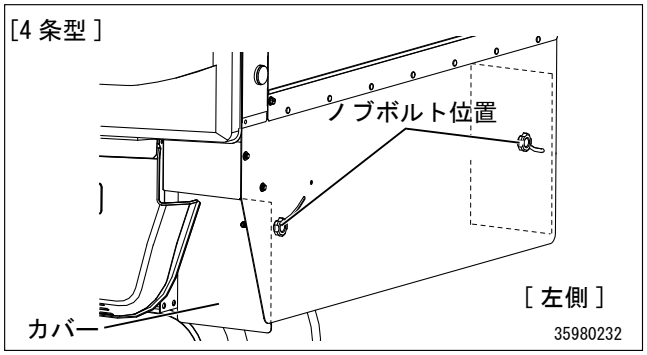
取扱いのポイント

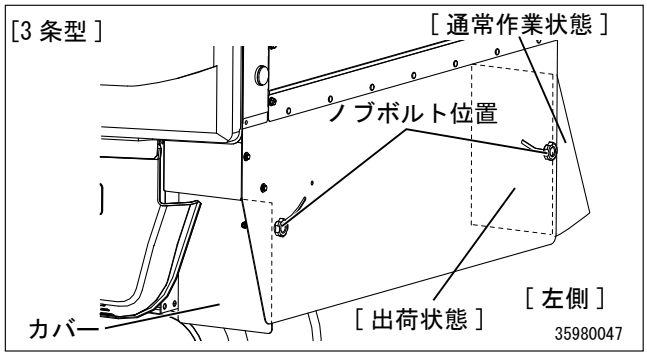
- 排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。

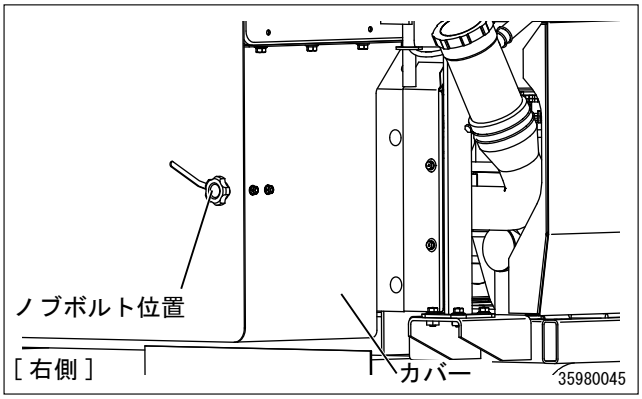
1. カッタ作業

❶ 下部カバー（右）（左）を**「通常作業状態」**にセットします。

※工場出荷時は下部カバーが**「通常作業状態」**にセットしてあります。[4 条型]

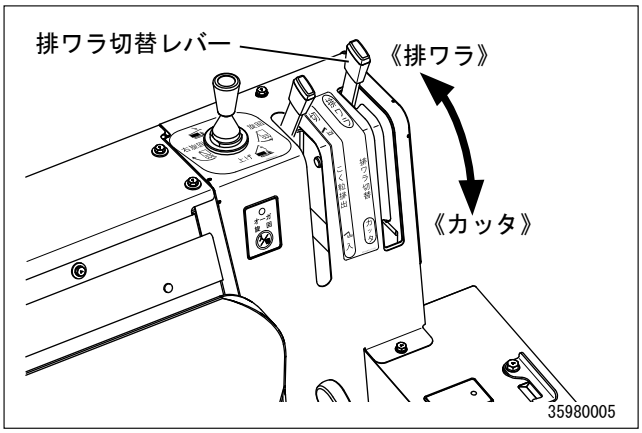




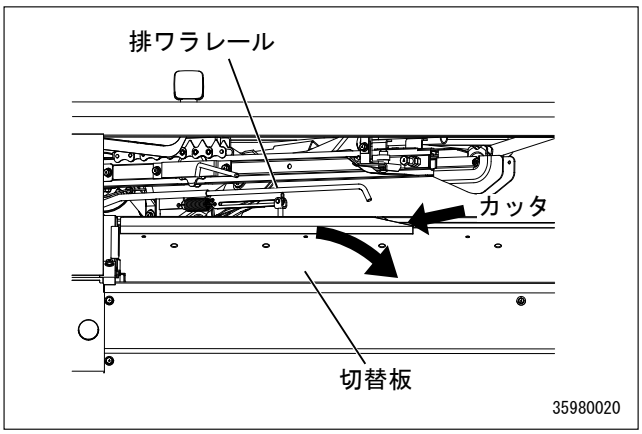


・各々のノブボルトをゆるめて，カバーを開き（閉じ）ノブボルトを締めます。

❷ 排ワラ切替レバーを**《カッタ》**位置にします。



・排ワラレールが前方にスライドし，切替板が開いて，排ワラがカッタに入ります。



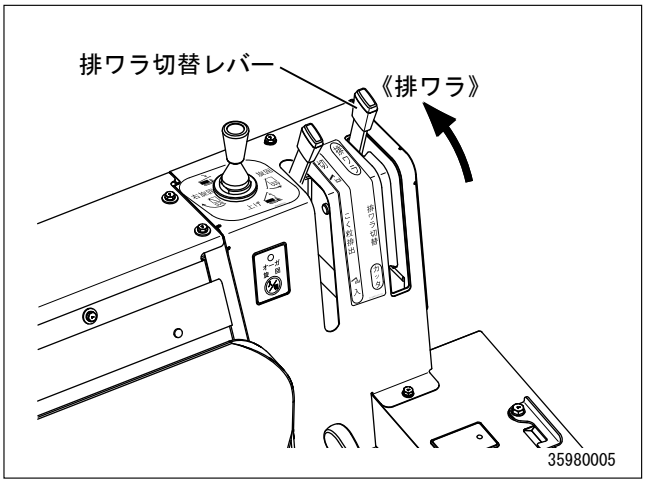
取扱いのポイント

- 刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行ってください。
- 倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50a（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。
- カッタの点検，掃除はカッタをオープンし，ストッパをかけてから行います。（オープンのしかたは，106 ～ 107 ページ参照）

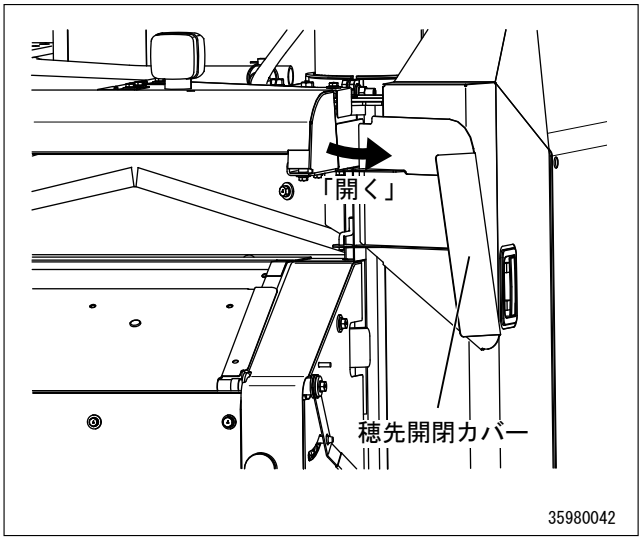
2. 排ワラ作業

排ワラ作業には，① 脱こくされたワラをそのまま排出する作業，② 集稈（ドロッパ）作業，③ 結束（ノッタ）作業があります。

❶ 排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



❷ 穂先開閉カバーを開きます。

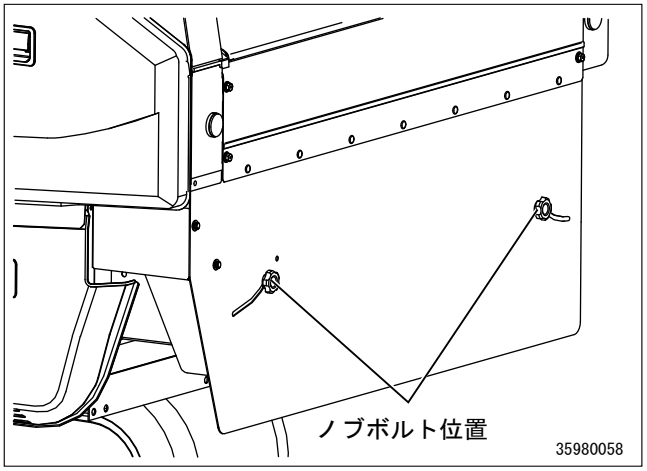


取扱いのポイント

- ノッタおよびドロッパは別売です。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

3. 中割り作業

下部カバー（右），（左）を中割り作業位置にして行ってください。

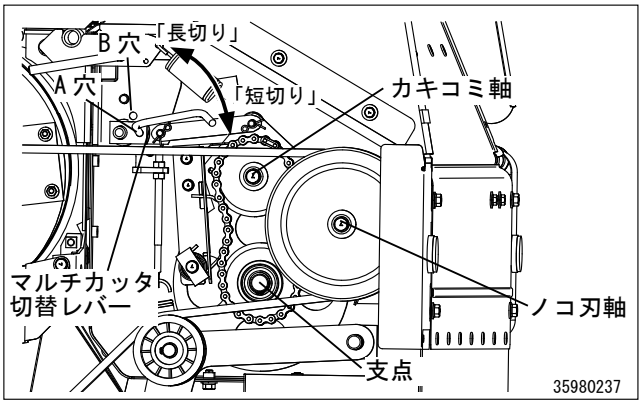


4. マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］

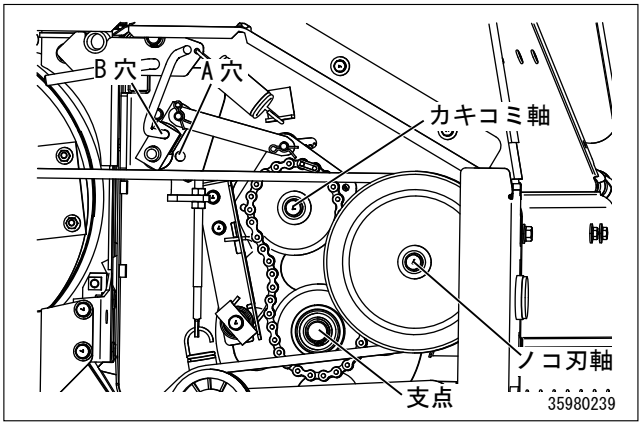
マルチカッタは，マルチカッタ切替レバーを**「A 穴」「B 穴」**に差し替えることにより，排ワラの長さを**「短切り」「長切り」**に切替えることができます。

❶ 下図の様に**「A 穴」**にマルチカッタ切替レバーを差し込んだ場合は，排ワラを**「短切り」**にします。

❷ マルチカッタ切替レバーを引くことで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，自由に回動します。この状態で，**「A 穴」**または**「B 穴」**にマルチカッタ切替レバー位置を合せて，差し込むことにより切替操作ができます。



❸ 下図の様に**「B 穴」**にマルチカッタ切替レバーを差し込んだ場合は，排ワラを**「長切り」**にします。

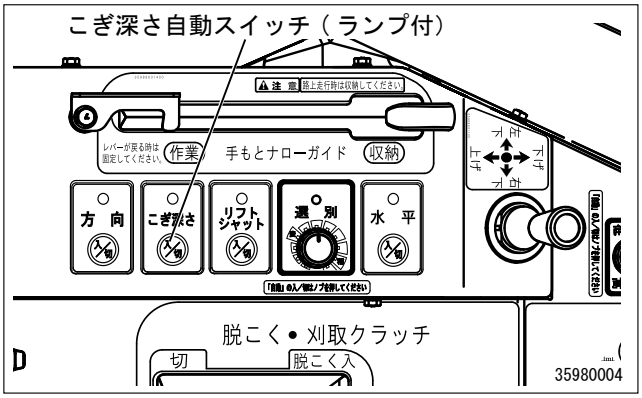


自動装置について

1. こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1. 運転装置

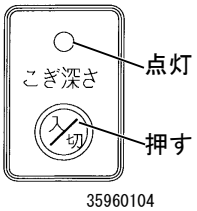


こぎ深さ調整は,「**自動制御**」と「**手動**」の二通りの操作が可能です。

・自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。

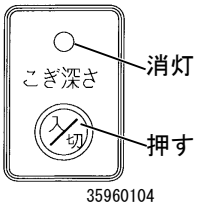
ただし，倒伏角 45° 以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除（「**切**」）してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶ こぎ深さ自動スイッチ



・「**入**」……

スタータスイッチを「**入**」にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。

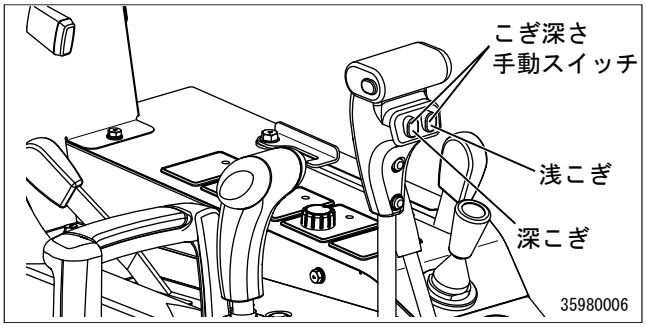


・「**切**」……

「**入**」の状態から再び押すと，ランプが消え，こぎ深さ自動制御は作動しません。

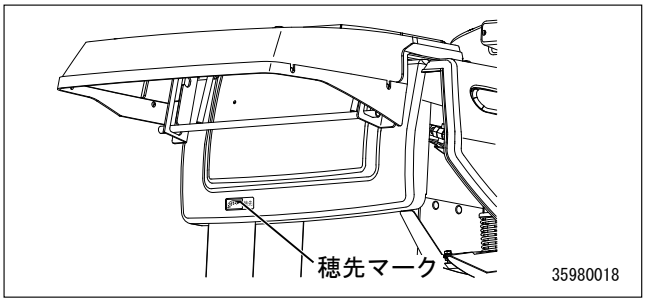
❷ こぎ深さ手動スイッチ

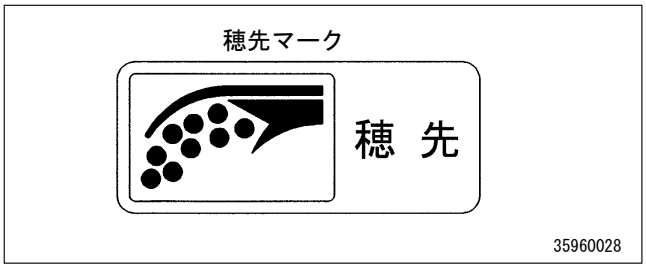
脱こく供給口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。



《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。





❸ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

● こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯しても，こぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2. こぎ深さセンサの調整

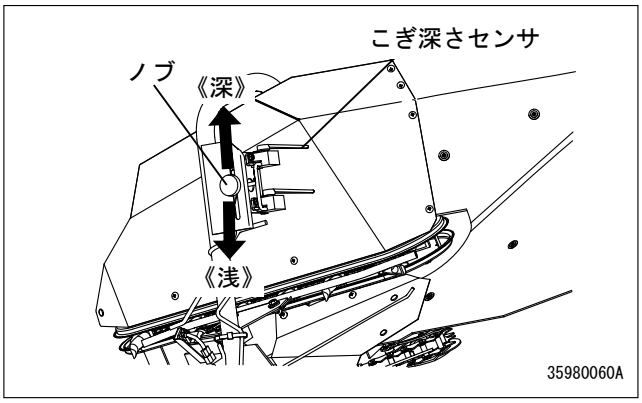
こぎ深さセンサは，工場からの出荷のときは**「標準」**（合わせマークの中央）の位置に調整してあります。

・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを**「深く」**したいときは，センサケースを**《深》**方向へ移動します。

こぎ深さを**「浅く」**したいときは，**《浅》**方向へ移動します。

・調整後は，ノブを確実に締めます。



3. こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを**「切」**（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

- **倒伏角 45° 以上の倒伏作物**
- **腐れ状態の作物**
- **雑草が多いとき**
- **作物の長さが極端に変動するとき**

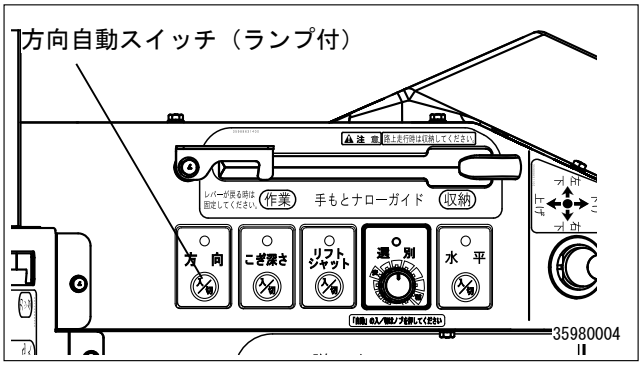
2. 方向自動制御［A仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動走行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，自動制御は**「解除」**され，手動操作優先となります。

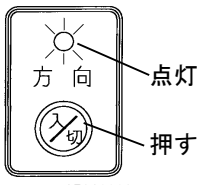
⚠注意

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1. 運転装置

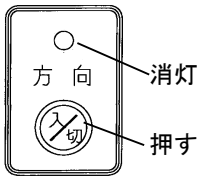


❶ 方向自動スイッチ



・**「入」**……

押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。



・**「切」**……

「入」の状態から再び押すと，ランプが消え，方向自動制御は作動しません。

❷ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

- **方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

2. 作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴ 方向自動スイッチを**「入」**(ランプ点灯）にします。

⑵ 機械が条列にまっすぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，**「手動優先」**で進路を変えることができます。

❸ 旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に，方向自動スイッチを**「切」**にする必要はありません。

取扱いのポイント

- **条合わせは機械が条列にまっすぐになるようにしてください。斜めになった時は，条外れすることがあります。**

3. 方向自動制御の使えない条件

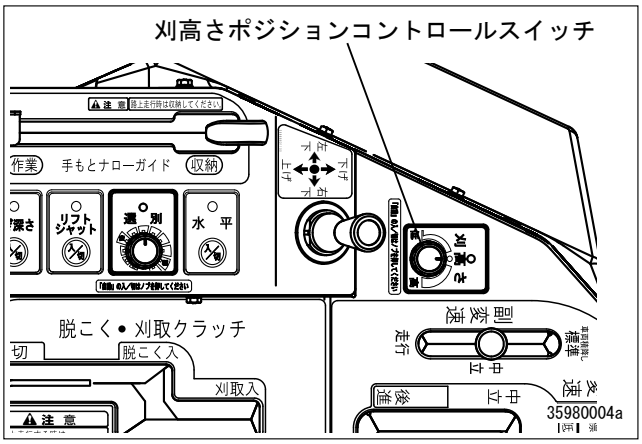
次の条件では，方向自動スイッチを**「切」**にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 斜め刈り，横刈り，中割り
- あぜぎわ刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株，孫株が多いとき
- 植付条間が 28cm 未満の場合
- 植付条間が 33cm を超える場合
- 倒伏材は，**「作業のしかた」**の（50 ページ）を参照

3. 刈高さポジションコントロール

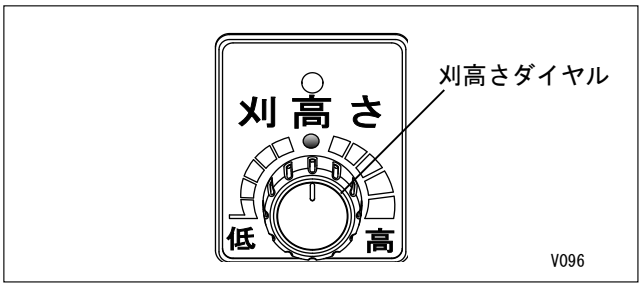
刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の下限高さを設定することができます。

1. 運転装置



❶ 刈高さポジションコントロールスイッチ

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの**「刈高さポジション」**を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常，《●》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

- 脱こく・刈取クラッチ《切》のときは，刈高さポジションコントロールは使用できません。刈高さポジションコントロールを使用しないときは，刈高さコントロールを《切》で使用します。
- ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

2. 自動での作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さダイヤルを《**標準**》位置にセットします。

(2) 脱こく・刈取クラッチレバー刈取《**入**》位置で**マルチステアリングレバー**を《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

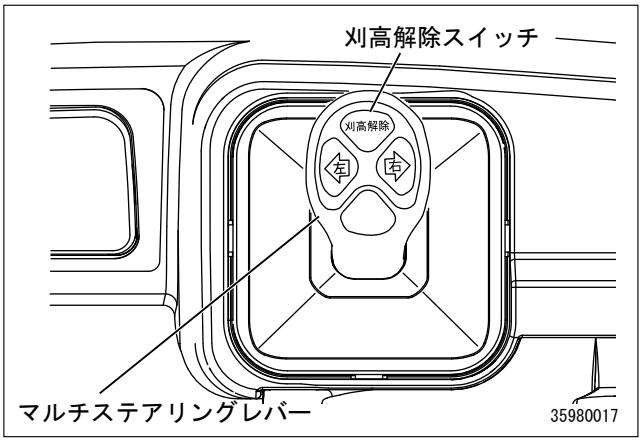
(1) 刈高さダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。
  再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。
- 刈高さポジションコントロールランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても，刈高さセット位置以下には下がりません。

❹ 刈高解除スイッチの使用



(1) 刈高さセット位置よりも更に刈取部を下げたいときは，刈高解除スイッチを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。ただし，刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

(2) 刈高解除スイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールランプが消灯しているときは，上記 (1) ～ (2) の機能は働きません。**
- **刈高解除スイッチ操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

3. 手動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》で，ランプを「**消灯**」状態にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

4. 水平自動制御［L 仕様］（ジャストマチック）

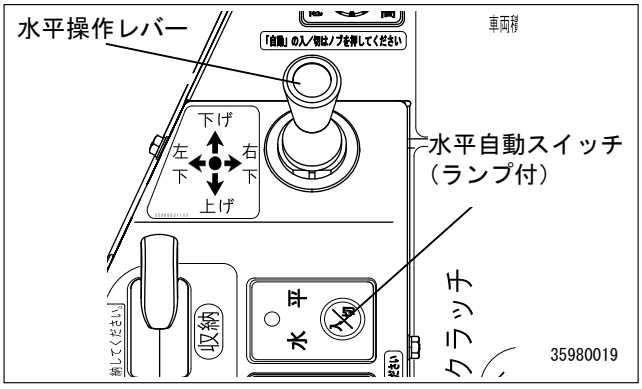
・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「傾斜手動レバー」で機体全体を持ち上げることもできます。

・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ，水平操作レバーで機体角度を調整し傾斜させながら作業ができます。

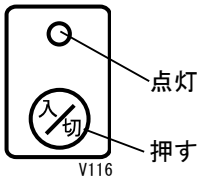
⚠警告　傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行ってください。

1. 運転装置

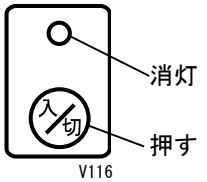


❶ 水平自動スイッチ



・「**入**」……

押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……

「**入**」の状態から再び押すと，ランプが消え，水平自動制御は作動しません。

取扱いのポイント

- **水平自動スイッチランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

❷ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

❸ 水平操作レバー

取扱いは，22 ページを参照します。

2. 自動での作業のしかた

❶ 刈取り作業

⑴ 脱こく・刈取レバー脱こく**《入》**位置で水平自動制御が作動します。

⑵ 傾斜角を変えるときは，水平操作レバー**「右下げ」「左下げ」**を操作し，設定します。
傾斜角を保持するように自動制御（傾斜角制御）します。
水平操作レバーで機体傾斜角を変えたときは，水平自動ランプは点滅します。

⑶ 傾斜角制御状態から水平制御状態に戻すには水平自動スイッチを入れ直す(入→切→入)か水平手動操作（上下）操作を行うと戻ります。
（傾斜角制御の時は**「ピッ」**，水平制御の時には**「ピッ，ピッ」**とブザー音がし，切替ったことがわかります)

⑷ 脱こく・刈取レバー**《切》**位置にしたとき，水平が左右どちらか低い方に合わせて，地面に平行になります。

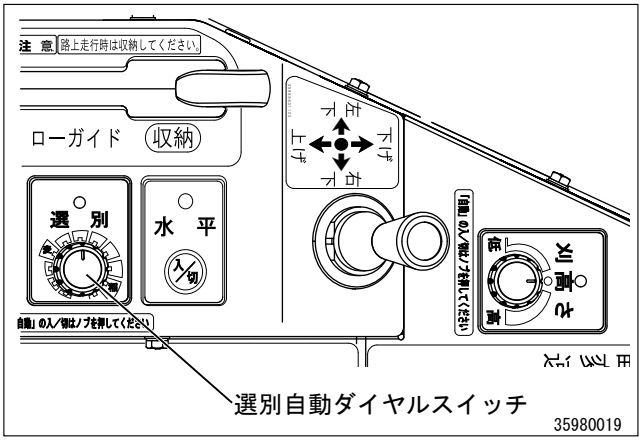
取扱いのポイント

- **水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機体高さ，機体傾斜角を変えることができます。**
- **機体旋回中は水平自動制御は作動しません。**

5. 選別自動制御

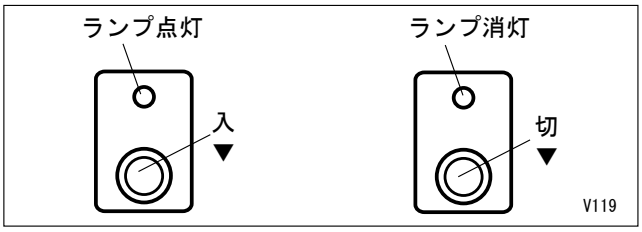
選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1. 運転装置



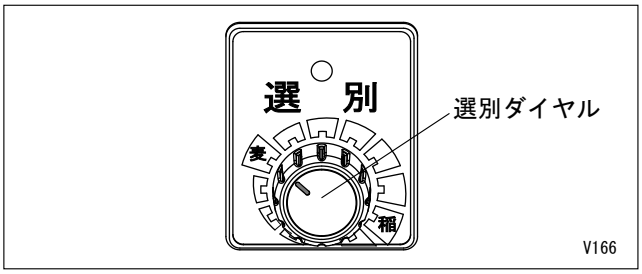
❶ 選別自動ダイヤルスイッチ

・スタータスイッチを《**入**》位置にするとランプが点灯し,選別自動が作動状態になります。
・選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。
・再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷ 選別自動ダイヤルスイッチ

刈取る作物に合せて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《稲》
	《稲》で選別が悪いとき	《稲》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《稲》より《右》側に回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《麦》
	《麦》で選別が悪いとき	《麦》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《麦》より《右》側に回します。

❸ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行ってください。**
- **選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合せてセットしてください。**
- **選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
  スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

6. オーガ旋回自動制御

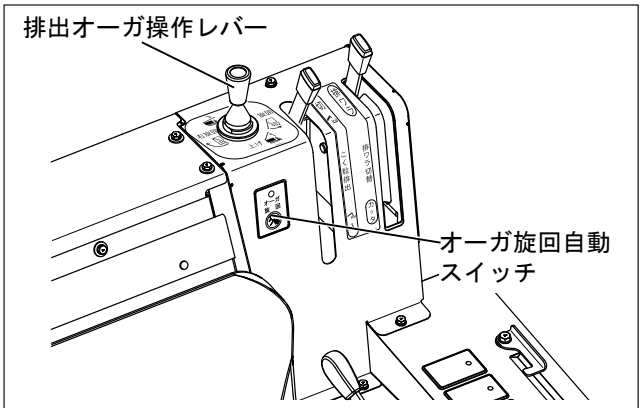
・排出オーガ旋回自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

⚠警告　傷害事故防止のために

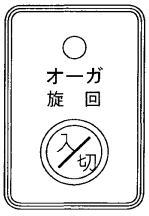
- ◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行ってください。
- ◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
- ◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
- ◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
- ◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを「切」にして，エンジンを停止してください。
- ◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
- ◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，排出オーガ自動旋回スイッチ，排出オーガ操作レバーの何れかを操作して止めてください。
- ◆走行中に排出オーガを操作しないでください。こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで排出オーガを固定してから行ってください。

◆［L 仕様］は水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

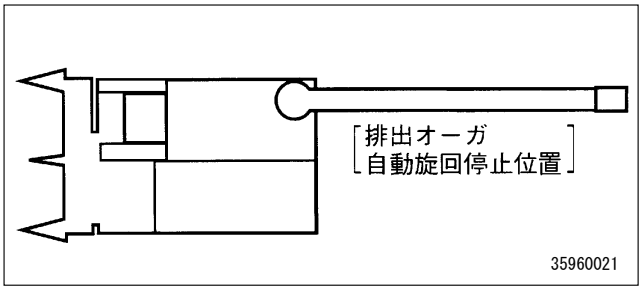
1. 運転装置



❶ オーガ旋回自動スイッチ

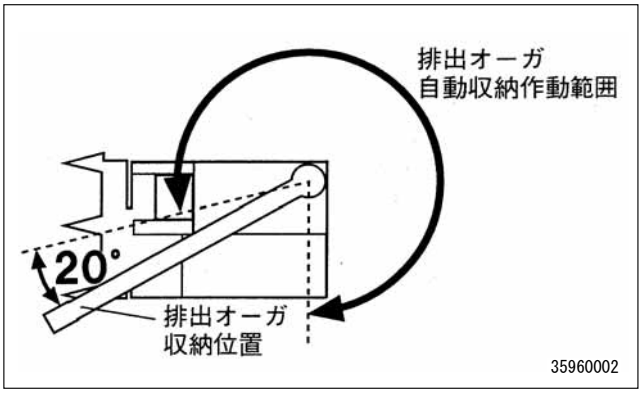


・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。



取扱いのポイント

- **自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。**



- **自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを解除してから行ってください。**
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

❷ ヒューズ

取扱い方は，27 ～ 29 ページを参照します。

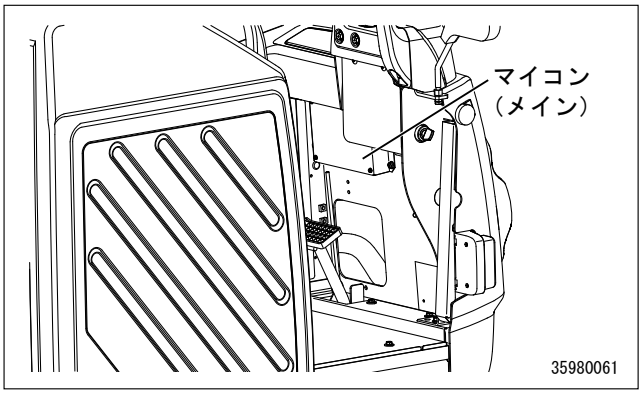
7. マイコン（マイクロコンピュータ）

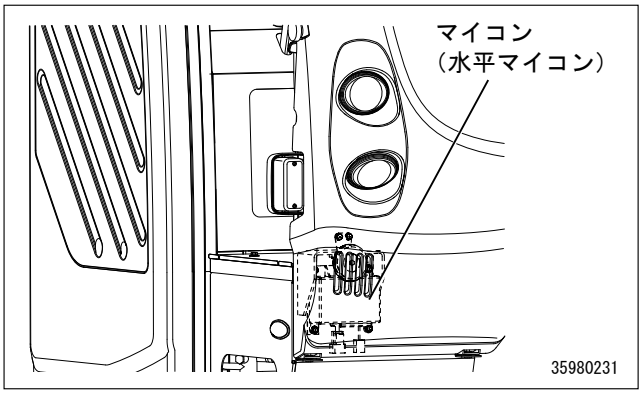
高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

・エンジン停止制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御 [A 仕様]
・水平自動制御 [L 仕様]（水平マイコン）
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・選別自動制御
・ニューハーモニーシステム
・排出オーガ自動（旋回 + 収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所





❷ ヒューズ

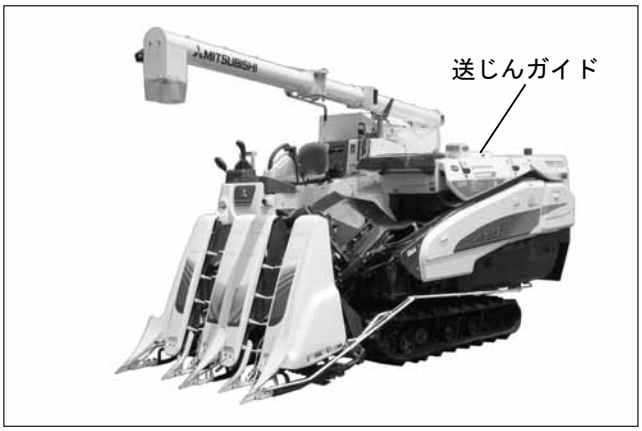
「マイコン」の 10A ヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。(27 ～ 29 ページ参照)

取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
  ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは,「お買い上げ先」に相談してください。

8. 送じん量自動調節

・送じん量は《**標準**》位置で出荷しています。
送じん量自動調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



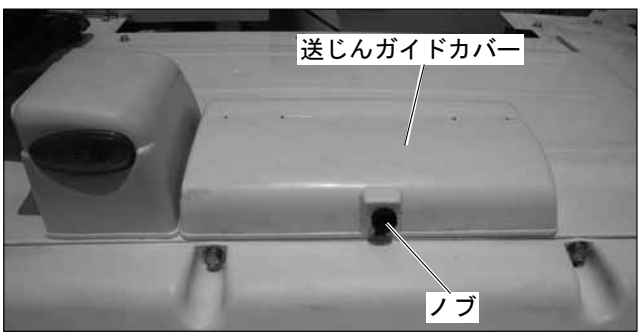
取扱いのポイント

- **ほ場や材料の条件に合わせて自動初期位置を変えることができます。**
- **モミに枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を調節することができます。**

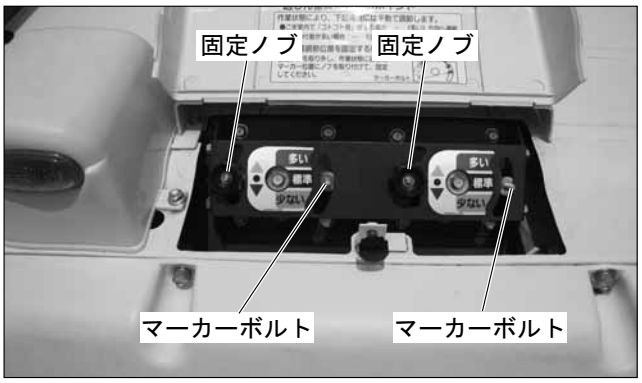
作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内で「**ゴトゴト音**」がする場合	**《多　い》**
通常の刈取りの場合	**《標　準》出荷位置**
枝梗の付着が多い場合	**《少ない》**

手動調節のしかた（送じんガイドの固定）

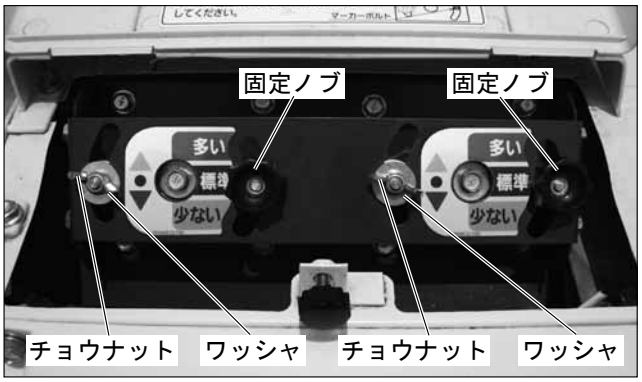
・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。
ノブをゆるめて，送じんガイドカバーを開きます。



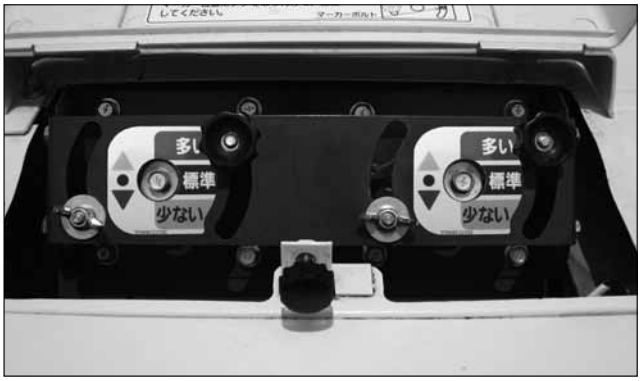
固定ノブを取外し，マーカーボルトを固定します。取外した側のボルトを付属品のチョウナットとワッシャで固定します。



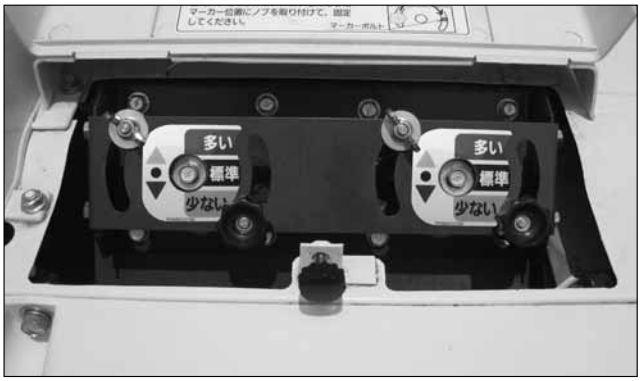
送じん量調節位置を《**標準**》での固定位置



送じん量調節位置が《**多い**》のときの固定位置



送じん量調節位置が《**少ない**》のときの固定位置



手入れのしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ 点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆ 屋外でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

取扱いのポイント

- 機械または部品等を破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。
- 使用済み廃棄物の処理について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは，
(1) 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
(2) 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
(3) 廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買いあげ先」，または「産業廃棄物処理業者」等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1. 定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理
下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。
- 結束部の結節部完備(ノッタ部)[ディーラーオプション]
- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

取扱いのポイント

- 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理・調整）については「お買いあげ先」で行なってください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																		備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	250	350	400	450	500	550	600	650	750	800	850	格納時	
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●		●	●		●		●		●	●		●			80〜82
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●	●		●		●		●	●		●			☆81〜82
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○																	●		☆82, 83
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○						●				●				●					91, 92
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○						●			●				●			●				☆92
	ラジエータ	点検・掃除	○	○		○															○		91
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○				●						●							☆139
	燃料ホース	点検・交換	○	●（140 時間または 2 年毎で早い方）																		燃料漏れ点検	☆134
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○																				95〜100
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○																		損傷の場合交換	☆94
	計器，スイッチ類	点検・交換	○	○																			☆8〜16
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●						●					●					☆84〜86
	油圧ホース	点検・交換	○																			油漏れ点検	☆134
	油圧オイルフィルタ	交換	○				●						●							●			☆84〜86
	HST オイルフィルタ	交換					●						●							●			☆84〜86
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除						○			○				○			○					☆93, 94
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																				☆136
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●						●							●			☆84
	走行ベルト	点検・調整・交換	○			○					●						●						☆140
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○		○	○		○		○		○	○		○			☆136
	マルチステアリングレバー	点検・調整	○	○	○																		☆135
	脱こく・刈取りクラッチレバーおよびワイヤ	点検・調整・交換	○		○									●ワイヤ									☆137
	クローラ	点検・調整	○	○																			☆152
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																				☆88
	ローラ・アイドラ・転輪	点検	○	○		（グリスアップは 50a（アール）作業毎，および格納時に行います。湿田作業をした場合は 50a に満たなくても行います。）																		88
	ブレーキシュー	交換	●（400 時間または 2 年毎で早い方）																				☆

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）													備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450	500	600	700	800	格納時		
刈取部	スターホイル駆動ケース（右）オイル	点検・補給	○														☆86
	スターホイル駆動ケース（左）オイル	点検・補給	○														☆86
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○		☆145, 146
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆147, 148
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆147, 148
	引起しチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		☆168, 169
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆149
	かき込み搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		☆150
	穂先搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		☆149
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●			●		☆128～130
	集中注油タンク	点検・補給	○	○													エンジンオイル 88
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		☆137
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○														☆86
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○														☆87
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給	○														☆87
	脱こくベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆137
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆141
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆141
	搬送HSTベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆141
	1番ラセンベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆142
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆143
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆151
	排ワラベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			☆144
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		☆151
	穂先排ワラベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		☆143
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○														104
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○									●			☆133
	ワラ切カマ	点検・交換	○									●			●		☆131～133
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●					☆103, 104
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○														105
	2番ラセンタッチ部	点検・掃除	○														104
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○														☆138
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○														☆88
	グレンタンク	点検・掃除	○														111～113
	グレンベルト	点検・調整・交換	○	○	○							●					☆144
	横ラセンベルト	点検・調整・交換	○	○	○							●					☆167
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○														111～113
カッタ部	排ワラ切替レバー	点検・調整	○														☆138
	カッタ刃	点検・交換	○	（100）時間ごと													☆114～127
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○							●					☆142

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は,**「運転まえの点検」**(30 ～ 31 ページ) および **「定期点検整備表」** (74 ～ 77 ページ) に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却する時は,**「お買いあげ先」** に相談ください。

取扱いのポイント

- 各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。
- 廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。
- 次表の容量は工場出荷時の数値です。
  交換時は残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
  但し検油栓のない個所は全量交換してください。
- 使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
- 交換したオイルを，廃却する時は,「お買いあげ先」または,「産業廃棄物処理業者等」に相談して,所定規則に従って処理してください。

危険 火傷や火災防止のために

- ◆ 燃料補給時は，火気を近づけないでください。
- ◆ エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
- ◆ 損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料漏れがあると，火災の原因となります。
- ◆ こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

警告 傷害事故防止のために

- ◆ 給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
- ◆ 回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
- ◆ エンジンカバーを開いて点検等を行った後は，エンジンカバーを閉じて固定金具で固定してください。

「給油・注油・給水表」

番号	給油箇所	種類	種類		容量(L)			備考
			APIサービス分類	SAE粘度番号	328型	333型	433型	
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	―	―	30			JIS 2号(－7.5℃まで) JIS 3号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼル専用エンジンオイル	CD級以上	10W－30	3.7			
③	ラジエータ(補助タンク1L含む)	冷却水（不凍液40～50%含む）	―	―	5.6	5.8		北海道は不凍液割合(40～50%)
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	6.7			
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL-4以上	10W－30	18.5			
⑥	スターホイル駆動ケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	右側 1.0 左側 1.0		右側 1.7 左側 1.0	刈取,搬送部左右各1ヶ
⑦	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55			
⑧	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.65			
⑨	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55			
⑩	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	0.30			
⑪	集中注油タンク	エンジンオイル	―	―	1.5			
⑫	水平リンク	グリース	―	―	―			

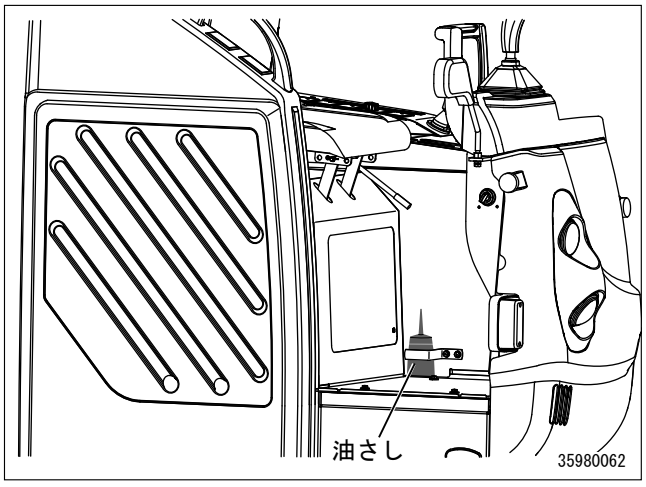
指定オイル

・ディーゼルエンジンオイル……(純正油) ディーゼルエンジン用オイルAPI・CD級以上,
SAE・10W－30

・油圧作動油……(純正油) または，使用オイル表（174ページ）の指定オイル

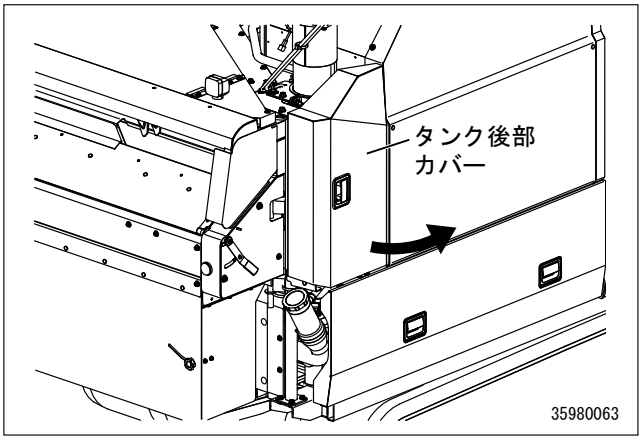
・ギヤオイル……(純正油) または，使用オイル表（174ページ）の指定オイル

[油さし収納場所]



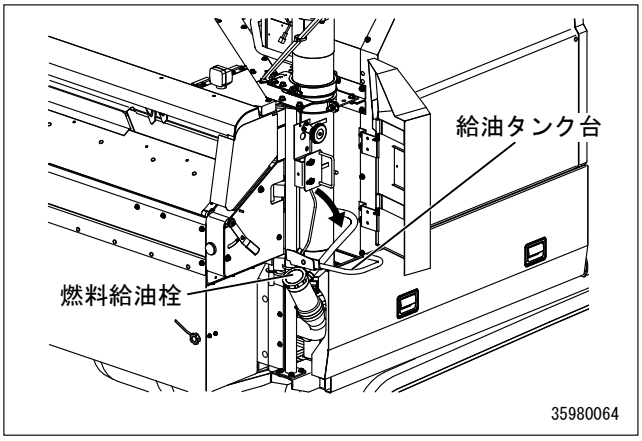
1. 燃料の補給

❶ タンク後部カバーを開けます。



❷ 給油タンク台を引き出して，補給用タンクの置き台として使用します。

燃料給油栓を外して,給油口から補給します。



❸ 燃料補給後は，元どおり給油タンク台を収納し，タンク後部カバーを閉じます。

・燃料……**ディーゼル軽油**

JIS ２号（－ 7.5℃まで）

JIS ３号（－ 20℃まで）

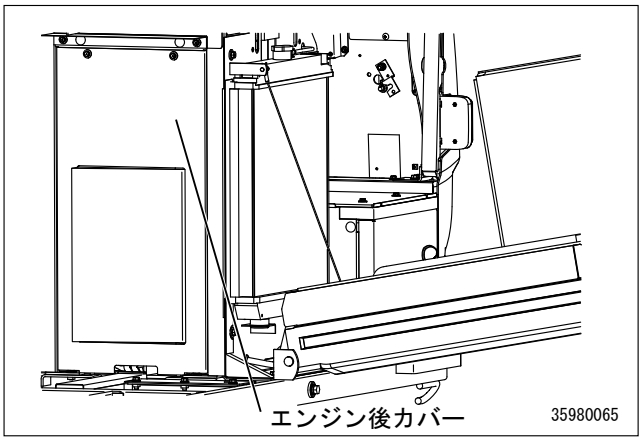
・タンク容量……30 L

取扱いのポイント

- **燃料はフィルタを通して，ゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行ってください。****（93 ページ参照）**
- **燃料補給後は，給油栓を確実にしめて，タンク後部カバーを閉じてください。**

2. エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換

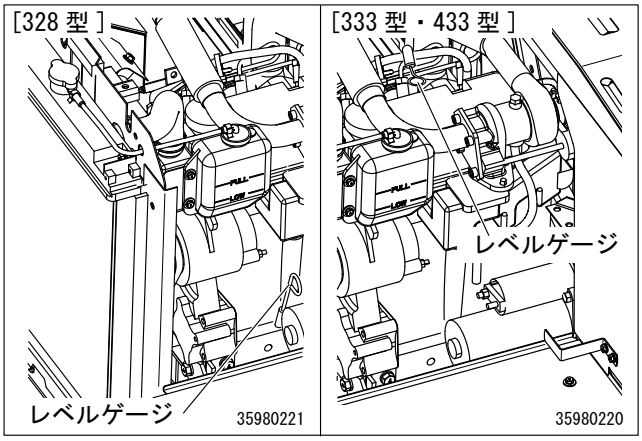
エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換はエンジンカバーを開き（26 ページ参照）グレンタンクを回動（100 ～ 101 ページ参照）し，エンジン後カバーを取外して作業をします。

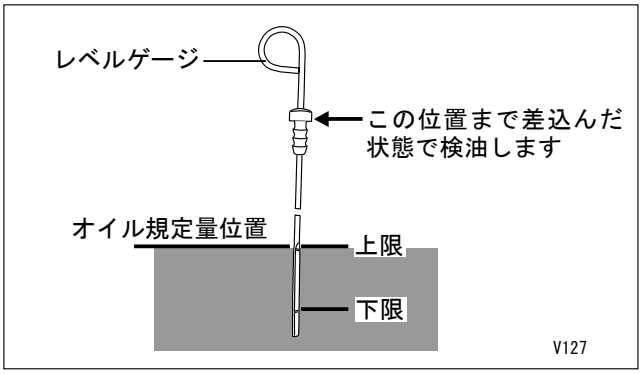


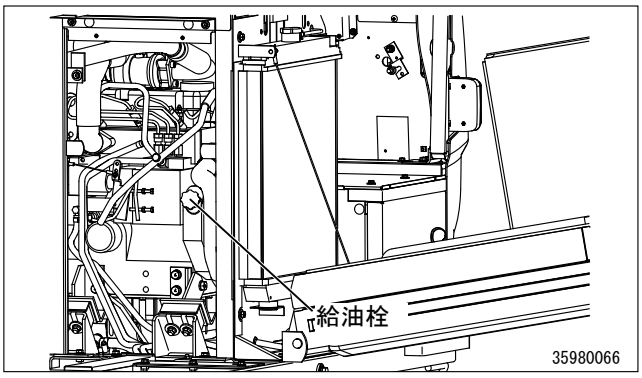
点検・交換後はエンジン後カバーを取付け，グレンタンクを閉じ（100 ～ 101 ページ参照），エンジンカバーを閉じます。

❶ エンジンオイルの点検

レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭き取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油栓より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。





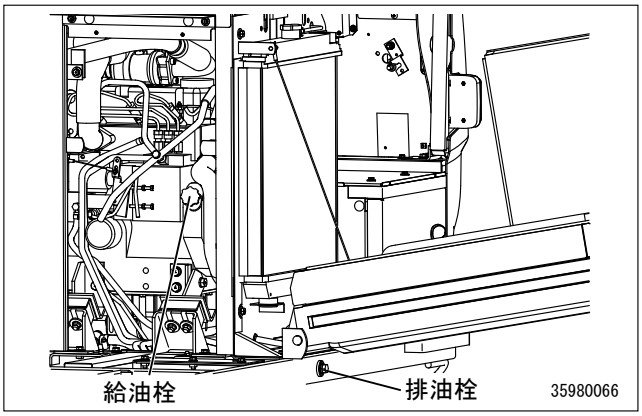


取扱いのポイント

- オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。
- 給油栓からワラクズなどが入らないよう事前に周囲を掃除してください。
- 排油栓，給油栓，レベルゲージは確実に固定されていることを確認してください。
  また，エンジンカバーに固定金具（クランプ）をかけ，確実に閉じてください。

❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。



(2) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，新しい**「ディーゼル車用エンジンオイル」**を給油口よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油し，給油栓を取付けます。

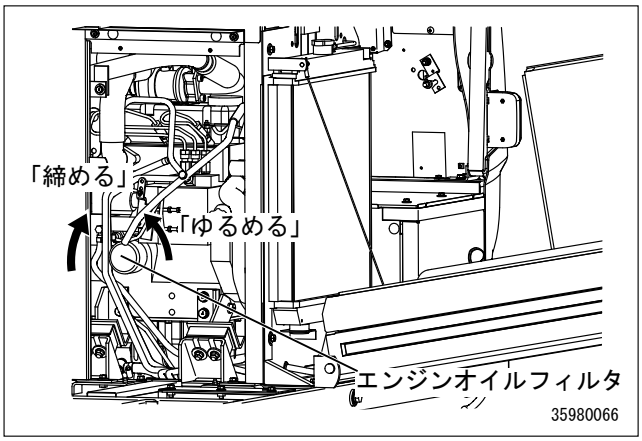
・ディーゼル車用エンジンオイル
API・CD 級以上，SAE・10W － 30
・オイル量……3.7 L

(3) 交換後，エンジンを始動して，オイルインジケータランプが消えるまで低回転で運転します。

取扱いのポイント

- **エンジンオイルの交換時期は定期点検整備表に従ってください。**

❸ エンジンオイルフィルタの交換



(1) エンジンオイルフィルタを**「ゆるめる」**方向に回して外します。

(2) 新しいフィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして**「締める」**方向に手回しで固定します。

(3) 交換後は元どおり，エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

- オイルフィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので,購入のうえ交換します。
- オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。
- オイルフィルタを交換した時は，エンジンオイルフィルタの容量分オイル量が多く入るので,オイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足の時は規定量位置まで補給します。

3. ラジエータ冷却水の点検・交換

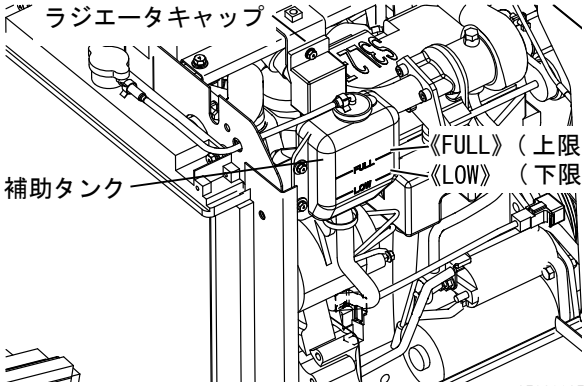
⚠警告　火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

❶ 始業前の点検

ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

・エンジンが冷えているとき，エンジンカバーを開き補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

・ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの**「上限と下限の間」**位置まで給水します。

・冷却水……クーラント，清水（水道水）

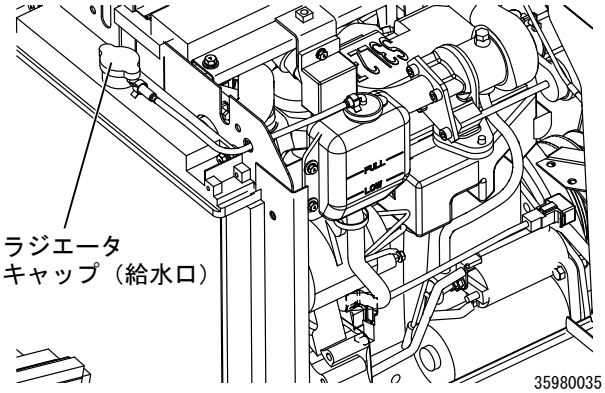
❸ 点検・交換後は元どおりラジエータキャップを閉めて，エンジンカバーを閉じます。

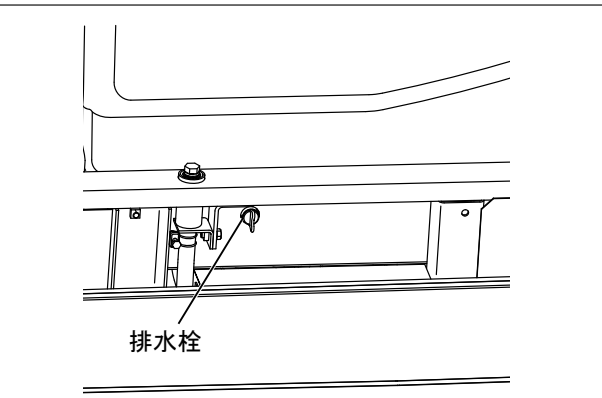
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。**

❹ ラジエータ冷却水の交換

(1) エンジンカバーを開き，ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓を外し排水口から排水します。





(2) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(3) 排水が終わったら排水栓を取付けます。

(4) **不凍液の注入**

工場出荷のときは不凍液**「ロングライフクーラント」**(PT) が注入され**「外気温度－ 25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

(5) ラジエータの給水口の口元いっぱいまで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

(6) 補助タンクの給水レベルの上限位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

冷却水量

[328 型]････････5.6L（補助タンク 1.0L 含む）

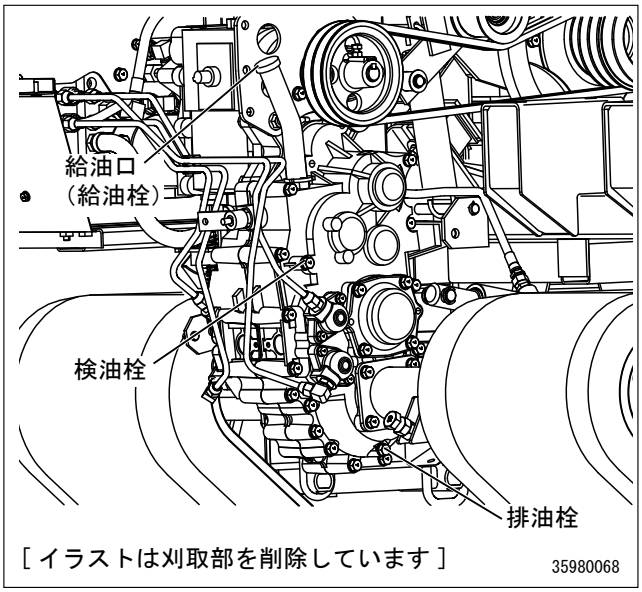
[333 型]･[433 型]･･5.8L（補助タンク 1.0L 含む）

(7) 交換作業が終わったらエンジンカバーを元どおり閉じます。

取扱いのポイント

- **冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」を行ってください。**

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換



❶ 点検

・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

❷ 交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。
・給油するときは，排油栓を締め給油口より検油栓からオイルが出る程度まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL －5 以上，SAE・90
・オイル量…6.7 L

取扱いのポイント

● 点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

5. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST オイルフィルタの交換

⚠警告 障害事故防止のために

◆ 油圧作動油を抜くときは，刈取部・機体［L 仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

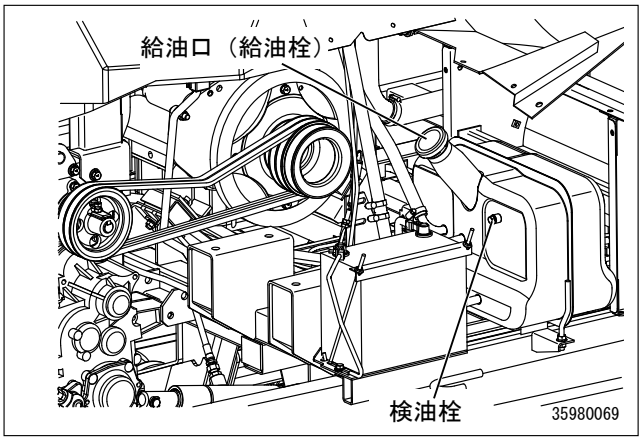
・油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタと HST オイルフィルタを同時に交換を行います。

❶ 油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。

❷ 油圧作動油の交換

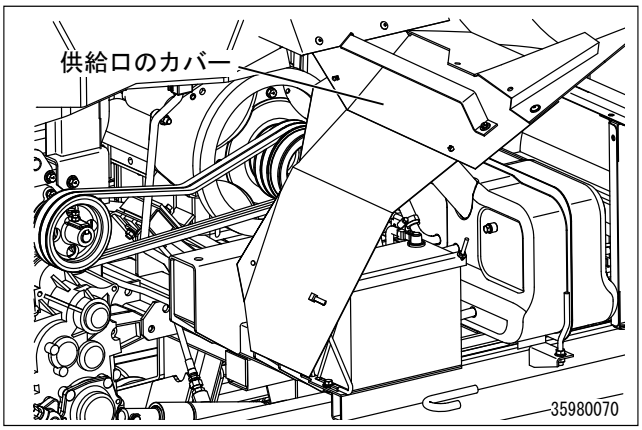
・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HST オイルフィルタの交換を行います。
・油圧作動油…API・GL-4 以上，SAE・10W-30
・オイル量…18.5L
（10 分程度運転後のオイル補充分を含む）



❸ 油圧作動油の抜取り要領

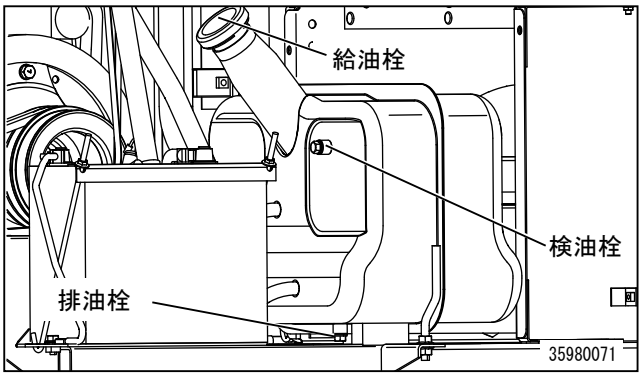
(1) エンジンを始動し,刈取部・機体 [L 仕様] を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) 脱こく供給口のカバーを外します。



(3) 給油栓を外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

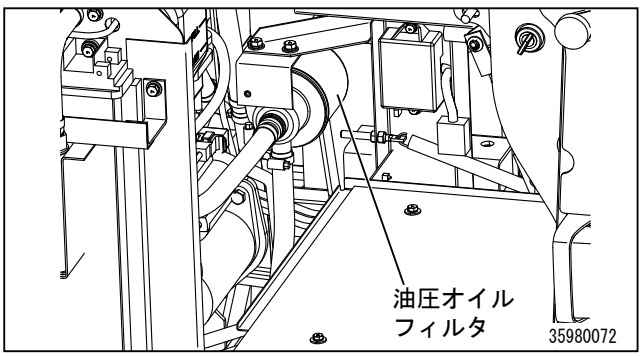
(4) オイルを抜き終わったら,排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

(1) 油圧作動油のオイルフィルタは,**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを取外します。油圧オイルフィルタは運転席左側にあります。

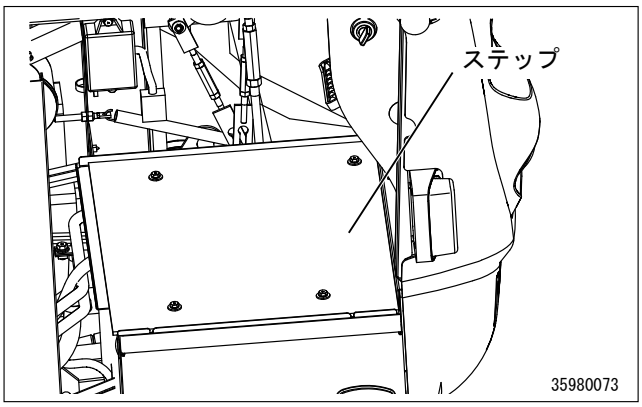


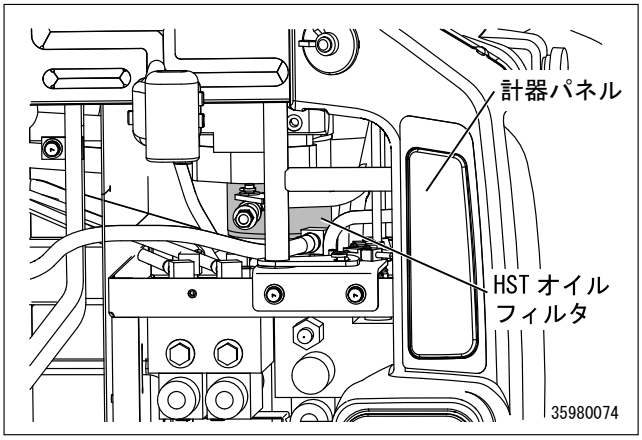
❺ 走行 HST オイルフィルタの取外し要領

(1) 走行 HST オイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) ステップを取外します。

走行 HST オイルフィルタはトランスミッションの右側に装着してあります。





❻ 油圧オイルフィルタ，走行 HST オイルフィルタの取付け要領

(1) フィルタ取付面をきれいに掃除して，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

(2) 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから 2/3 ～ 3/4 回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺をあらかじめ掃除して，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

(1) オイルタンクの給油口より，タンク右側の検油栓からオイルが出るまで給油します。

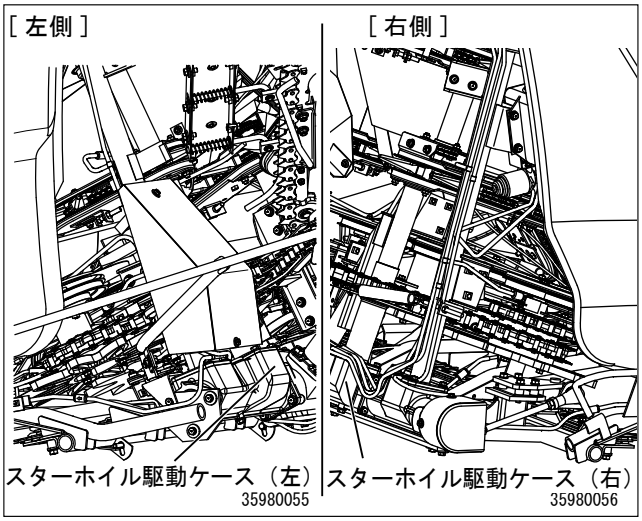
(2) エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

(3) 取外したカバー類を取付け，エンジンカバーを閉じます。

6. スターホイル駆動ケース



・刈取部左右にあるスターホイル駆動ケースの給油栓を外し，給油口より給油します。

・ギヤオイル…API・GL － 5 以上，SAE・140

・オイル量……右側 1.0 L ┐
左側 1.0 L ┘ [3 条型]
右側 1.7 L ┐
左側 1.0 L ┘ [4 条型]

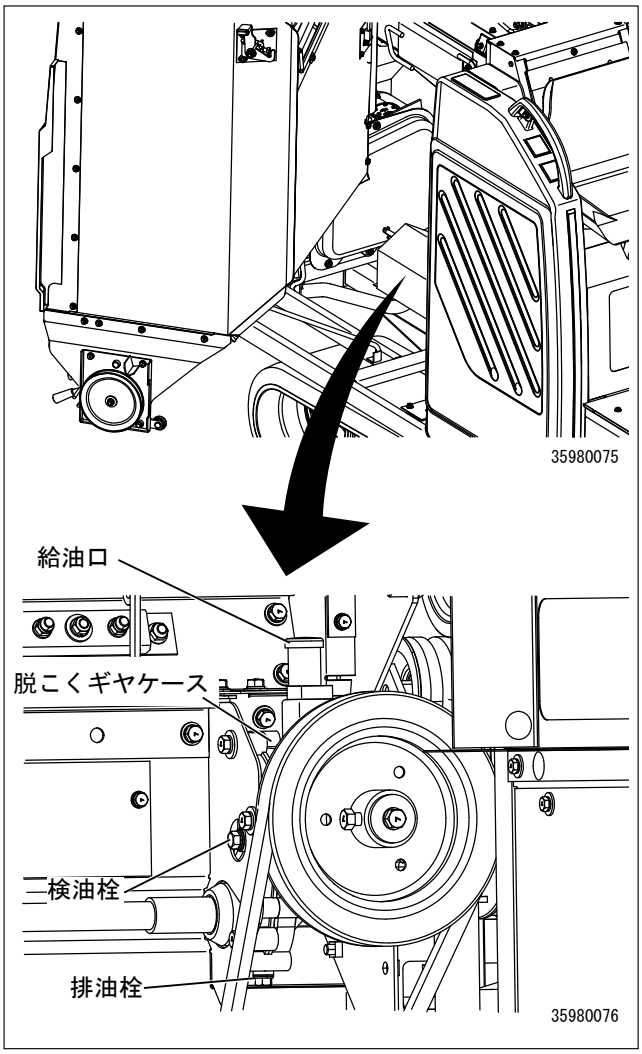
7. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

・グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)

・脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。



❷ 交換

・排油栓を外してオイルを抜き，検油栓からオイルが出てくるまで給油口より注油します。

・ギヤオイル…API・GL － 5 以上，SAE・90

・オイル量…0.55 L

8. こぎ胴ギヤケースのオイル点検・交換

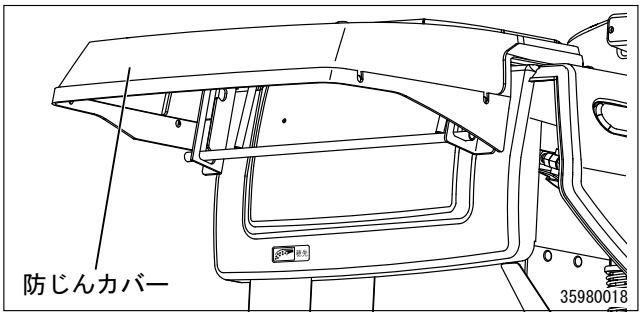
❶ 点検

・ギヤケースの検油栓を外してオイルが出る程度が適量です。

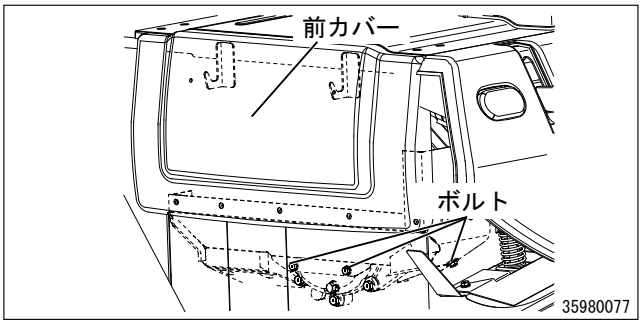
・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

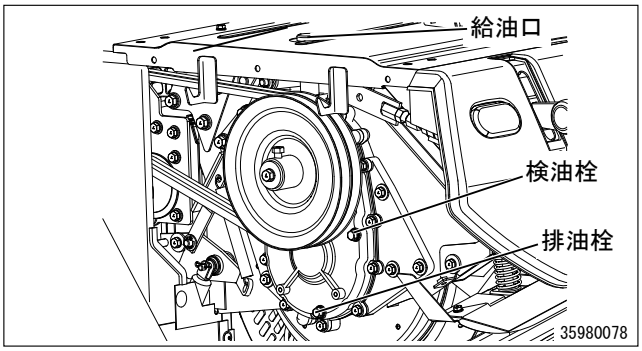
❷ 交換

(1) 防じんカバーを取外します。[A 仕様]



(2) こぎ胴部の前カバーを外します。





・ギヤケース下部の排油栓を外し，オイルを抜き取ります。

・ギヤオイル…API・GL －5 以上，SAE・90

・オイル量…0.65 L

(3) 作業後前カバーを元の位置に取付けます。

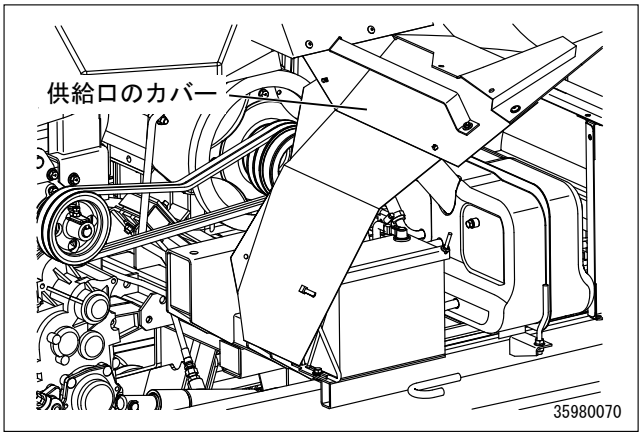
(4) 防じんカバーを取付けます。[A 仕様]

9. 搬送 HST ギヤケースのオイルの点検・交換

❶ 点検・補給・交換

(1) 脱こく供給口のゴムカバーをめくります。

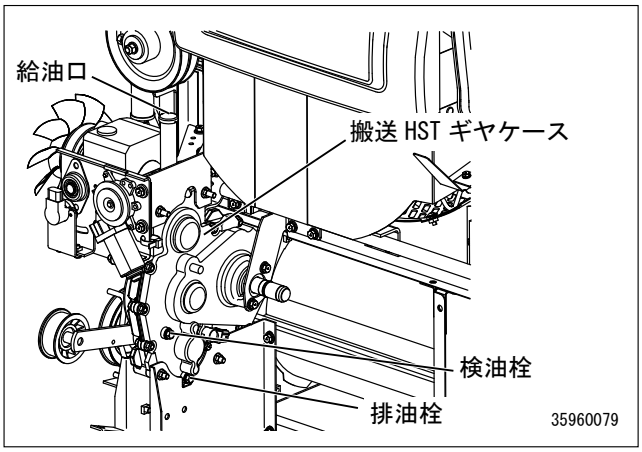
(2) 脱こく供給口のカバーを外します。



・搬送 HST ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

・汚れがひどい時は交換します。

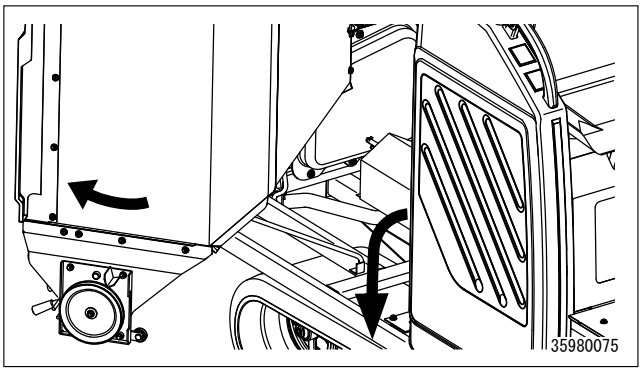


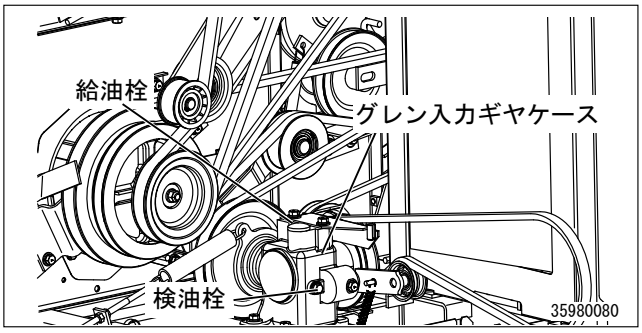
・ギヤオイル…API・GL －5 以上，SAE・90

・オイル量…0.55 L

10. グレン入力ギヤケース

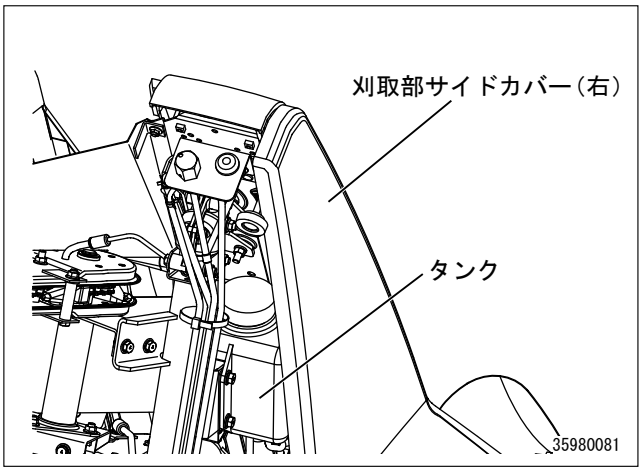
・グレンタンクを回動します。
（100 ～ 101 ページ参照）





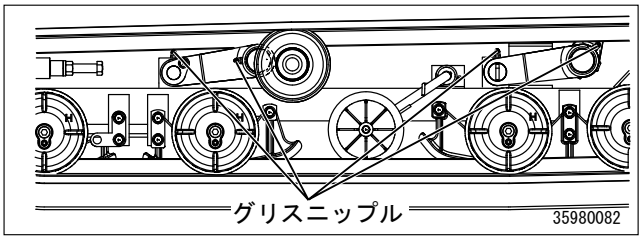
・検油栓を外し給油栓を外して注油します。検油栓部からオイルが出てきたら適量です。
・ギヤオイル…API・GL －5 以上，SAE・140
・オイル量……0.3 L
・グレンタンクを収納します。

11. 集中注油タンク



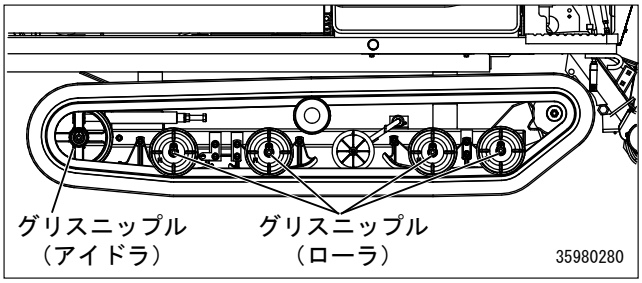
・刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。
・エンジンオイルを使用します。
・オイル量……1.5 L

12. 機体水平制御リフトアーム軸受部の給脂［L 仕様］

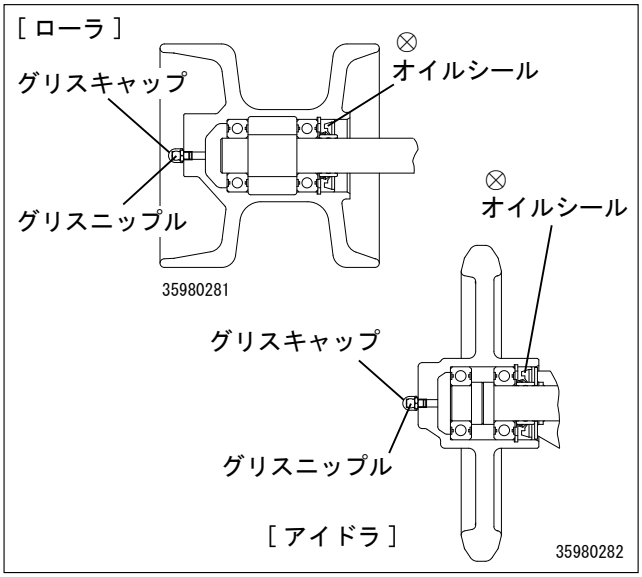


・左右 8 個所グリースガンで給脂します。
・リチウムグリス
・左右…8 個所

13. ローラ・アイドラのグリスアップ



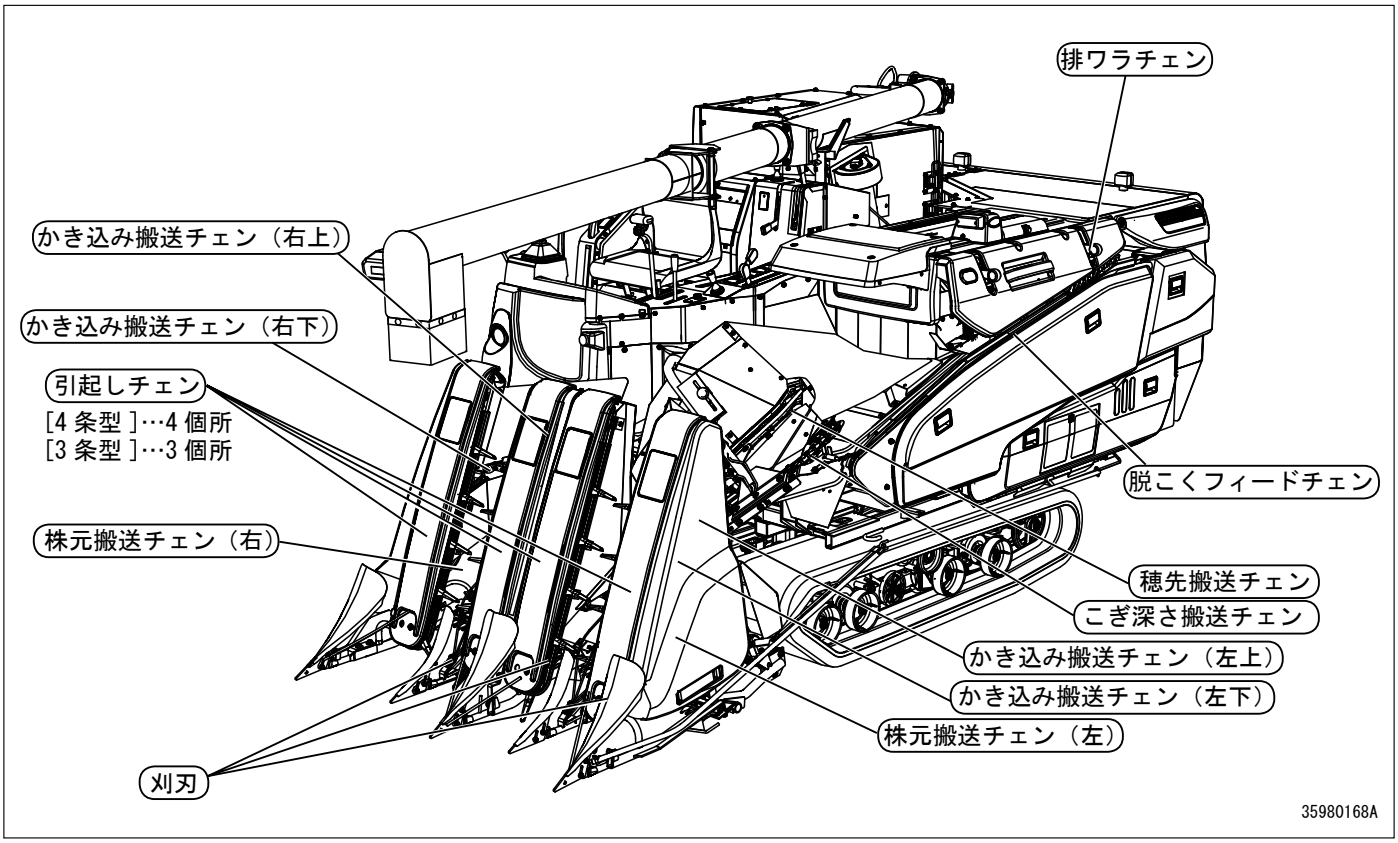
・各部のグリスアップは 50a（アール）作業毎，湿田作業直後および格納時に行います。
・グリスアップ個所は，［ローラ］８ヶ所と［アイドラ］２ヵ所です。

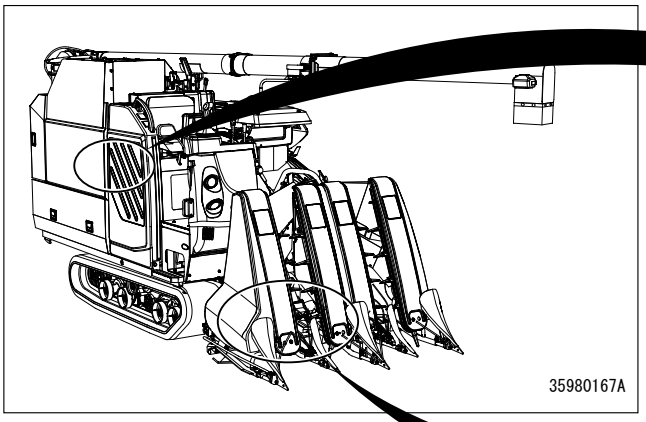


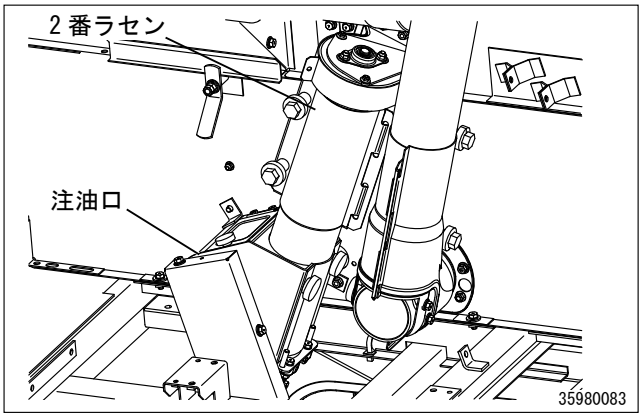
・グリスアップ個所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。
グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

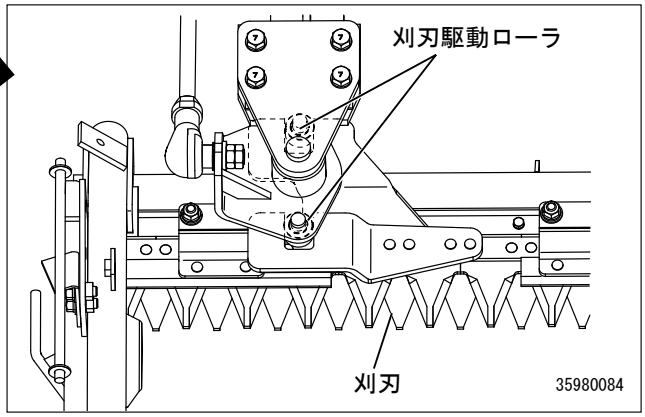
14. 各部の注油

各部の注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取・脱こく部関係の注油（◯◯個所）は**「集中注油装置」**で注油ができます。そのほかの個所は**「油さし」**で注油します。







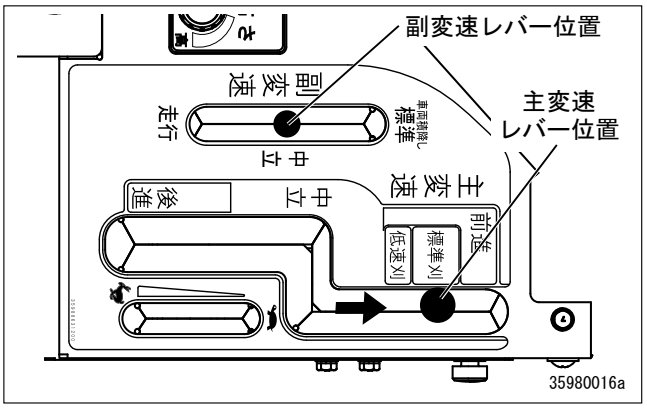


15. 集中注油装置の使いかた

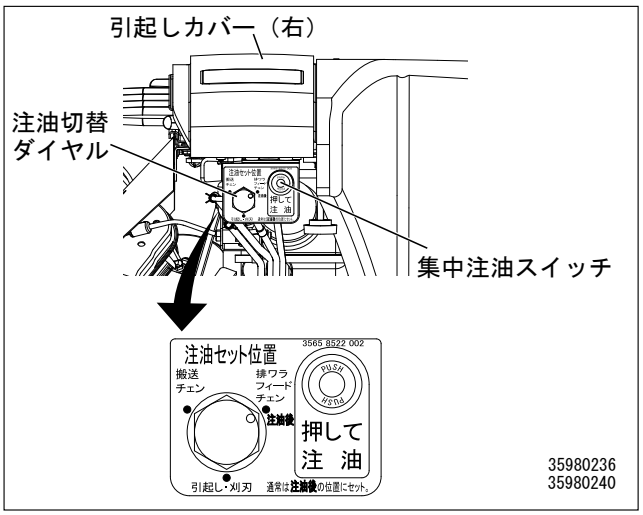
⚠警告　傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに歯止めをかけてください。
◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。
❷ 刈取部をいっぱい下げます。
❸ 副変速レバーを《**中立**》にします。
❹ エンジン回転を低回転にします。
❺ 脱こく・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置にします。
❻ 主変速レバーを《**標準刈**》位置にして，刈取部を回転させます。



❼ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切替ダイヤルにより以下の注油個所の切替えができます。
・引起し・刈刃部
・搬送チェン部（株元搬送左右，かき込み搬送左右，こぎ深さ搬送，穂先搬送）
・排ワラフィードチェン（フィードチェン，排ワラ部）



❽ 注油作業終了時には，オイル漏れ防止のため注油切替ダイヤルを《**注油後**》位置にしてください。

取扱いのポイント

- **注油切替ダイヤルを切替中に，集中注油スイッチを操作すると，故障の原因となりますので，スイッチを押さないでください。**
- **注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは拭き取ってください。**
- **送油ホースの継ぎ部等からオイル漏れがないか，点検確認してください。**
- **注油切替ダイヤルは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。**
- **《こぎ深さ・注油》ヒューズ（20A）が溶断していると，注油はされません。****(27 ～ 29 ページ参照)**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースをカマ等で損傷しないようにしてください。**
- **ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行ってください。**
  また，エンジンは停止してください。

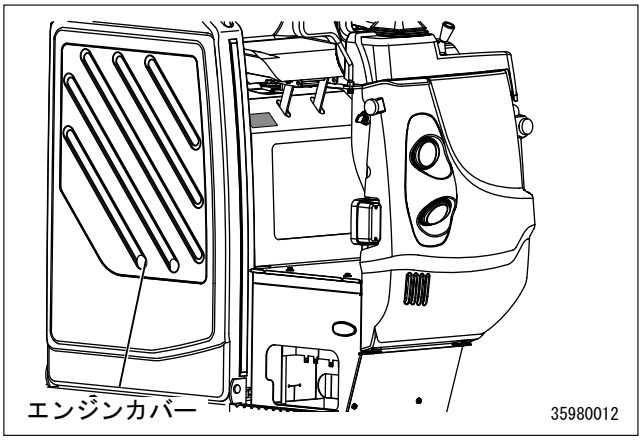
3. 各部の点検と掃除のしかた

1. ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

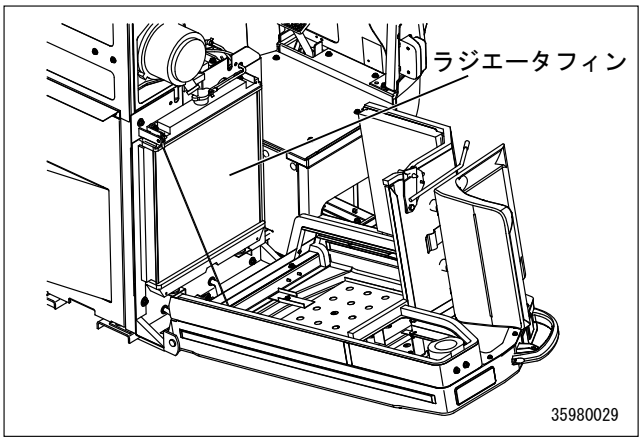
◆掃除はエンジンを停止してから行ってください。
高温部が冷えてから作業をしてください。

エンジンカバー，ラジエータフィンにゴミ等が目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが**「オーバーヒート」**する原因となります。



❶ エンジンカバーの表面のゴミを取除きます。
❷ エンジンカバーを開き内側を掃除します。
❸ エンジンカバーのゴミを，やわらかいブラシなどで掃落とすか，コンプレッサでエアを吹付けてゴミを取除きます。

・ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形する恐れがあります。



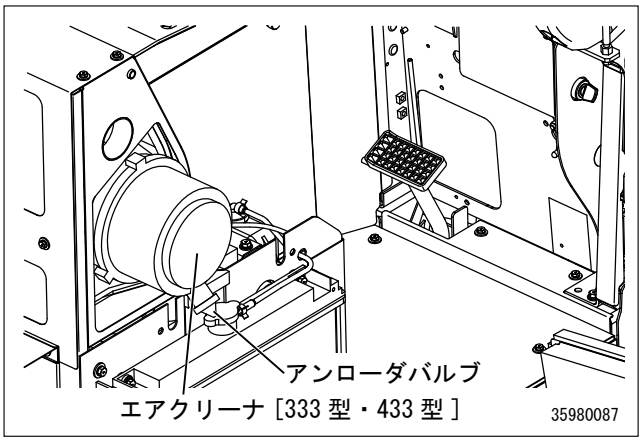
❹ エンジンカバーを元どおり閉じます。

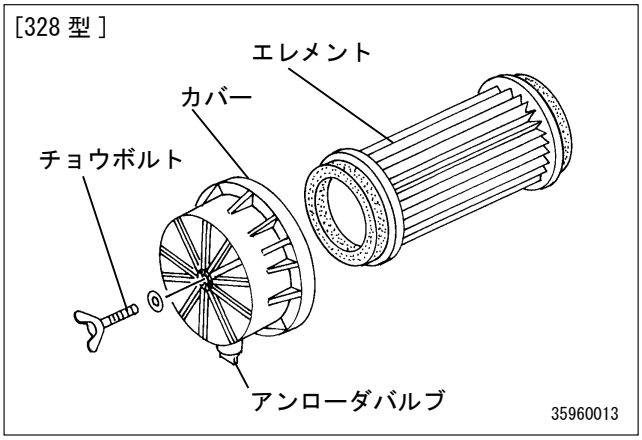
2. エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると,エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶ エンジンカバーを開け，エアクリーナカバーのチョウボルト [328 型], フック（3 箇所）[333 型・433 型] を外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❹ エンジンカバーを元どおり閉めます。

取扱いのポイント

- **コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「7kg f/㎠以下」で行ってください。**

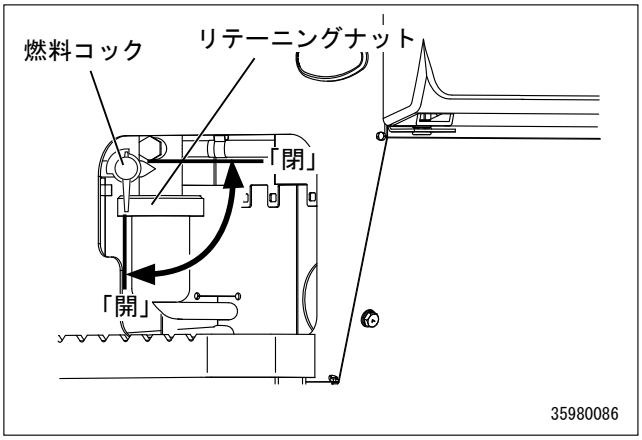
3. 燃料フィルタの掃除・交換

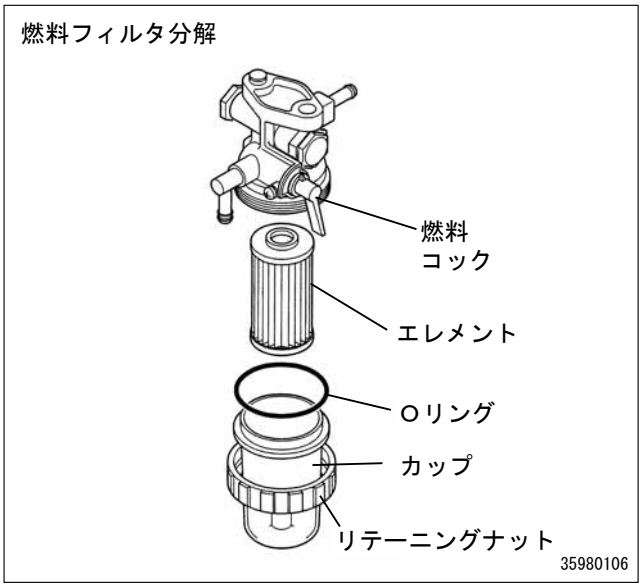
⚠危険　火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行い，エレメントとOリングを同時に交換します。





❶ 燃料コックを「閉」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❷ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❸ エレメントを取外し,洗浄または交換します。

❹ Oリングに注意しながら,エレメントとカップを取付け,リテーニングナットを締付けます。

❺ 燃料コックを「開」の位置にして，エア抜き要領に従って，エア抜きを行います。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料は燃料タンク給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **燃料は雨水等がかからない場所に保管してください。**

4. 燃料のエア抜きのしかた

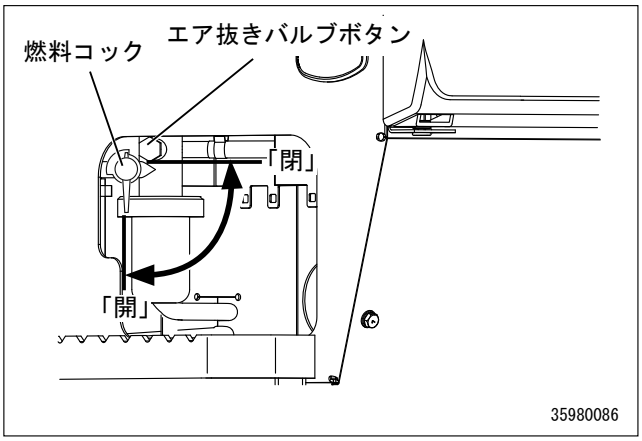
運転中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

・燃料はディーゼル軽油

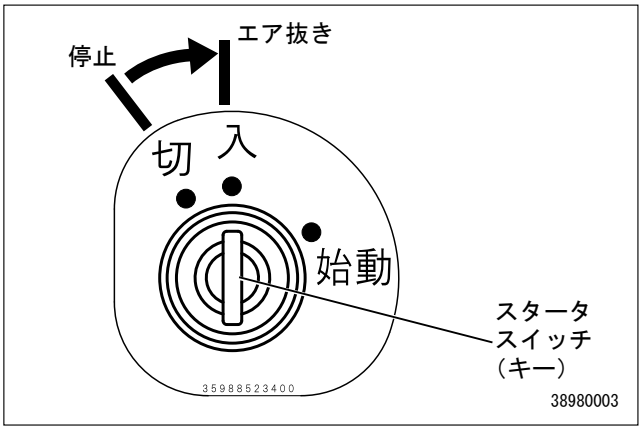
JIS2 号（－ 7.5℃まで）

JIS3 号（－ 20℃まで）



❷ 燃料フィルタの燃料コックを**「開」**位置にします。

❸ スタータスイッチを**《入》**位置にします。(この時エンジンは始動しません。)



❹ 燃料フィルタのエア抜きバルブボタンを**「約 30 ～ 40 秒間」**押し続けます。

❺ エンジンコントロールレバーを《 》**(高速)**位置にして，スタータスイッチを**《始動》**にしてエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

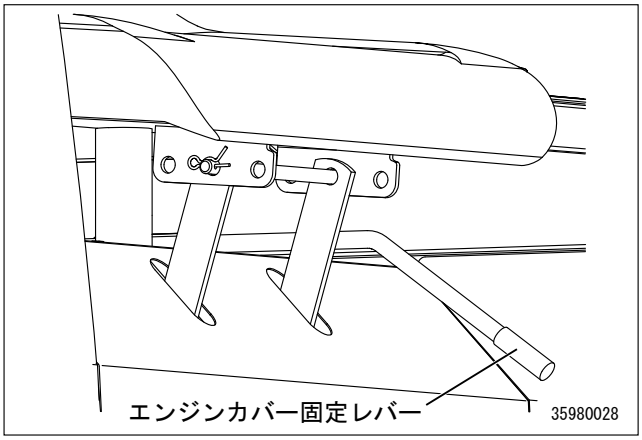
5. ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

油圧作動油の劣化や，汚れによる作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

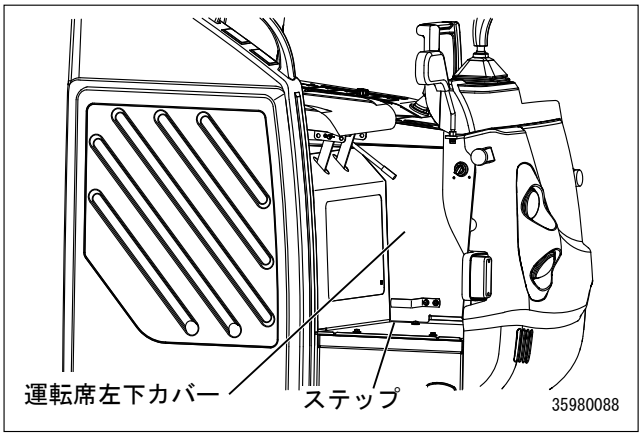
・掃除は，74 ～ 77 ページの**「定期点検整備表」**に従って行います。

❶ フィルタの清掃

(1) 座席シート左側の固定レバーの操作によりエンジンカバーを開きます。



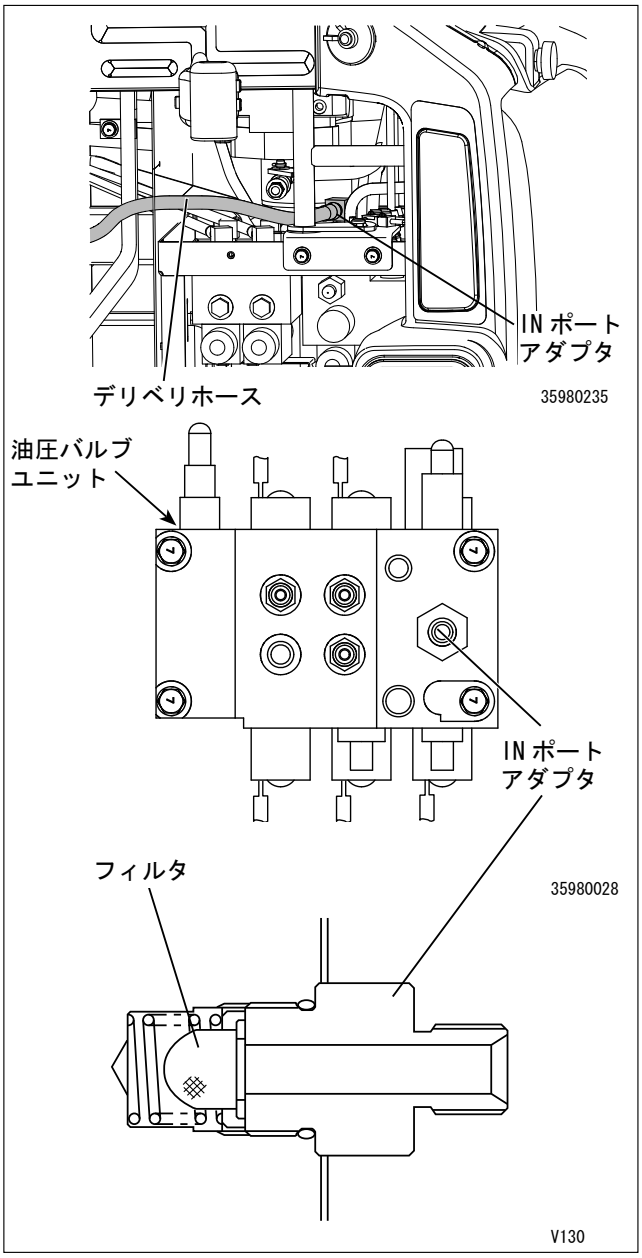
(2) 運転席左下カバーを外し，ホコリやゴミを取除きます。



(3) ステップを外します。

(4) デリベリホースを外します。

(5) IN ポートアダプタ（六角対辺 30）を外し，フィルタを取外します。



(5) フィルタの内側よりエアを吹付けて，きれいに掃除します。

(3) 清掃したフィルタを，方向を間違えないように組込みます。

(4) IN ポートアダプタ(六角対辺 30)を取付け，デリベリホースを組付けます。

❷ 組付け後の操作確認

(1) エンジンを始動し，マルチステアリングレバーにて刈取部を 3 ～ 4 回上下させて，ホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

(2) エンジンを停止して，オイルタンクのオイル量を点検し，不足していれば検油栓まで補給します。

6. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

- **◆ 電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリ㊀コードをバッテリ㊀端子から外してください。**
- **◆ 電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。**
- **◆ エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。**

❶ 電気配線の点検

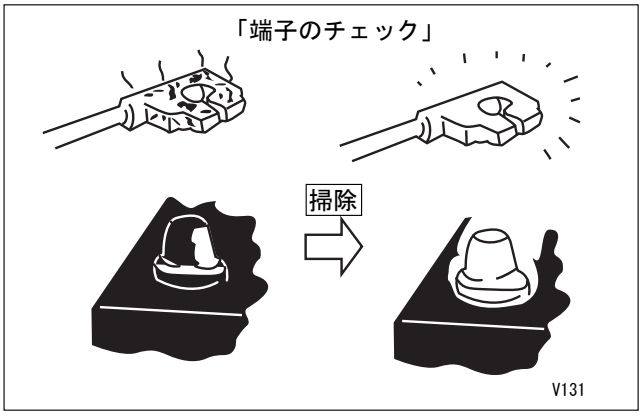
配線の端子部の**「ゆるみ」**や**「接続不良」**または配線が**「損傷」**していると電気部品の性能を損なうだけでなく，**「ショート（短絡)」**等することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている**「ワラやゴミ」**などは，**「火災」**の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が**「腐食」**することがあります。バッテリ端子が腐食すると，**「接触抵抗」**が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，**「定期的」**に汚れや腐食を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のために，グリースを塗ります。



7. バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は 96 ページの ❸ を参照してください。

指定バッテリ……55B24R

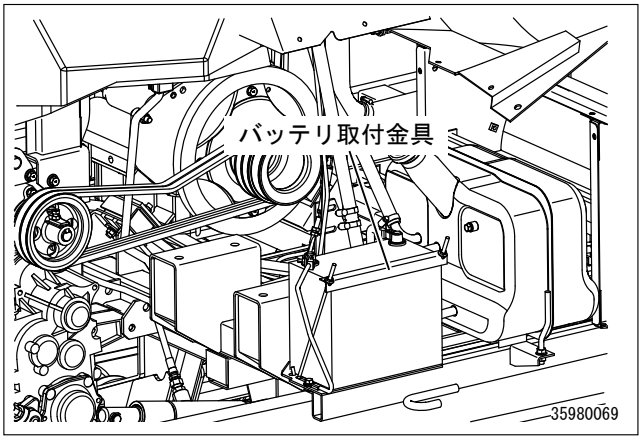
⚠危険 火災や傷害事故防止のために

- ブースターケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
- ブースターケーブルは，100A 以上の仕様のものを使用してください。
  容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
- バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
- バッテリを取外すときはバッテリ㊀コードを先にバッテリの㊀端子（アース側）から外し，次にバッテリ㊉コードを㊉端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ㊉コードを先にバッテリ㊉端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。
- ㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
- ㊉端子が機械に，接触しないようにしてください。
- 密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。
- バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。（補水が必要なバッテリ）
- ㊀端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。
- 「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電してください。（補水が必要なバッテリ）
- バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。（補水が必要なバッテリ）
  失明や火傷をすることがあります。
- バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
- バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。（補水が必要なバッテリ）
- バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。（補水が必要なバッテリ）
- 充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。（補水が必要なバッテリ）
- バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
- 衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタ等が摩耗し

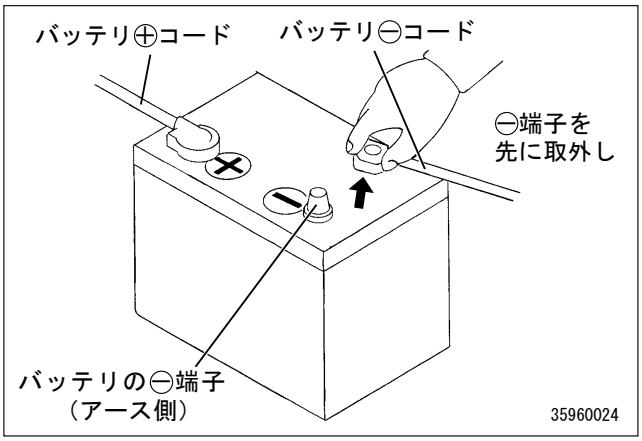
たり亀裂を起こすことがあります。
取付金具で，しっかり固定します。
取付金具等が腐食していれば取替えます。



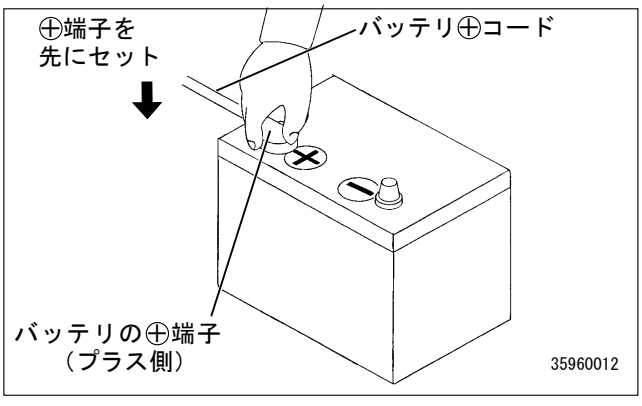
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを**「着脱」**したり充電器で**「充電」**する時は，エンジン停止し，スタータスイッチから**「キー」**を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外す時は**「⊖端子（アース側）」**を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットする時は**「⊕端子（プラス側）」**を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

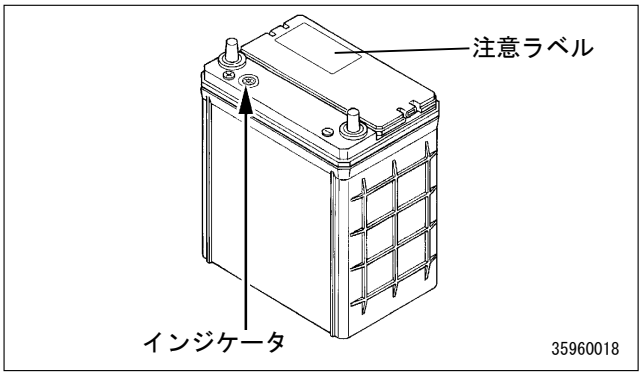
❸ バッテリの状態点検と，異常時の処理

(1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

- **インジケータは真上から確認してください。**



(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

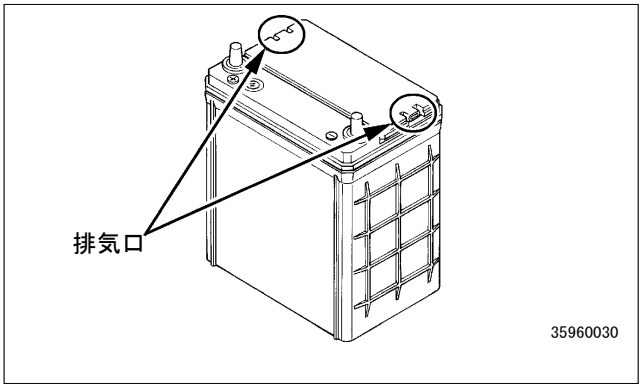
取扱いのポイント

- **液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。**

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- **排気口をふさぐと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリ内圧が上がり，破損する原因になります。**



❹ 補充電・交換

⚠危険

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- ・取外し・・・(－）端子側（アース側）から外す。
- ・取付け・・・(－）端子側（アース側）を最後に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠注意

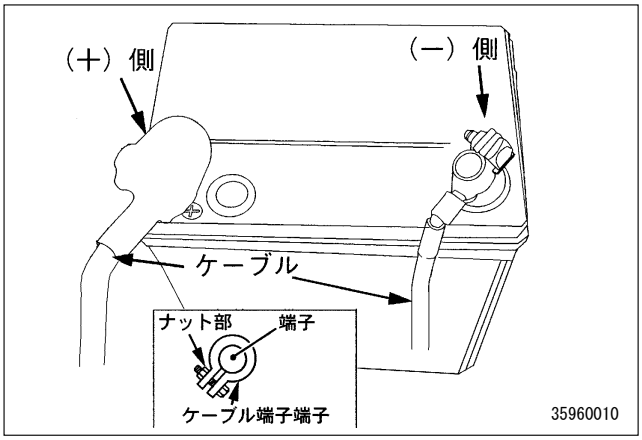
◆バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
- ・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- ・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。

(1) ナットをゆるめてフックを外します。

(2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



取扱いのポイント

●バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，火傷や衣服の損傷の原因となります。

2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
  バッテリ形式：55B24R
- バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。
- バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

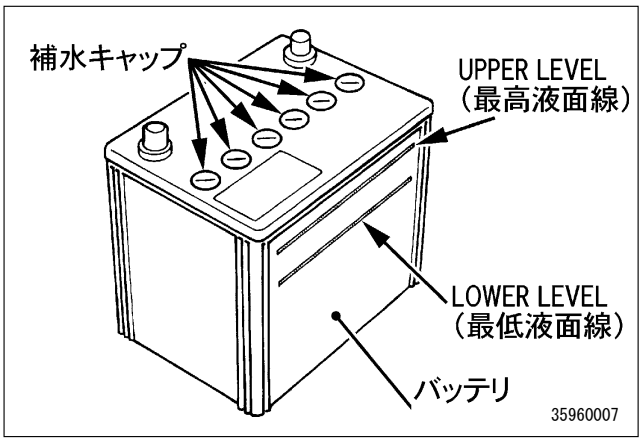
❺ 点検・補水

⚠危険

- ◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。
- ◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
  すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
- ◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。
- ◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。
- ◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
- ◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



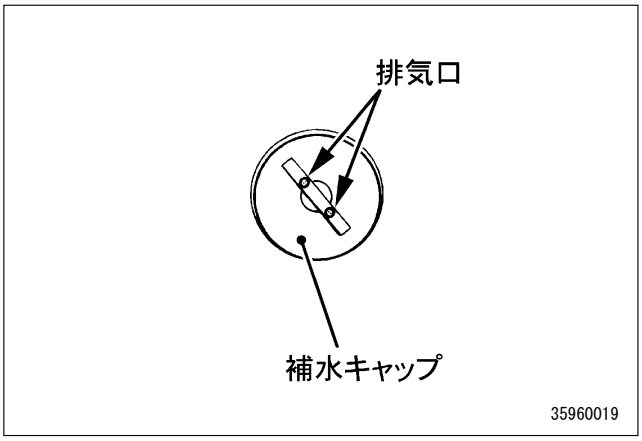
取扱いのポイント

- バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。
- バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2．補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- **排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスよりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。**



❻ 補充電

危険

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の(＋)側に,バッテリの(－)を充電器の(－)側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

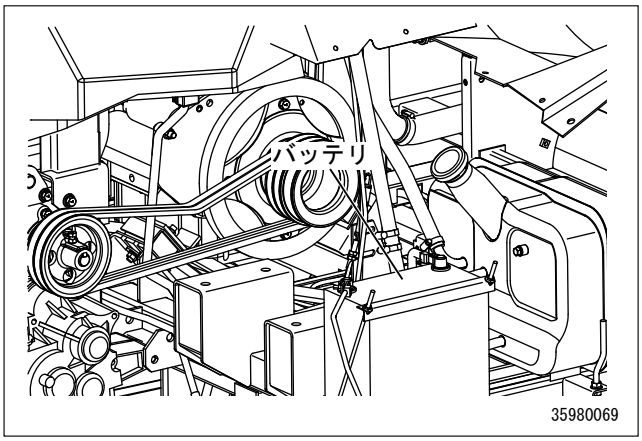
- **急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。**

2．補充電が終わったら補水キャップを全て取付けてください。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

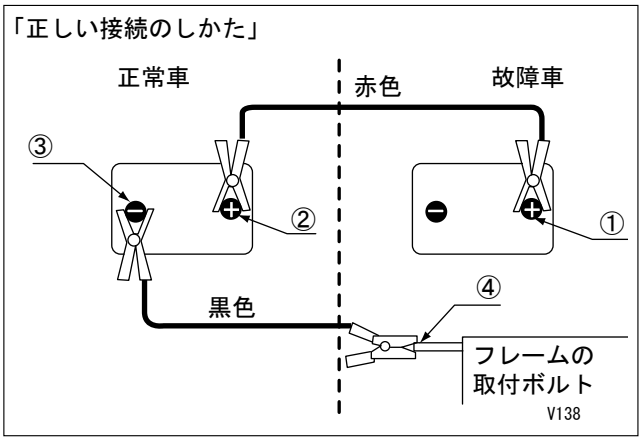
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V 仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

(1) 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

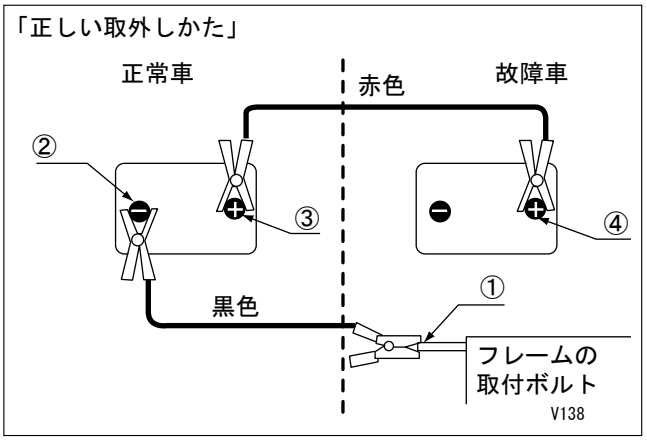


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付けボルトに接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



8. グレンタンクの回動のしかた

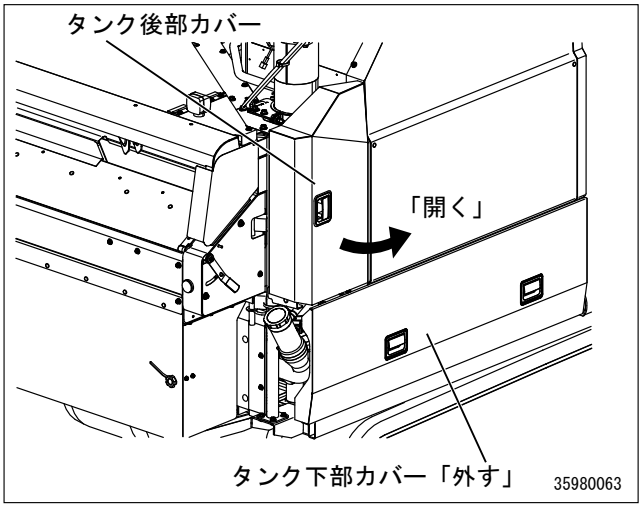
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
  タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。
- ◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行ってください。
- ◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。
- ◆作業後カバーを取付けてください。

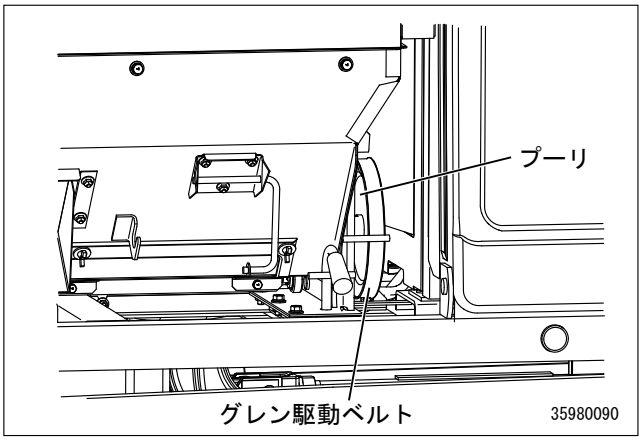
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して行います。

❶ タンク下部のカバーを取外します。

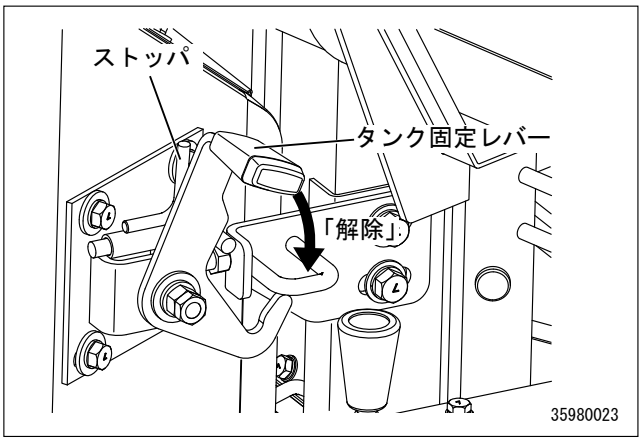
❷ タンク後部のカバーを開きます。



❸ グレン駆動ベルトをプーリより外します。



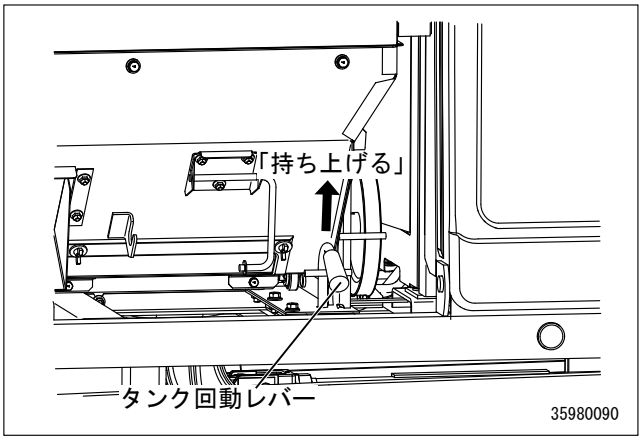
❹ タンク固定レバーのストッパを上げて，タンク固定レバーを解除します。



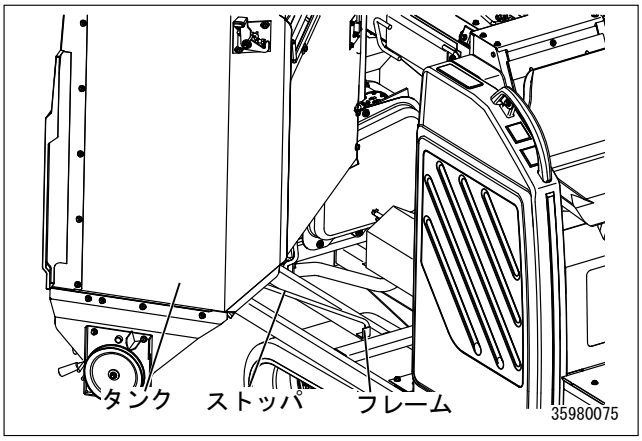
取扱いのポイント

- **グレンタンクを回動するときは，取説の順序通りに行ってください。順序通り行わないとタンク後部カバーが，破損，変形する恐れがあります。**

❺ タンク回動レバーを持上げながら，手前に引きタンクを回動します。

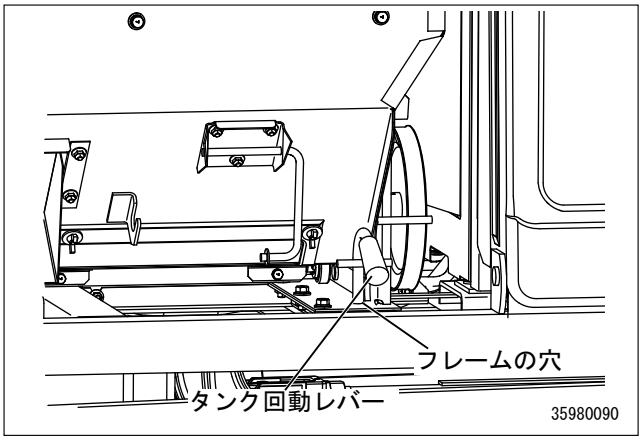


❻ タンクのストッパをフレームにかけます。



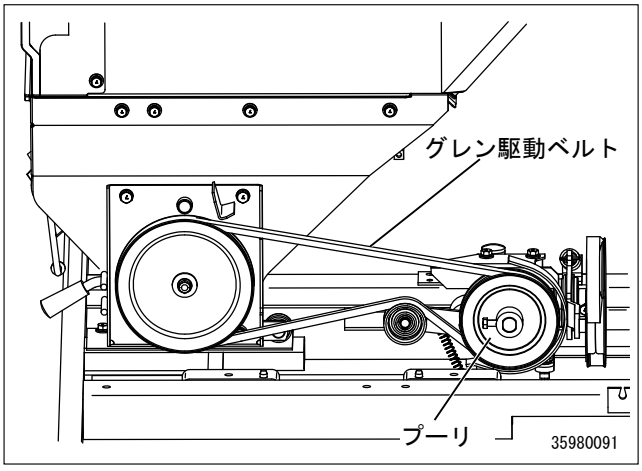
❼ 収納は逆の順序で行います。

❽ タンク収納は，タンクを戻すと，途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当たり回動しなくなりますので，タンク回動レバーを持上げながらタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押込みます。



取扱いのポイント

- **タンク収納後はベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。**



9. こぎ胴部の開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

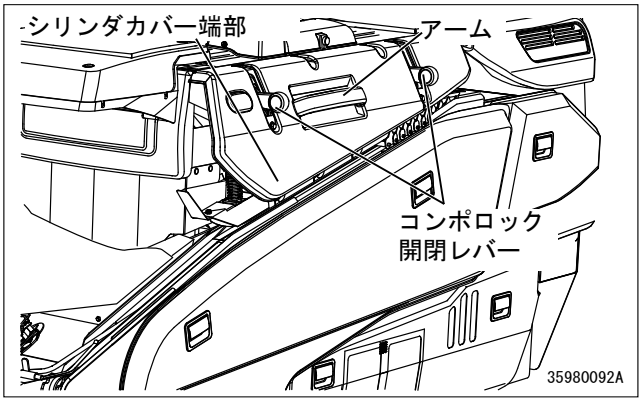
◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

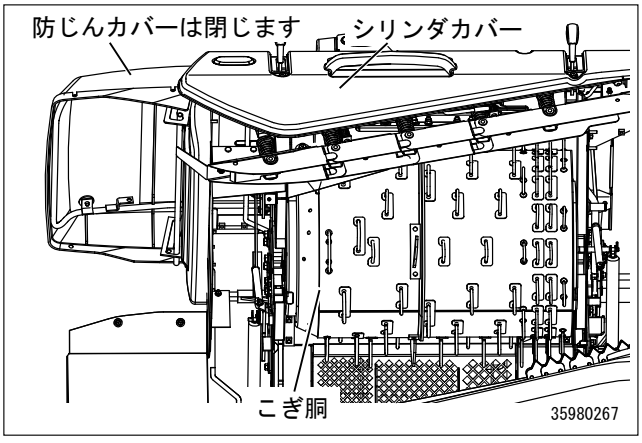
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

・こぎ胴を開くときは，防じんカバーを閉じます。

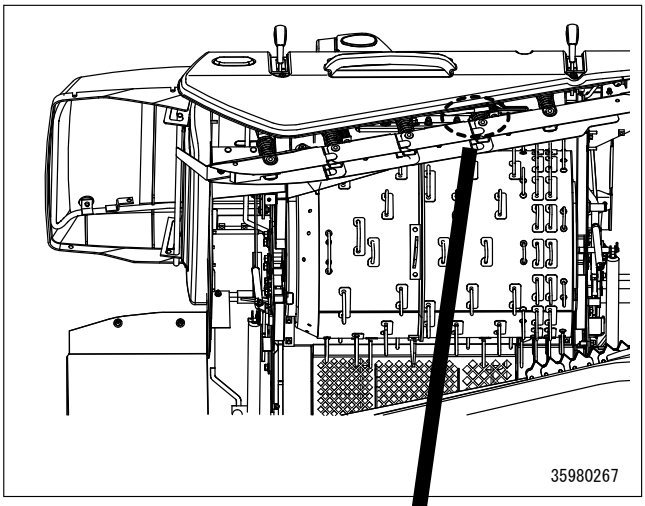
❶ ２本のコンポロック開閉レバーを持上げ**「固定」**を解除します。

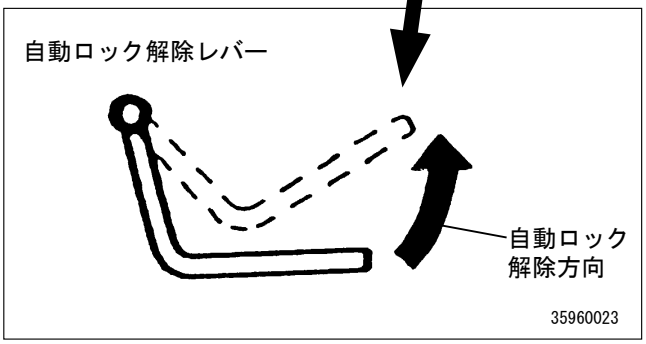


❷ シリンダカバーの端部を持ってこぎ胴部を持上げ，**「カチッ」**という音を確認してゆっくり手を離します。(こぎ胴部は自動的にロックされます)



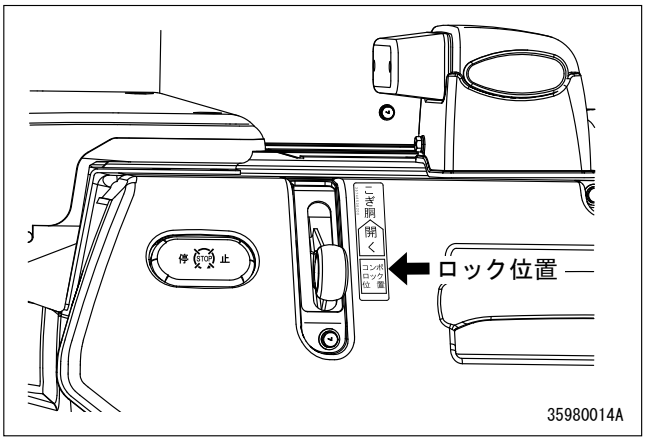
❸ こぎ胴部を閉める時は，シリンダカバー端部を持って，こぎ胴を一杯に持上げ，自動ロック解除レバーを矢印の方向に回動させてロックを解除してから，こぎ胴部をゆっくり下げます。





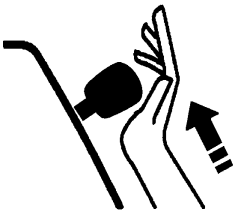
❹ アームを持ってこぎ胴部を一杯下げると自動固定します。(コンポロック開閉レバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください)

こぎ胴を閉めた時は，コンポロック開閉レバー（２ヶ所）を必ず下にさげて**《コンポロック位置》**にあることを確認します。



取扱いのポイント

- 防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損するおそれがありますので防じんカバーを閉じてください。[A 仕様]
- レバーを開く方向に操作する時はレバーをにぎらず，手のひらで押し上げてください。



35960034

10. 脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは互いに声をかけあい，安全を確認してから行ってください。
- ◆こぎ胴部は自動ロック位置まで確実に持上げてください。
- ◆作業後は，取外したカバー類は取付けてください。

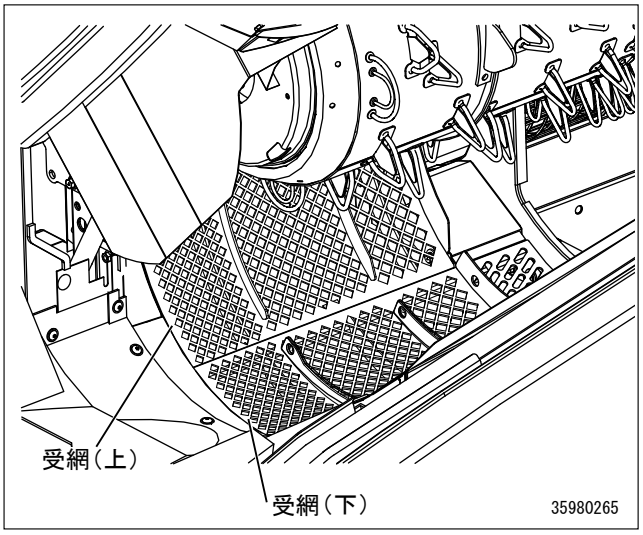
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

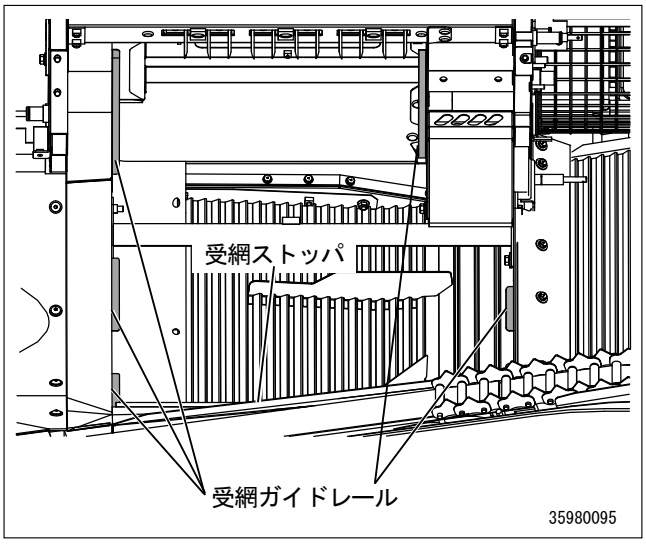
(1) こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。

(2) 受網（上）を外します。

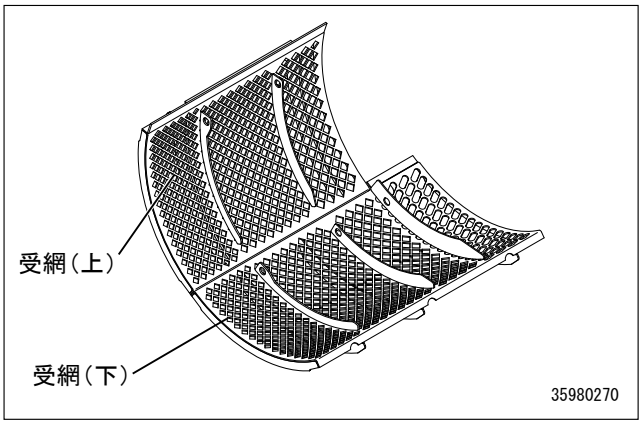
(3) 受網（下）を外します。



(4) 受網（上）・（下）を取付ける時は受網ガイドレール（５個所），受網ストッパのクズを取除きます。



(5) 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。



(6) こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

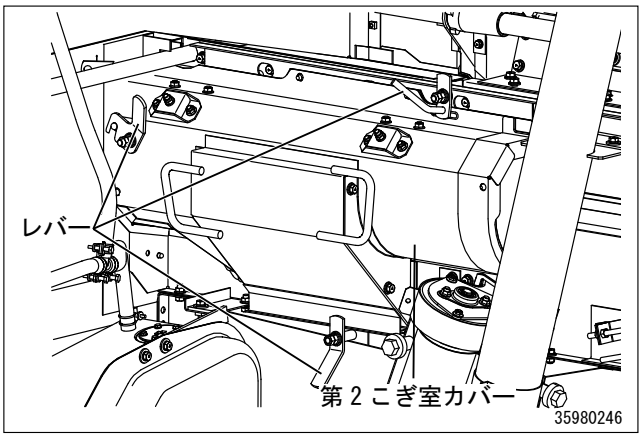
取扱いのポイント

- 長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。
- 受網ストッパおよび受網ガイドレール（６個所）にこく粒やワラクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に接当する場合がありますので掃除してください。

❷ 第２こぎ室の掃除

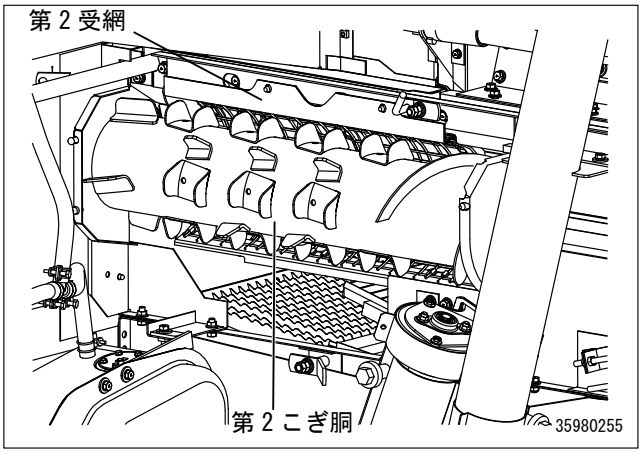
(1) グレンタンクを回動してください。(100 ～ 101 ページ参照)

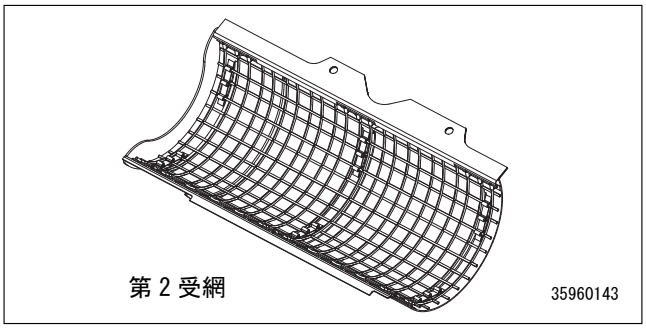
(2) 3 個のレバーを回し，第 2 こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



(3) 第 2 受網は，受網の上側から第 2 こぎ胴を回すようにして，取外します。

(4) 第 2 受網取付けは，逆の手順で取付けます。





(5) 第２こぎ室カバーを取付けます。

取扱いのポイント

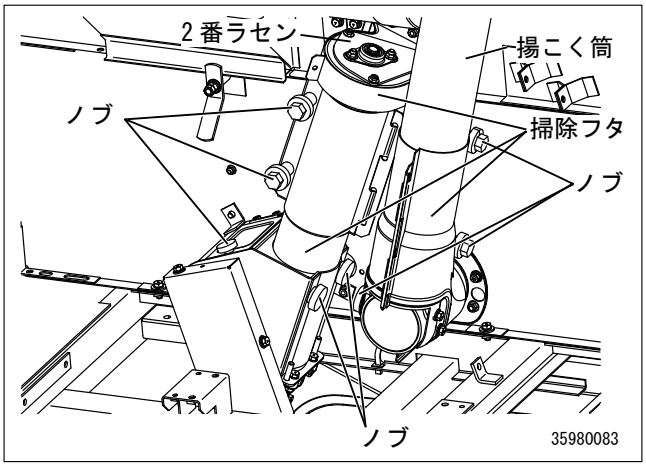
- 長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。

(6) グレンタンクを閉じます。
(100 ～ 101 ページ参照)

❸ 揚こくラセン部・2 番ラセン部の掃除

(1) グレンタンクを回動してください。
(100 ～ 101 ページ参照)

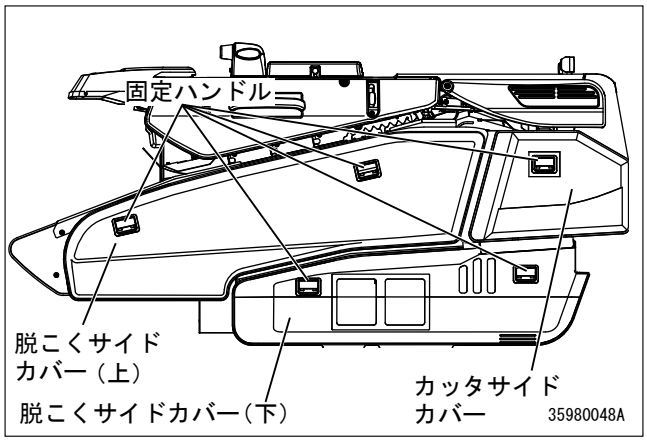
(2) ノブを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。



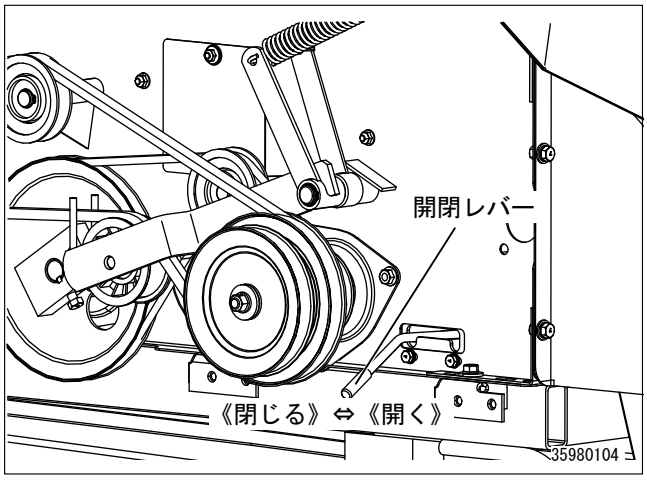
(3) 掃除後は，掃除フタを取付け，ノブで締付けます。
グレンタンクを閉じます。
(100 ～ 101 ページ参照)

❹ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。



(2) 開閉レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。



(3) 掃除後は開閉レバーを《閉じる》位置に戻します。

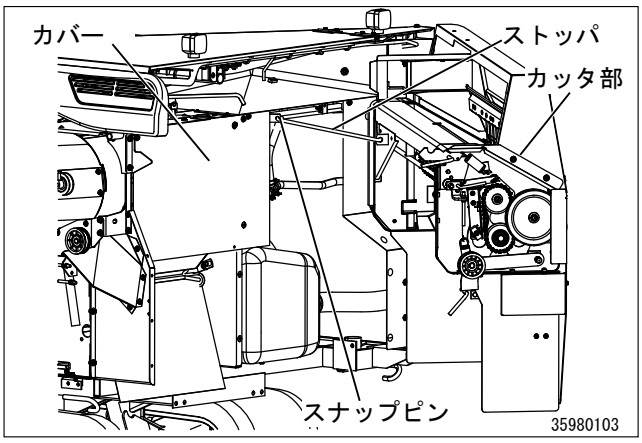
(4) 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

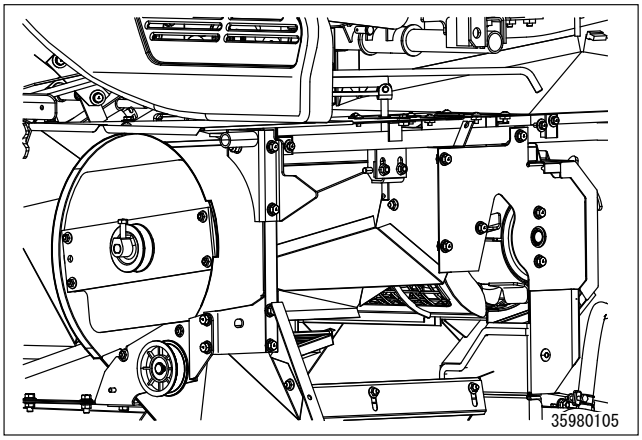
- **掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いているとこく粒がもれます。**

❺ 排じん室の掃除

(1) カッタを開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。（106 ～ 107 ページ参照）



(2) カバーをめくり排じん室のワラクズ等を掃除します。



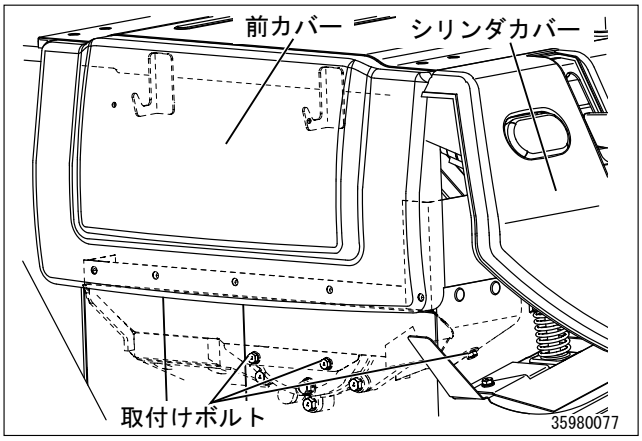
(3) カッタを閉じます。（106 ～ 107 ページ参照）

❻ こぎ胴ギヤケースの掃除

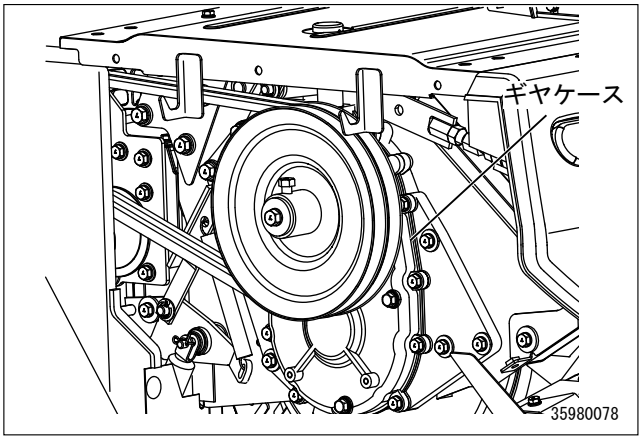
(1) 防じんカバーを取外します。[A 仕様]

(2) 前カバーを取付けているボルトを外します。

(3) シリンダカバーをオープンし，ボルトを外します。（102 ～ 103 ページ参照）



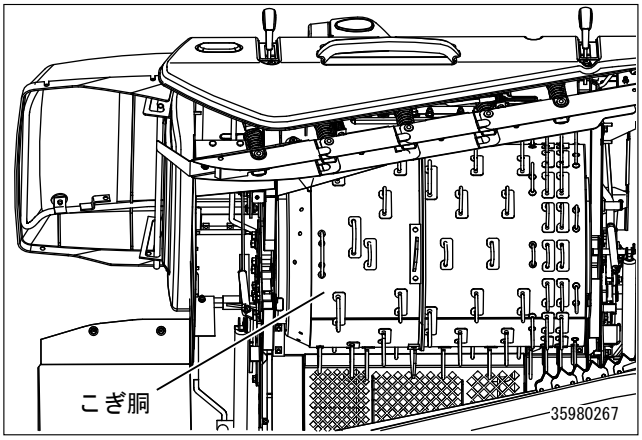
(4) カバー内の掃除を行い，カバー類を取付けシリンダカバーを閉じます。



❼ 脱こくこぎ室の掃除

コンポ（こぎ胴）をオープンします。

こぎ室を掃除し，こぎ胴を閉じます。

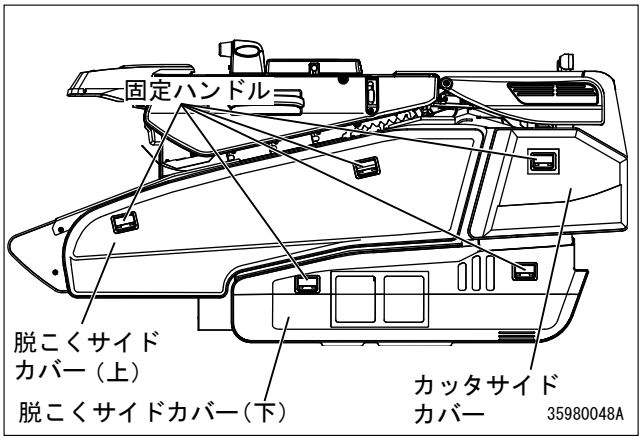


11. カッタ部のオープンのしかた

⚠危険 傷害事故防止のために

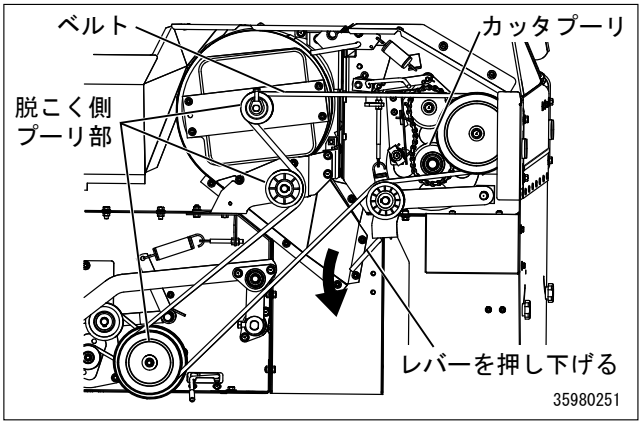
- ◆カッタをオープンする時は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
- ◆カッタをオープンして点検作業等をする時は，ストッパをかけ，固定状態にしてください。
  ストッパを固定状態にしないとカッタが回動して障害事故を起こすことがあります。
- ◆カッタをオープンした時はカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 固定ハンドルを持上げて脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



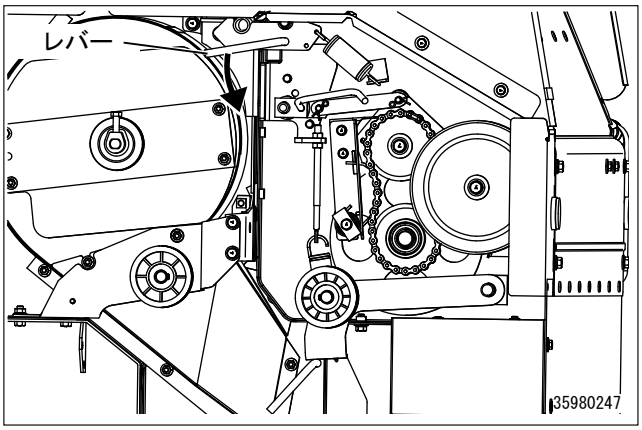
❷ レバーを押し下げ，ベルトの張りを解除します。

❸ ベルトを脱こく側プーリ部より外します。

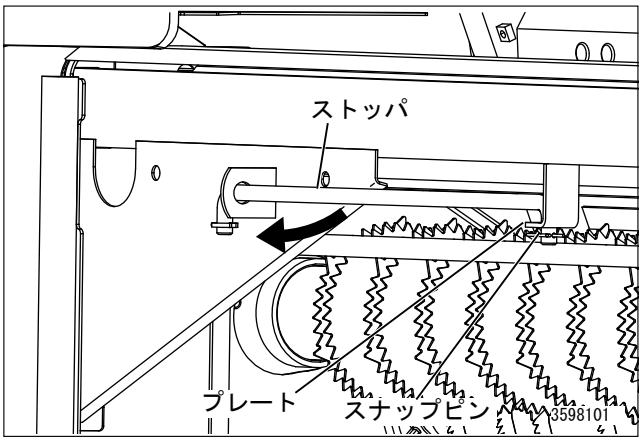


❹ レバーを引き下げ固定（ロック）を解除します。

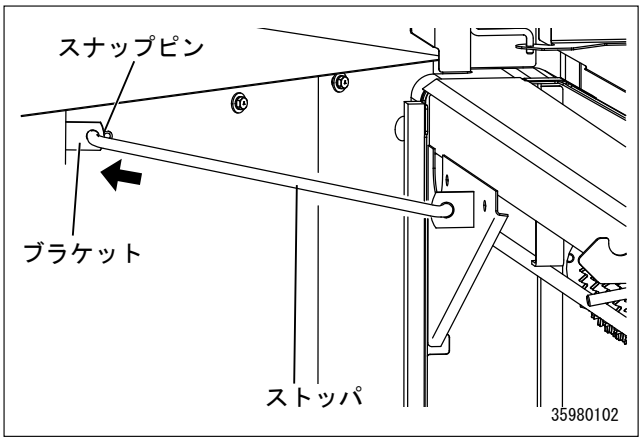
❺ カッタフレームを少し上方へ持上げながら，後方へオープンします。



❻ カッタについているストッパのスナップピンを外し，プレートから外して矢印の方向に回動させます。



❼ ストッパ先端をブラケットの穴に入れ，スナップピンを差込み固定状態にします。



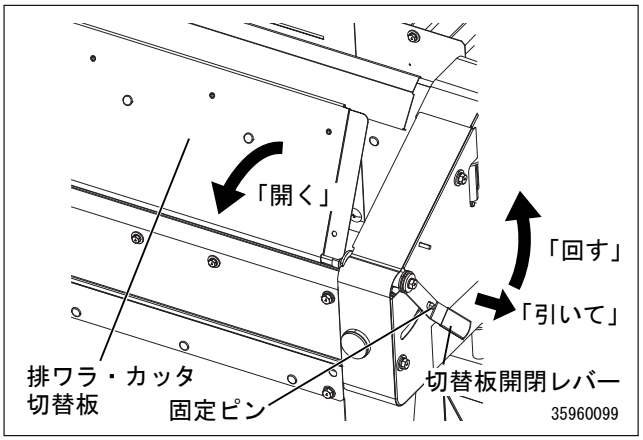
❽ カッタを閉じる時は，逆の手順で行います。（❼ → ❶ の手順）

❾ **切替板の開閉**

⚠危険 傷害事故防止のために

◆切替板開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

切替板開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替板を倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認します。



・確認後は逆の手順で元どおりにします。

取扱いのポイント

- **切替板が開いていると，排ワラランプが点灯しています。エンジン始動はできますが，脱こく・刈取クラッチを脱こく《入》にするとエンジンが停止しますので必ず切替板は作業後は閉じてください。**

12. 揺動流板の掃除

⚠注意　傷害事故防止のために

◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

❶ 揺動流板の取外しかた

(1) 脱こくサイドカバー（上)，(下)，カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。(106 ページ参照)

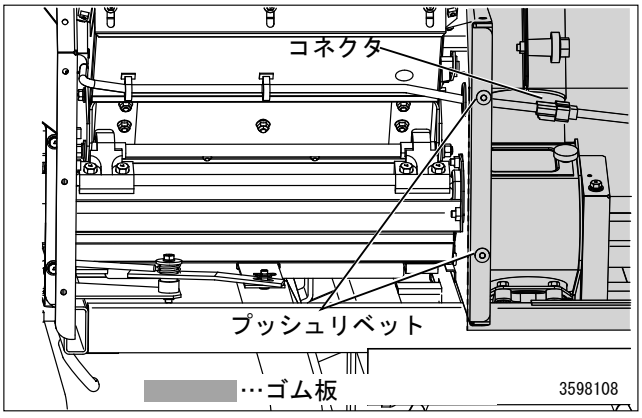
(2) カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。
(106 ～ 107 ページ参照)

(3) 揺動流板を取り外します。

① 受網（上)，(下）を外しておきます。
(103 ～ 104 ページ参照)

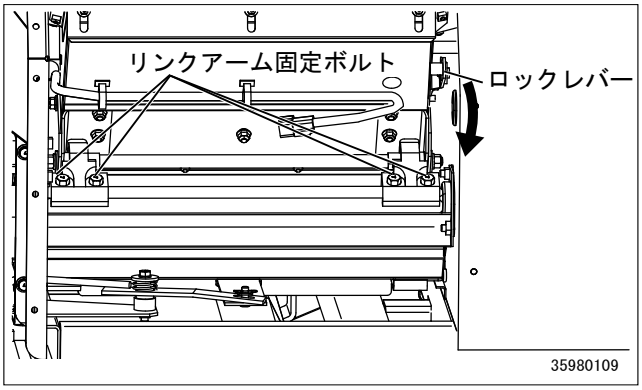
② ゴム板を取付けているプッシュリベット(2個）を外し，ゴム板をめくり配線のコネクタを外します。

・プッシュリベットは中央の PUSH を押して外します。



③ 配線を揺動流板側へ引出します。

④ 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外します。

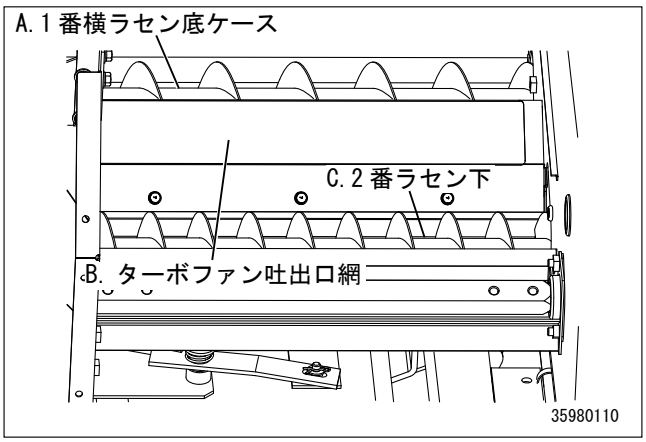


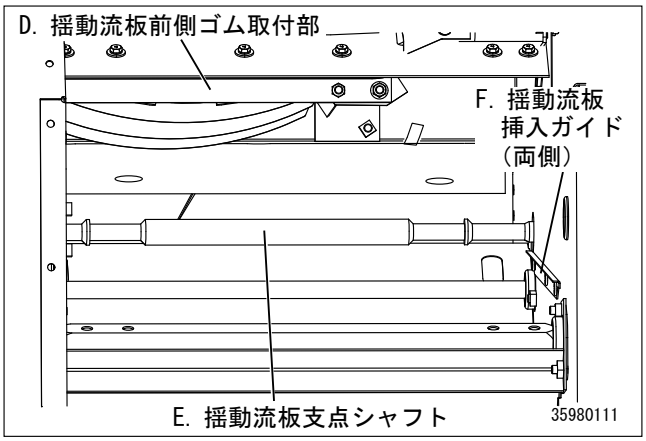
⑤ 揺動流板後部右側のロックレバーを矢印の方向に回動させます。

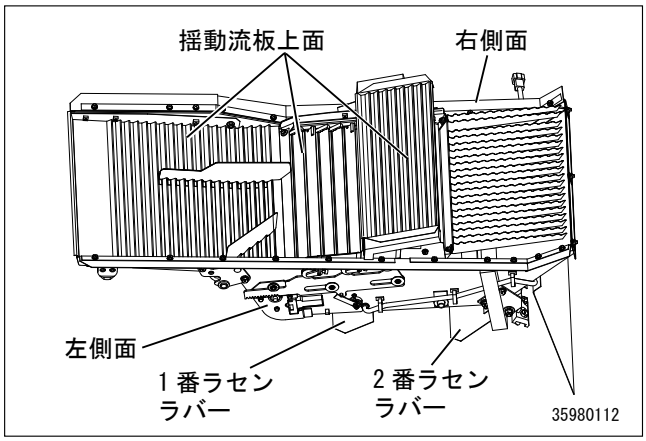
⑥ 揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。

❷ 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を取外した後の脱こく内部 A ～ F と揺動流板上面および左右側面を掃除します。

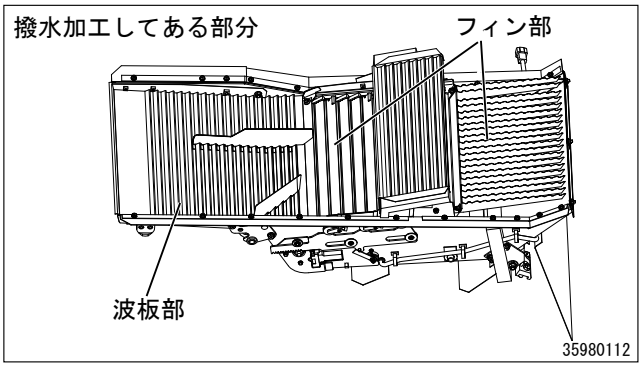






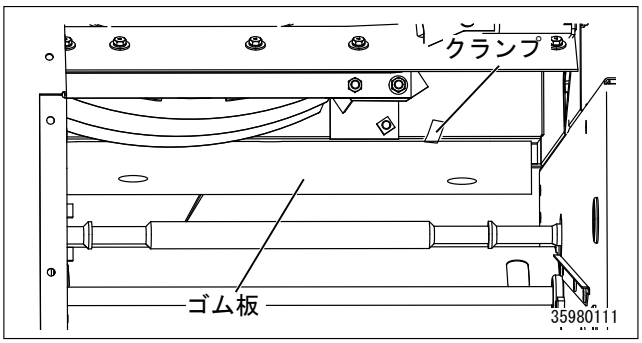
取扱いのポイント

- S仕様において，使用条件により部分的に撥水塗料がはがれる場合がありますが，極端な機能低下とはなりませんので継続してご使用ください。
  尚，撥水塗料が全体的にはがれた場合が交換の目安となります。



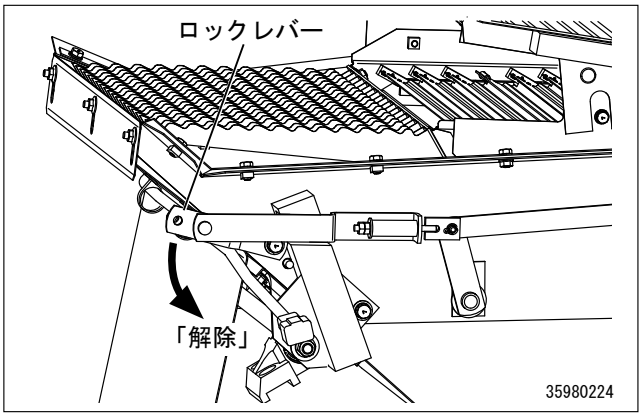
❸ 揺動流板の取付けかた（2人作業）

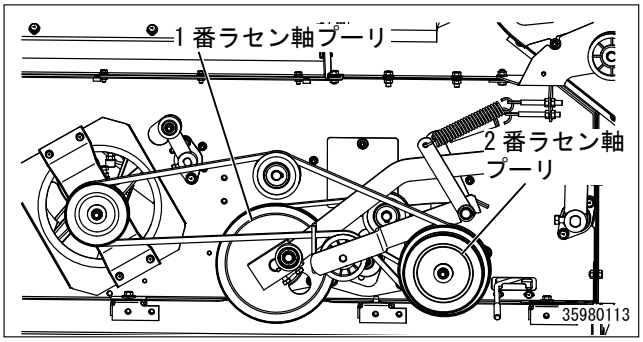
(1) 揺動流板前方のゴム板を持上げて，ゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板の噛込みを防ぐため)



(2) 揺動流板を組付けます。

① 揺動流板後方右側のロックレバーを**「解除」**位置にし，1番ラセン軸（1番軸）のプーリを下図の位置になるように回します。

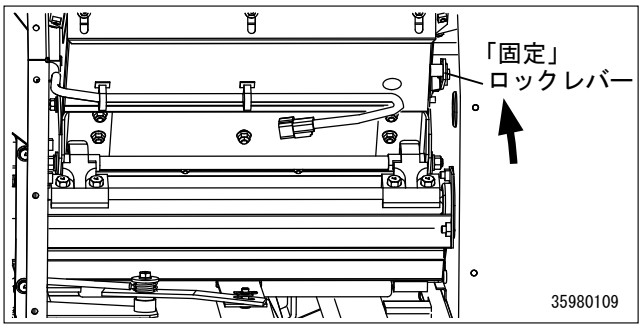




② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端をのせ,少しずつ押込んでいきます。

取扱いのポイント

- 揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押し込んでください。(ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押し付けてください)



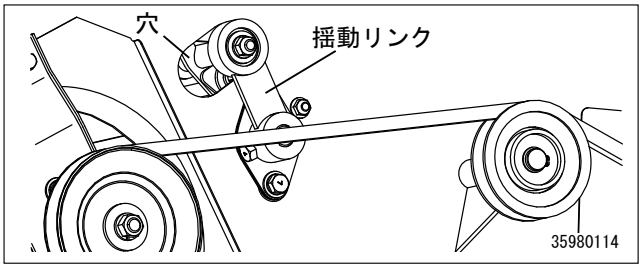
③ 1番ラセン軸のプーリを回し揺動流板を奥（セット位置）まで送ります。

④ ロックレバーを**「固定」**位置にします。

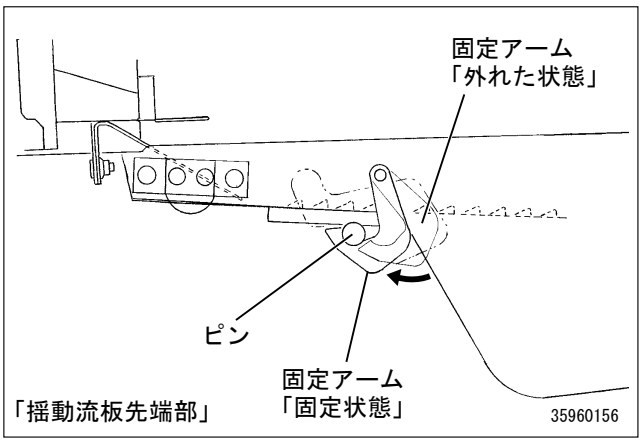
取扱いのポイント

- **揺動流板がセット（固定）されていない時は，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがありロック（固定）しません。この状態の時は再度セットし直してください。(① から)**

⑤ 揺動リンクの穴から内部をのぞきます。
(揺動流板の固定アームが見えます)



⑥ 固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。

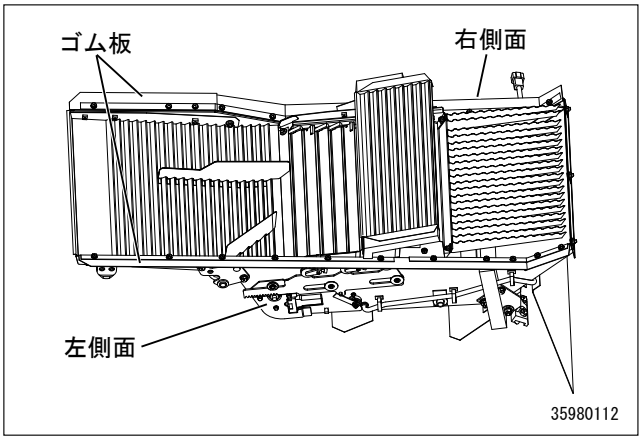


⑦ 右側も同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。(タンクオープンして確認します)

取扱いのポイント

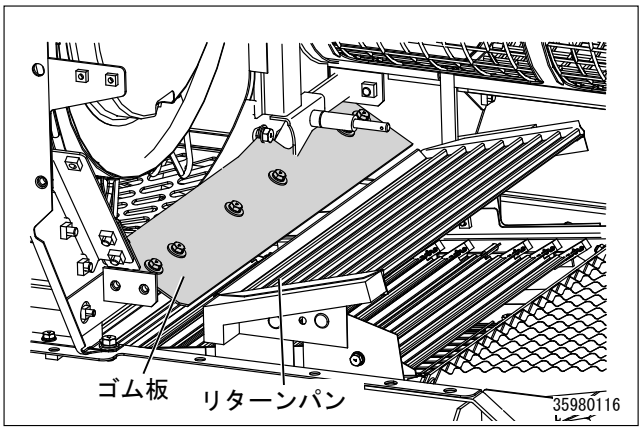
- **固定アームがピンから外れている場合は再度セットし直してください。（① から）**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

⑧ 揺動粒板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。



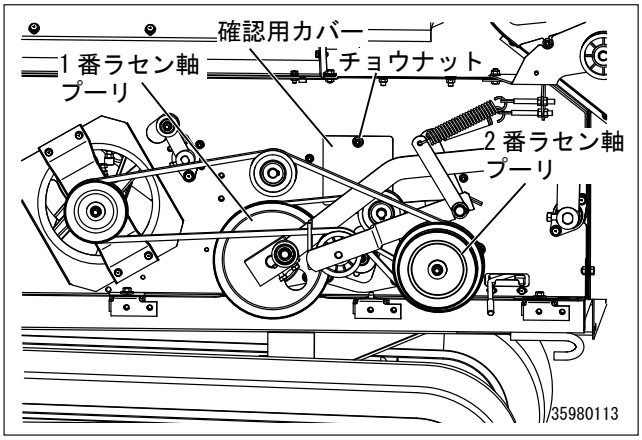
取扱いのポイント

- **こぎ室後側板のゴム板が，揺動流板のリターンパンにはさみ込まれないよう挿入します。**



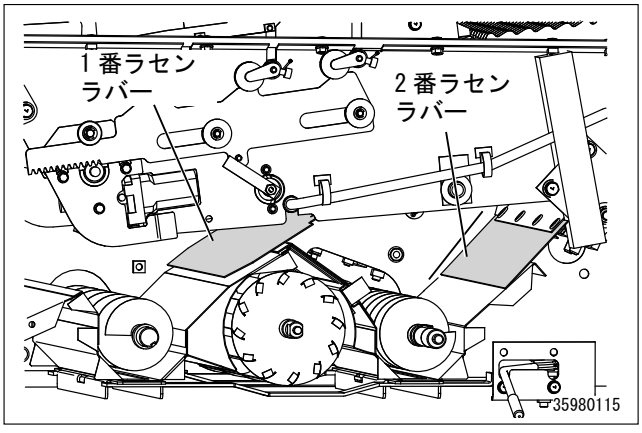
⑨ 揺動流板下部の１番ラセンラバーが折曲がっていないことを確認します。

1）チョウナットを外し，確認用のカバーを外します。



2）目視でラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていた場合は，ドライバなどを使用し曲がりを直します。(１番ラセンの斜面部に収まっているか確認する。)

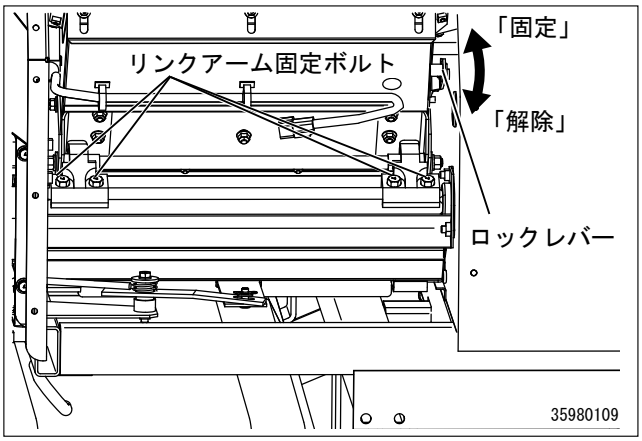
3）揺動流板後部からみて２番ラセンラバーが２番ラセンの斜面部に収まっているか確認し，収まっていない場合は，手で押し込んでください。



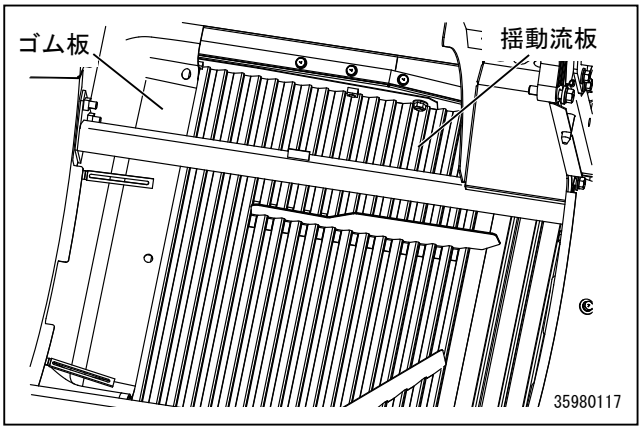
取扱いのポイント

- **ゴム板，ラバーは正常に組まないとこく粒もれの原因となります。**

⑪ 揺動後部のリンク部の固定ボルト左右各 2 個を締付けます。

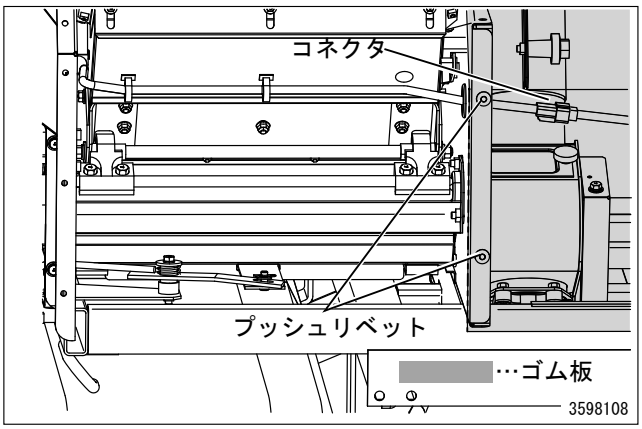


⑫ ❸(1)で固定したゴム板をクランプから外し，揺動流板の上にのせます。



⑬ 配線をゴムの付いた穴部（グロメット）を通してコネクタを接続します。

ゴム板をプッシュリベット (2 個) で取付けます。



⑭ カッタを収納します。(閉じます)

⑮ 受網（上)，(下）を取付けます。

⑯ 外したベルトを取付け，脱こくサイドカバー（上)，(下)，カッタサイドカバーを取付けます。

⑰ こぎ胴部を閉じます。

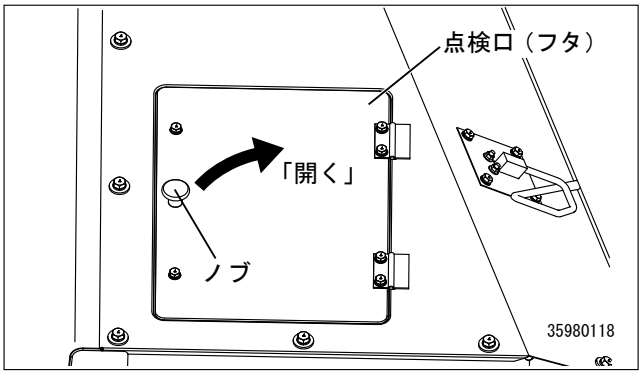
13. グレンタンク部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

- **◆ グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し各部の動きが止まってから行ってください。**
- **◆ 作業後カバーを取付けてください。**

❶ グレンタンク内の掃除

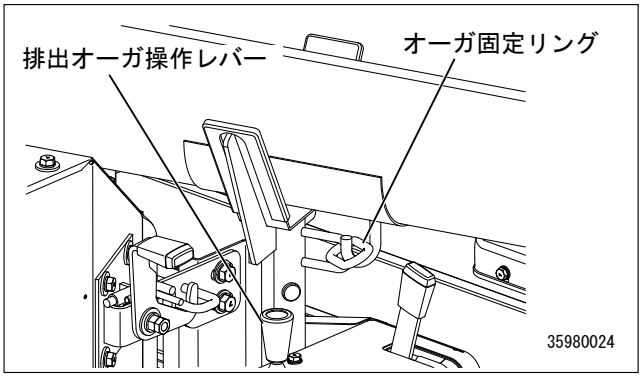
グレンタンク上部の点検口を開き内部を確認し，必要によりホウキ等でホコリを払います。



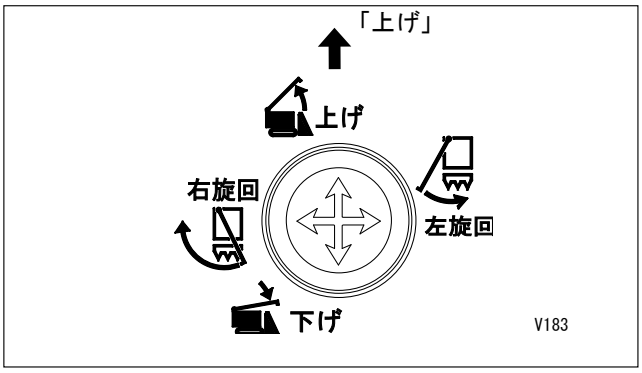
❷ 縦ラセン筒上部の掃除

(1) エンジンを始動します。

(2) オーガ固定リングを外します。



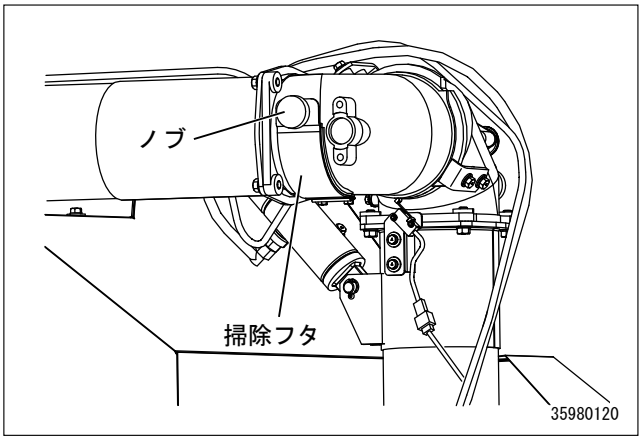
(3) 排出オーガ操作レバーでオーガを上げます。

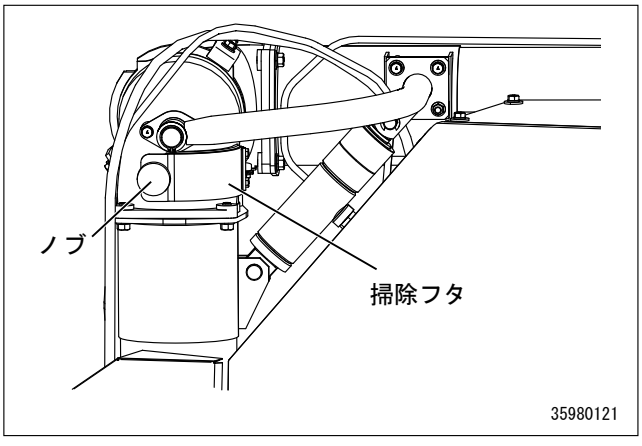


(4) エンジンを停止します。

(5) 上部ラセン掃除フタ（2ヶ所）のノブをゆるめてフタを開きます。

(6) 内部を掃除します。



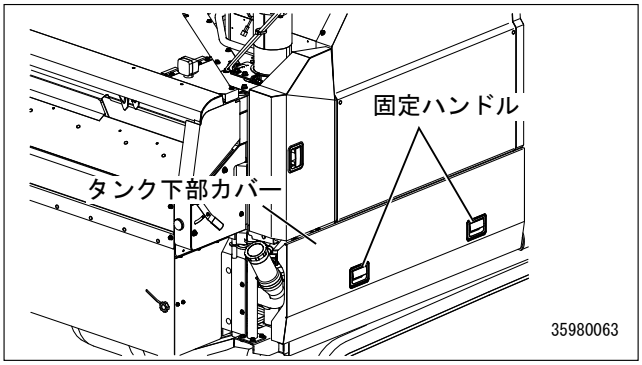


(7) 掃除を終わったら掃除フタを閉めエンジンを始動し，オーガを収納します。

(8) オーガ固定リングを掛けます。

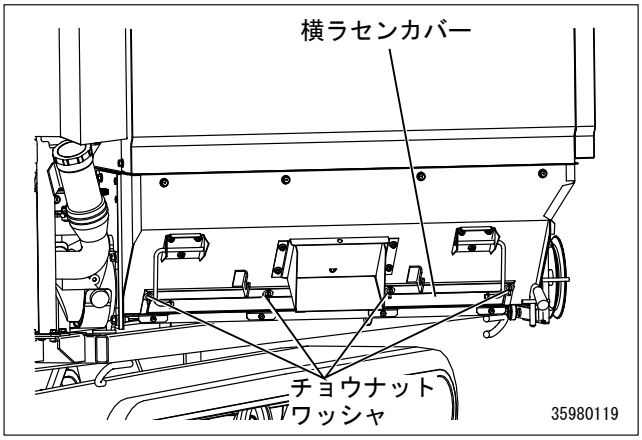
❸ 横ラセン部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーの固定ハンドルを引き，カバーを取外します。



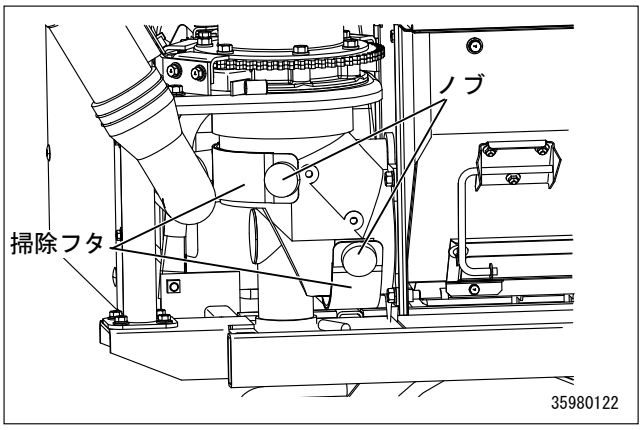
(2) グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)

チョウナット，ワッシャ（各 4 個）を外し，横ラセンカバーを開いて掃除します。



❹ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) ノブ（2ヶ）をゆるめ縦ラセン下部の掃除フタ（2個所）を開いて，掃除します。



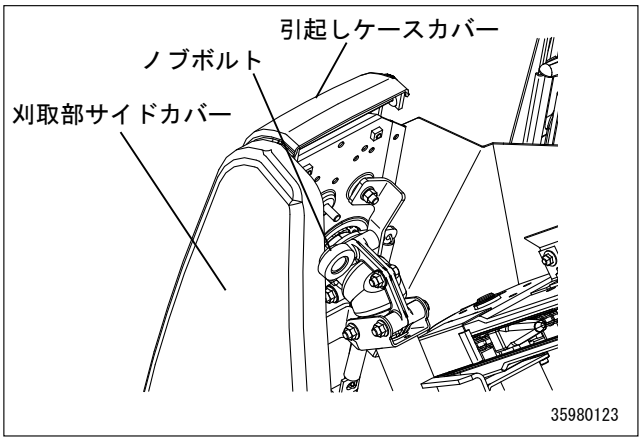
(2) 掃除後は，掃除フタを閉め，横ラセンカバー，グレンタンク下部カバーを取付けます。
(3) グレンタンクを閉じます。

取扱いのポイント

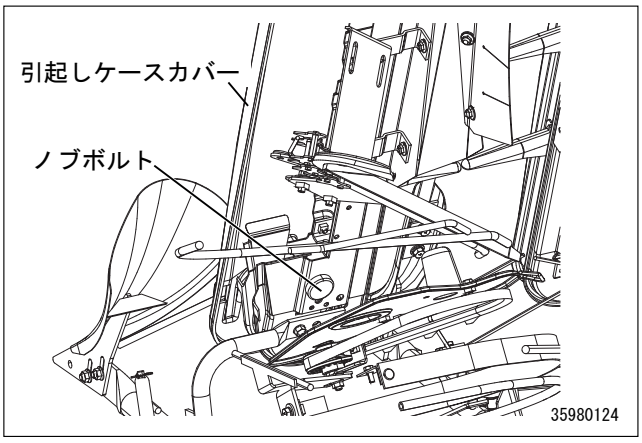
- **各掃除フタ（カバー）はこく粒のかみ込み等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。**

14. 引起しケースカバーの外しかた

❶ 引起しケースの上方のノブボルトをゆるめて外し，刈取部サイドカバーを上方に引き，取外します。



❷ 引起しケースの下方のノブボルトを外し，引起しケースカバーを上方に引き,取外します。



❸ 掃除等の作業後，カバーを取付けてください。

取扱いのポイント

- **サイドカバーを取付けるとき，爪がカバーに食い込まないようにしてください。**

4. 各部の点検と部品交換のしかた

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

- ◆カッタをオープンして，カッタ刃組品の取外し分解をする時は，エンジンを停止し，平坦な場所に機械を置いて行ってください。
- ◆カッタはストッパをかけ固定状態にしてください。
- ◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し，２人作業で合図をし合って行ってください。
- ◆ノコ刃を交換する時は，刃に「あて布」を被せてください。
- ◆ノコ刃軸，カキコミ軸のナットをゆるめる時は，メガネレンチ等で確実に固定してください。
- ◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。

⚠注意

本取扱説明書は「D333-17・D433-17」を基本として説明します。マルチカッタ「DMS333・DMY433」と手順が異なる場合は，都度「DMS333・DMY433」の手順として記載します。

❶ ノコ刃軸組品の取外し

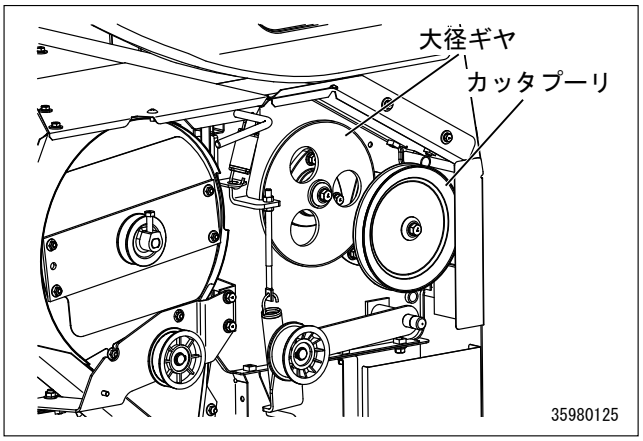
ノコ刃組品の取外しを行う場合，Ⓐ とⒷの二通りの方法があります。

Ⓐ「カッタ前面より行う方法」（カッタオープン状態）
…カッタ後方に作業機が着いている場合

Ⓑ「カッタ後方より行う方法」
…カッタ後方に作業機がない場合

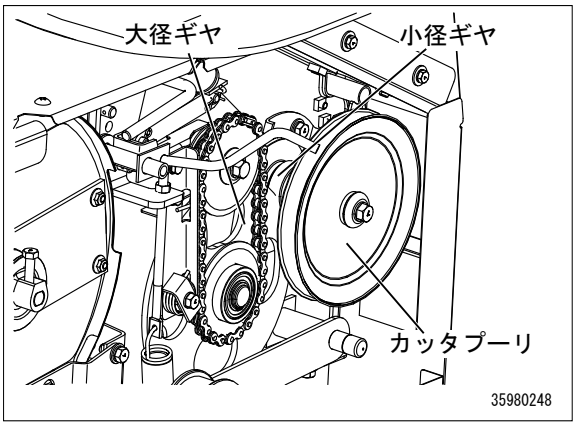
Ⓐ「カッタ前面よりノコ刃軸組品の取外しを行う方法」

① 大径ギヤの穴にM8用ボックスを入れ，軸を固定し，カッタプーリを外します。

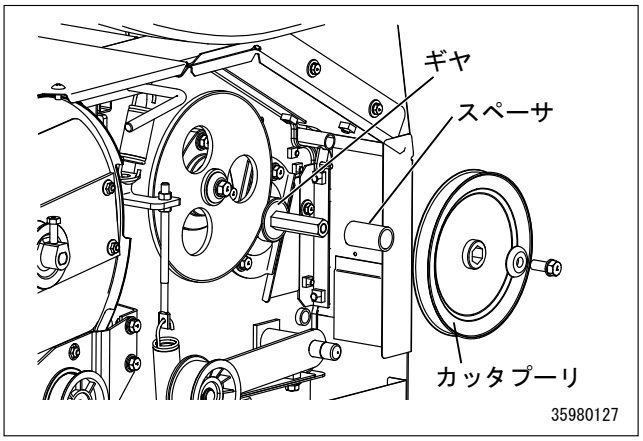


「DMS333」の場合

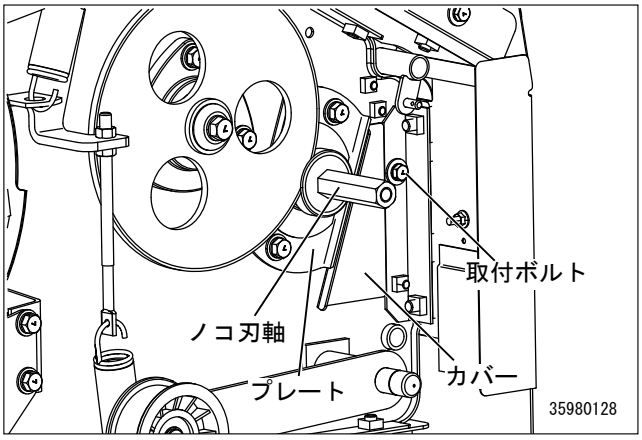
※ 大径ギヤ，小型ギヤをロックさせ，軸を固定し，カッタプーリを外します。

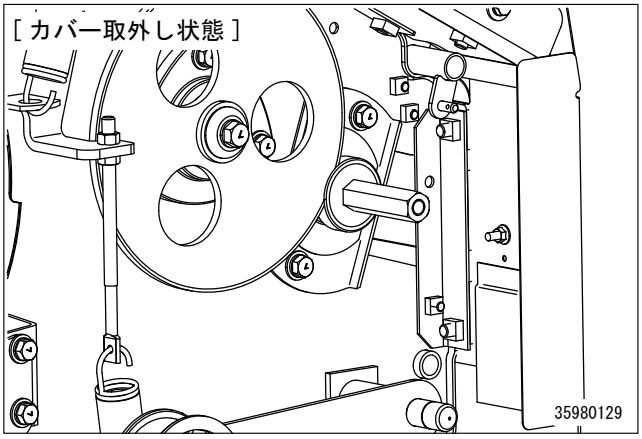


② スペーサとギヤを外します。

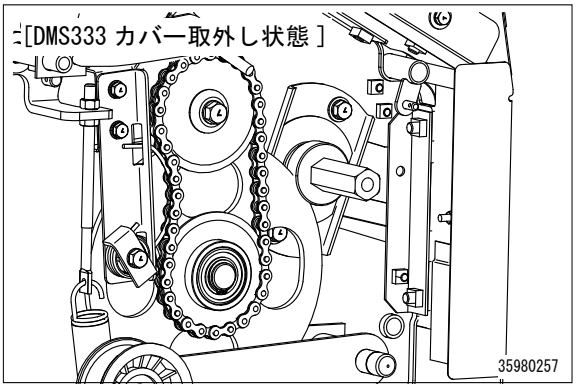


③　カバー取付けボルト（1 個）を外し，ノコ刃軸後方のカバーを外します。

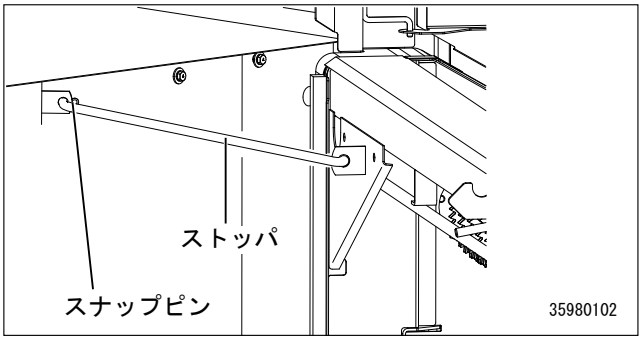




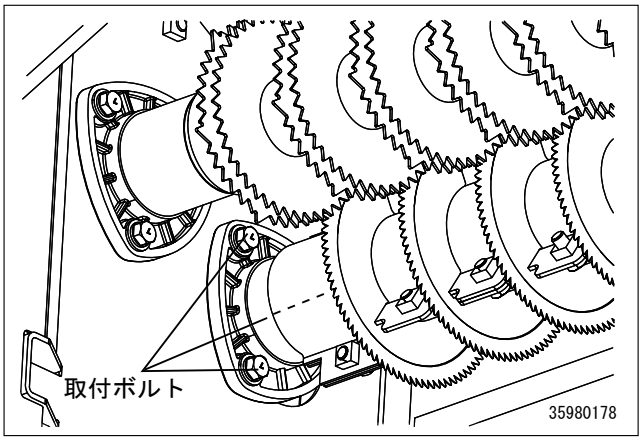
「DMS333」の場合



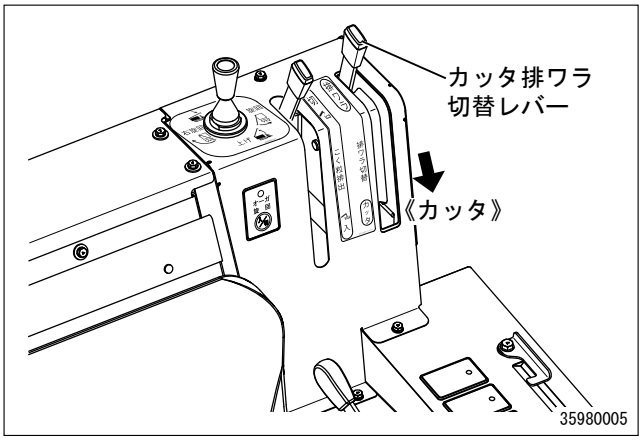
④　カッタをオープンし，ストッパをかけ，スナップピンで固定します。



⑤　メタルの取付ボルト（3 個所）を外します。

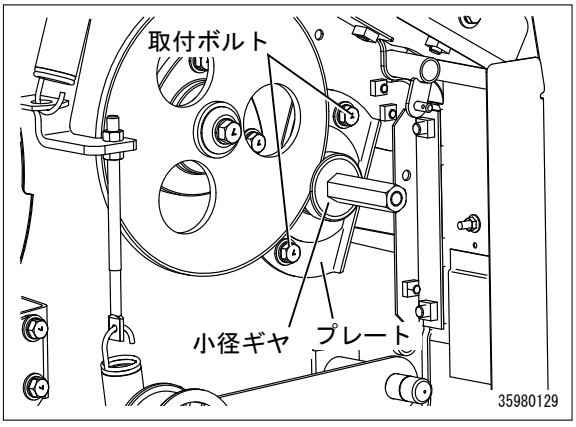


⑥　カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にし，カッタ部カバーをオープンします。

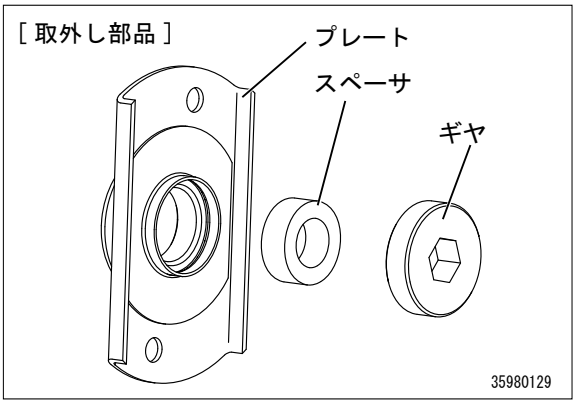


⑦「D333 型・D433 型カッタ」の場合

※　取付ボルトを外して，プレート，小径ギヤを取外します。



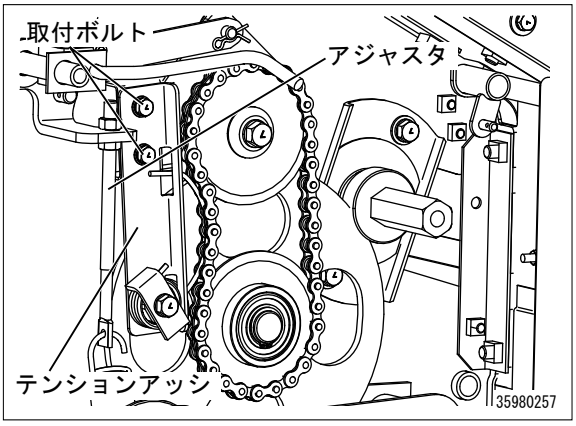
「D333 型･D433 型カッタ」の場合（つづき）

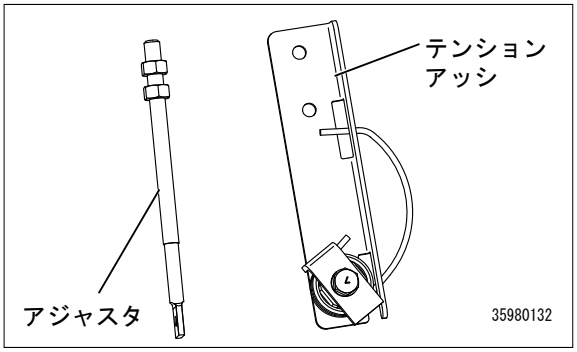


⑦「DMS333 型・DMY433 型
マルチカッタ」の場合

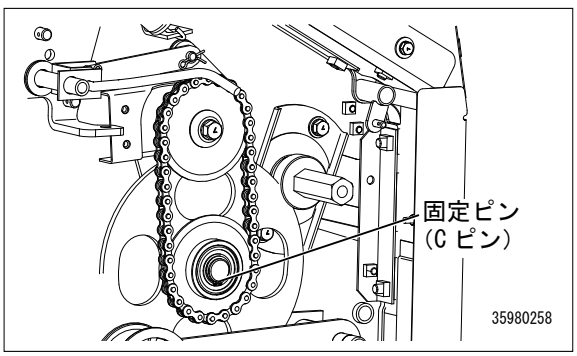
(1) テンションのアジャスタを外します。

(2) テンションアッシを外します。



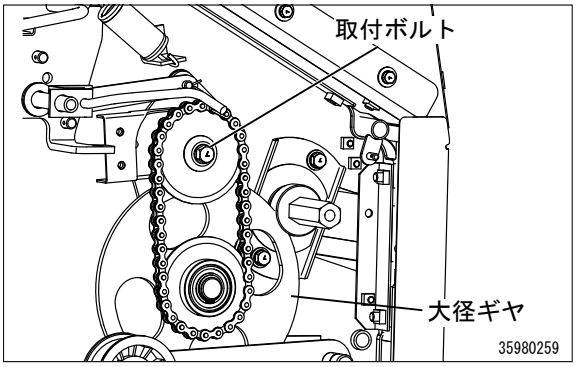


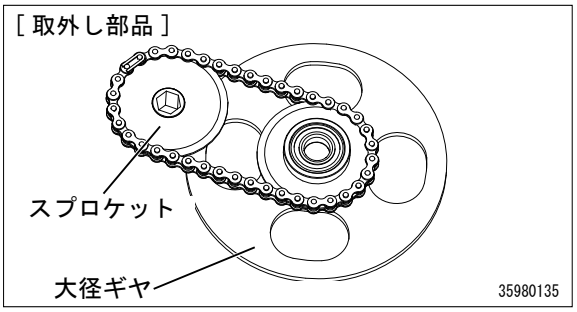
(3) ギヤの固定ピン（C ピン）を外します。



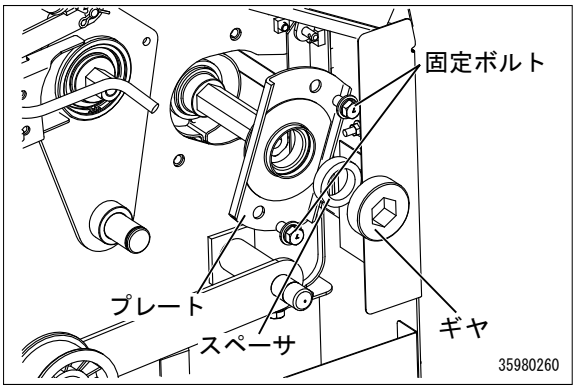
「DMS333 型・DMY433 型
マルチカッタ」の場合（つづき）

(4) 大径ギヤが回らないように，ボックスレンチで固定しながら，スプロケットの取付ボルトを外し，スプロケット，ギヤを一緒に引きぬきます。

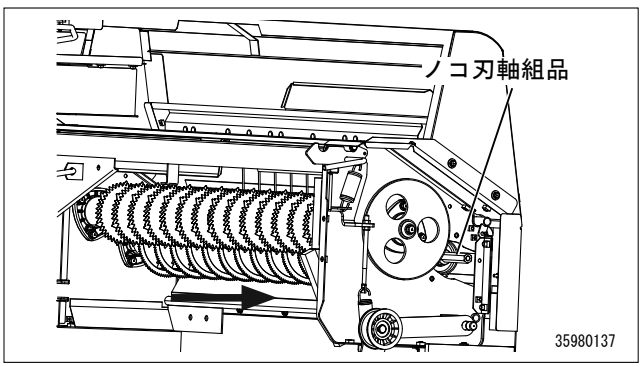




(5) 固定ボルトを外してプレート，ギヤ，スペーサを外します。

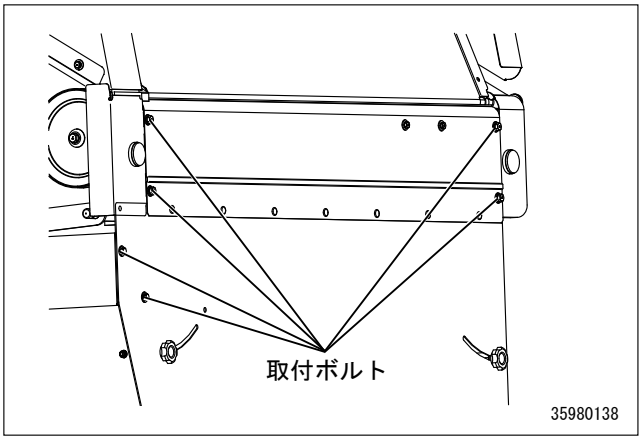


⑧ ノコ刃軸組品を矢印方向へずらしながら 取外します。

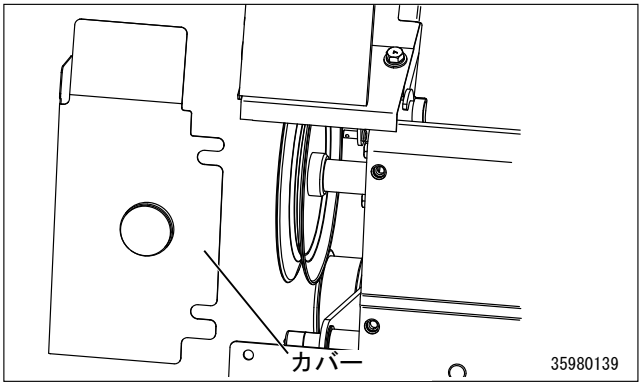


Ⓑ「カッタ後方よりノコ刃軸組品の取外しを行う方法」

① カッタ背面のカバーの取付ボルト(６個)を外します。

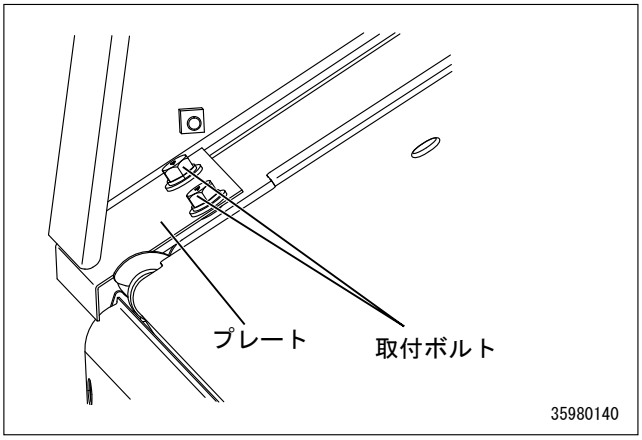


② 背面カバー左下のカバーを取り外します。

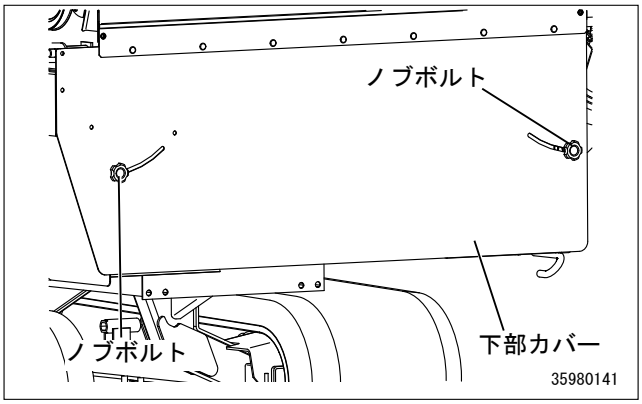


③ カッタ・排ワラ切替レバーを**《排ワラ》**位置にします。

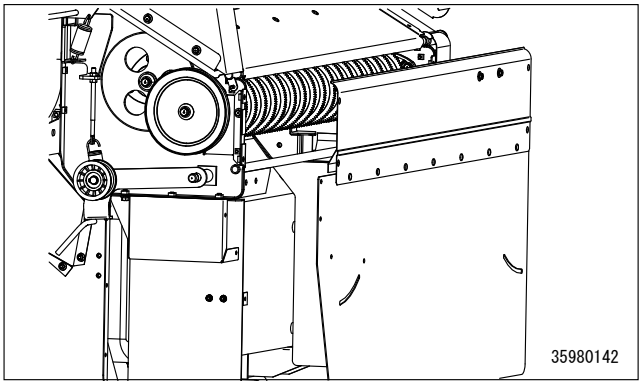
④ プレートを取外します。



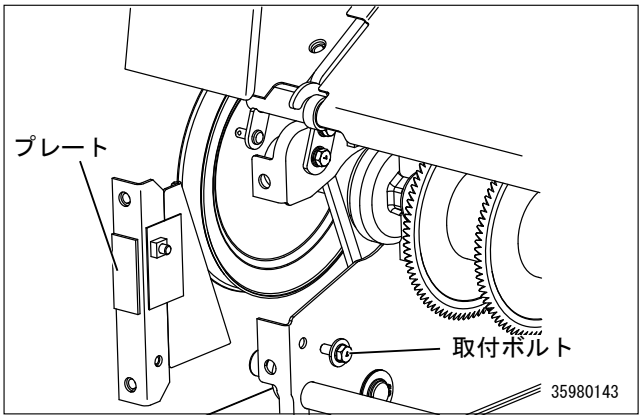
⑤ 下部カバーのノブボルトを外します。



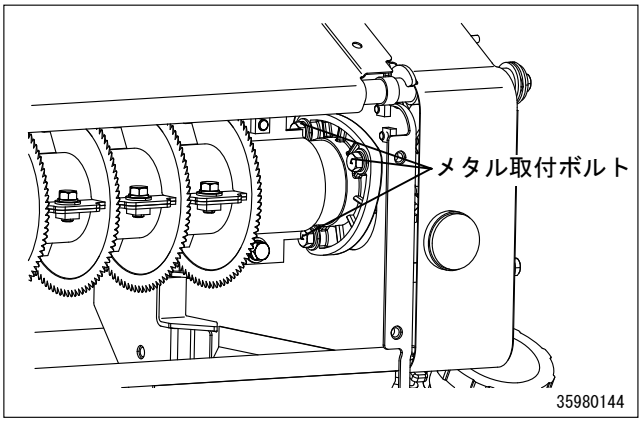
⑥ 背面カバーと下部カバーを上に持上げるようにすると，一体で取外すことができます。



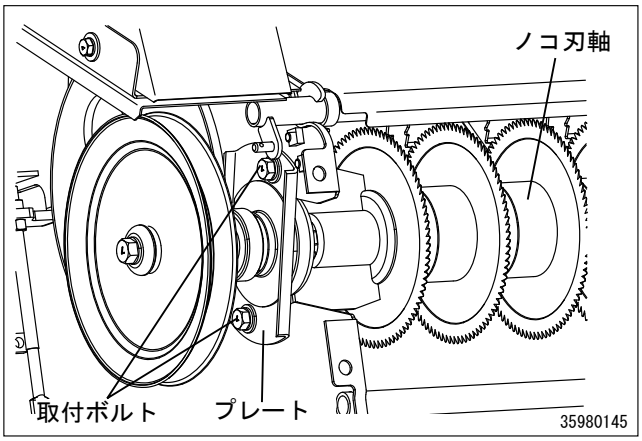
⑦ 取付けボルト（１個）を外し，プレートを外します。



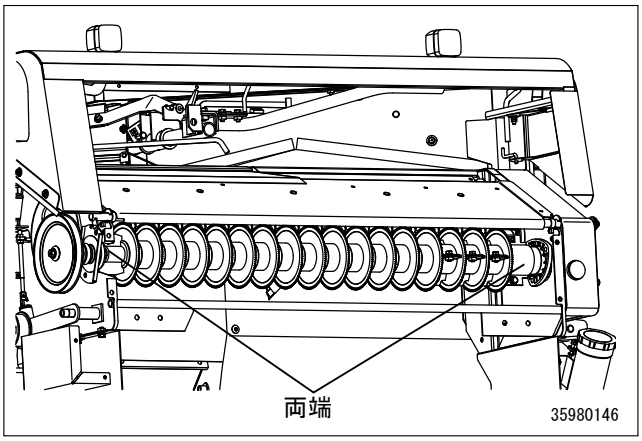
⑧　ノコ刃軸右端のメタル取付ボルト(３個)を外します。



⑨　プレート取付ボルト（２個）を外します。

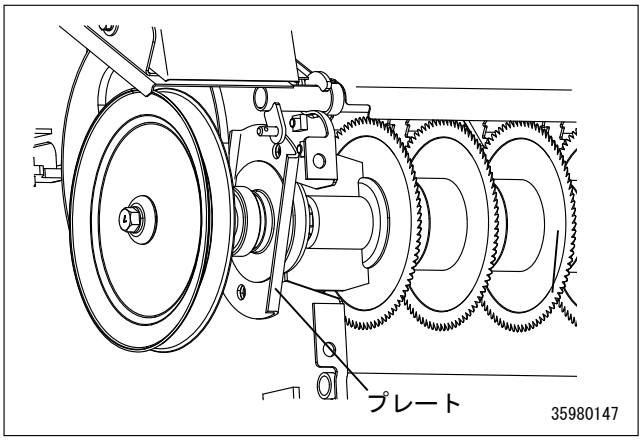


⑩　ノコ刃軸の両端を持って後方から取外します。



取扱いのポイント

- ノコ刃軸組品を外すときは，プレートを回しながら外すと，容易に外すことができます。



❷　かきこみ軸組品の取外し

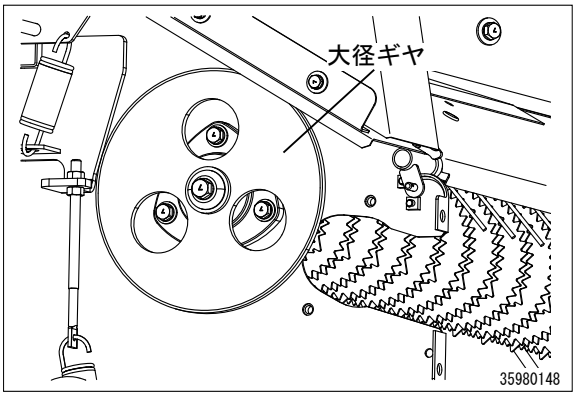
・かき込み軸組品を取外すときは，まず，ノコ刃軸組品を取外してから作業を行います。ノコ刃軸組品が組付けてある状態では，かき込み軸組品を取外すことができません。

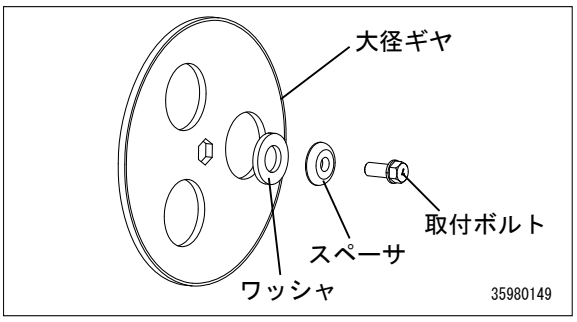
・かき込み軸組品は，カッタの前方，後方，どちらからでも取外すことができます。この取扱説明書では，**「カッタ後方よりの取外し方」**を記載しています。

「D333 型・D433 型カッタ」の場合

①　ノコ刃軸組品を取外します。（ ❶ ノコ刃軸組品の取外し参照）

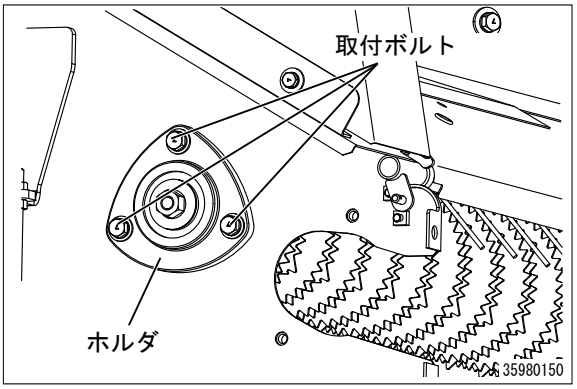
②　大径ギヤを取外します。



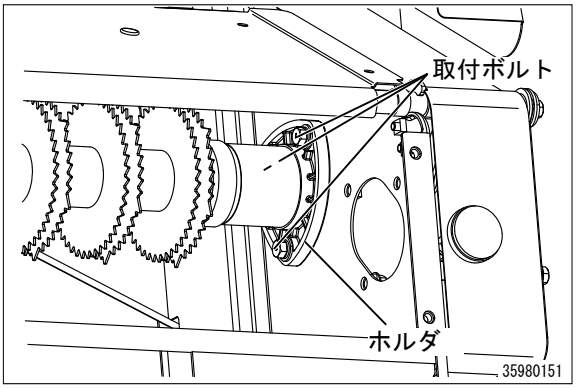


「D333 型･D433 型カッタ」の場合（つづき）

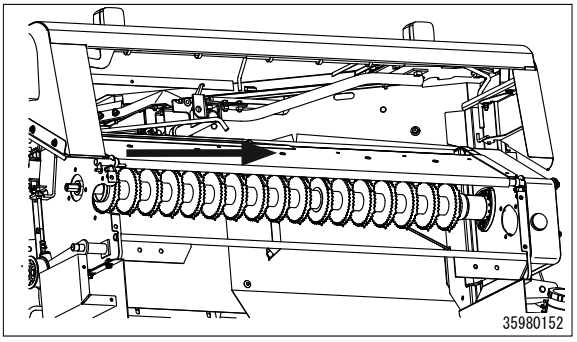
③ ホルダを外します。



④ 右側のホルダ，取付ボルトをカッタ内側から外します。



⑤ かき込み軸組品を両手で支えながら矢印方向にスライドさせながら外します。



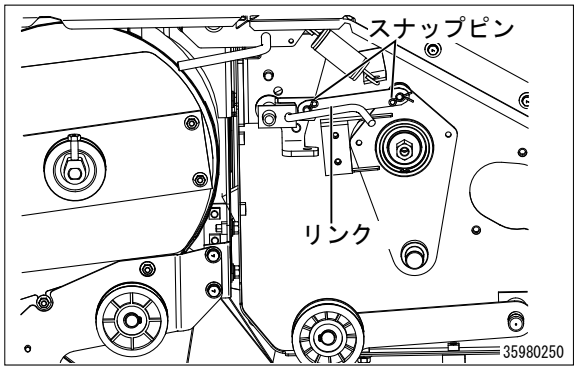
「DMS333 型・DMY433 型マルチカッタ」の場合

① ノコ刃軸組品を取外します。（ ❶ ノコ刃軸組品の取外し参照）

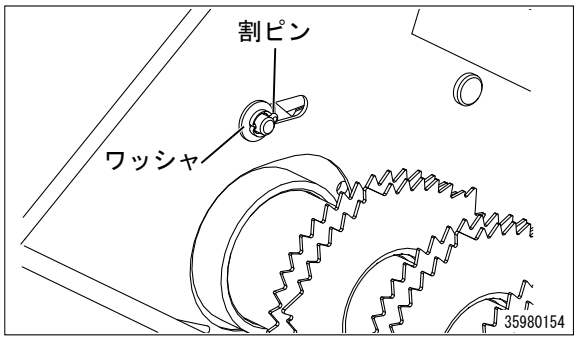
② 切替板を《**オープン**》状態にします。

③ スナップピンを外して，リンクを外します。

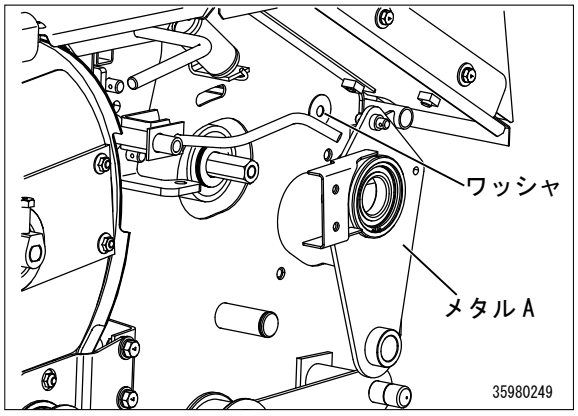
「DMS333 型・DMY433 型マルチカッタ」の場合（つづき）



④ かき込み軸左端の割ピンを外し，ワッシャを外します。

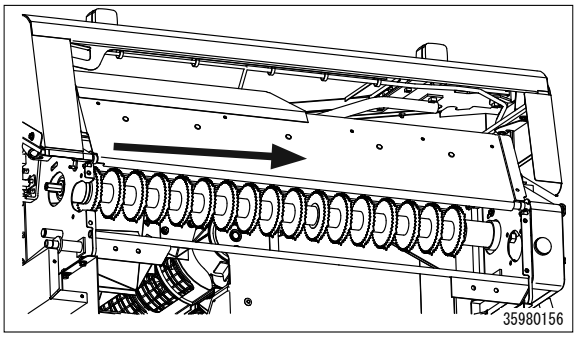


⑤ メタル A を抜き出します。



⑥ かき込み軸組品を両手で支えながら，矢印方向へスライドさせながら外します。

作業機が着いている場合は前面より取外します。



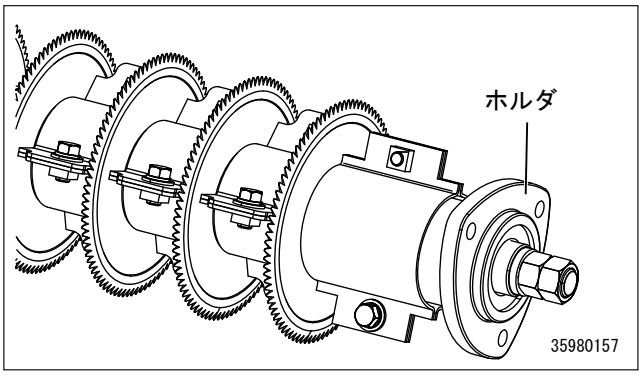
❸ ノコ刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

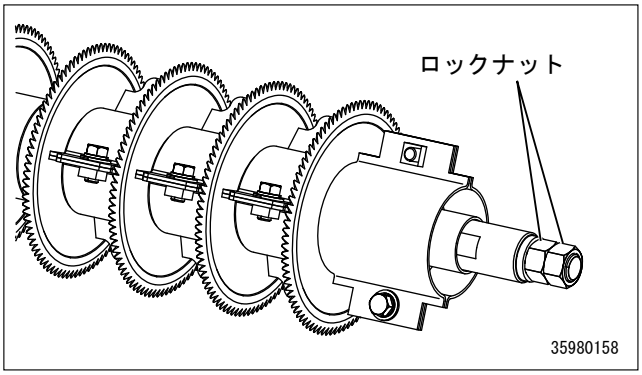
- ◆刃の交換作業は２人作業で行ってください。
- ◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。
- ◆刃の交換時，軸端のロックナットを締付ける際にはノコ刃に体が触れないように注意してください。

(1) 刃先を傷付けないよう，板または布を下に敷いてください。

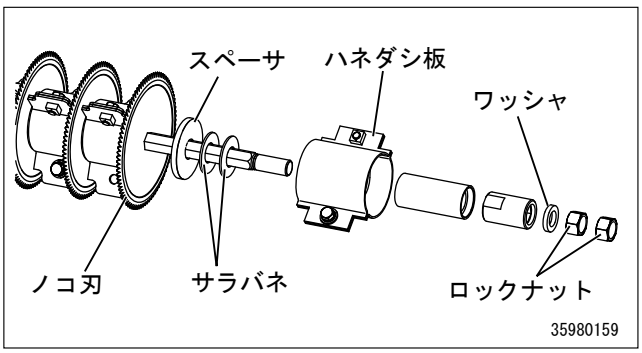
(2) ホルダを抜き出します。



(3) ロックナットをゆるめて外します。



(4) 順番に抜き出してください。



取扱いのポイント

- カッタは，ギヤ側が組立て基準になっています。刃の交換後，かき込みバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。ノコ刃がかき込みバンのほぼ中央にあるのが最適です。
- ノコ刃，かき込みバンの取付けのときは，刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。

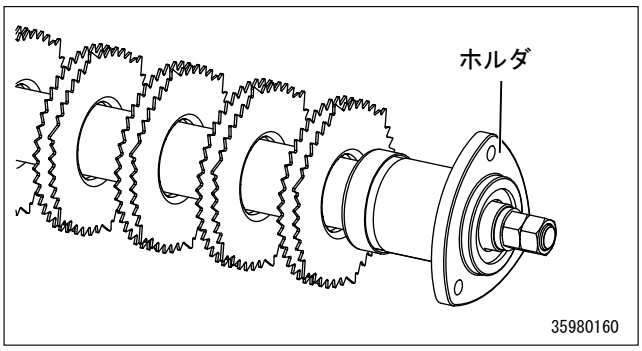
❹ かき込みバンの交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆刃の交換作業は２人作業で行ってください。
- ◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。
- ◆刃の交換時，軸端のロックナットを締付ける際にはかき込みバン，押えバンに体が触れないように注意してください。

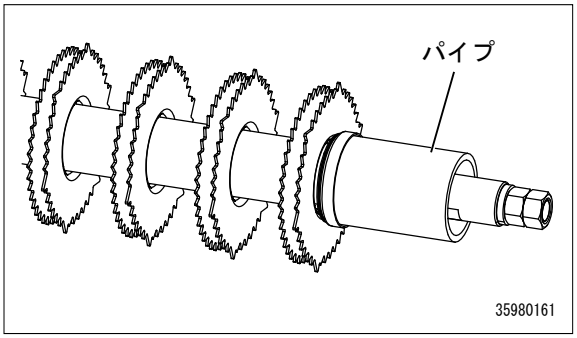
(1) 刃先を傷付けないよう，板または布を下に敷いてください。

(2) ホルダを抜き出します。

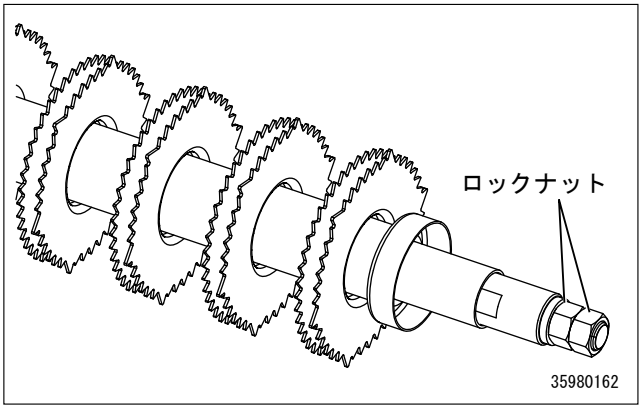


「DMS333 型・DMY433 型マルチカッタ」の場合

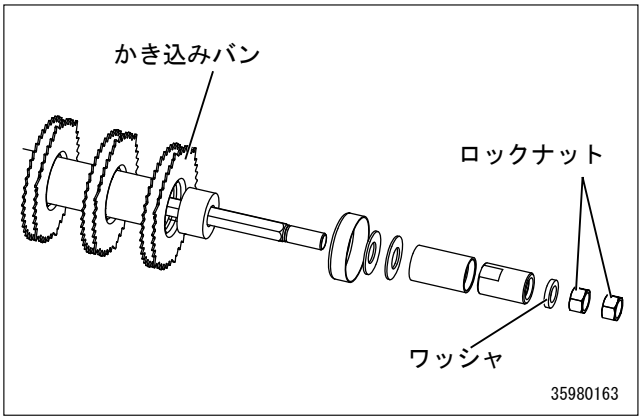
・DMS333 はホルダのかわりにパイプが付いています。それ以外は D333 型と交換手順は同一です。



(3) ロックナットをゆるめて外します。



(4) 順番に抜き出してください。



取扱いのポイント

- カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，かき込みバン・押えバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。ノコ刃がかき込みバン・押えバンのほぼ中央にあるのが最適です。
- ノコ刃，かき込みバンの取付けのときは，刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。
- [DMS333 型・DMY433 型マルチカッタ] のかき込み軸は，両端にパイプが付いています。簡単に外れますので，なくさないよう注意してください。また取付時には，パイプを組込んでください。

D333－17・D433－17組付要領図

(部品表)

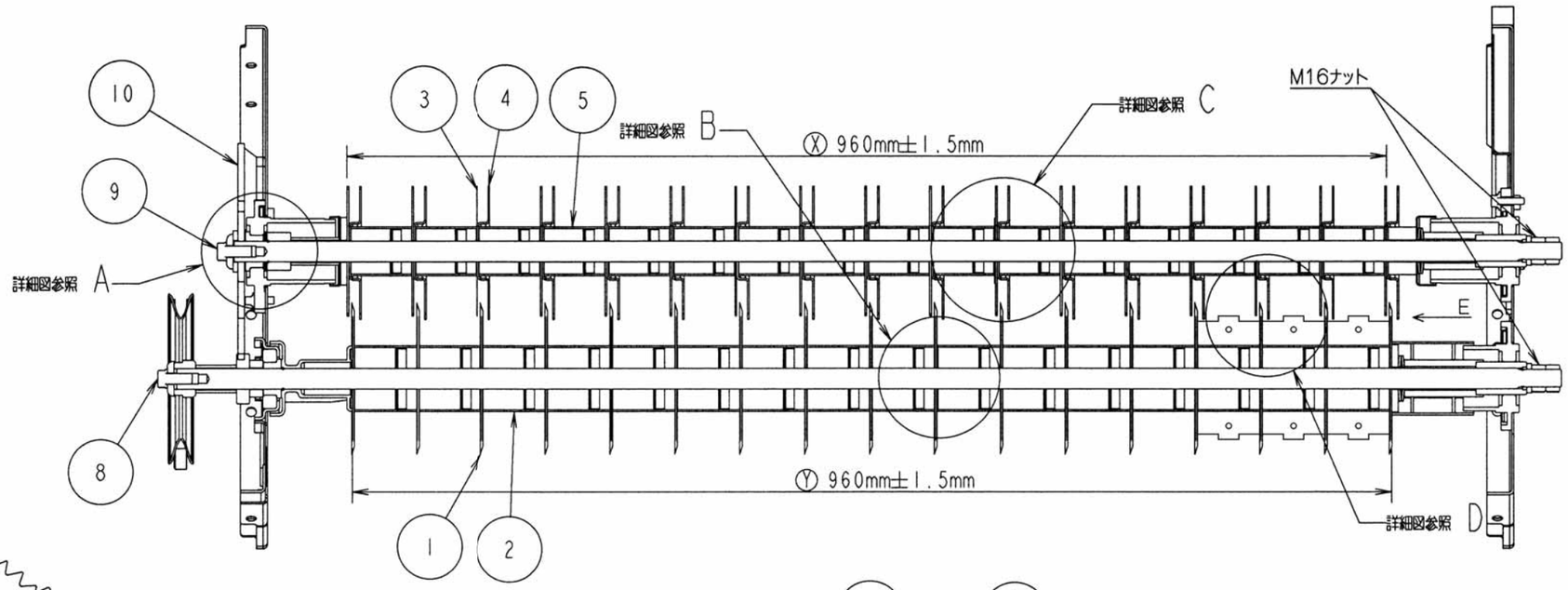
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3578 8817 000	17
2	パイプA	3572 8818 000	16
3	カキコミバン	3578 8834 000	17
4	オサエバン	3578 8836 000	17
5	パイプB　アッシ	3578 8838 000	16
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

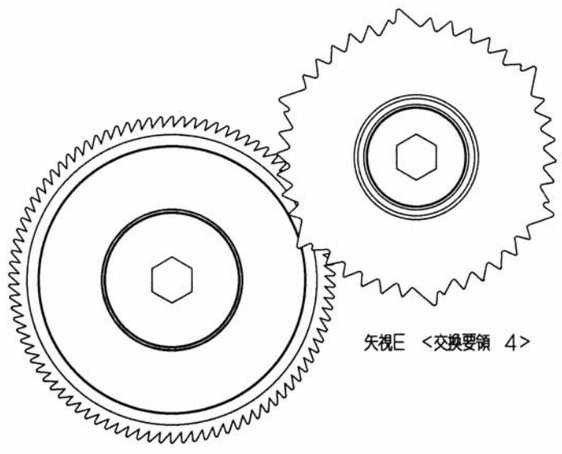
作業要領

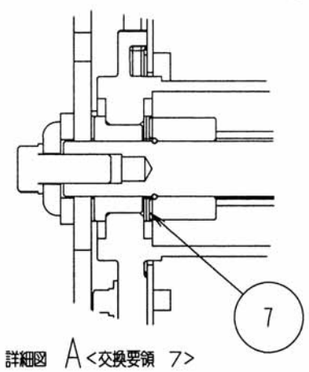
1. ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。(交換要領参照)

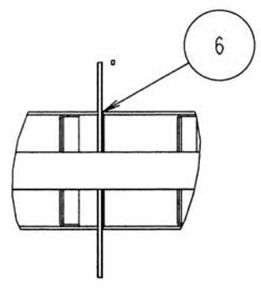
＜交換要領＞

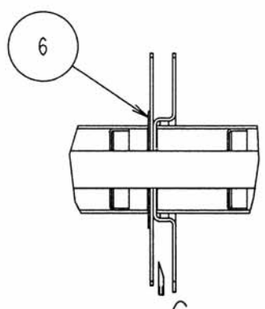
1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (3) カキコミバンは (4) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5. ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (6) ライナは,Ⓧ Ⓨ寸法が960mm±1.5mmになるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコ刃と (3) カキコミバン，(4) オサエバンのスキマが2～5mm（ほぼ中央）になるように，(7) ライナを使用して調整します。
8. M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m{400～450kgf/cm}に管理し，M16ナットでロックしてください。
9. (8) ボルト，(9) ボルトの締め付けは，(10) ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m{400～450kgf/cm}に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

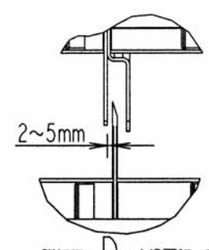












DMS333・DMY433 組付要領図

（部品表）

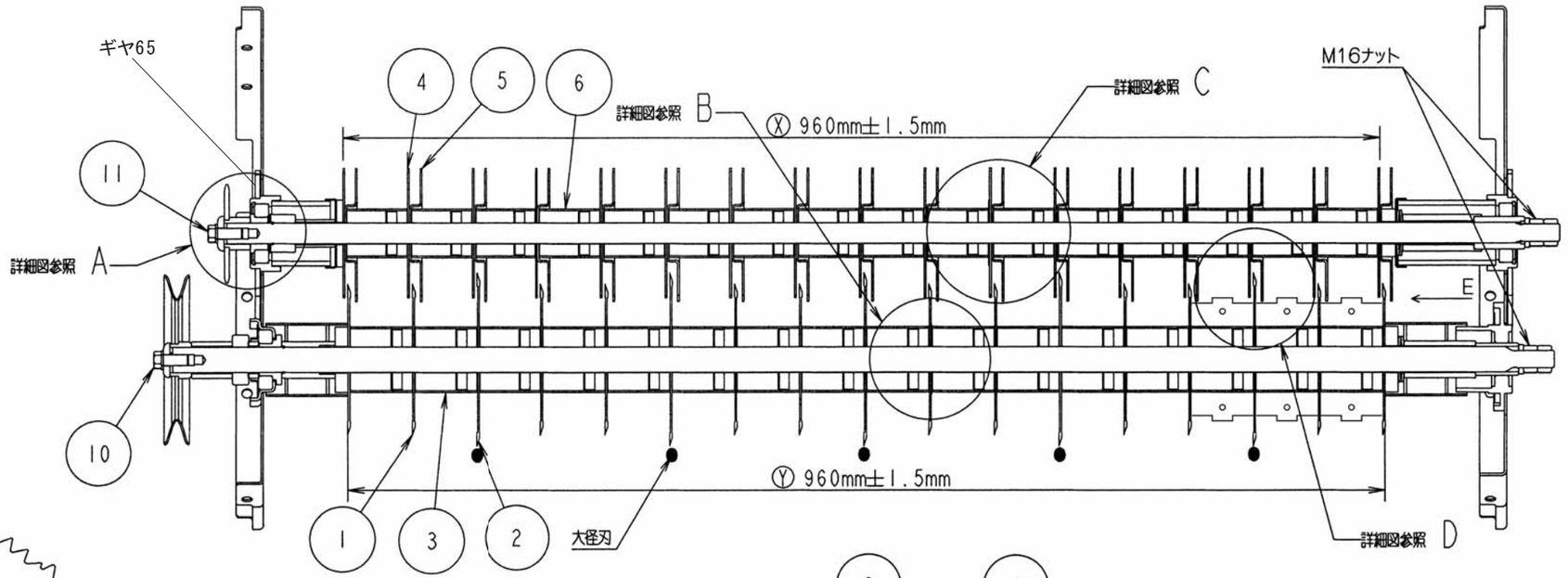
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3830 0409 000	12
2	ノコ刃	3830 0415 000	5
3	パイプA　アッシ	3574 8786 000	16
4	カキコミバン	3578 8834 000	17
5	オサエバン	3578 8836 000	17
6	パイプB　アッシ	3578 8838 000	16
7	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
8	ライナ	3829 0518 000	必要に応じて使用
9	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

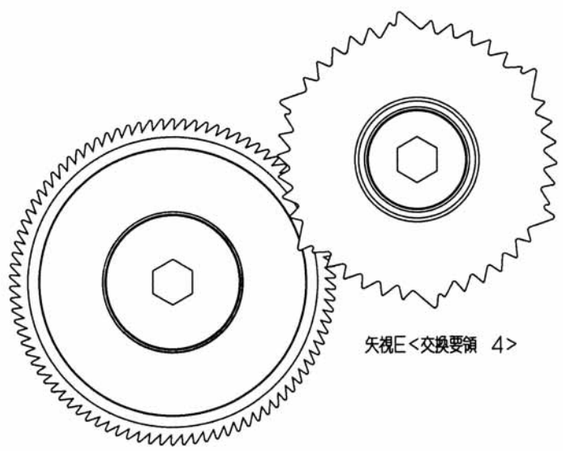
＜交換要領＞

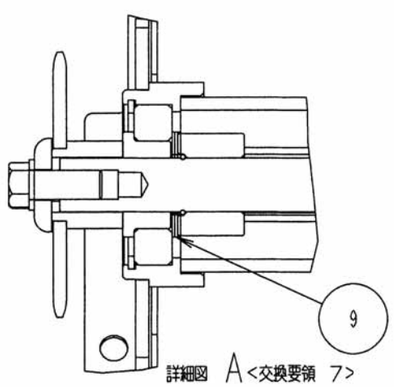
1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (4) カキコミバンは (5) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5. ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (7)(8) ライナは,Ⓧ Ⓨ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコ刃と (4) カキコミバン，(5) オサエバンのスキマが2～5㎜（ほぼ中央）になるように，(9) ライナを使用して調整します。
8. M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m{400～450kgf/cm}に管理し，M16ナットでロックしてください。
9. (10) ボルト，(11) ボルトの締め付けは，ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m{400～450kgf/cm}に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

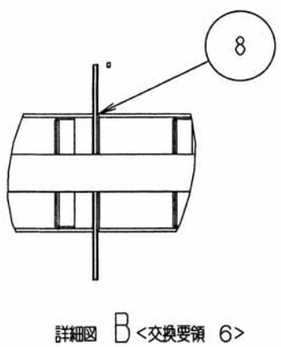
作業要領

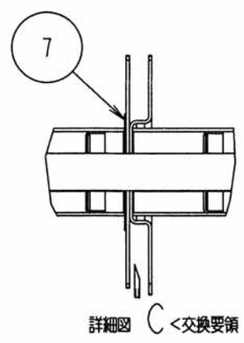
1. ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

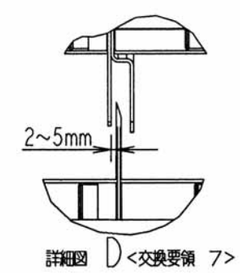












DMS333S・DMY433S組付要領図

（部品表）

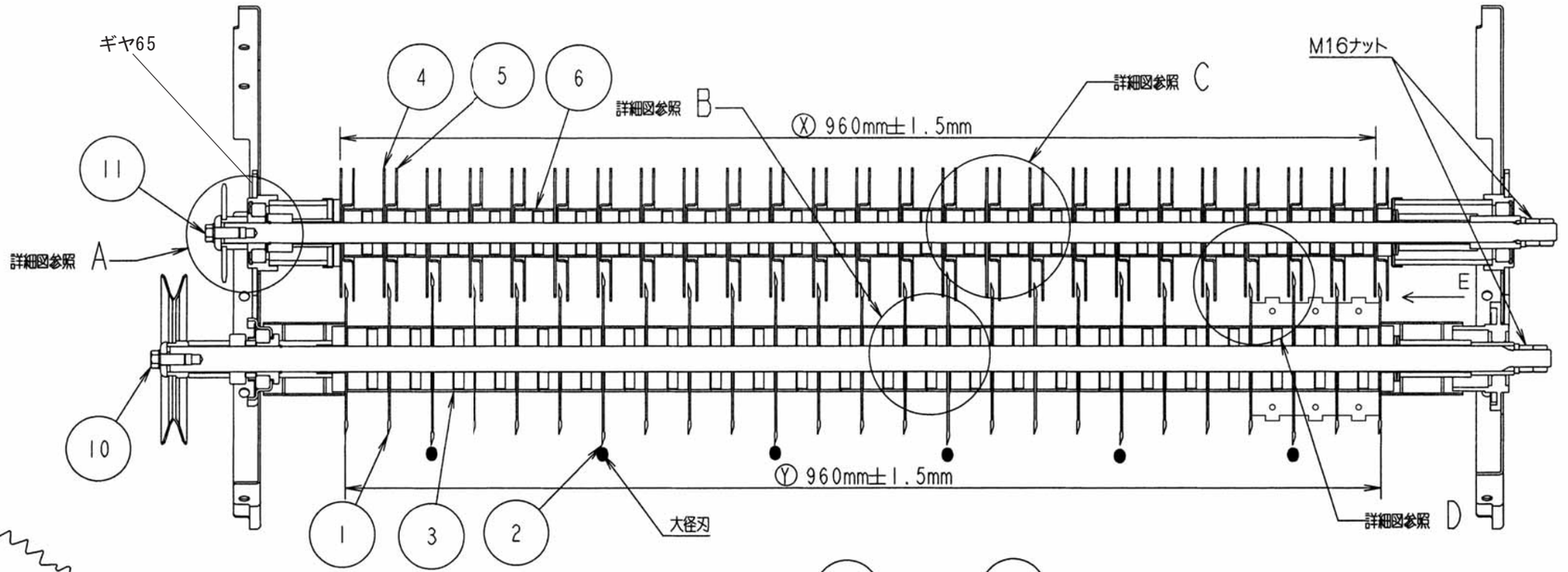
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3830 0409 000	19
2	ノコ刃	3830 0415 000	6
3	パイプC　アッシ	3574 8784 000	24
4	カキコミバン	3578 8834 000	25
5	オサエバン	3578 8836 000	25
6	パイプD　アッシ	3578 8839 000	24
7	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
8	ライナ	3829 0518 000	必要に応じて使用
9	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

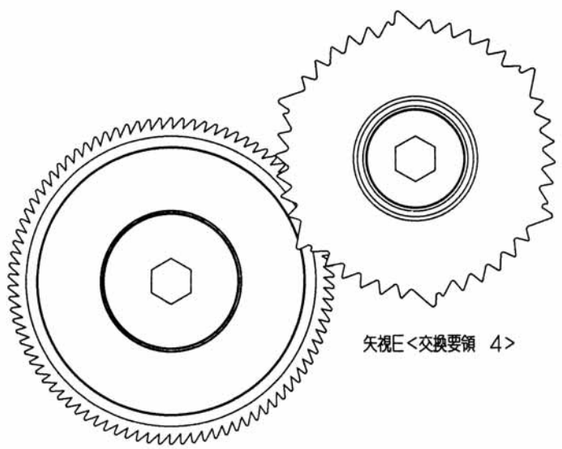
作業要領

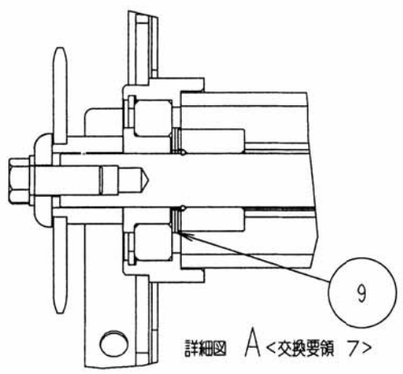
1．ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

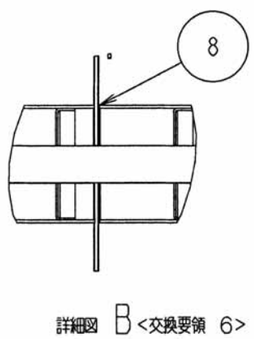
＜交換要領＞

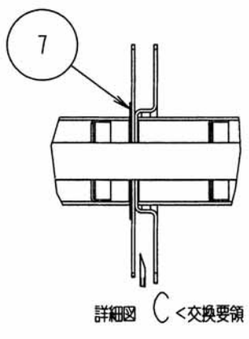
1．本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2．ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3．ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4．(4) カキコミバンは (5) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5．ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6．(7) (8) ライナは，Ⓧ Ⓨ寸法が960mm±1.5mmになるように適切な位置に入れて組付けます。
7．(1) ノコ刃と (4) カキコミバン，(5) オサエバンのスキマが2～5mm（ほぼ中央）になるように，(9) ライナを使用して調整します。
8．M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m{400～450kgf/cm}に管理し，M16ナットでロックしてください。
9．(10) ボルト，(11) ボルトの締め付けは，ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m{400～450kgf/cm}に管理してください。
10．組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

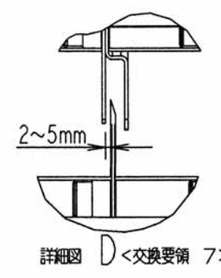












2. 爪の交換のしかた

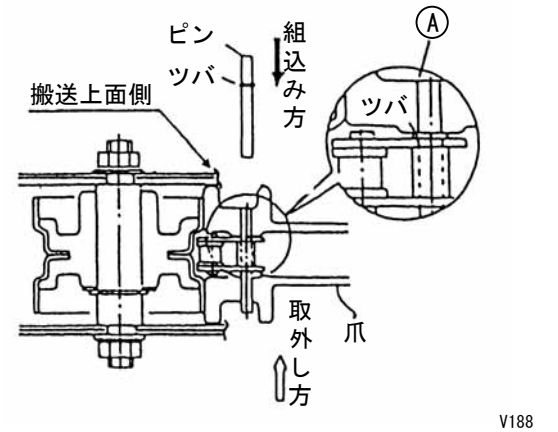
（引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪）

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。(ピンは強く叩かなくても抜けます)

❷ 爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。(図示 A 部参照)



3. 刈　　刃

危険 傷害事故防止のために

- ◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行ってください。刈刃は内側のボルトを外してください。
- ◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我することがあります。
- ◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

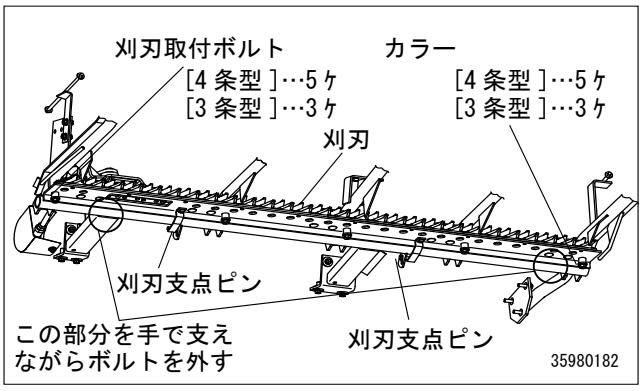
❶ 刈刃のオープン

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，オープン（回動）します。

(1) エンジンを始動し，マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

(2) エンジンを停止し，油圧固定スイッチを**《油圧固定》**位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

(3) 刈取部の下方から刈取部を見ると，下図のような取付け状態になっています。

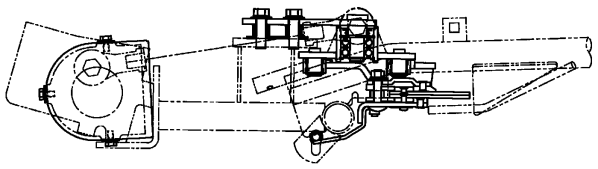


(4) 内側の刈刃取付ボルトを取外します。

(5) 刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルトを取外します。(2 人作業)

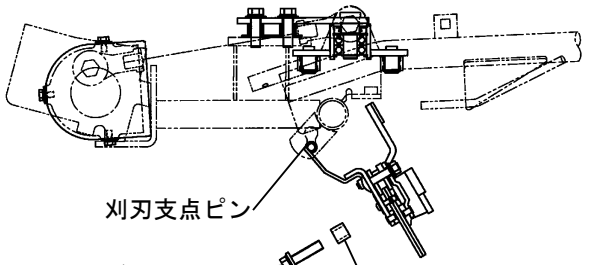
※刈刃取付ボルトには，それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。

［通常状態］



35960262

［オープン状態］



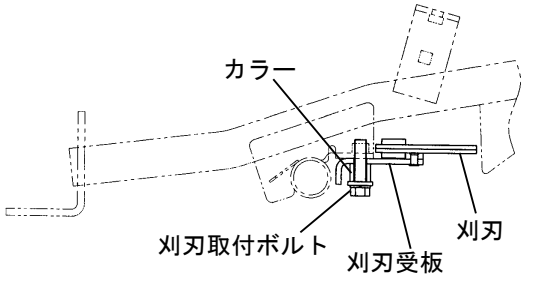
35960264

(6) 刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃をオープン（回動）します。

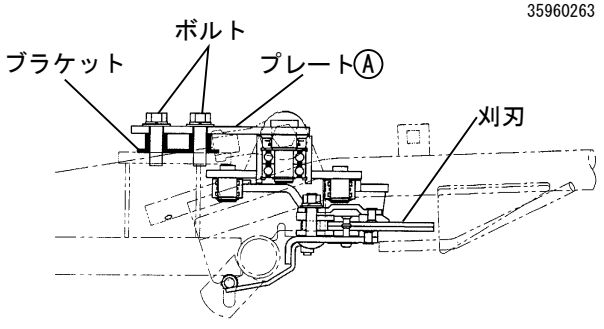
❷ 刈刃の上下調節

・出荷のとき，刈刃は**「上セット」**になっています。

［刈刃上セット状態］（出荷時）



35960263



35960203

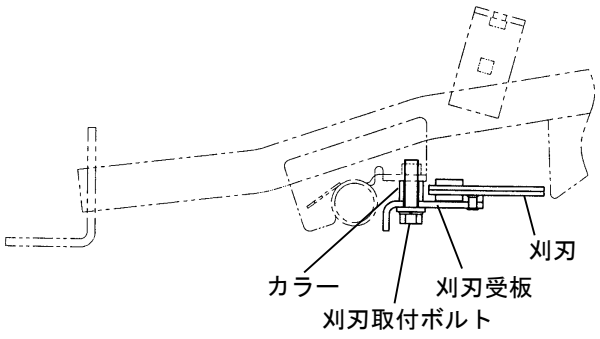
裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃を**「下セット」**にします。

「下セット」にする場合，カラー・ブラケットの 2 個所の組替えを行います。

(1) 刈刃をオープンします。

(2) 刈刃取付ボルトのカラーを，刈刃受板の**「下側」**から**「上側」**に入れ替えて，ボルトを締付けます。

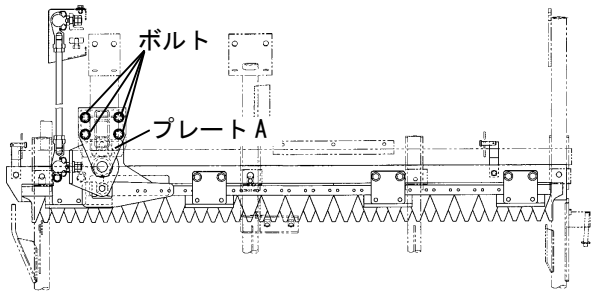
［刈刃下セット状態］



35960204

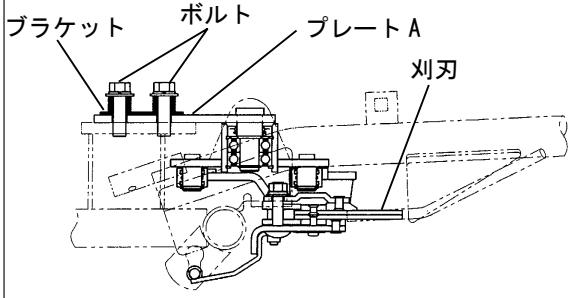
(3) ボルト 4 本を外し，ブラケットをプレート A の下方から上方へ入れ替えて，ボルトを締付けます。

［刈刃を上から見た状態］



35960205

［刈刃下セット状態］

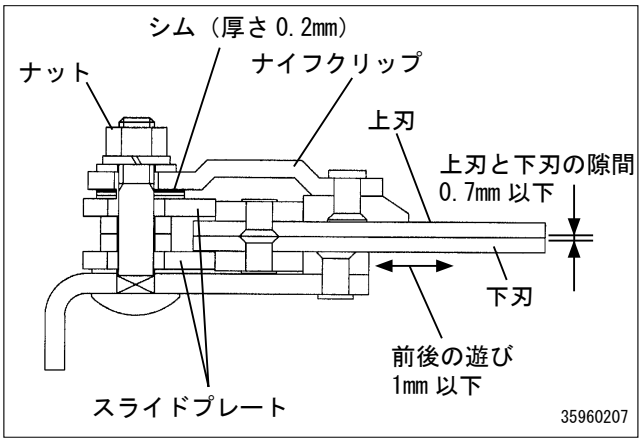


35960206

❸ 刈刃の調整

(1) 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

(2) ナットをゆるめ，ナイフクリップの下側のシム（厚さ 0.2mm）で，上刃と下刃のスキマが 0.7mm 以下になるように調整します。



	ナット	ナイフクリップ	スライドプレート
4 条型	10 個	5 個	10 個
3 条型	8 個	4 個	8 個

(3) 上刃と下刃の前後の遊びが 1mm 以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

(4) 上刃，下刃共スムーズ（15kg 程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- **1 日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。**

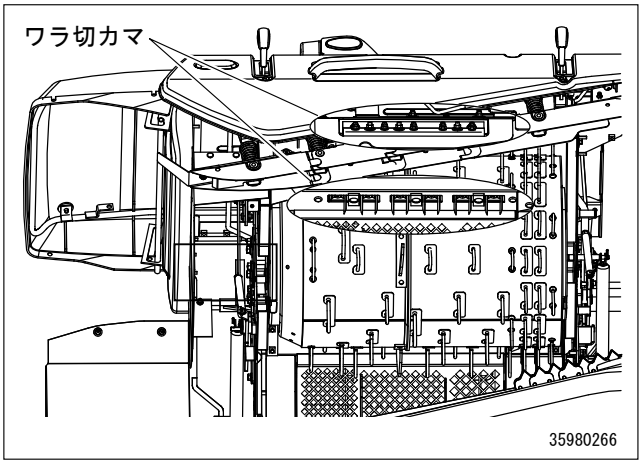
4. ワラ切カマの手入れ

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。
- ◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行ってください。
- ◆刃部に手をかけないでください。
- ◆ワラ切カマをグラインダ等で研磨して，再使用しないでください。

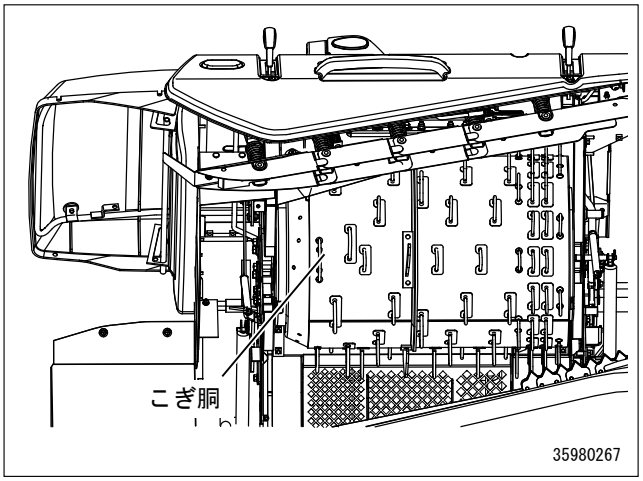
ワラ切カマは受網（上）の上部とフィードチェンレールカバーの裏部及び第2こぎ室部の3ヶ所にあります。

・こぎ胴を開くときは，防じんカバーを閉じます。

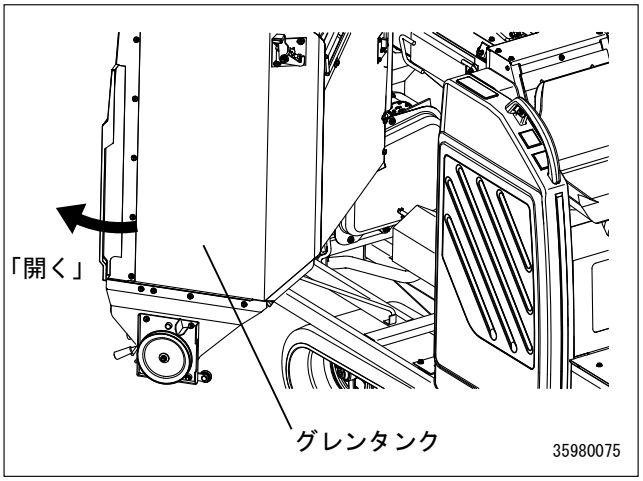


❶ ワラ切カマの取外し

(1) こぎ胴部を開きます。



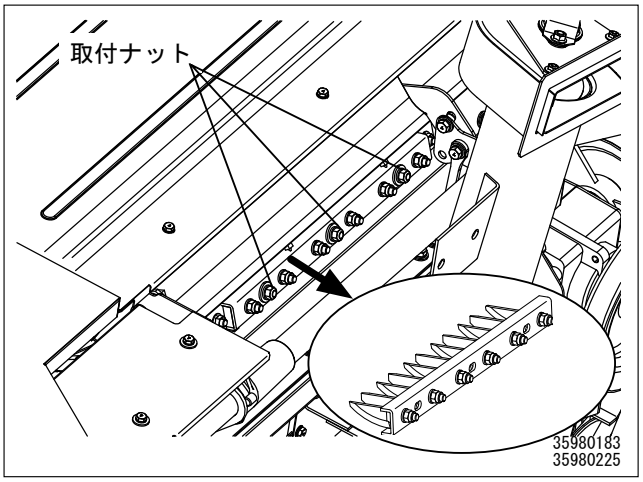
(2) グレンタンクを開きます。

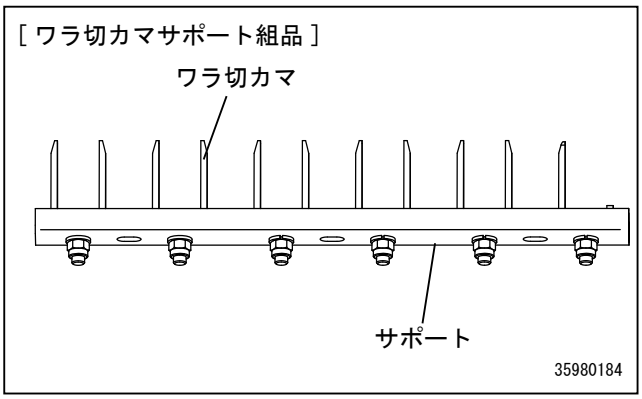


(3) ワラ切カマサポート組品を取外します。

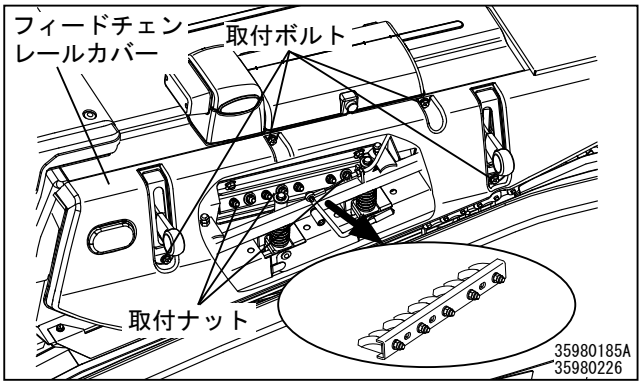
1．受網（上）の上部にあるワラ切カマの場合

① グレンタンクおよびホッパ側から揚こく筒の奥にあるナット（3ヶ）を外してワラ切カマサポート組品を外します。





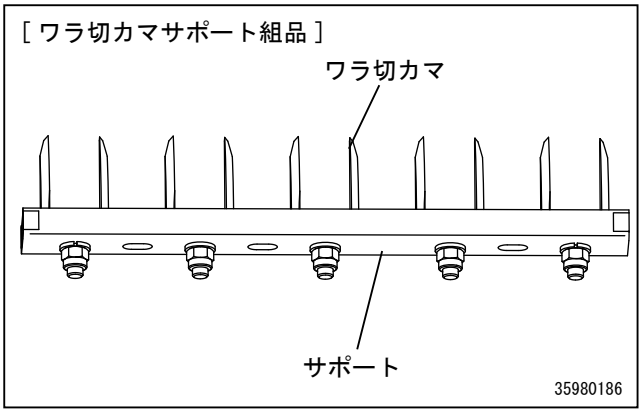
2．フィードチェンカバー裏部にあるワラ切カマの場合



① 取付ボルト（4本）を外してフィードチェンレールカバーを外します。

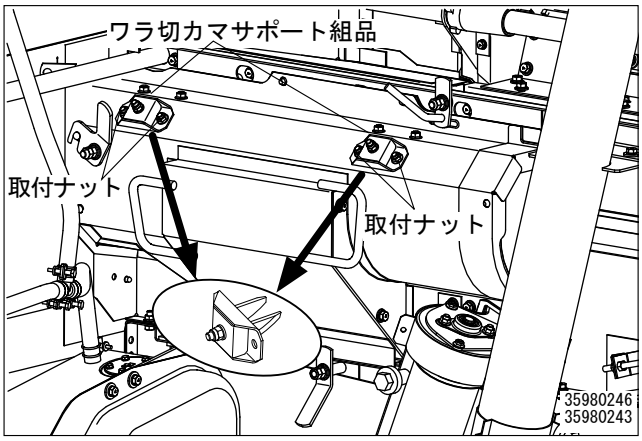
② ワラ切りカマサポート組立の取付ナット(3ヶ）を外してサポート組品を取外します。

③ サポートとワラ切りカマを分離します。

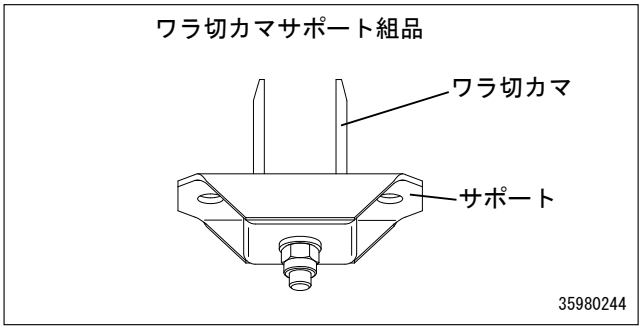


3．第2こぎ室部にあるワラ切カマの場合

① ワラ切カマサポート組品を取外します。

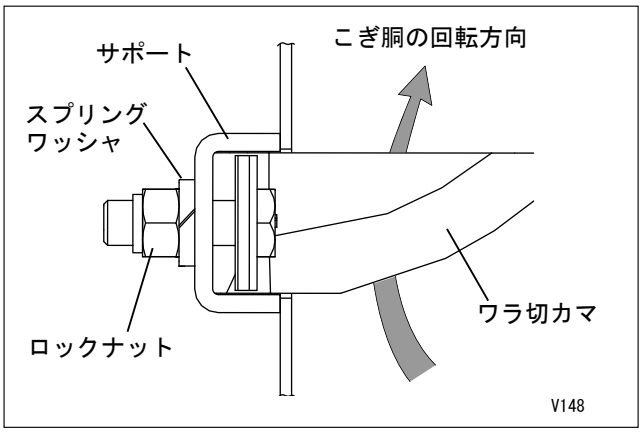


② ワラ切カマをサポートから取外します。



❷ ワラ切カマの取付け

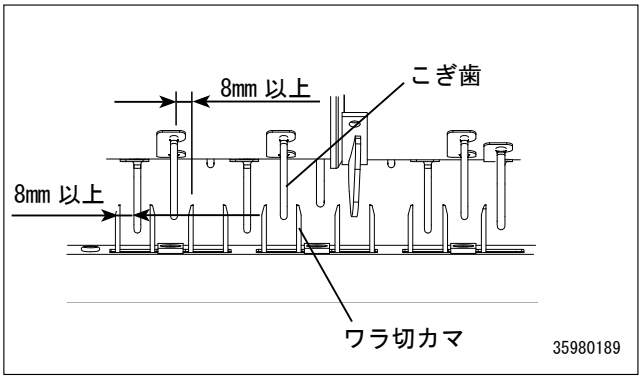
① ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐ取付けます。



② 取外しと逆の手順で取付けます。外したカバー類は元どおり取付けてください。

取扱いのポイント

- ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下し又，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。
- こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。
- 組付ける時は，こぎ歯とワラ切カマのスキマを 8㎜ 以上空けてください。



5. こぎ歯の点検と交換

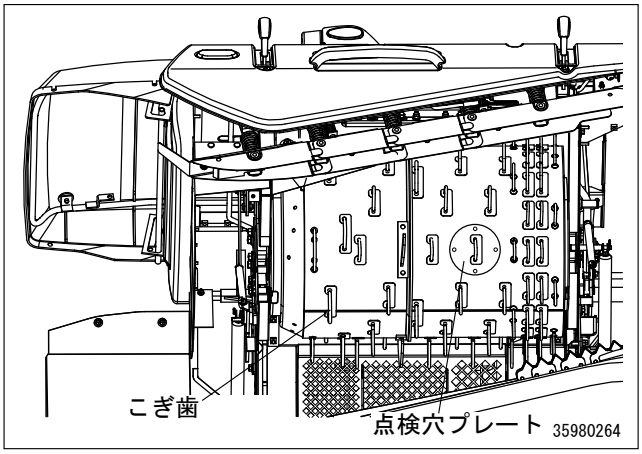
⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆こぎ胴部を開く時は自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。この時は，回動範囲内には手や体をいれないでください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

❸ 作業後は，点検穴プレートを取付け，脱こくこぎ胴部を閉めます。

取扱いのポイント

- こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますのでボルトが摩耗し始めた時は，交換が必要です。

6. ホース類の点検と交換

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹出し火傷をする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホース等の燃料もれ，水漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検します。

取扱いのポイント

- 燃料ホースは定期交換部品ですので 2 年ごとに交換してください。
- 燃料ホースを交換した時は，燃料のエア抜きをしてください。(93 ページ参照)

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告　傷害事故防止のために

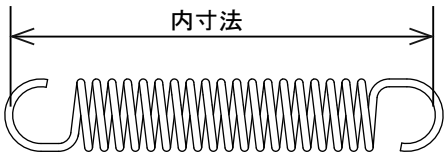
- ◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。
- ◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

- ◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

- スプリングの取付長さは，フックの内寸法を測定してください。



V149

「レバー・ペダルの点検・調整」

1. マルチステアリングレバー

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆マルチステアリングレバーのアジャスタボルトの調整が適正でないと，旋回が悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

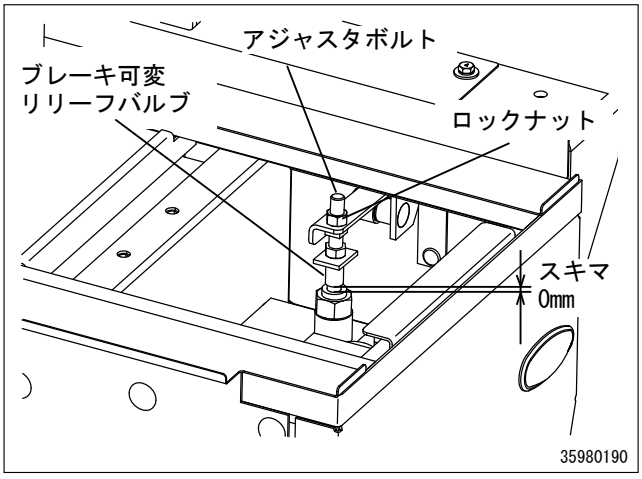
❶ 点検

(1) エンジン停止直後，レバーを左右旋回のロック位置でブレーキ可変リリーフバルブのスキマが 0mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 運転席のステップカバーを開き，ロックナットをゆるめ,アジャスタボルトで調整します。

(2) 調整後，ステップカバーを閉じます。



35980190

2. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

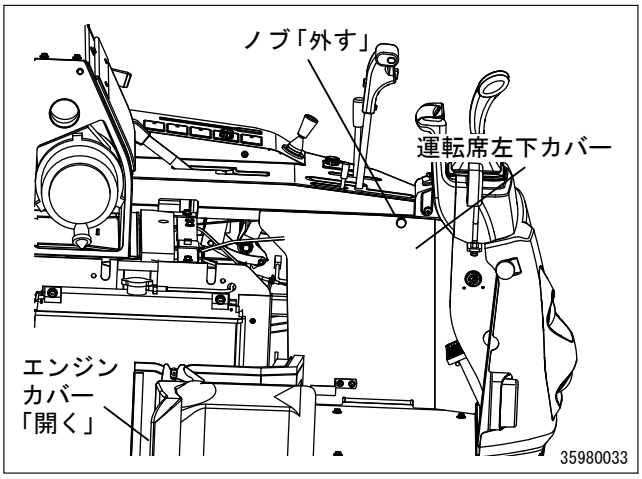
(1) 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングⒻ長さが 39.5 ～ 40.5mm ですか。

(2) 走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態でⒼスキマが 3 ～ 3.5mm ですか。

(3) 坂道（17° 以内）で駐車ブレーキをかけた時に，機械が停止していますか。

❷ 調整

(1) エンジンカバーを開いて，運転席左下カバーを外します。



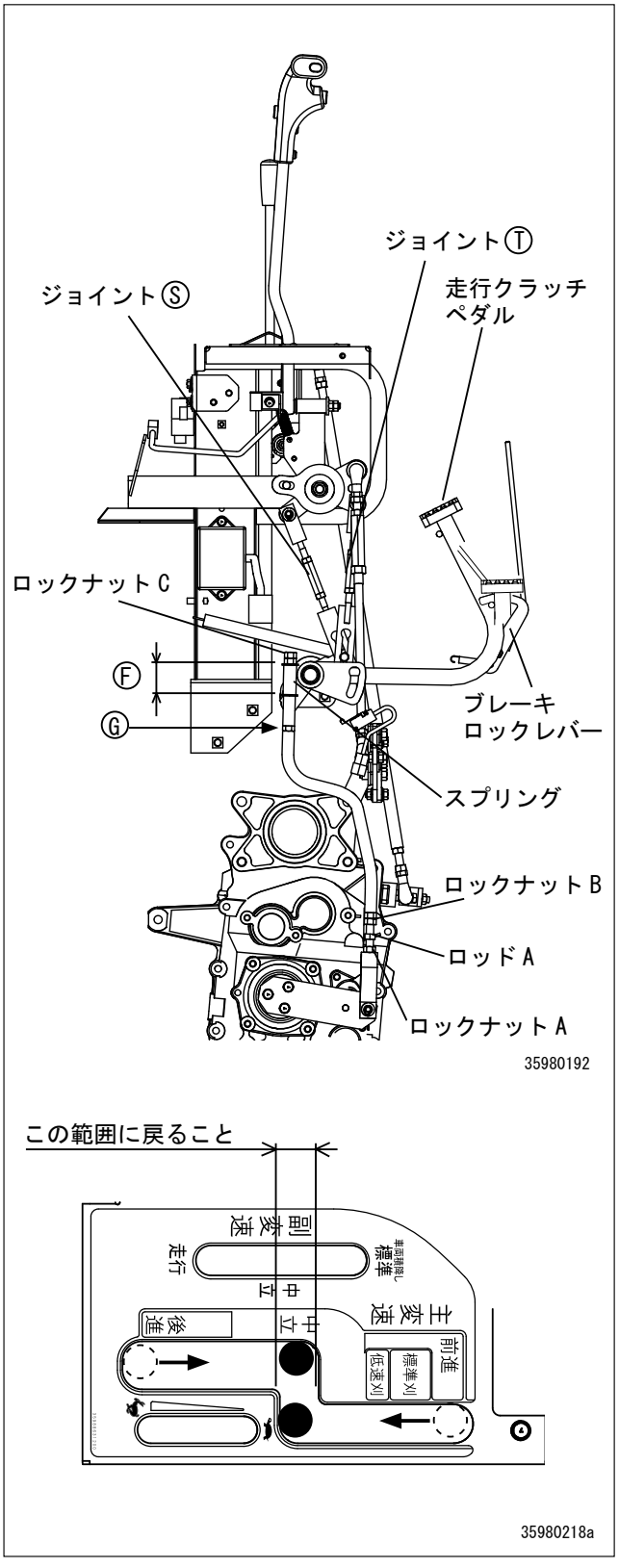
(2) 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを 39.5 ～ 40.5mm になるようにロックナットC で調整します。

(3) 次に，駐車ブレーキをかけた状態で Ⓖ スキマを 3 ～ 3.5mm になるようにロッドA を調整します。

(4) 調整後，ロックナットA，B を締付けます。

(5) 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようジョイント Ⓢ（前進から戻す）とジョイント Ⓣ（後進から戻す）を調整してナットを締め付けます。

(6) 運転席左下カバーを取付けエンジンカバーを閉じます。



3. 脱こく・刈取クラッチレバー

❶ 点検

「脱こくクラッチ」

脱こく・刈取クラッチレバーが脱こく《入》位置のとき，スプリングAのⒸ寸法が 124～126mm になっていますか。

「刈取クラッチ」

脱こく刈取クラッチレバー刈取《入》位置のとき，スプリングBのⒹ寸法が 68～72mm になっていますか。

❷ 調整

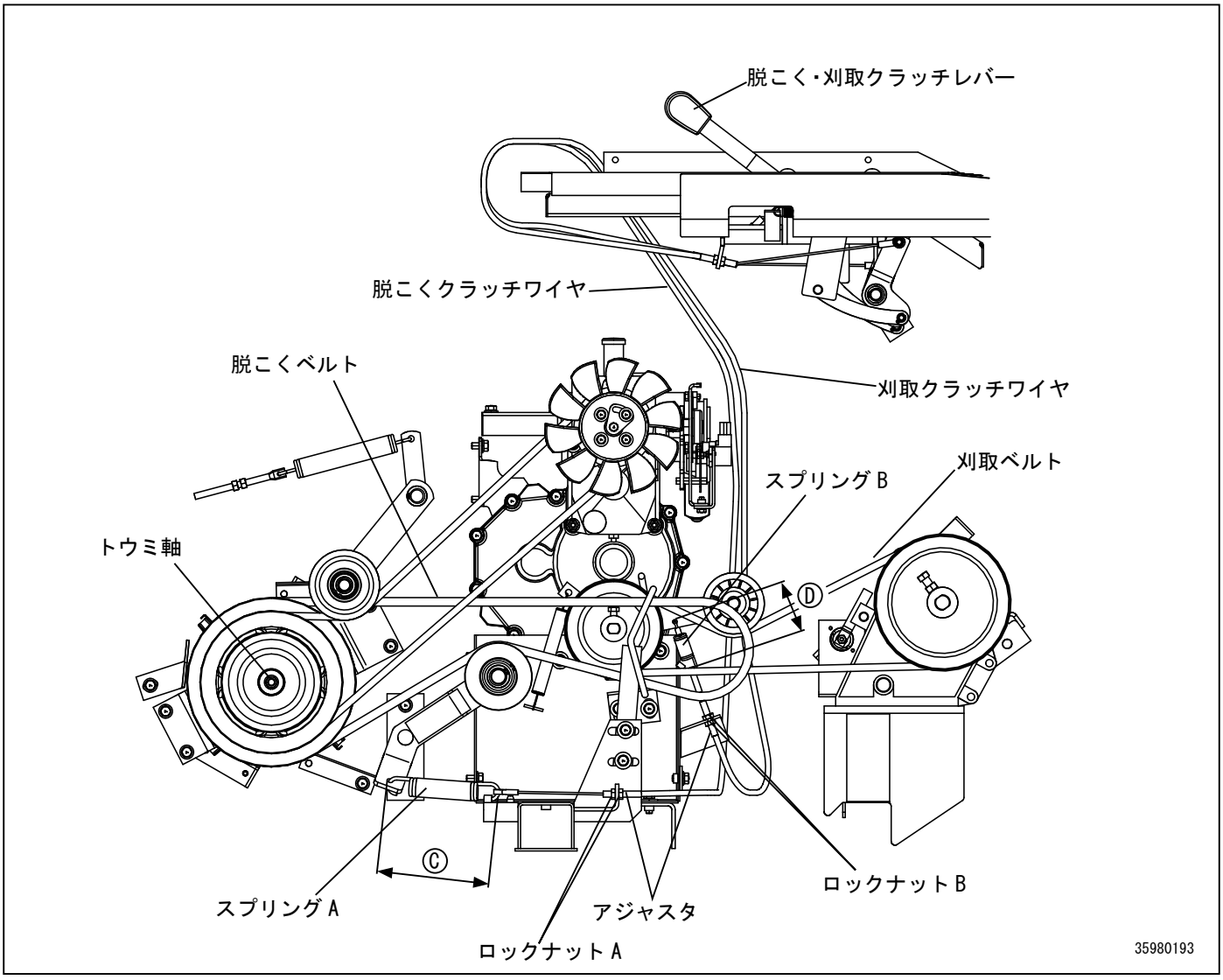
(1) エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを 外します。

(2) ロックナットAをゆるめて脱こくクラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

「刈取クラッチ」

(3) ロックナットBをゆるめて，刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

(4) 調整後は，運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じます。



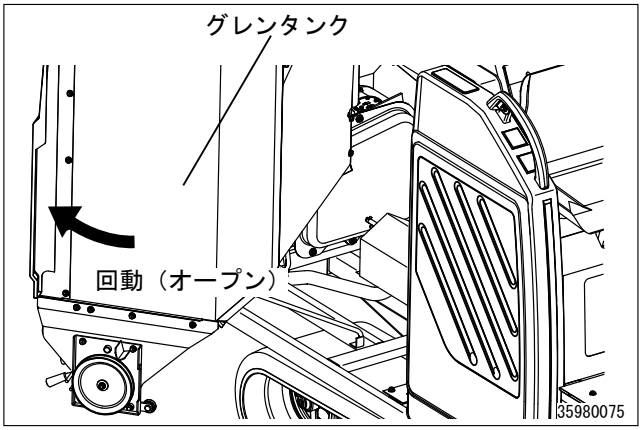
4. こく粒排出レバー

❶ 点検

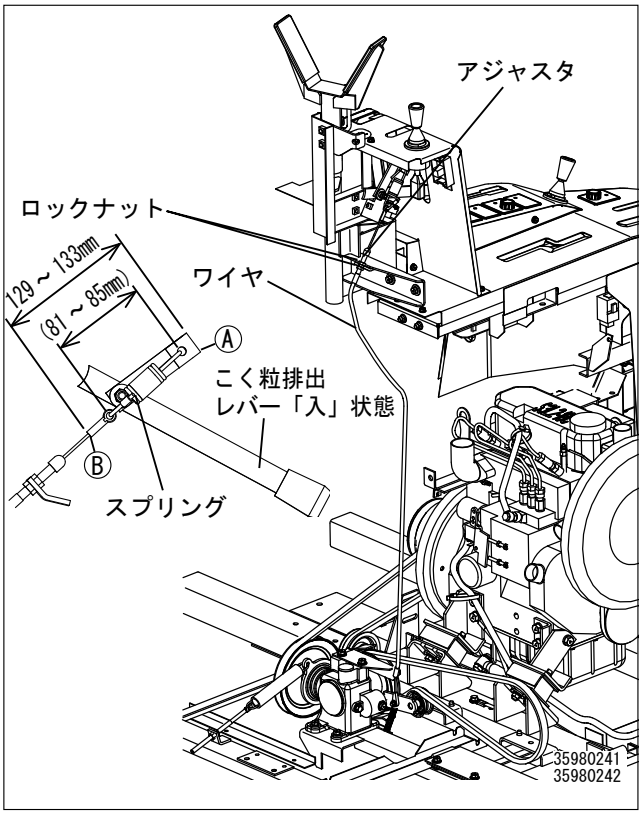
こく粒排出レバー「**入**」のとき，Ⓐ端面からⒷ端面までの長さが 129 ～ 133mm になっていますか。(スプリング長さ参考値 81 ～ 85mm)

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)



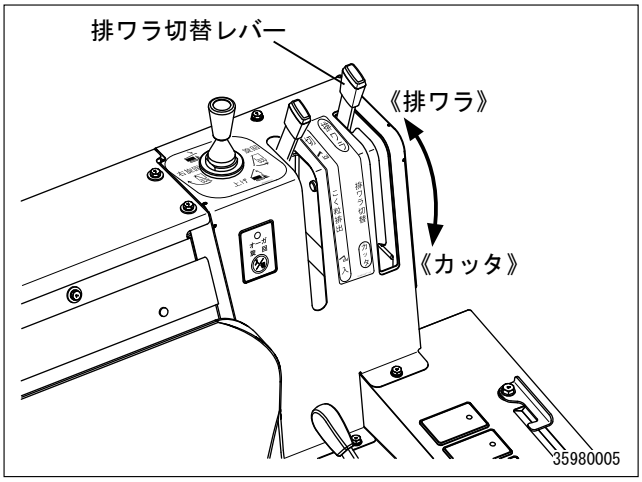
(2) ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



(3) 調整後はグレンタンクを元どおり閉じます。(100 ～ 101 ページ参照)

5. 排ワラ切替レバー

切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



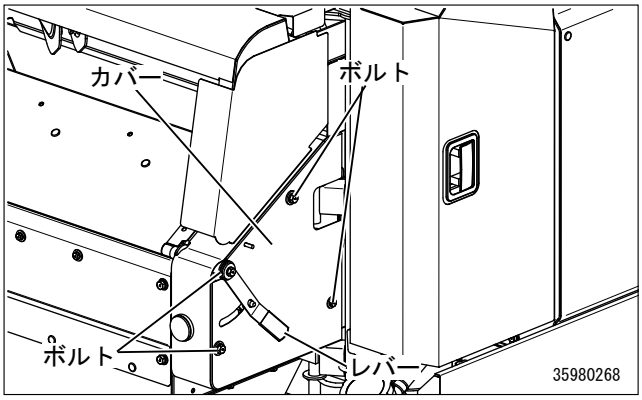
「カッタ部の点検・調整」

❶ 点検

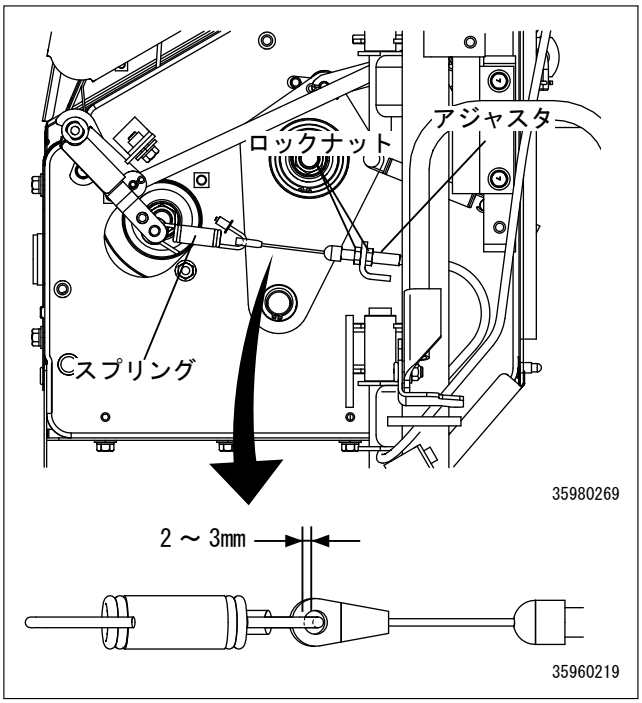
カッタ切替板の先端が浮いていませんか。

❷ 調整

(1) ボルト（４個）を外し，カバーとレバーを取外します。



(2) ワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタでスプリングの遊びを 2mm ～ 3mm もたせます。



(3) 調整後は，カバーとレバーを取付けボルト（4 個）で締め付けます。

「レバー部の点検・調整」

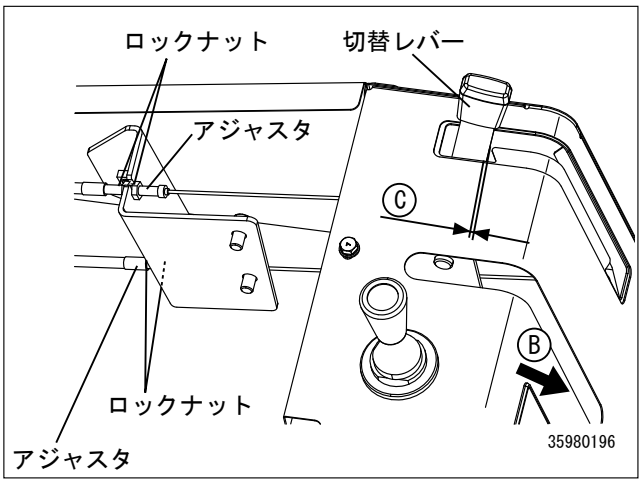
❶ 点検

切替レバーをⒷ方向にいっぱい倒した時ガイドと切替レバーのスキマⒸが広くなっていませんか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(100 ページ～101 ページ参照)

(2) ロックナットをゆるめて，アジャスタ部でスキマⒸを 1mm ～ 3mm に調整してください。



(3) 調整後は，グレンタンクを元どおり閉じます。(100 ～ 101 ページ参照)

「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

6. エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

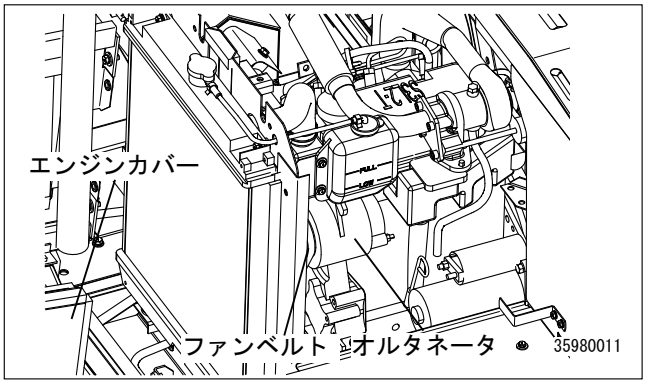
◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行ってください。

❶ 点検

ファンベルト長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が 10 ～ 13mm となっていますか。

❷ 調整

(1) エンジンカバーを開きます。

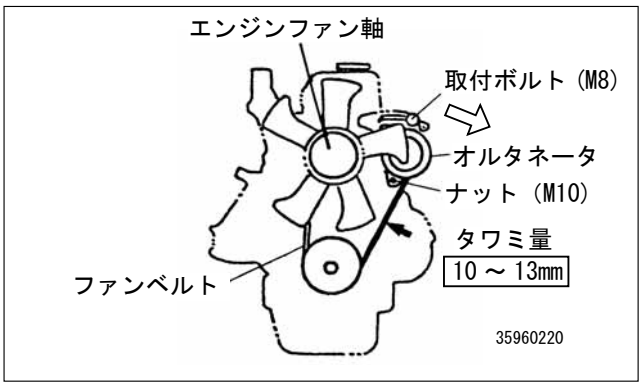


(2) オルタネータ取付ボルト,ナット（各 1 個）をゆるめます。

・オルタネータを矢印（⇨）側に倒すとベルトが張れます。

(3) 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

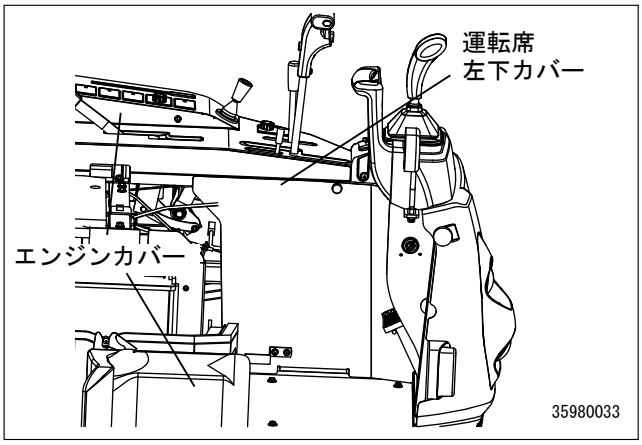
(4) エンジンカバーを閉じます。



7. 走行ベルト

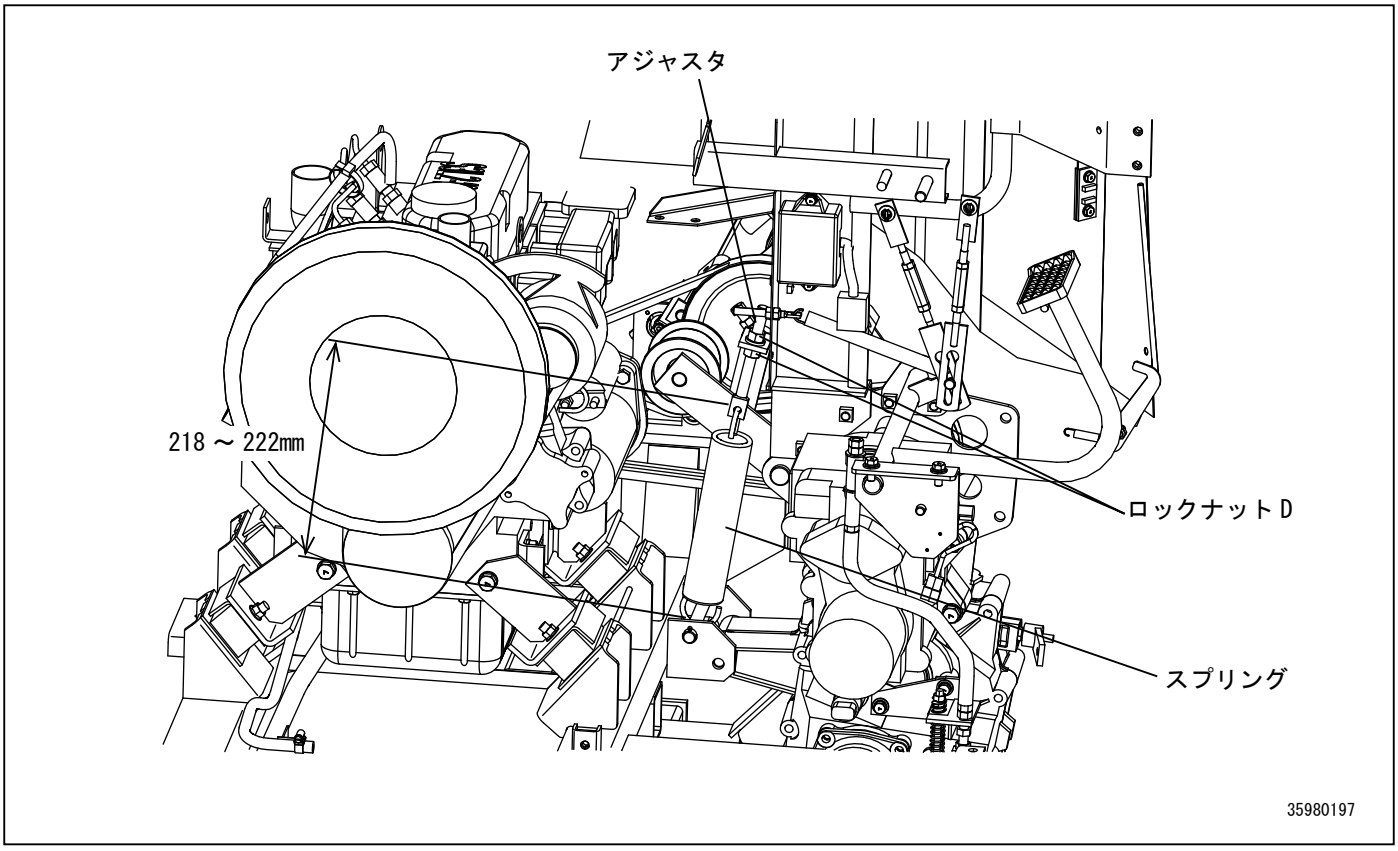
❶ 点検

スプリング長さが 218 ～ 222mm になっていますか。



❷ 調整

(1) エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。
(2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。
(3) 調整後，運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じます。



8. こぎ胴伝動ベルト

❶ 点検

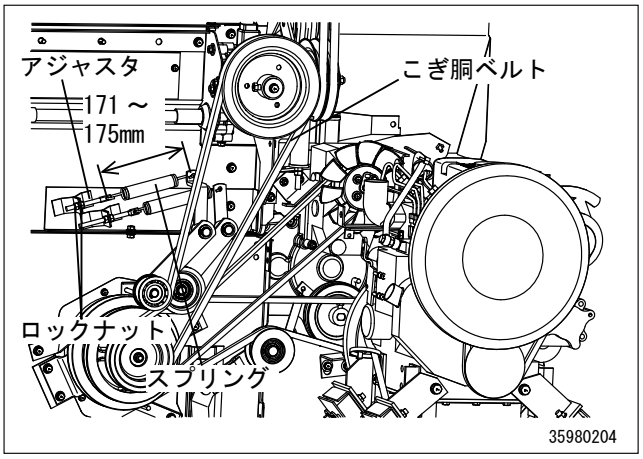
スプリングのセット寸法が 171 ～ 175mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) 調整後グレンタンクを閉じます。



9. 搬送 HST ベルト

❶ 点検

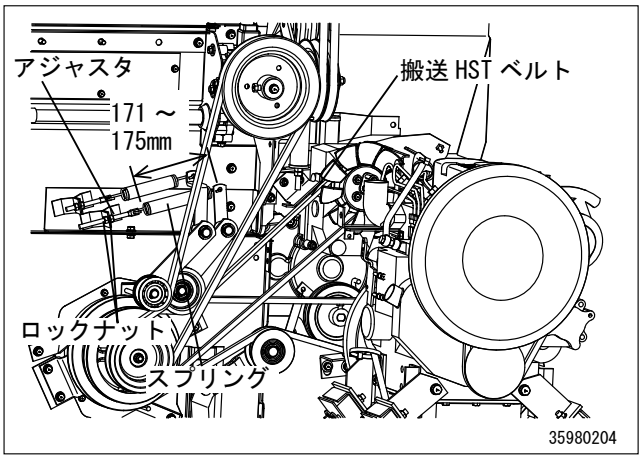
スプリングの長さが 171 ～ 175mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) 調整後グレンタンクを閉じます。



10. こぎ胴ベルト

❶ 点検

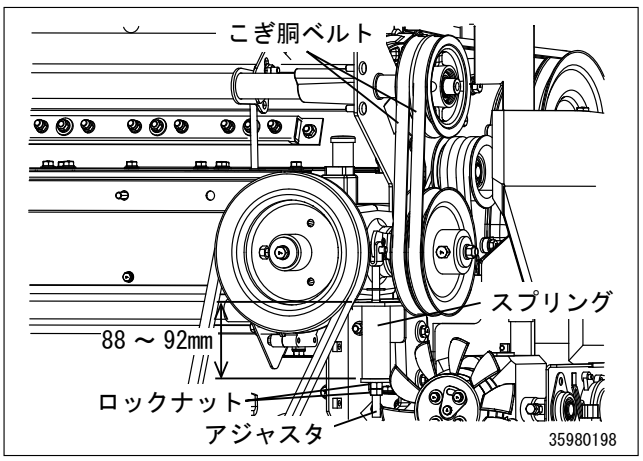
スプリングのセット寸法が 88 ～ 92mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) 調整後グレンタンクを閉じます。



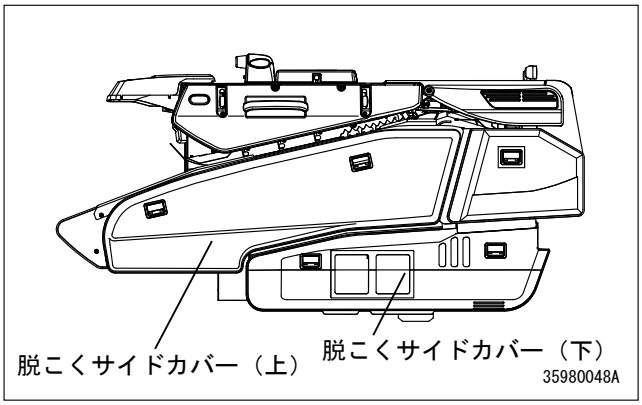
11. 1番ラセンベルト

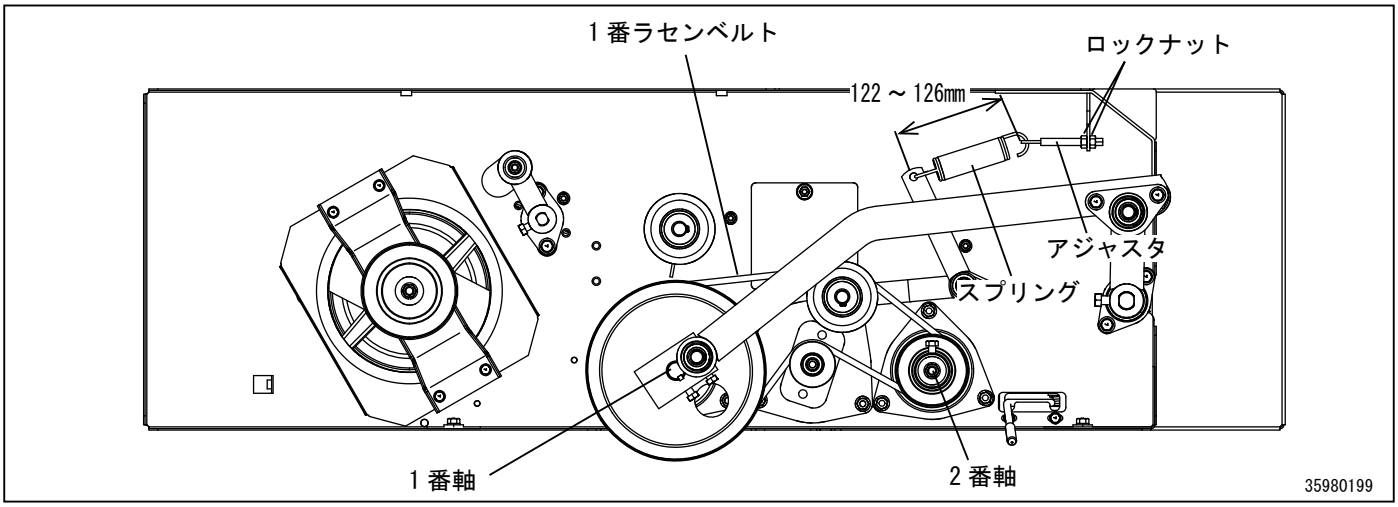
❶ 点検

スプリング長さが 122 ～ 126mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー(上),(下)を外します。
(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
(3) 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。





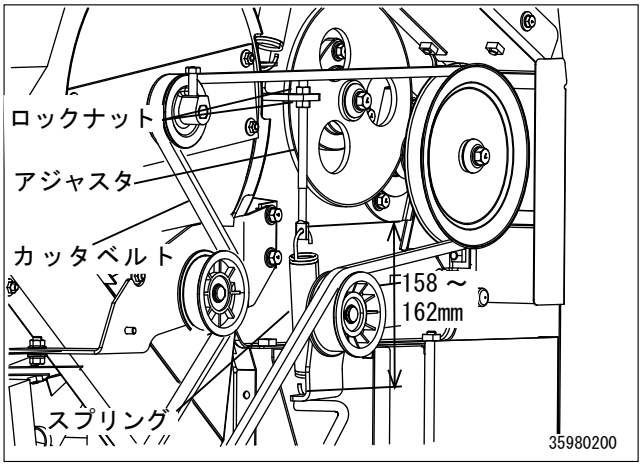
12. カッタベルト

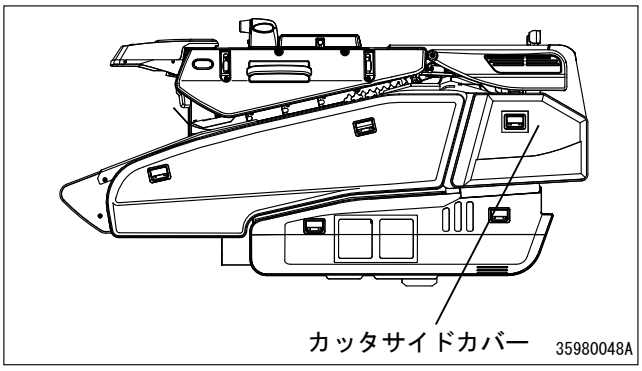
❶ 点検

カッタベルトをセットした時，スプリングの寸法が 158 ～ 162mm になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを外します。
(2) ロックナットをゆるめ，アジャスタで調整します。
(3) 調整後,カッタサイドカバーを取付けます。





13. 選別ベルト

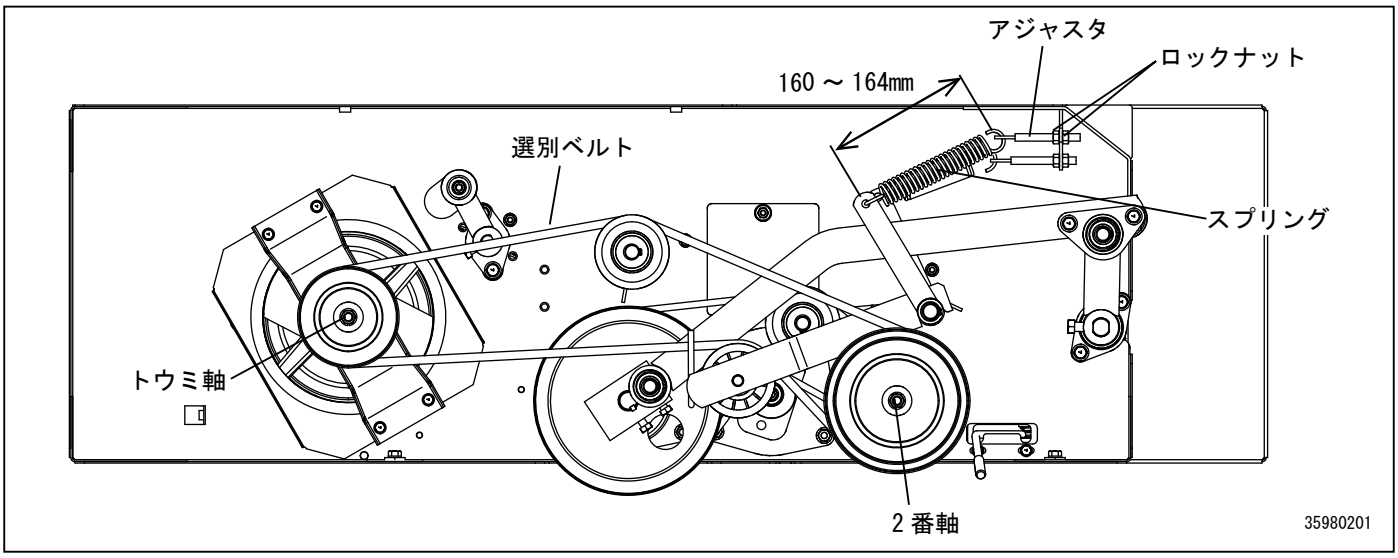
❶ 点検

スプリング長さが 160 ～ 164mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上),（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 調整後，脱こくサイドカバー（上),（下）を取付けます。



14. 穂先排ワラベルト

❶ 点検

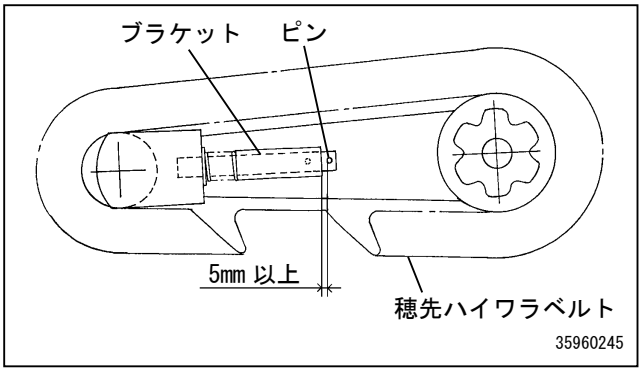
ブラケットとピンのスキマが 5mm 以上 になっていますか。

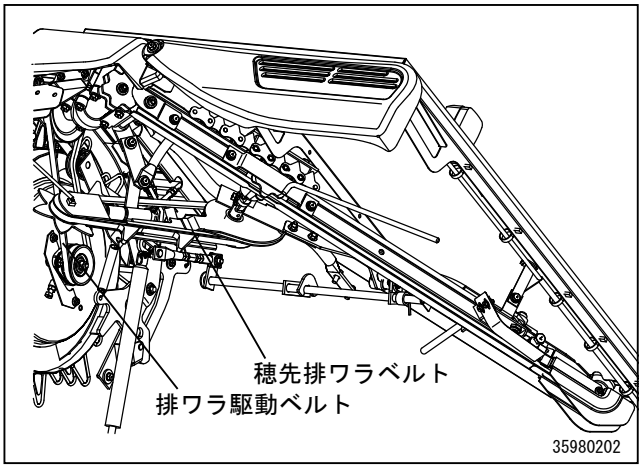
❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。

(2) 5 mm 以下 になっていたらハイワラベルトを交換します。

(3) こぎ胴部を閉じます。





15. 排ワラベルト

❶ 点検

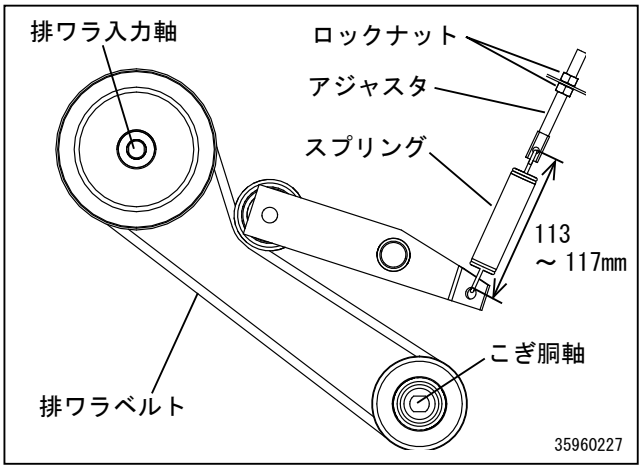
スプリング長さが 113 ～ 117mm になっていますか。

❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。



15. グレンベルト

❶ 点検

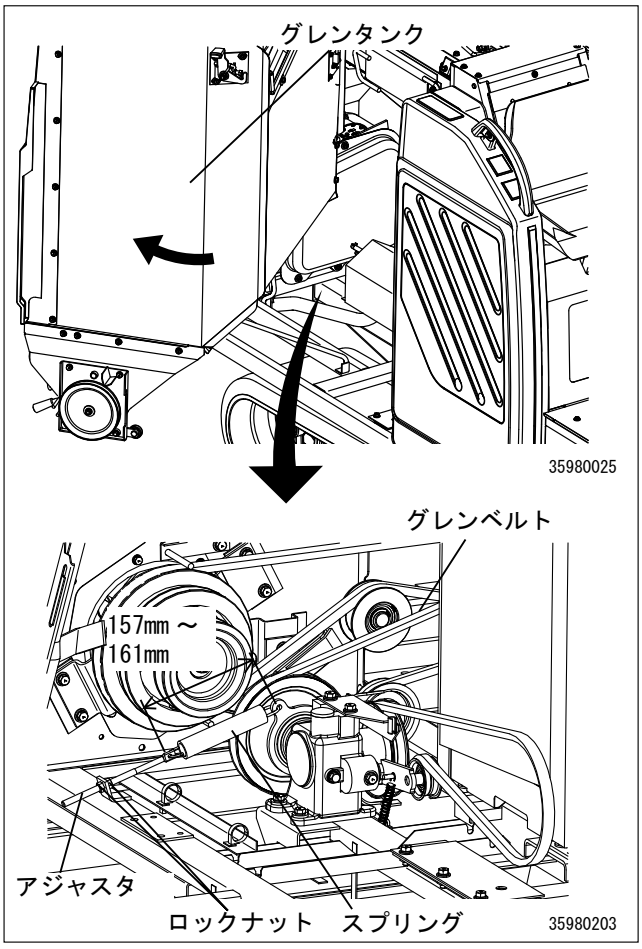
スプリングの長さが 157 ～ 161mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(100 ～ 101 ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後,グレンタンクを元どおり閉じます。



17. かき込みベルト（刈取部）

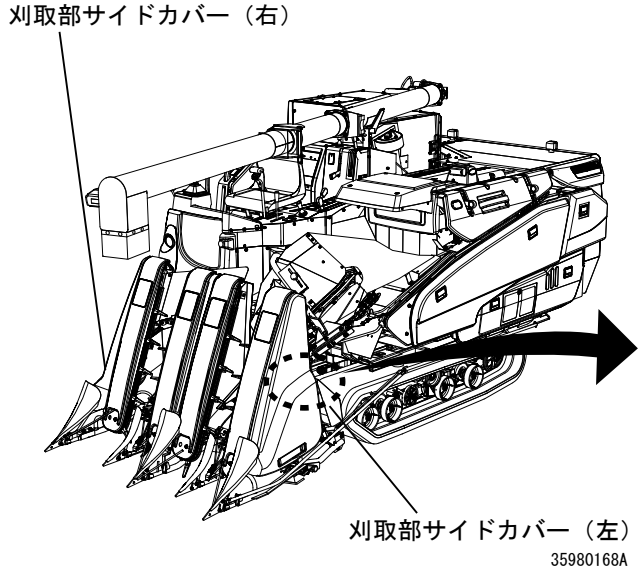
[4 条型]

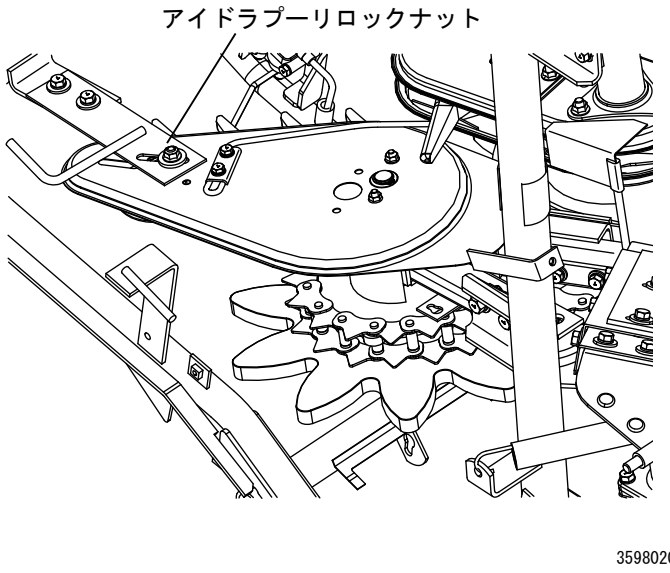
❶ 点検

ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5 ～ 10㎜ になっていますか。(右，中，左)

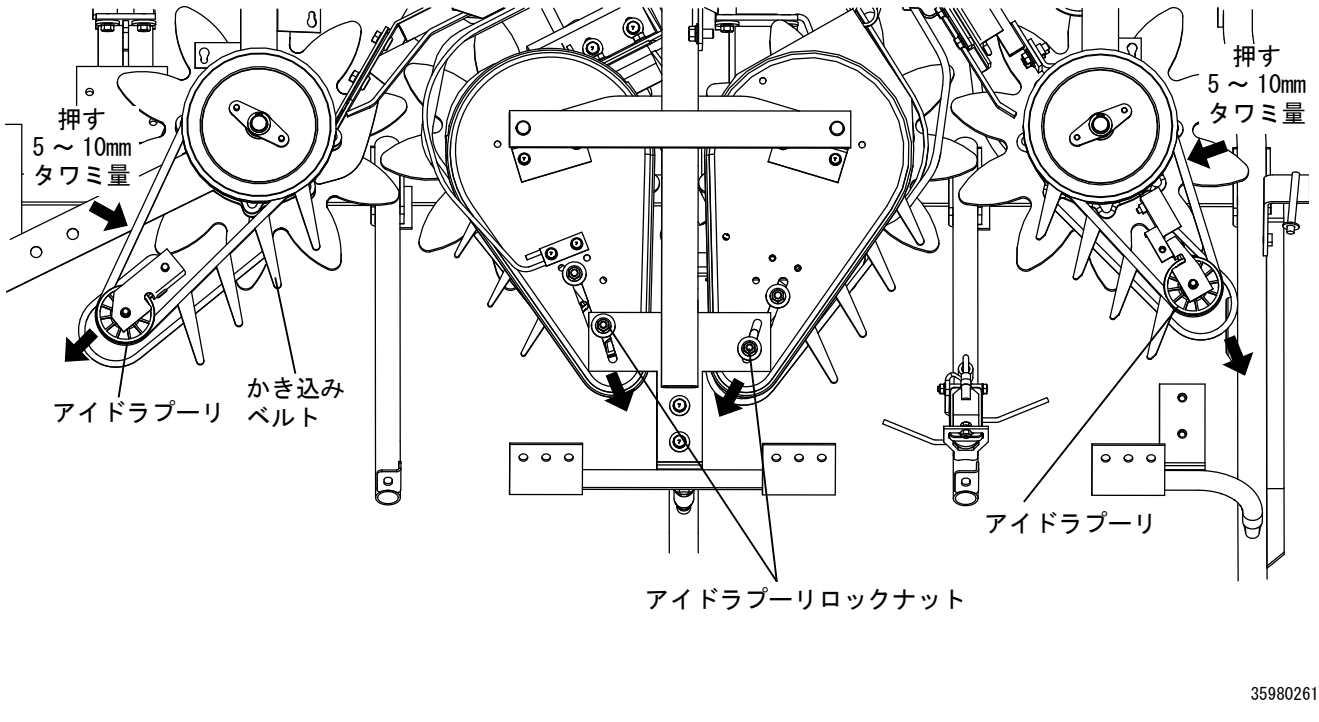
❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー(右),(左)を外します。
(2) アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。
(3) 調整後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。





ベルトタワミ量が 10㎜ 以上ある場合，アイドラプーリロックナットをゆるめ
矢印の方向にアイドラプーリを引っ張りながらロックしてください。



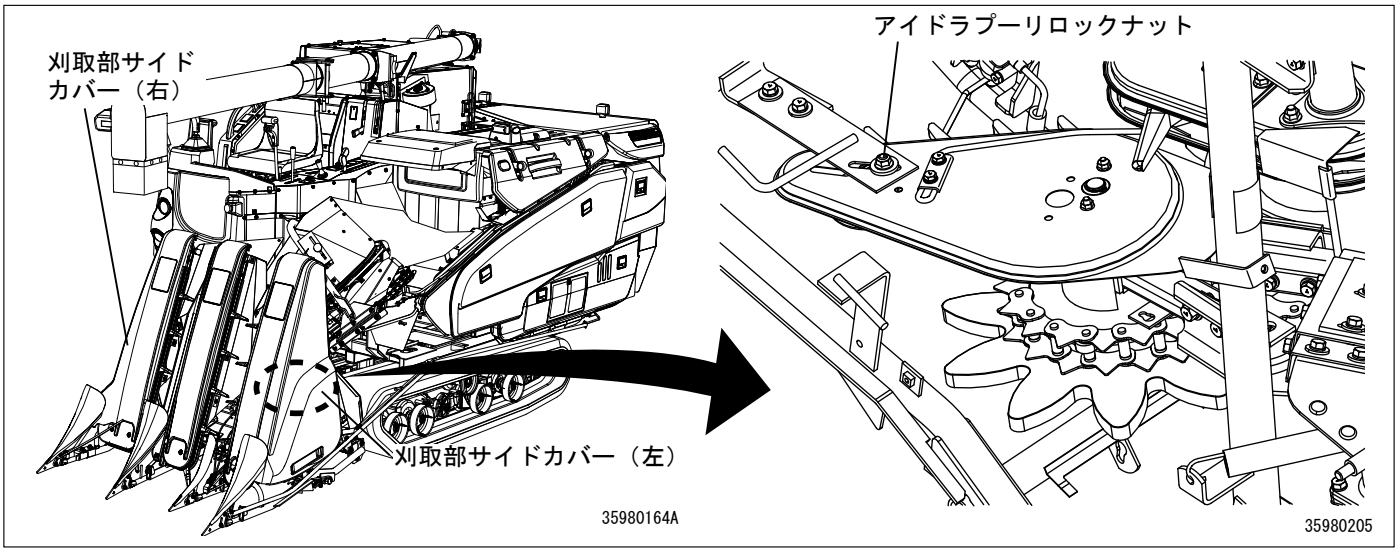
[3 条型]

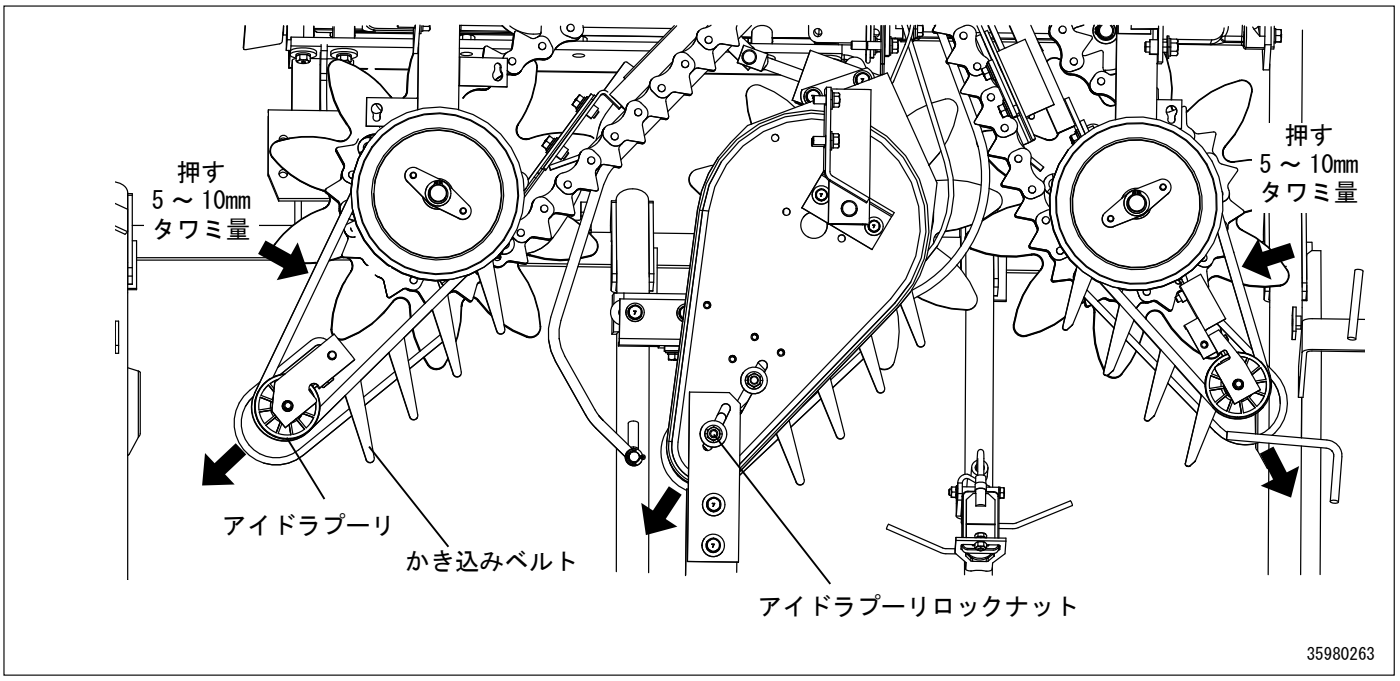
❶ 点検

ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5 ～ 10mm になっていますか。
(右，中，左)

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー(右),(左)を外します。
(2) アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。
(3) 調整後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。





「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら,新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は,スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください。

18. 株元搬送チェン

[4 条型]

株元搬送チェン（右）

❶ **点検**

スプリング A 長さが 177 ～ 183mm になっていますか。

❷ **調整**

ロックナットをゆるめ，アジャスタでスプリング A の長さを調整します。

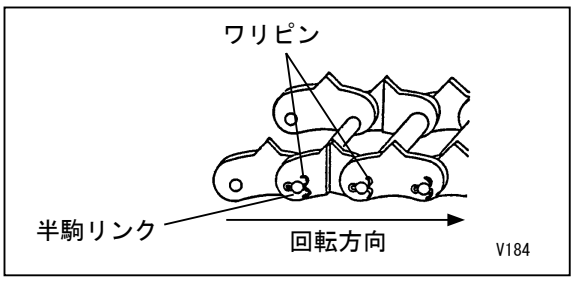
株元搬送チェン（左）

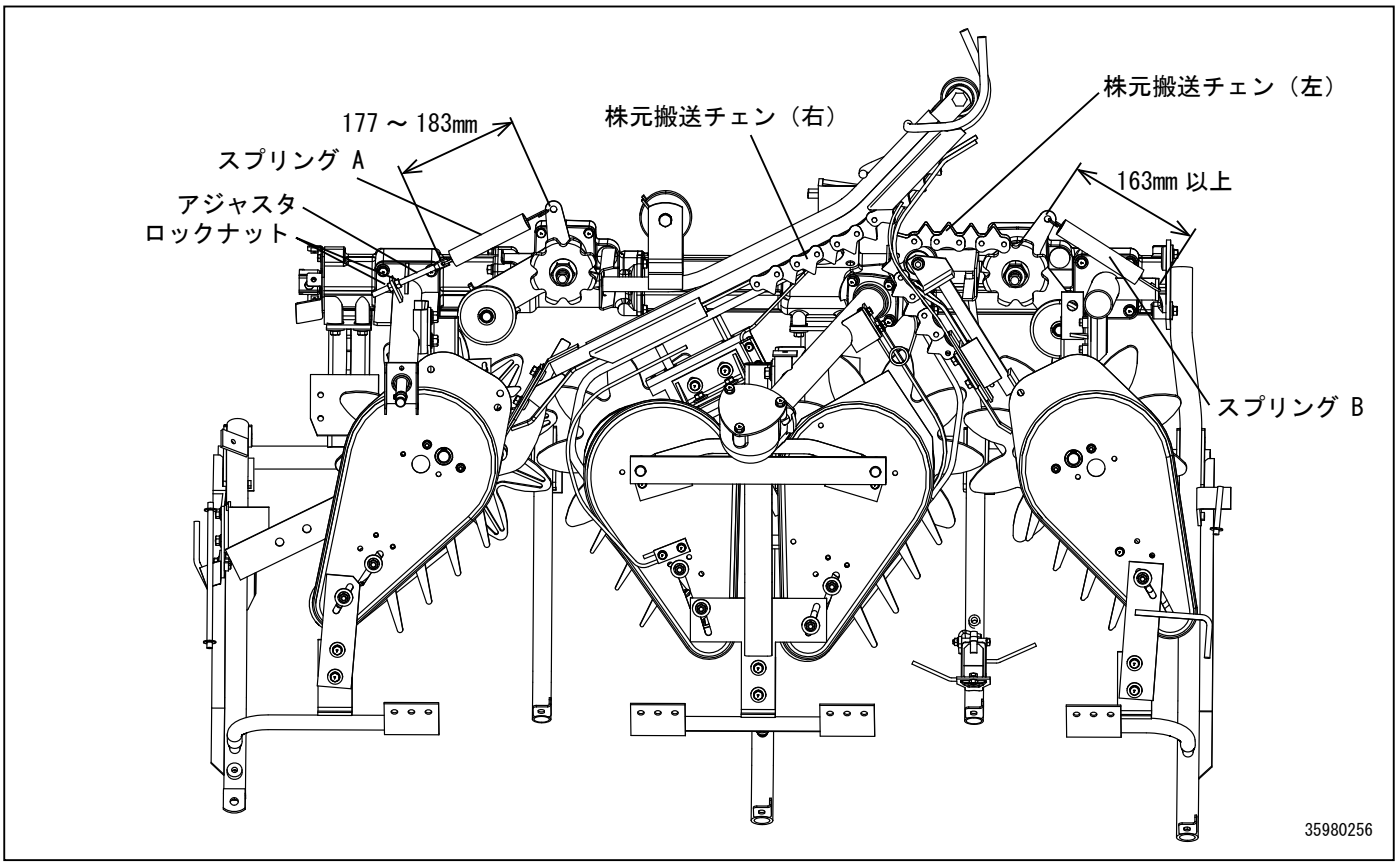
❶ **点検**

スプリング B の長さが 163mm 以上 になっていますか。

❷ **調整**

チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。





[3 条型]

株元搬送チェン（右）

❶ 点検

スプリング A 長さが 177 ～ 183mm になっていますか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめ，アジャスタでスプリング A の長さを調整します。

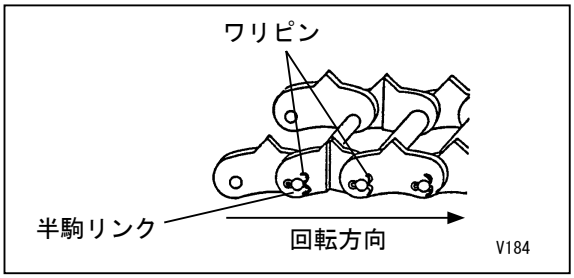
株元搬送チェン（左）

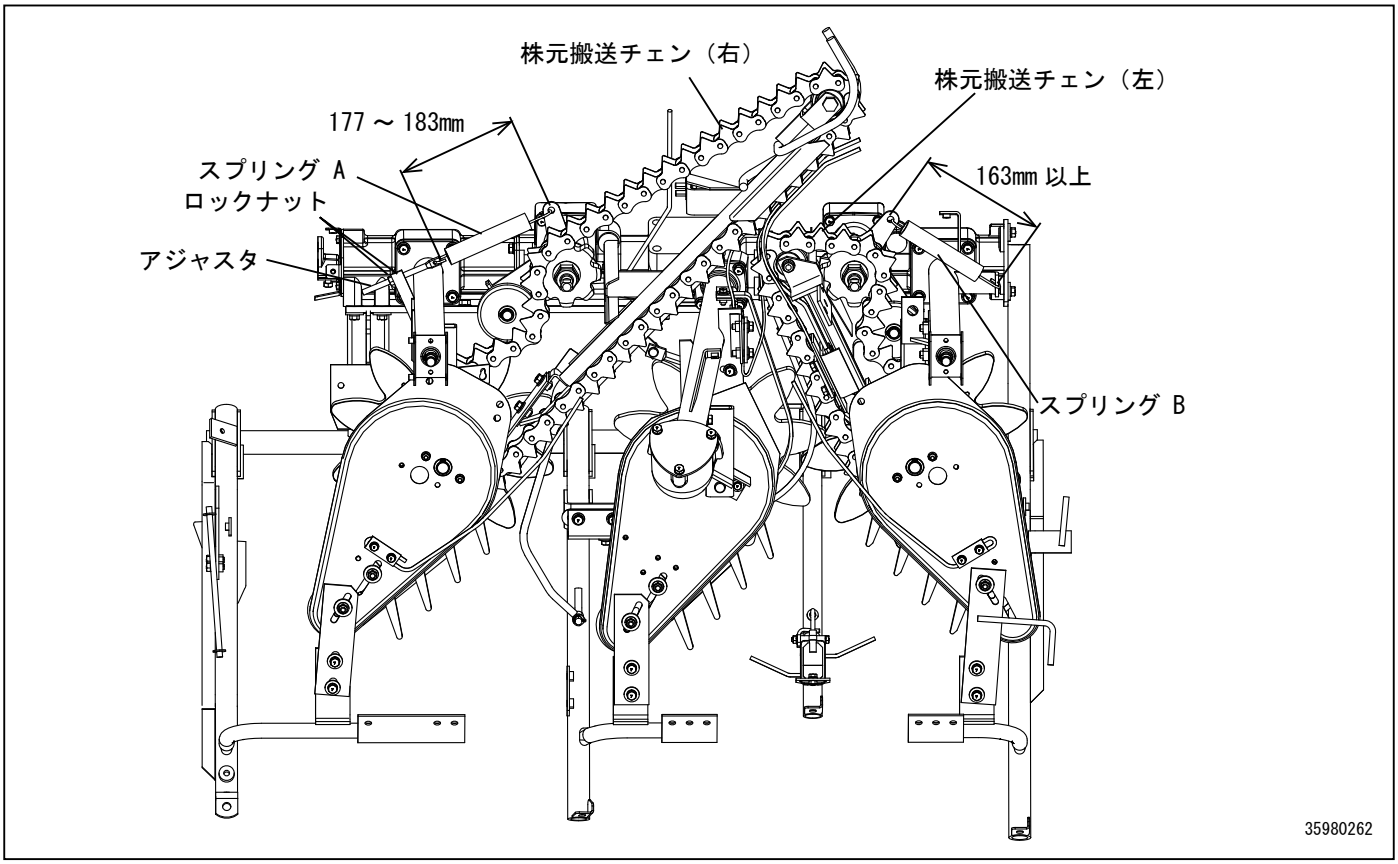
❶ 点検

スプリング B の長さが 163mm 以上 になっていますか。

❷ 調整

チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。





19. こぎ深さ搬送チェン

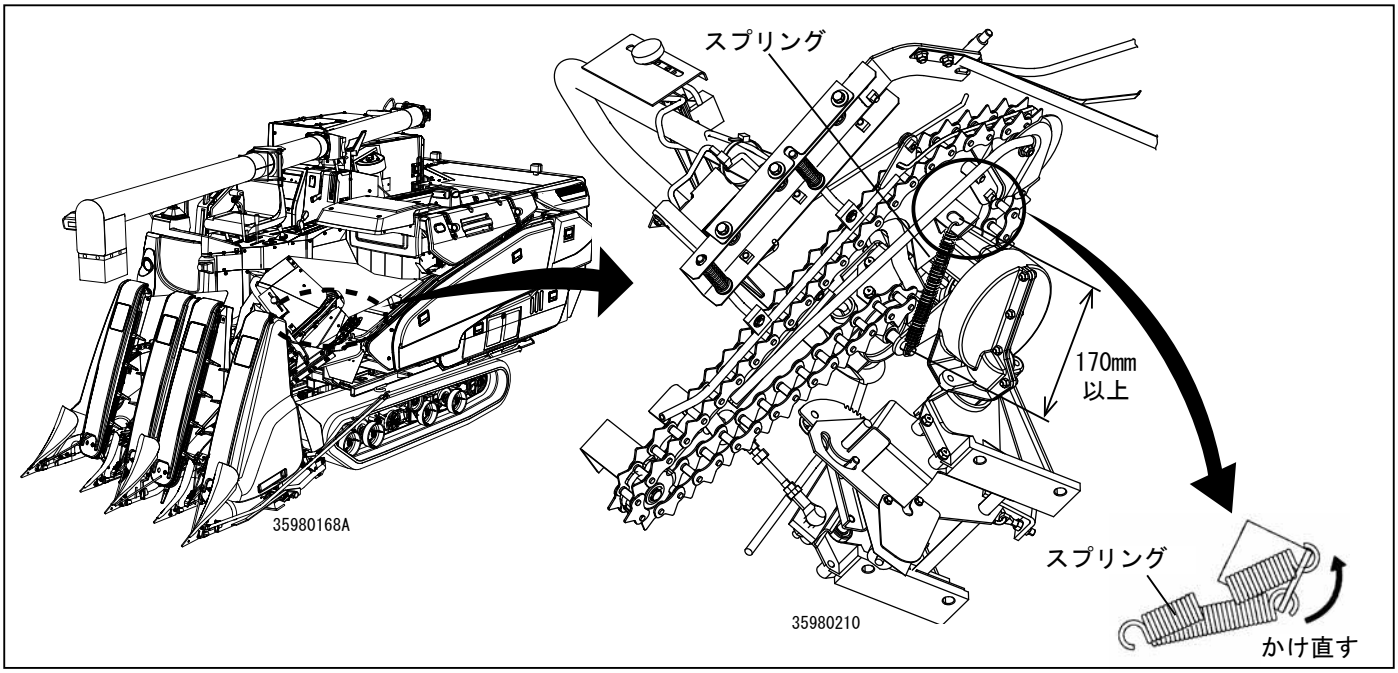
❶ 点検

スプリング長さが 170mm 以上 になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部は下げた状態でこぎ深さ搬送部をいっぱいあげます。(浅こぎ側)

(2) スプリング長さが 170mm 以下 の時は，スプリングをかけ直します。それでもスプリングが 170mm 以下の時は，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



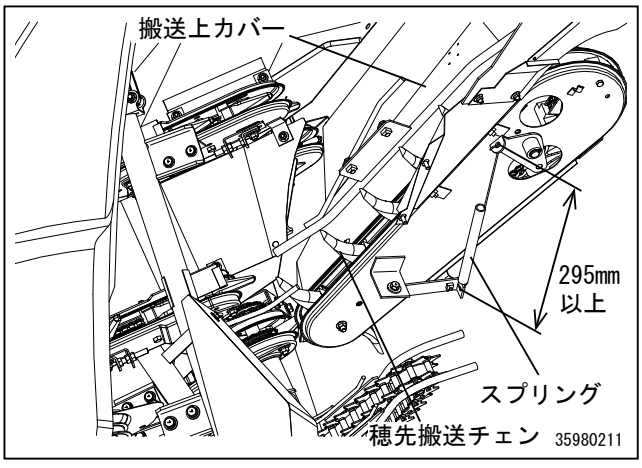
20. 穂先搬送チェン

❶ 点検

スプリング長さが 295mm 以上 になっていますか。

❷ 調整

搬送上カバーを外し，チェンを交換します。交換後は，搬送上カバーを取付けます。



21. かき込み搬送チェン（右，左）

[4 条型]

❶ 点検

「右上，左上」

各々のⒶ部を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3 ～ 5mm になっていますか。

「右下，左下」

テンション軸が長穴端部に当っていませんか。

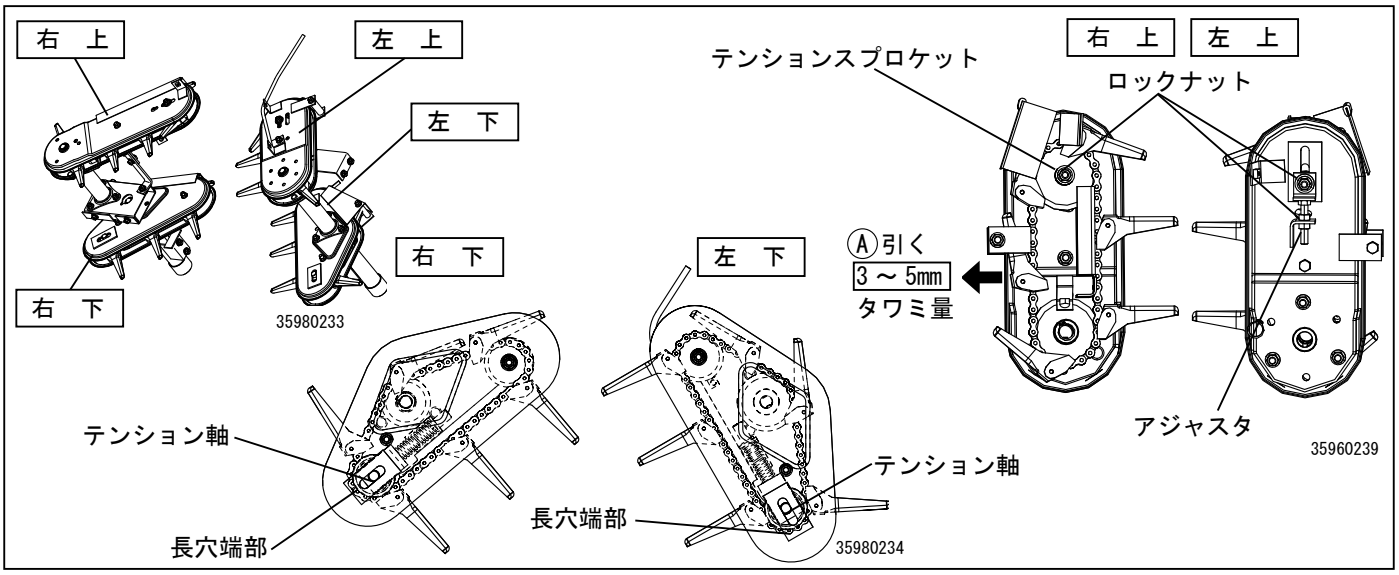
❷ 調整

「右上，左上」

テンションスプロケットのロックナット(表，裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。

「右下，左下」

テンションが長穴端部に当っていればチェンを交換します。



[3 条型]

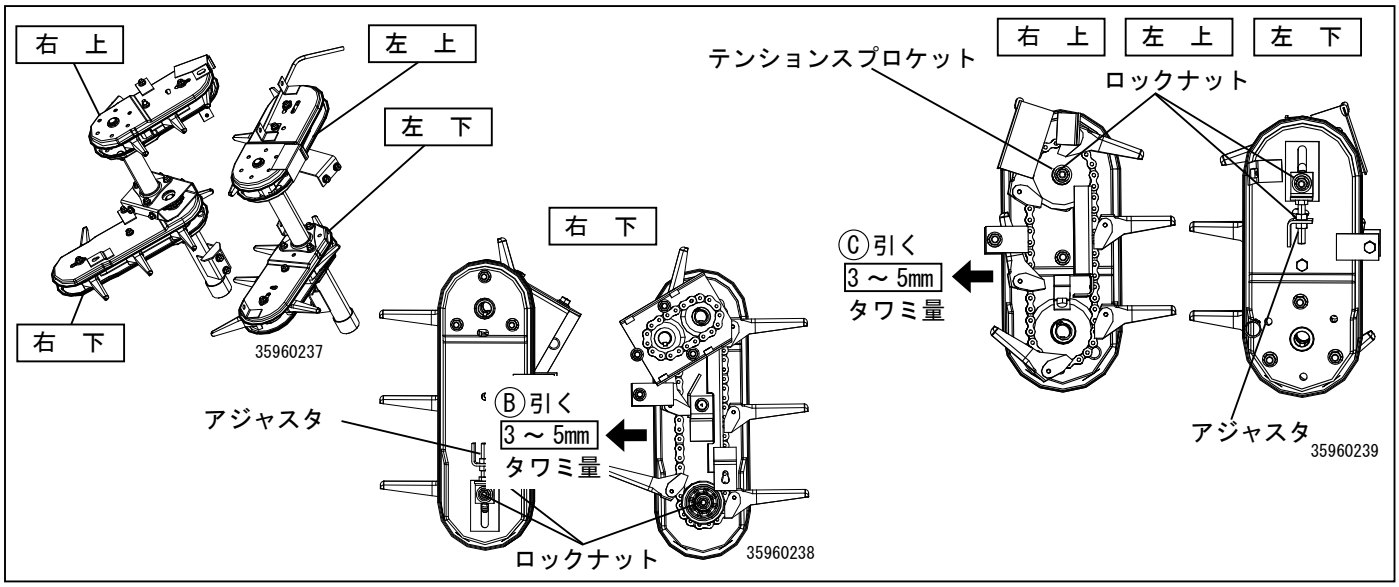
❶ 点検

「右上，右下，左上，左下」

各々のⒷⒸ部 を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3 ～ 5mm になっていますか。

❷ 調整

テンションスプロケットのロックナット（表裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。



22. 脱こくフィードチェン

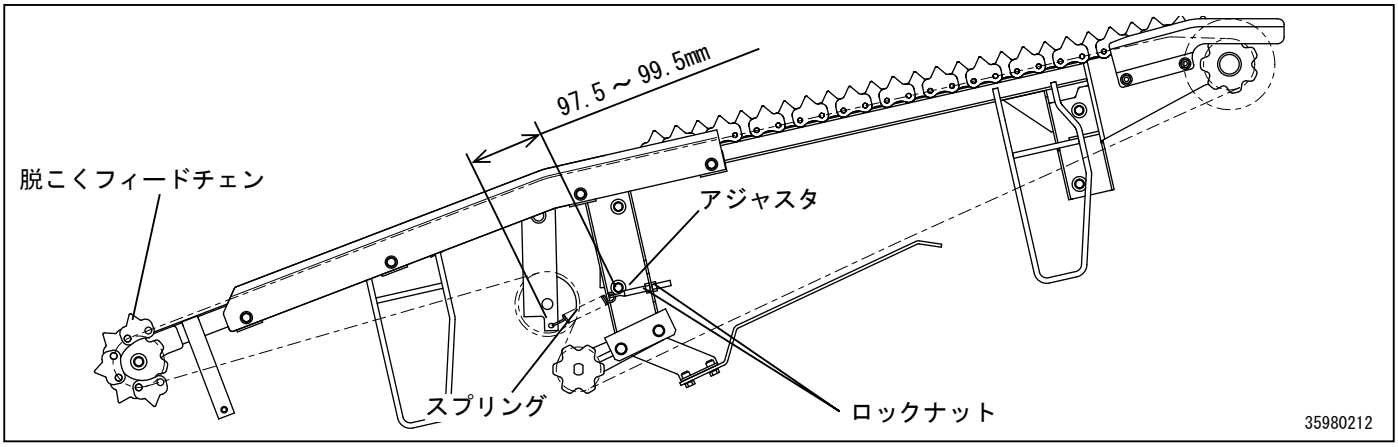
❶ 点検

スプリングの長さが 97.5 ～ 99.5mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上),（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

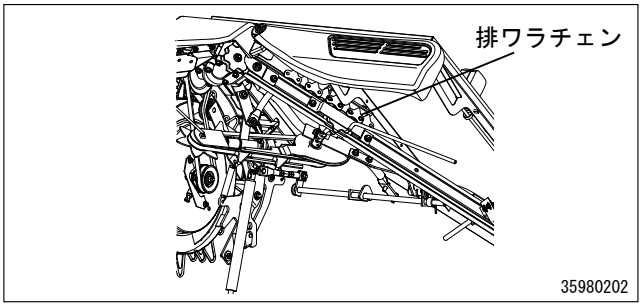
(2) 調整後は脱こくサイドカバー（上),（下）を取付けます。



23. 排ワラチェン

❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10 ～ 15mm になっていますか。



❷ 調整

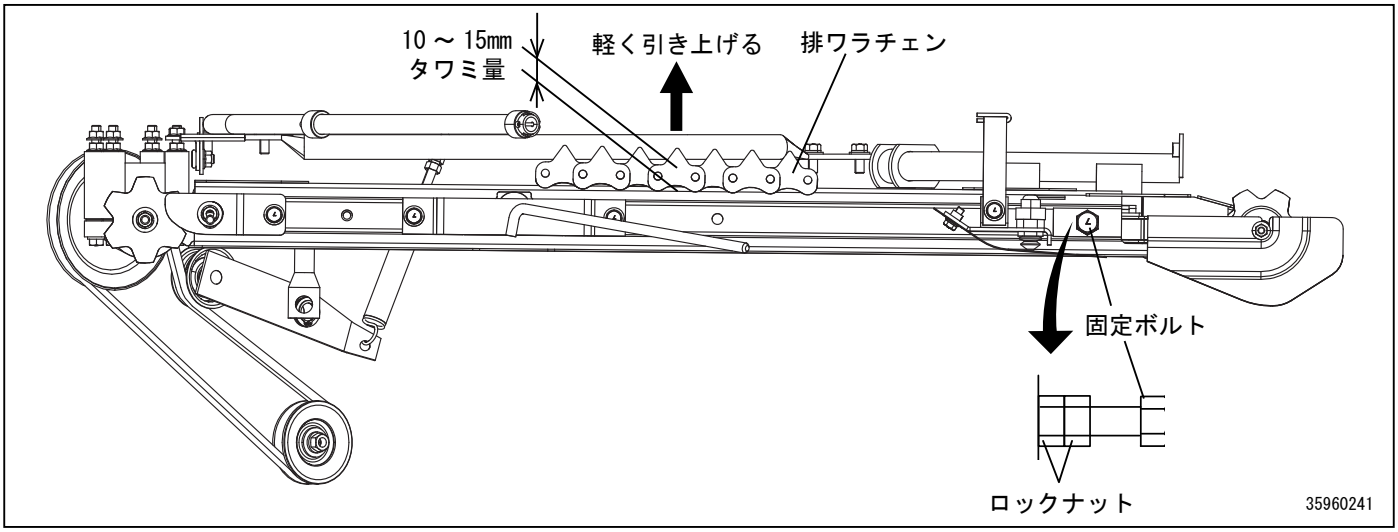
(1) こぎ胴部を開けます。

(2) ロックナット固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。

調整後固定ボルトがゆるまないようロックナットで締付けます。

なお，調整できなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。



「クローラの点検・調整」

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆クローラの点検・調整する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
- ◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行ってください。
  ガレージジャッキは 2t 以上の仕様のものを使用してください。
- ◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機械のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
- ◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

24. クローラ

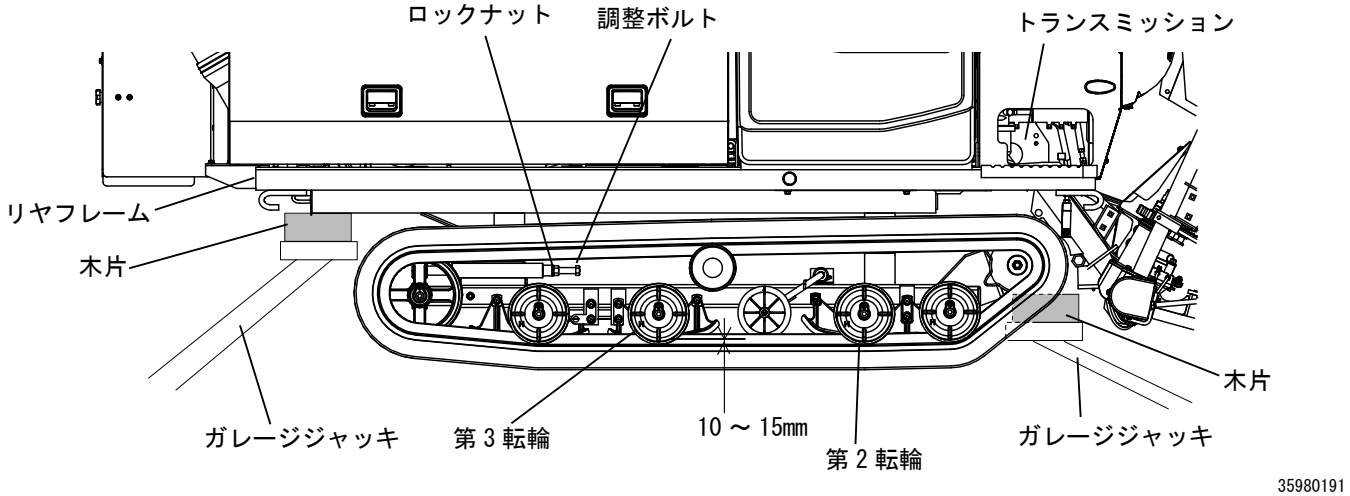
❶ 点検

フレームをジャッキアップした状態で第 3 転輪とクローラのスキマが 10 ～ 15mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 図示のようにトランスミッションとリヤフレームの右または左に木片を介しガレージジャッキでジャッキアップします。

(2) 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで張ります。



取扱いのポイント

- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損する恐れがありますので，木片を噛ませて行ってください。

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

- **◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。**
- **◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。**
- **◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。**
- **◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。**
- **◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損･損傷･故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書･ラベルに従って，正しく使用してください。**
- **◆機械にシートカバーをかける時は，エンジンが冷えてから行ってください。エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。**

1. 機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。(103 ～ 113 ページを参照)

2. 錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆びないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗装を行います。

3. エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行う時は平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチレバーを《切》にしエンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。(83 ページ参照)

4. 点検・整備

「定期点検整備表」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。

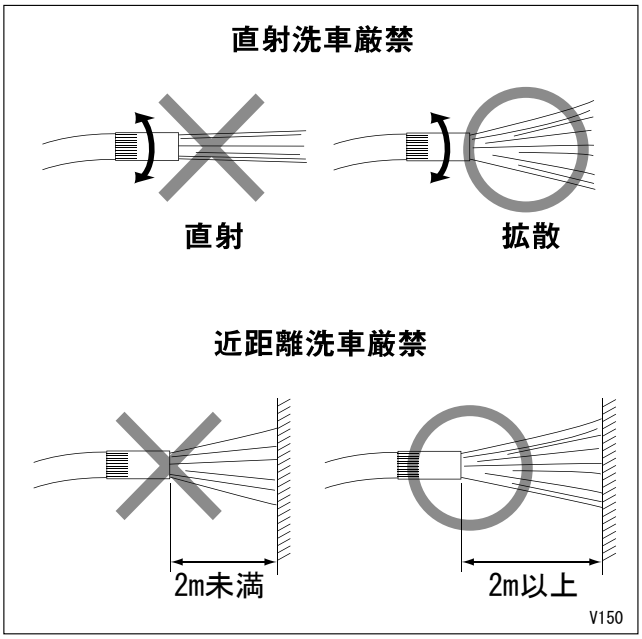
取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。**

⚠注意　洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

１．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
２．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
３．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン，ラジエータ，キャビン内等への侵入による故障
(3) クローラ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



5. 格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

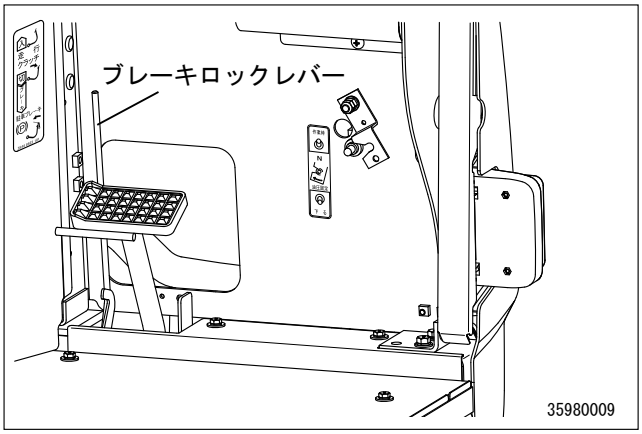
❶ **「クローラ」**の下には板等を敷いておきます。

❷ 各レバーは**《切》・《N》(中立)**の位置にします。

❸ **「ナローガイド（左)」**,**「排出オーガ」**を収納し，デバイダ先端に**「バンパ」**を取付けておきます。

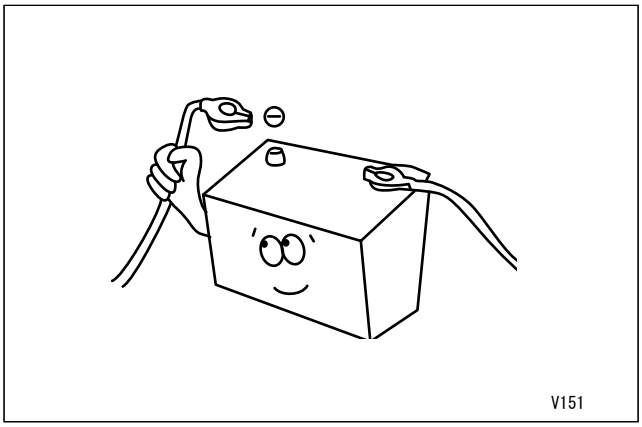
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの**「キー」**を抜取ります。

❺ ブレーキロックレバーをかけます。



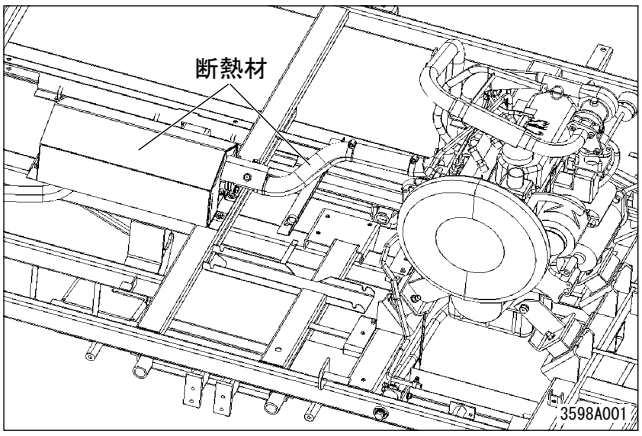
❻ クローラに**「歯止め」**をします。

❼ **「バッテリ」**は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，⊖側のコードを外しておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のため，エンジンを約 10 分間回します。



取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と同じ場所に格納するのは避けてください。
- エンジンを始動する前に，バッテリターミナル等保管するときに処置した項目を復元してください。
- マフラ部断熱材の損傷（破れ，剥れ）を確認し，損傷の場合は火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。



6. 再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ **「運転まえの点検」**を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，**「お買いあげ先」**に相談し点検を受けます。
・そのときは**「型式名」**，**「機械番号（製造番号）」**，**「エンジン番号」**をあわせてお知らせください。

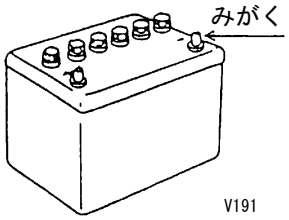
⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行ってください。

⚠注意

◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

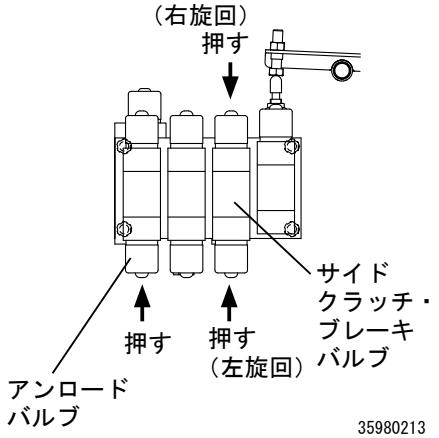
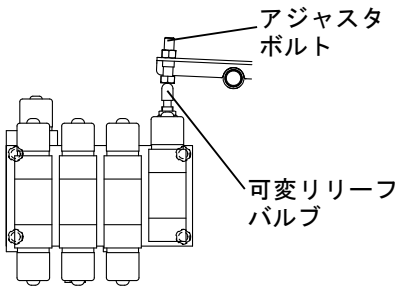
1. エンジン部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 脱こく・刈取クラッチレバーが《**入**》になっている。	●脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にする。	22
	❷ クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	17
	❸ こく粒排出レバーが《**入**》になっている。	●こく粒排出レバーを《**切**》にします。	24
	❹ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	94
	❺ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズ(60A)を交換します。	27～29
	❻ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	95～100

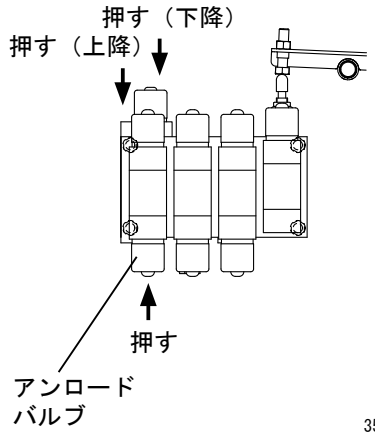
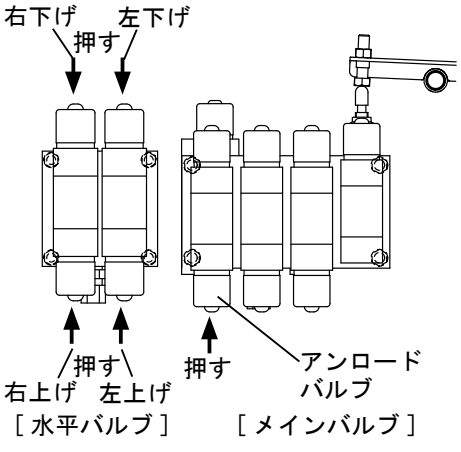
不調時の処置

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶ 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（燃料タンク容量……30L）	80,93
	❷ ・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアがたまっている。	●エア抜きをします。	93
	❸《燃料カットソレノイド》ヒューズが切れている	●ヒューズ（50A）を交換します。	27～29
	❹《ランプ・計器》ヒューズが切れているため,燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	27～29
	❺《キー切り停止》ヒューズが切れている	ヒューズ（10A）を交換します。	27～29
	❻燃料コックが「閉」のままになっている	燃料コックを開ける	92
エンジンの出力が出ない,または自然に止まる	❶ 燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	92
	❷ エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	92
	❸ エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	80～82
	❹ 冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	82,83
	❺ エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	139
	❻《ランプ・計器》ヒューズが切れているため,燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	27～29
	❼《キー切り停止》ヒューズが切れている	●ヒューズ（10A）を交換します。	27～29
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し,ホーン吹鳴	《搬送制御》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（20A）を交換します。	27～29

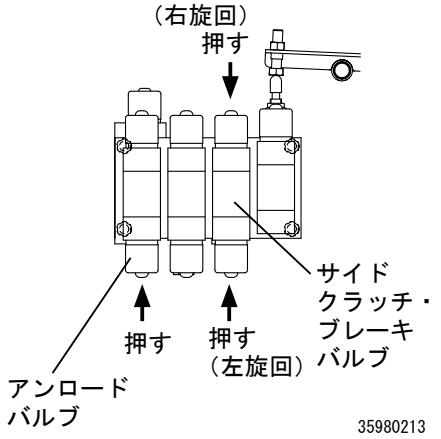
2. 走行・運転操作部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《N》（中立）位置になっている。	●条件に合わせ《低速》，または《標準》，《走行》位置にセットします。	84～86
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	84～86
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《操向・リフト・オーガ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ…10A 《マイコン》ヒューズ……10A	27～29
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。 （バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない	ブレーキの効きが悪い。  	●可変リリーフバルブ部のアジャスタボルトを調整します。	135

不調時の処置

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《操向・リフト・オーガ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ…10A 《マイコン》ヒューズ……10A	27～29
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，刈取部リフトバルブの《上昇》および《下降》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 油圧固定スイッチが《油圧固定》位置か《下る》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《作業時》位置にします。	15
傾斜手動レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない [L仕様]	❶ 《水平自動》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズまたは《操向・リフト・オーガ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《水平自動》ヒューズ……10A 《マイコン》ヒューズ……10A 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ…10A	27～29
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原因（点検個所）	処　置	参照ページ
モニタランプが点灯しない	❶《ランプ・計器》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	27～29
	❷ ランプの電球が切れている。	●電球を交換します。	―
前照灯・ホーン・バックブザー・方向指示器が点灯または作動しない	❶《ランプ・計器》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	27～29
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶《こぎ深さ・注油》ヒューズか《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《こぎ深さ・注油》ヒューズ…20A 《マイコン》ヒューズ……10A	27～29
	❷ 刈取部のこぎ深センサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	―
刈高さポジションコントロールが作動しない	《操向・リフト・オーガ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ…10A 《マイコン》ヒューズ……10A	27～29
方向自動制御（ジャストディレクタ）が作動しない ［A仕様］	❶《操向・リフト・オーガ》ヒューズか《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ…10A 《マイコン》ヒューズ……10A	27～29
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどがたまっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	―
	❸ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	

4. 刈取部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にします。 ② エンジンを停止します。 ③ 刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取 《入》位置**にして確認します。 取扱いのポイント **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	ー
刈取部が動かない	❶ 刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	137
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	90
	❷ 刈刃の調整不良（刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	128～133
	❸ 刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	128～133
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは急激な操作はさけます。	16, 21
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶ 搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等がたまっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を除きます。	ー
	❷**「深こぎ」**または**「浅こぎ」**となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	12

5. 脱こく部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動） ❷ 脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動。 （脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にします。 ② 排ワラ関係の詰まり個所を取除きます。 ③ 排ワラチェンの張りを点検・調整します。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを**《入》**にして確認します。	―
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合った回転計の値になっているか確認し回転計を見て**《作業》**のの範囲内になるようにして使用します。	11, 45
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●こぎ胴ベルトを張ります。 ●搬送HST入力ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	137 141 141 143 142
	❸ こぎ深さが**「深こぎ」**のため, こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65, 66
	❹ 作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除。	103, 104
	❺ 刈取り時期が早く, 青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ低能率で作業します。	20
	❻ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している	●稲・麦の種類, 作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	71
	❼ 1番ラセン底板, 2番ラセン底板の掃除口が開いている。	●掃除口を閉じます。	105

不調時の処置

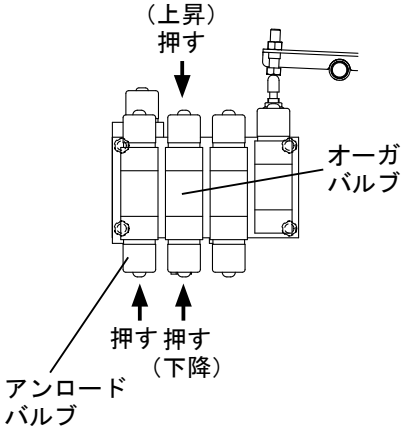
不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	103, 104
	❷ こぎ深さが**「深こぎ」**のため, こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65, 66
	❸ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て**《作業》**の範囲内になるようにして使用します。	11, 45
	❹ 刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を作業速度の低速刈側に下げます。	19
	❺ 送じんがスムーズでない。	●送じん量調節位置を**《多い》**方向へ調節します。（必要に応じてガイドを固定します。）	73-1
	❻ ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマを交換します。	131～133
	❼ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類, 作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	71

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶ こぎ深さが**「深こぎ」**のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65，66
	❷ 能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，主変速レバーで速度を作業速度の低速刈側に下げます。	19
	❸ 作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	103，104
	❹ 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度内で，できるだけ低能率で作業をします。	19，47
	❺ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業に合わせてダイヤルをセットします。	71
こぎ残しが多い	❶ こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65，66
	❷ こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	11，45
	❸ デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。 （強く操作すると，**「ブレーキ」**が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	ー

6. ワラ処理部

不調の状況	原因（点検個所）	処　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶ カッタ刃の磨耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	114～127
	❷ 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	47 65, 66
	❸ ワラが濡れているか，雑草が多いためカッタ軸に巻付が発生しています。	●エンジンを停止し，巻付いたワラ草を除去します。	―
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶ 排ワラチェンの張り不良。	●チェンを張ります。	151
	❷ こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	65, 66
	❸ 刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	47
エンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチレバーを《入》にするとエンジンが停止する	カッタ切替板が開いている。	●切替板を閉じます。	107

7. グレンタンク部

不調の状況	原因（点検個所）	処　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶《操向・リフト・オーガ》《オーガモータ》《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ ……10A 《オーガモータ》ヒューズ ……30A 《マイコン》ヒューズ ……10A	27～29
	❷ オーガ上下バルブのゴミ噛み。  	●エンジンを始動しオーガ上下バルブの「上昇」，「下降」それぞれの手動ピンを数回押すと正常にもどる事があります。 （オーガ上下バルブは運転席足元のステップを外すと，下方にあります。） 取扱いのポイント ●水，またはスチームでの洗浄は厳禁。	―
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶ ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	138
	❷ タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	―

付　　表

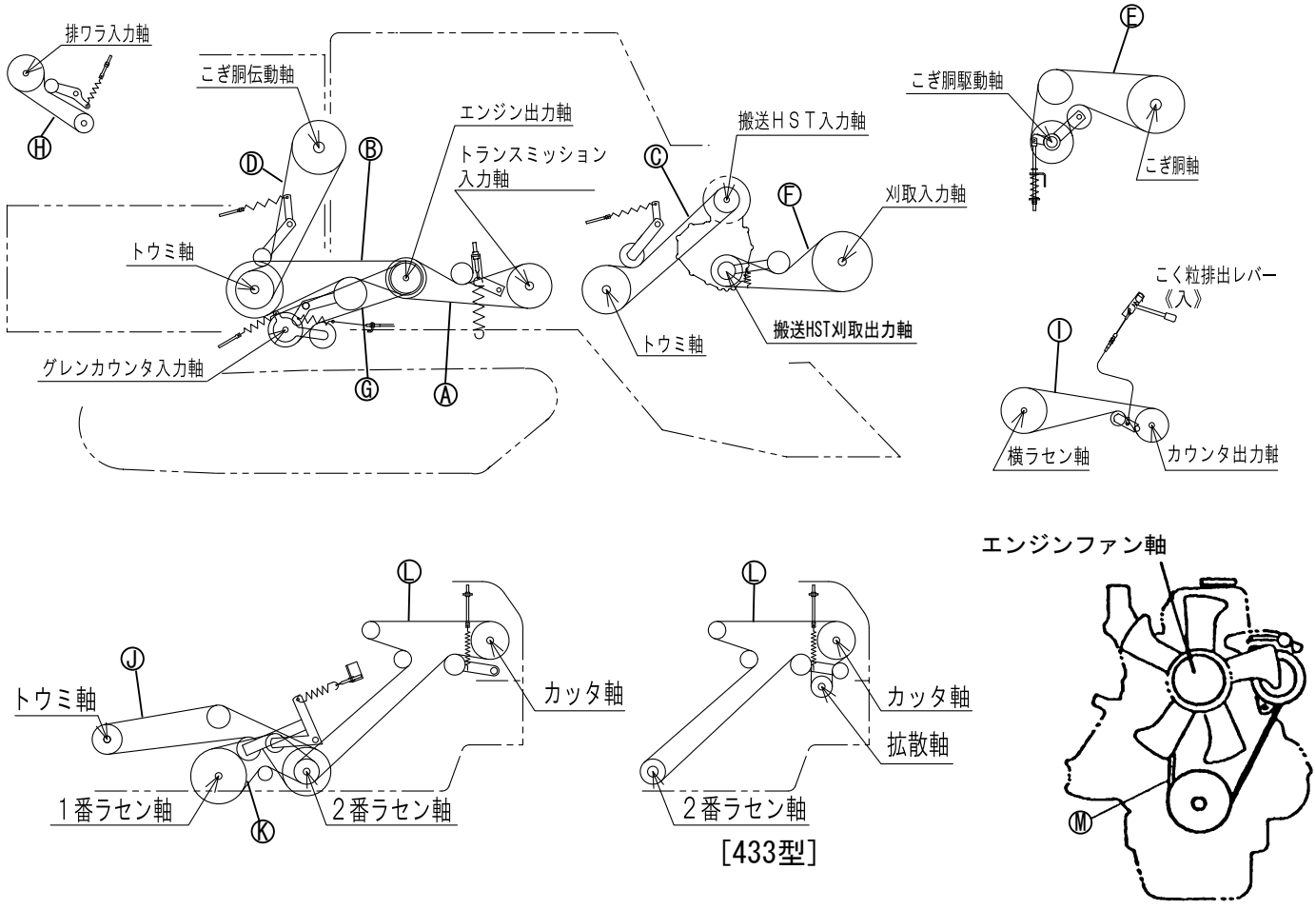
1. 主要諸元

型式名			三菱VY433		三菱VS328		三菱VS333	
区分			FAM	FLAM	FC	FAM	FAM	FLAM
車両型式名			三菱EDM-VC33C					
機体寸法（格納時）	全長 (mm)		3,760					
	全幅 (mm)		1,680					
	全高 (mm)		1,980					
機体質量（重量） (kg)			1,855	1,955	1,790	1,805	1,815	1,915
エンジン	型式		S3L2-T13CA		S3L2-18CA		S3L2-T13CA	
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル					
	総排気量 (L{cc})		1.318{1318}					
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		24.3{33}/2800		20.6{28}/2800		24.3{33}/2800	
	使用燃料		ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量(L)		30					
	始動方式		セルモータ式					
	バッテリ (V・Ah)		12・36					
走行部	クローラ	幅×接地長(mm)	420×1,390		400×1,390			
		中心距離(mm)	895		875			
		平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	15.6{0.16}	16.4{0.17}	15.8{0.16}	15.9{0.16}	16.0{0.16}	16.9{0.17}
	変速方式		油圧モータ式（HST）					
	変速段数（段）		前進無段、後進無段（副変速2段）					
	走行速度	前進(m/s)	標準：0ー1.02，走行：0ー2.12		標準：0ー1.10，走行：0ー2.28		標準：0ー1.22，走行：0ー2.52	
		後進(m/s)	標準：0ー0.99，走行：0ー1.95		標準：0ー1.07，走行：0ー2.10		標準：0ー1.18，走行：0ー2.32	
刈取部	刈取り条数（条）		4		3			
	デバイダ先端間隔(mm)		1,400ー1,450		1,150ー1,200			
	刈取装置形式		往復動刃式					
	刃幅（mm）		1,400		1,150			
	変速段数(段)		無段変速（車速同調式）					
	刈高さ範囲（mm）		40ー150					
	こぎ深さ調節方法		電動式（自動・手動併用）					
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）					
	こぎ胴	径×幅(mm)	410×620					
		回転速度(rpm)	前450・後550					
	処理胴	径×幅(mm)	140×720					
		回転速度(rpm)	1,515					
	揺動板	幅×長(mm)	500×1,120					
処理部こく粒	こく粒処理方式		グレンタンク式					
	タンク容量(L)		800					
排ワラ処理装置			ディスクカッタ					
適応作物全長(mm)			550ー1,300					
倒伏適応性（度）			追刈：85°　向刈：70°　以下					
作業能率（分/10a）			16ー55		18ー67		17ー67	
運転免許			小型特殊免許					

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

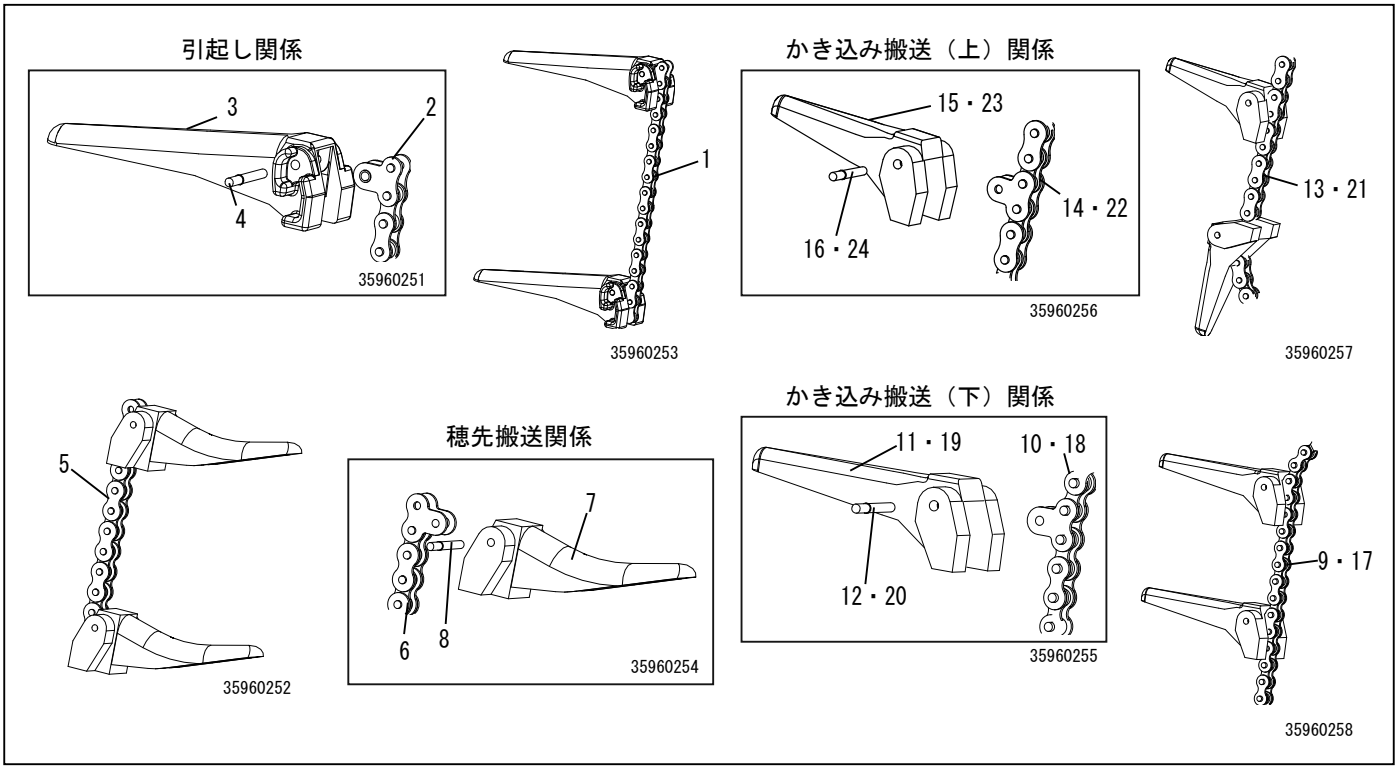
記号	伝　動　系　統	本数	部品番号	仕　　様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3599 0055 000	SB57	走行ベルト[4条型]
		2	3598 0055 000	SB55	走行ベルト[3条型]
B	エンジン出力軸～トウミ軸	1	3578 6107 000	SC67	脱こくベルト
C	トウミ軸～搬送HST入力軸	1	3559 1961 000	LB62	搬送HSTベルト
D	トウミ軸～こぎ胴伝動軸	1	3578 6537 000	SC66	こぎ胴伝動ベルト
E	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	0852 1500 066	SB66	こぎ胴ベルト
F	搬送HST刈取出力軸～刈取入力軸	1	3544 1212 000	LB54	刈取ベルト[4条型]
		1	3578 4018 500	LB53	刈取ベルト[3条型]
G	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 053	SB53	グレンベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0851 1200 035	SA35	排ワラベルト
I	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	0852 1200 053	SB53	横ラセンベルト
J	トウミ軸～2番ラセン軸	1	0852 1500 064	SB64	選別ベルト
K	2番ラセン軸～1番ラセン軸	1	0851 1500 043	SA43	1番ラセンベルト
L	2番ラセン軸～カッタ軸	1	0852 1200 108	LB108	カッタベルト[4条型]
		1	0852 1200 098	LB98	カッタベルト[3条型]
M	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	MD088955	980mm	ファンベルト



3. 主な消耗部品

1. 爪関係

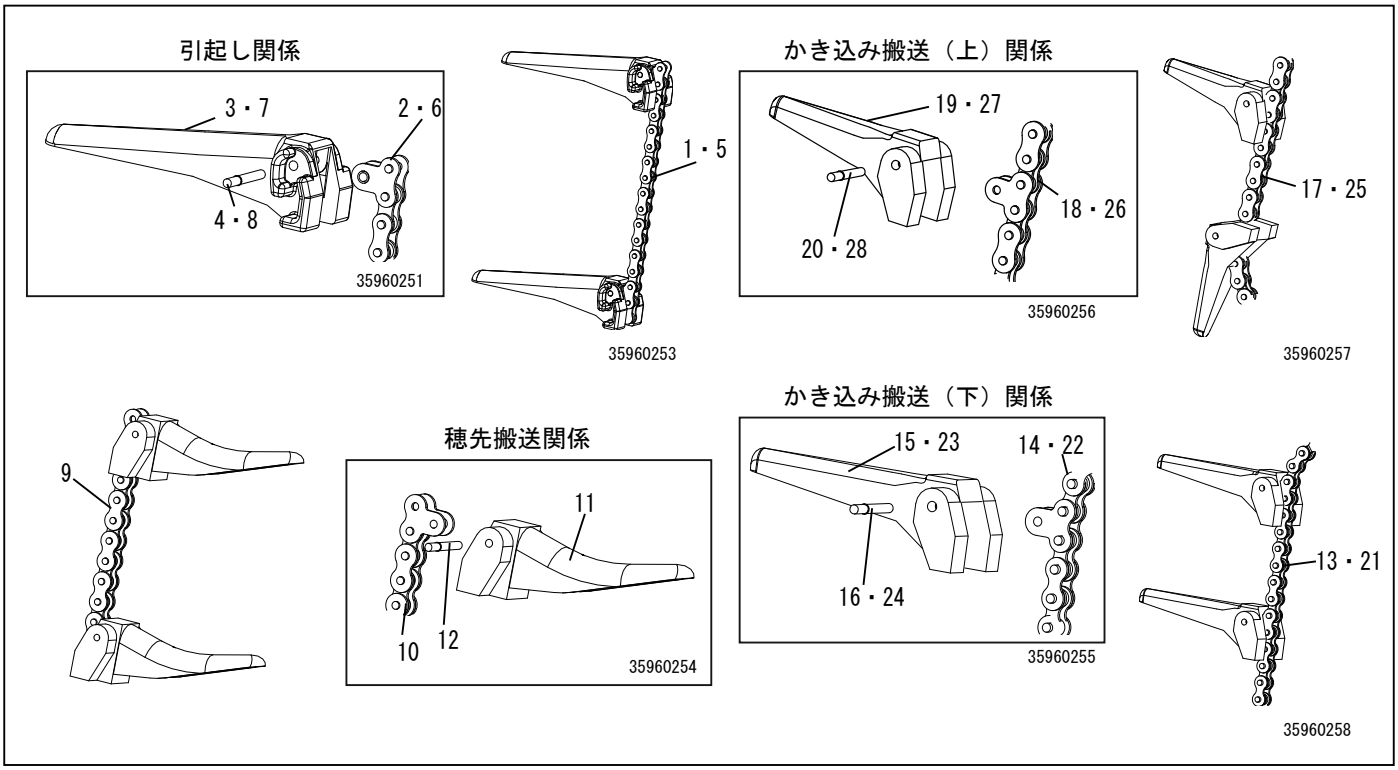
[4条型]



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	チェンアセンブリ （2組）	3556 4437 006	引起し搬送（左・中右）
	チェンアセンブリ （2組）	3556 4445 000	引起し搬送（右・中左）
2	チェン （4本）	3556 4438 000	
3	ツメ （40本）	3555 4428 002	
4	ピン （40本）	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ （1組）	3599 5211 000	穂先搬送
6	チェン106 （1本）	3599 5212 000	
7	ツメ （14本）	3501 5247 000	
8	ピン （14本）	3523 4428 001	
9	チェンアセンブリ （1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（左下）
10	チェン54 （1本）	3523 4716 001	
11	ツメ （6本）	3523 4742 001	
12	ピン （6本）	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ （1組）	3599 4732 000	かき込み搬送（左上）
14	チェン48 （1本）	3597 4733 000	
15	ツメ （6本）	3523 4742 001	
16	ピン （6本）	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ （1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（右下）
18	チェン54 （1本）	3523 4716 001	
19	ツメ （6本）	3523 4742 001	
20	ピン （6本）	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ （1組）	3599 4783 000	かき込み搬送（右上）
22	チェン66 （1本）	3599 4784 000	
23	ツメ （8本）	3543 7765 001	
24	ピン （8本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

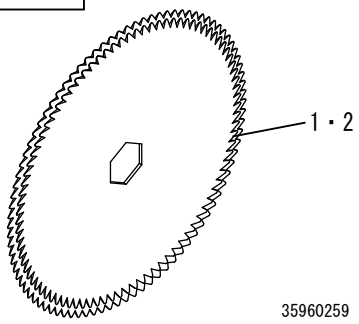
[3条型]



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4437 006	引起し搬送（左）
	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4445 000	引起し搬送（中）
2	チェン　（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ　（20本）	3555 4428 002	
4	ピン　（20本）	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4478 001	引起し搬送（右）
6	チェン155　（1本）	3597 4478 100	
7	ツメ　（11本）	3555 4428 002	
8	ピン　（11本）	3523 4428 000	
9	チェンアセンブリ　（1組）	3555 5211 000	穂先搬送
10	チェン98　（1本）	3555 5212 000	
11	ツメ　（12本）	3501 5247 000	
12	ピン　（12本）	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4719 000	かき込み搬送（左下）
14	チェン44　（1本）	3597 4722 001	
15	ツメ　（6本）	3523 4742 001	
16	ピン　（6本）	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4732 000	かき込み搬送（左上）
18	チェン48　（1本）	3597 4733 000	
19	ツメ　（6本）	3543 7765 001	
20	ピン　（6本）	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（右下）
22	チェン54　（1本）	3523 4716 001	
23	ツメ　（6本）	3523 4742 001	
24	ピン　（6本）	3523 4428 000	
25	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4779 000	かき込み搬送（右上）
26	チェン46　（1本）	3597 4779 500	
27	ツメ　（6本）	3543 7765 001	
28	ピン　（6本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. カッタ関係



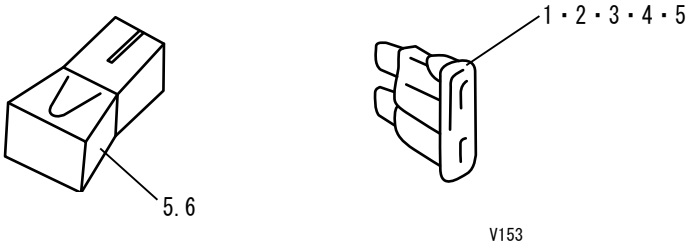
1. ディスクカッタ

No.	部　品　名　称	部品番号	個数（1セット分）	
			D333－17	D433－17
1	ノ　コ　刃	3578 8817 000	17	17

2. マルチカッタ

No.	部　品　名　称	部品番号	個数（1セット分）			
			DMS333	DMS333S	DMY433	DMS433S
1	ノコ刃(φ140)	3830 0409 000	12	19	12	19
2	ノコ刃(φ160)	3830 0415 000	5	6	5	6

3. ヒューズ

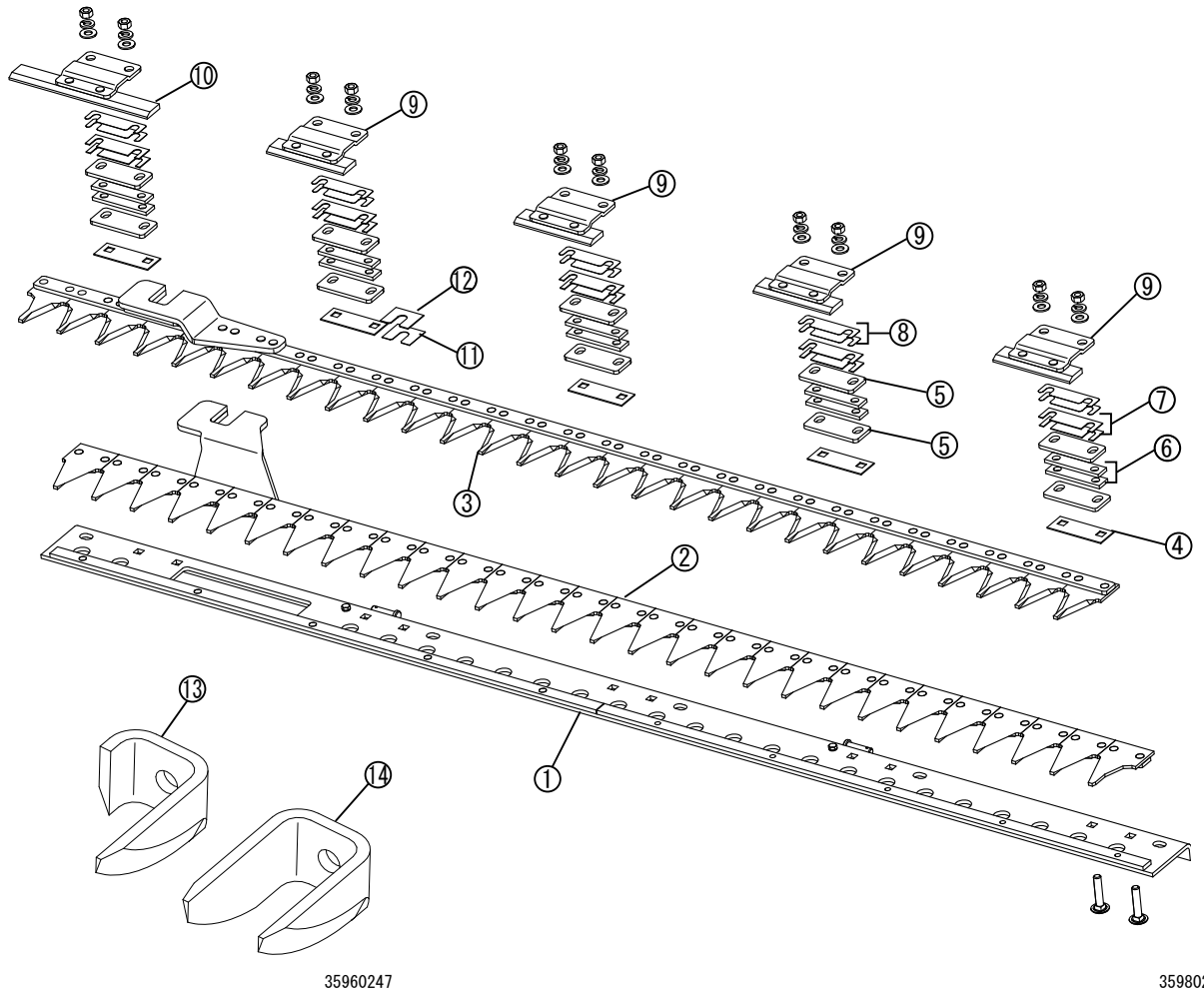


No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1003 006	30A
2	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1002 006	20A
3	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 506	15A
4	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 006	10A
5	ヒ　ュ　ー　ズ	1037 5581 200	50A（燃料カットソレノイド用）
6	ヒ　ュ　ー　ズ	1037 5502 200	60A（メイン）

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 刈刃・カマ関係

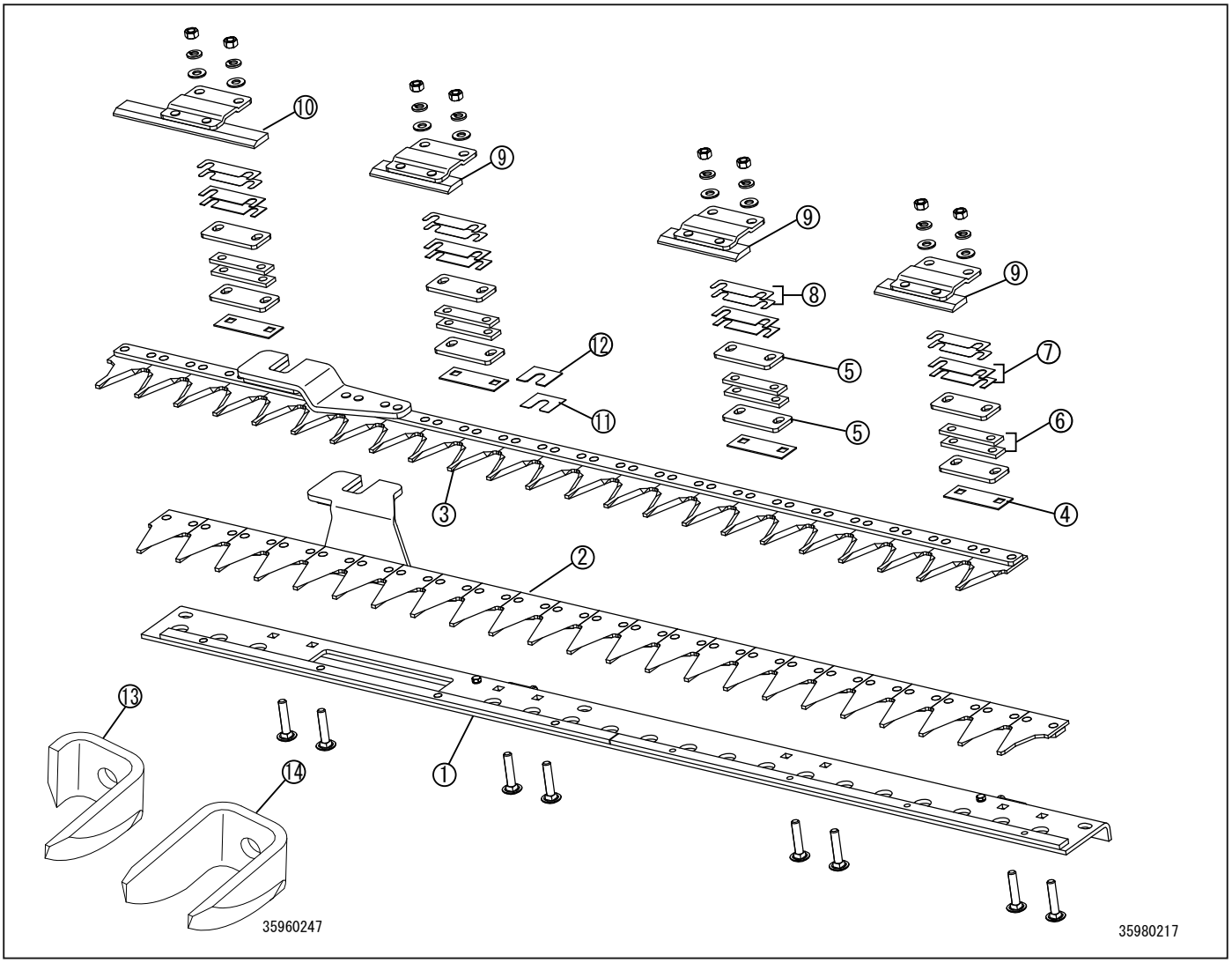
[4条型]



No.	部　品　名　称		部品番号	備　　考
1~12	カリハクミタテ		3579 4351 001	
1	ウケハダイアッシ		3579 4352 001	
2	シタハアッシ		3579 4354 000	
3	ウエハアッシ		3579 4358 000	
4	スペーサ	（5個）	3555 4366 000	t ＝1.2㎜
5	スライドプレート	（10個）	3532 4365 200	t ＝4.0㎜
6	ライナ	（10個）	3532 4365 300	t ＝4.0㎜
7	シム	（10個）	3532 4365 400	t ＝0.8㎜
8	シム		3532 4365 500	t ＝0.2㎜（必要に応じて使用）
9	ナイフクリップ	（4個）	3532 4364 001	
10	ナイフクリップB	（1個）	3578 4359 000	
11	ライナ		3690 4406 000	t ＝0.5㎜（必要に応じて使用）
12	ライナ		3690 4407 000	t ＝1.0㎜（必要に応じて使用）
13	ワラキリカマ	（1個）	3544 7223 000	
14	ワラキリカマ	（12個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

[3 条型]



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1～12	カリハクミタテ	3578 4351 000	
1	ウケハダイアッシ	3578 4352 000	
2	シタハアッシ	3578 4354 000	
3	ウエハアッシ	3578 4358 000	
4	スペーサ　（4個）	3555 4366 000	t ＝1.2㎜
5	スライドプレート　（8個）	3532 4365 200	t ＝4.0㎜
6	ライナ　（8個）	3532 4365 300	t ＝4.0㎜
7	シム　（8個）	3532 4365 400	t ＝0.8㎜
8	シム	3532 4365 500	t ＝0.2㎜（必要に応じて使用）
9	ナイフクリップ　（3個）	3532 4364 001	
10	ナイフクリップB　（1個）	3578 4359 000	
11	ライナ	3690 4406 000	t ＝0.5㎜（必要に応じて使用）
12	ライナ	3690 4407 000	t ＝1.0㎜（必要に応じて使用）
13	ワラキリカマ　（1個）	3544 7223 000	
14	ワラキリカマ　（12個）	3735 7321 001	

4. アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　名	備　考
基本作業機・部品	KN-S333	スライドノッタ	穂先・株元結束型
	R-KSMS20	スタンド装置	チェン搬送方式（取付キットーR－VS281が必要）
	S-S333D	カッタ用ドロッパ	寄せ板・スプリング方式
	D-KNS1	ノッタ用ドロッパ	電気カウント式（3～5束）
	SP-Y433W	スーパーデバイダ	2連[4条型]
	SP-Y433TQ	スーパーデバイダ	3連用追加キット[4条型]
	SP-S323W	スーパーデバイダ	2連[3条型]
	SP-S323TQ	スーパーデバイダ	3連用追加キット[3条型]
	CH333	スーパーフード	折たたみ式
	VS328G-VY433G	オーガ先端操作キット	電動排出クラッチ+オーガ先端操作
	DC-VM219VY433	防じんカバーキット	
	Y433-H-KIT	方向自動キット	
	DMS28S-KIT	スーパーマルチ交換キット	短切カッタ（40/160）

5. 付属品一覧表

No.	部　品　名	個　数	備　考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ（スナップピン付き）	1	
3	コンバインシート	1	
4	品質保証券	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	チョウナット	2	
7	ワッシャ	2	

6. 潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W-30，SD/CD/GL-4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W-30，SL/CF）
全　　農	クミアイディーゼルオイル CFマルチ（SAE・10W-30）
JX日鉱日石エネルギー	HDS-3 ファームユニバーサル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CF級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，GL－4）
全　　農	クミアイギヤオイル（SAE・10W-30相当品）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

をお使いください。

3. ギヤオイル

メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90）
全　　農	クミアイトラクターギヤオイル（SAE80W）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5） スーパーハイポイドギヤ（SAE140，GL－5）

をお使いください。

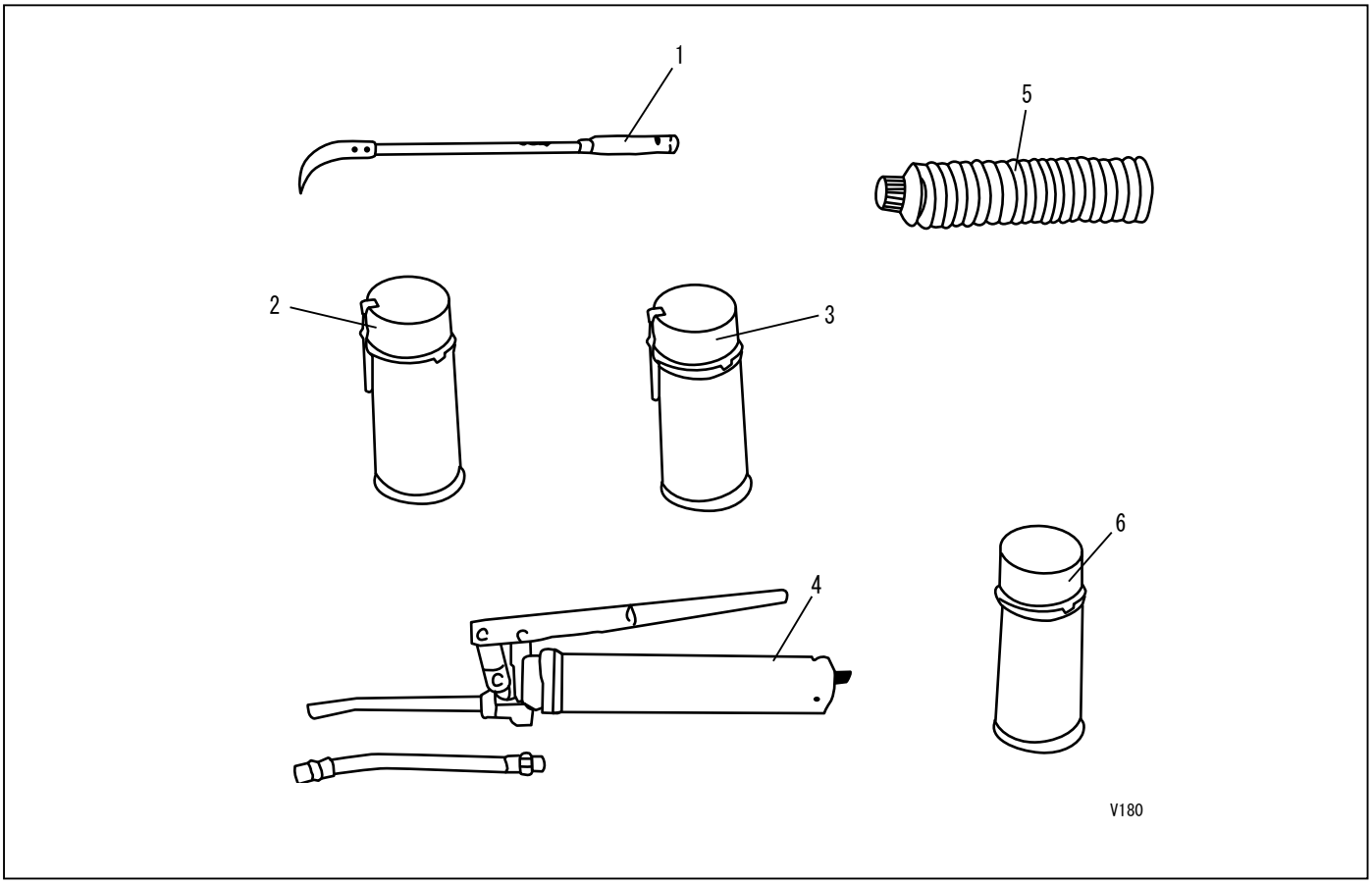
取扱いのポイント

- **トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL-5，SAE・90を使用してください。**

7. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商 品 名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰替え用
6	カラースプレー（ダークグレー）	0975 0000 690	補修用塗装
	〃　（白）	0975 0000 650	
	〃　（黒）	0975 0000 470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

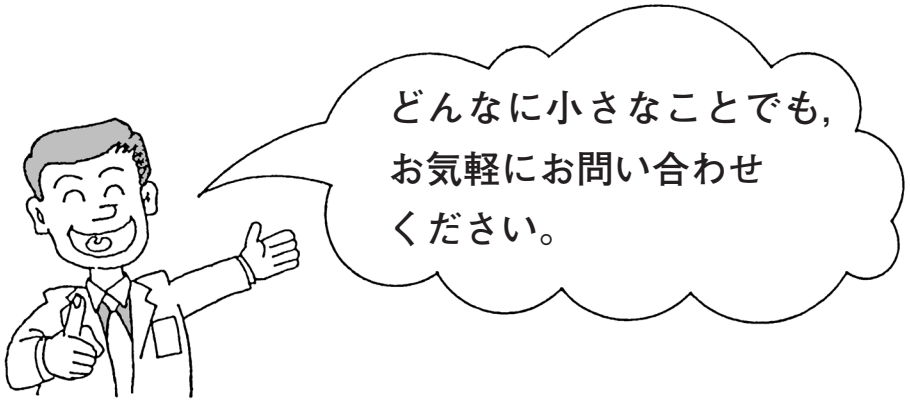
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）